公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（18）

東九州自動車道建設（鹿屋串良ＪＣＴ～曽於弥五郎ＩＣ間）に伴う
埋蔵文化財発掘調査報告書

# 天神段遺跡3

（曽於郡大崎町）

縄文時代早期編

第２分冊

2018年3月

鹿児島県教育委員会
公益財団法人鹿児島県文化振興財団
埋蔵文化財調査センター

# 総目次

【第１分冊】
巻頭図版１
巻頭図版２
序　文
報告書抄録
天神段遺跡位置図
例言・凡例
目　次

第Ⅰ章　発掘調査の経過
　第１節　調査に至るまでの経緯
　第２節　整理・報告書作成作業
第Ⅱ章　遺跡の位置と環境
　第１節　地理的環境
　第２節　歴史的環境
第Ⅲ章　調査の方法と層序
　第１節　調査の方法
　第２節　層序
第Ⅳ章　発掘調査の成果
　第１節　縄文時代早期の概要
　第２節　遺構
【第２分冊】
　第３節　遺物
　　１　土器（Ⅰ類土器～XV類土器）
【第３分冊】
　第３節　遺物
　　１　土器（XVI類土器～XX類土器）
　　２　土製品
　　３　石器
第Ⅴ章　自然科学分析
　第１節　概要
　第２節　テフラ分析
　第３節　放射性炭素年代測定
第Ⅵ章　総括
【第４分冊】
写真図版

# 第２分冊目次

目　次
第Ⅳ章　発掘調査の成果…… 1
　第３節　遺物…… 1
　　１　土器…… 1
　　（１）Ⅰ類土器…… 3
　　（２）Ⅱ類土器…… 3
　　（３）Ⅲ類土器…… 12
　　（４）Ⅳ類土器…… 21
　　（５）Ⅴ類土器…… 21
　　（６）Ⅵ類土器…… 37
　　（７）Ⅶ類土器…… 49
　　（８）Ⅷ類土器…… 56
　　（９）Ⅸ類土器…… 63
　　（10）Ⅹ類土器…… 63
　　（11）XI類土器…… 74
　　（12）XII類土器…… 101
　　（13）XIII類土器…… 114
　　（14）XIV類土器…… 119
　　（15）XV類土器…… 159

# 挿図目次

第 246 図　Ⅰ類土器出土分布図…… 4
第 247 図　Ⅰ類土器…… 5
第 248 図　Ⅱ類土器出土分布図…… 6
第 249 図　Ⅱ類土器（１）…… 7
第 250 図　Ⅱ類土器（２）…… 8
第 251 図　Ⅱ類土器（３）…… 9
第 252 図　Ⅱ類土器（４）…… 10
第 253 図　Ⅱ類土器（５）…… 11
第 254 図　Ⅱ類土器（６）…… 12
第 255 図　Ⅲ類土器出土分布図…… 13
第 256 図　Ⅲ類土器（１）…… 14
第 257 図　Ⅲ類土器（２）…… 16
第 258 図　Ⅲ類土器（３）…… 17
第 259 図　Ⅲ類土器（４）…… 18
第 260 図　Ⅲ類土器（５）…… 19
第 261 図　Ⅲ類土器（６）…… 20
第 262 図　Ⅳ類土器出土分布図…… 22
第 263 図　Ⅳ類土器…… 23
第 264 図　Ⅴ類土器出土分布図…… 24
第 265 図　Ⅴ類土器（１）…… 26
第 266 図　Ⅴ類土器（２）…… 27
第 267 図　Ⅴ類土器（３）…… 28
第 268 図　Ⅴ類土器（４）…… 29
第 269 図　Ⅴ類土器（５）…… 30
第 270 図　Ⅴ類土器（６）…… 31
第 271 図　Ⅴ類土器（７）…… 32
第 272 図　Ⅴ類土器（８）…… 33
第 273 図　Ⅴ類土器（９）…… 34
第 274 図　Ⅴ類土器（10）…… 35
第 275 図　Ⅴ類土器（11）…… 36
第 276 図　Ⅴ類土器（12）…… 37
第 277 図　Ⅵ類土器出土分布図…… 38
第 278 図　Ⅵ類土器（１）…… 39
第 279 図　Ⅵ類土器（２）…… 41
第 280 図　Ⅵ類土器（３）…… 42
第 281 図　Ⅵ類土器（４）…… 43
第 282 図　Ⅵ類土器（５）…… 44
第 283 図　Ⅵ類土器（６）…… 45
第 284 図　Ⅵ類土器（７）…… 46
第 285 図　Ⅵ類土器（８）…… 47
第 286 図　Ⅵ類土器（９）…… 48
第 287 図　Ⅶ類土器出土分布図…… 50
第 288 図　Ⅶ類土器（１）…… 51
第 289 図　Ⅶ類土器（２）…… 52
第 290 図　Ⅶ類土器（３）…… 53
第 291 図　Ⅶ類土器（４）…… 54
第 292 図　Ⅶ類土器（５）…… 55
第 293 図　Ⅷ類土器出土分布図…… 57
第 294 図　Ⅷ類土器（１）…… 59
第 295 図　Ⅷ類土器（２）…… 60
第 296 図　Ⅷ類土器（３）…… 61
第 297 図　Ⅷ類土器（４）…… 62
第 298 図　Ⅸ類土器出土分布図…… 64
第 299 図　Ⅸ類土器（１）…… 65
第 300 図　Ⅸ類土器（２）…… 66
第 301 図　Ⅹ類土器出土分布図…… 67
第 302 図　Ⅹ類土器（１）…… 68
第 303 図　Ⅹ類土器（２）…… 69

第 304 図　Ⅹ類土器（３）…… 70
第 305 図　Ⅹ類土器（４）…… 71
第 306 図　Ⅹ類土器（５）…… 72
第 307 図　Ⅹ類土器（６）…… 73
第 308 図　Ⅺ類土器出土分布図…… 75
第 309 図　Ⅺ類土器（１）…… 76
第 310 図　Ⅺ類土器（２）…… 77
第 311 図　Ⅺ類土器（３）…… 78
第 312 図　Ⅺ類土器（４）…… 79
第 313 図　Ⅺ類土器（５）…… 81
第 314 図　Ⅺ類土器（６）…… 82
第 315 図　Ⅺ類土器（７）…… 83
第 316 図　Ⅺ類土器（８）…… 84
第 317 図　Ⅺ類土器（９）…… 85
第 318 図　Ⅺ類土器（10）…… 86
第 319 図　Ⅺ類土器（11）…… 88
第 320 図　Ⅺ類土器（12）…… 89
第 321 図　Ⅺ類土器（13）…… 90
第 322 図　Ⅺ類土器（14）…… 91
第 323 図　Ⅺ類土器（15）…… 92
第 324 図　Ⅺ類土器（16）…… 94
第 325 図　Ⅺ類土器（17）…… 95
第 326 図　Ⅺ類土器（18）…… 96
第 327 図　Ⅺ類土器（19）…… 97
第 328 図　Ⅺ類土器（20）…… 98
第 329 図　Ⅺ類土器（21）…… 99
第 330 図　Ⅺ類土器（22）…… 100
第 331 図　Ⅻ類土器出土分布図…… 102
第 332 図　Ⅻ類土器（１）…… 103
第 333 図　Ⅻ類土器（２）…… 105
第 334 図　Ⅻ類土器（３）…… 106
第 335 図　Ⅻ類土器（４）…… 108
第 336 図　Ⅻ類土器（５）…… 109
第 337 図　Ⅻ類土器（６）…… 111
第 338 図　Ⅻ類土器（７）…… 112
第 339 図　Ⅻ類土器（８）…… 113
第 340 図　ⅩⅢ類土器出土分布図…… 115
第 341 図　ⅩⅢ類土器（１）…… 116
第 342 図　ⅩⅢ類土器（２）…… 117
第 343 図　ⅩⅢ類土器（３）…… 118
第 344 図　ⅩⅣ類土器出土分布図…… 120
第 345 図　ⅩⅣ類土器（１）…… 121
第 346 図　ⅩⅣ類土器（２）…… 122
第 347 図　ⅩⅣ類土器（３）…… 123
第 348 図　ⅩⅣ類土器（４）…… 124
第 349 図　ⅩⅣ類土器（５）…… 125
第 350 図　ⅩⅣ類土器（６）…… 127
第 351 図　ⅩⅣ類土器（７）…… 128
第 352 図　ⅩⅣ類土器（８）…… 129
第 353 図　ⅩⅣ類土器（９）…… 130
第 354 図　ⅩⅣ類土器（10）…… 131
第 355 図　ⅩⅣ類土器（11）…… 132
第 356 図　ⅩⅣ類土器（12）…… 133
第 357 図　ⅩⅣ類土器（13）…… 134
第 358 図　ⅩⅣ類土器（14）…… 136
第 359 図　ⅩⅣ類土器（15）…… 137
第 360 図　ⅩⅣ類土器（16）…… 138
第 361 図　ⅩⅣ類土器（17）…… 139
第 362 図　ⅩⅣ類土器（18）…… 141
第 363 図　ⅩⅣ類土器（19）…… 142
第 364 図　ⅩⅣ類土器（20）…… 143
第 365 図　ⅩⅣ類土器（21）…… 144
第 366 図　ⅩⅣ類土器（22）…… 145
第 367 図　ⅩⅣ類土器（23）…… 147
第 368 図　ⅩⅣ類土器（24）…… 148
第 369 図　ⅩⅣ類土器（25）…… 149
第 370 図　ⅩⅣ類土器（26）…… 151
第 371 図　ⅩⅣ類土器（27）…… 152
第 372 図　ⅩⅣ類土器（28）…… 153
第 373 図　ⅩⅣ類土器（29）…… 154
第 374 図　ⅩⅣ類土器（30）…… 155
第 375 図　ⅩⅣ類土器（31）…… 156
第 376 図　ⅩⅣ類土器（32）…… 157
第 377 図　ⅩⅣ類土器（33）…… 158
第 378 図　ⅩⅤ類土器出土分布図…… 160
第 379 図　ⅩⅤ類土器（１）…… 161
第 380 図　ⅩⅤ類土器（２）…… 163
第 381 図　ⅩⅤ類土器（３）…… 164
第 382 図　ⅩⅤ類土器（４）…… 165
第 383 図　ⅩⅤ類土器（５）…… 166
第 384 図　ⅩⅤ類土器（６）…… 167
第 385 図　ⅩⅤ類土器（７）…… 168
第 386 図　ⅩⅤ類土器（８）…… 169
第 387 図　ⅩⅤ類土器（９）…… 170
第 388 図　ⅩⅤ類土器（10）…… 172
第 389 図　ⅩⅤ類土器（11）…… 173
第 390 図　ⅩⅤ類土器（12）…… 174
第 391 図　ⅩⅤ類土器（13）…… 175
第 392 図　ⅩⅤ類土器（14）…… 177
第 393 図　ⅩⅤ類土器（15）…… 178
第 394 図　ⅩⅤ類土器（16）…… 179
第 395 図　ⅩⅤ類土器（17）…… 180
第 396 図　ⅩⅤ類土器（18）…… 182
第 397 図　ⅩⅤ類土器（19）…… 183
第 398 図　ⅩⅤ類土器（20）…… 184
第 399 図　ⅩⅤ類土器（21）…… 185
第 400 図　ⅩⅤ類土器（22）…… 187
第 401 図　ⅩⅤ類土器（23）…… 188
第 402 図　ⅩⅤ類土器（24）…… 189
第 403 図　ⅩⅤ類土器（25）…… 190

# 表目次

第 21 表　Ⅰ類土器観察表…… 191
第 22 表　Ⅱ類土器観察表（１）…… 191
第 23 表　Ⅱ類土器観察表（２）…… 192
第 24 表　Ⅲ類土器観察表…… 192
第 25 表　Ⅳ類土器観察表…… 193
第 26 表　Ⅴ類土器観察表（１）…… 193
第 27 表　Ⅴ類土器観察表（２）…… 194
第 28 表　Ⅵ類土器観察表（１）…… 194
第 29 表　Ⅵ類土器観察表（２）…… 195
第 30 表　Ⅶ類土器観察表…… 196
第 31 表　Ⅷ類土器観察表（１）…… 196
第 32 表　Ⅷ類土器観察表（２）…… 197
第 33 表　Ⅸ類土器観察表…… 197
第 34 表　Ⅹ類土器観察表（１）…… 197
第 35 表　Ⅹ類土器観察表（２）…… 198
第 36 表　Ⅺ類土器観察表（１）…… 198
第 37 表　Ⅺ類土器観察表（２）…… 199
第 38 表　Ⅺ類土器観察表（３）…… 200
第 39 表　Ⅺ類土器観察表（４）…… 201
第 40 表　Ⅻ類土器観察表（１）…… 201
第 41 表　Ⅻ類土器観察表（２）…… 202
第 42 表　Ⅻ類土器観察表（３）…… 203
第 43 表　ⅩⅢ類土器観察表…… 203
第 44 表　ⅩⅣ類土器観察表（１）…… 203
第 45 表　ⅩⅣ類土器観察表（２）…… 204
第 46 表　ⅩⅣ類土器観察表（３）…… 205
第 47 表　ⅩⅣ類土器観察表（４）…… 206
第 48 表　ⅩⅤ類土器観察表（１）…… 207
第 49 表　ⅩⅤ類土器観察表（２）…… 208

# 第Ⅳ章　発掘調査の成果

## 第３節　遺物

本遺跡で出土した縄文時代早期の遺物は，主にⅥ層～Ⅶ層にかけて出土した。抽出した遺物の分類を述べる。

### １　土器

縄文時代早期該当の土器は，器形・文様・器面調整を考慮してⅠ類～XX類に分類した。以下，各類の特徴を略述する。

#### Ⅰ類土器

器形は底部から口縁部までほぼ直線的に立ち上がり円筒形を呈する。底部は平底である。

文様は口縁部に貝殻腹縁部による刺突文が，１～２段施される。

胴部外面には，横位や斜位の浅い貝殻条痕が施される。内面には貝殻条痕か工具によるナデが行なわれている。

#### Ⅱ類土器

器形は底部から口縁部まで直線的に立ち上がりる円筒形であるが，一部波状口縁を呈するものもある。

文様は口縁部上端に貝殻やヘラ状工具による縦位や斜位の刺突文が施される。

外面には横位や斜位の貝殻条痕が明瞭に施されている。文様意匠として意識的に施されているものと考えられる。

器面調整は内面にケズリが行なわれるものが多い。

#### Ⅲ類土器

器形は底部から口縁部までほぼ直線的に立ち上がるものと口縁部がわずかに外反するものがあり，円筒形を呈する。また，口縁部が波状を呈し，やや丸みを帯びた角部を形成する角筒形がある。さらに，レモン形の器形もある。円筒形，角筒形，レモン形とも底部は平底である。

文様は口縁部に貝殻刺突線文を施し，胴部は貝殻条痕を施した後，沈線や刺突により幾何学状のモチーフを描く。口縁部上位に１～４段の貝殻刺突文を施すものや楔形突起を貼り付けるものもある。底面境には，ヘラ状工具による刻目が施されるものもある。

器面調整は外面に横位や斜位の条痕，内面にケズリが施される。

#### Ⅳ類土器

器形は口縁部が外傾し，胴部は直線的に底部へ至る円筒形の器形を呈する。底部は平底である。

文様は口縁部には貝殻文による刺突が巡り，胴部には貝殻による押引文が全面に施される。

内面は丁寧なナデが施される。

#### Ⅴ類土器

器形は口縁部が外反するものと直口するものとがあり，ややバケツ形を呈する。一部，胴部に膨らみのあるものもある。底部は平底である。

文様は口縁部に横位，斜位，羽状の貝殻刺突文を施す。口縁部に瘤状突起が付くものもある。

外面は綾杉状を基本とする貝殻条痕文が施される。これは，文様意匠として意識的に施されているものと考えられる。内面は丁寧なナデが行われている。

#### Ⅵ類土器

口縁部が直口ないしわずかに内湾し，胴部は直線的もしくはややすぼまりながら底部へ至る筒形の器形を呈する。

文様は外面のほぼ全体に貝殻刺突文が施される。口縁部と胴部の２帯に分けて施文するものと口縁部から胴部下半まで１帯で施文するものとがある。口縁部から胴部上半にかけて瘤状突起が付くものもある。

器面調整は内外面ともにナデが行われている。特に，外面はミガキ状の丁寧なナデが行われた上で，施文されているのが特徴的である。

#### Ⅶ類土器

器形は口縁部が直口ないし内湾する。胴部は直線的もしくはすぼまりながら底部へ至る筒形の器形を呈する。

文様は先端を細く加工した棒状工具による短沈線が羽状に施される。また，Ⅵ類の主な文様である貝殻刺突文が併用されるものも含む。

器面調整はミガキ状の丁寧なナデが行われている。

#### Ⅷ類土器

器形は口縁部が直口するか，ゆるやかに内湾するバケツ形を呈する。口縁部内面が肥厚するものもある。口唇部は平坦面を有し，内傾する。

文様は口縁部上端に横位の短沈線や条線を施し，口縁部下位より胴部下半は短沈線や条線で鋸歯状文や縦位の流水文を施す２帯構成のものと，口縁部から胴部下半まで１帯で施文するものとがある。

器面調整はミガキ状の丁寧なナデが行われる。

**Ⅸ類土器**

器形は口縁部は直口するものとわずかに外傾するもの等がある。胴部は直線的もしくはややすぼまりながら底部へ至る筒形の器形を呈する。

文様は口縁部から胴部上半に集約されており，貝殻条痕を横位のみに施文するものと横位と縦位に施文するものとがある。

器面調整は内面に丁寧なナデが行われている。

**Ⅹ類土器**

口縁部はやや外傾もしくは直口し，胴部はすぼまりながら底部へ至る器形を呈する。底部は丸味を帯びた尖底である。器壁が非常に厚いのが本類の特徴である。器壁厚は底部中心部で５～5.5㎝，胴部で２～2.5㎝，口縁部で１～２㎝程度を測り，他類の土器と比較しても群を抜いている。

文様は施されない，いわゆる無文土器である。器面調整は内外面ともに貝殻条痕かナデが行われている。

**Ⅺ類土器**

原体を回転し施文する一群を本類としてまとめた。

器形は口縁部が大きく外反するものとやや外反するものがあるが，一部直口するものもある。胴部は直線的もしくはやや膨らみながら底部にむけてすぼまる器形を呈する。

文様は外面及び口縁部内面に施文具を回転することにより施文する。押型文，縄文，撚糸文に分けられるが，それ以外の原体で回転施文するものも含まれる。

器面調整はナデもしくはケズリが行われている。

**Ⅻ類土器**

口縁部が大きく外反し，胴部で屈曲し，底部にむけてすぼまる器形を呈する。底部は平底であるが，一部上げ底もある。

文様は外面及び口縁部内面に押型文，撚糸文，細条線文，ミミズばれ文，沈線等を施す。

器面調整は内外面ともにナデが行われている。

**ⅩⅢ類土器**

口縁部は外反し，胴部はやや膨らみ，底部にむけてすぼまる器形を呈する。

文様は口縁部から頸部にかけて刻目突帯を巡らし，胴部に瘤状突起，貼り付け突帯，沈線文，刺突文を施す。

器面調整は内外面ともにナデが行われている。

**ⅩⅣ類土器**

肥厚した口縁部は外反し，胴部は膨らみ，底部にむけてすぼまる器形を呈する。

文様は口縁部から胴部上半にかけて，沈線や刺突を施す。また，瘤状突起を施すものもある。胴部は地文として単節縄文や結節縄文を施すもの，沈線と刺突を施すものがある。

器面調整は内外面ともに丁寧なナデが行われている。

**ⅩⅤ類土器**

口縁部は大きく外反し，頸部でくびれ，胴部はやや膨らみ，底部にむけてすぼまる器形を呈する。底部は平底であるが，一部上げ底のものもある。

文様は口縁部から頸部にかけて沈線や刺突を施す。胴部は網目状撚糸文を施した後，横位沈線で区画するものや，網目状撚糸文もしくは撚糸文を施し，沈線で区画するものがある。

器面調整は内外面ともに丁寧なナデが行われている。

**ⅩⅥ類土器**

口縁部は外反し，頸部でややくびれ，胴部は膨らみ，底部にむけてすぼまる器形を呈する。

文様は口縁部にかけて貝殻刺突文，沈線文を施す。胴部は貝殻条痕文や条線文を施し，沈線で区画するものもある。

器面調整は内外面ともにナデが行われている。

**ⅩⅦ類土器**

口縁部は外反し，頸部でくびれ胴部が膨らみ底部に向けてすぼまるものと，口縁部が直口し胴部は底部にむけて直線的にすぼまる器形のものがある。

文様は貝殻や幅の狭い櫛歯状を呈した工具による条痕文を施す。また，口縁部から胴部上半付近に刻目のある突帯や微隆線を貼り付ける。

内外面ともに丁寧なナデもしくはヘラケズリが行われている。

**ⅩⅧ類土器**

口縁部が直口し，胴部は径の小さい底部にむけて直線的にすぼまる器形を呈する。

文様は貝殻腹縁や幅の狭い櫛歯状を呈した工具による条痕文を施す。

内面はナデもしくはヘラケズリが行われているものや条痕調整を行うものがある。

**ⅩⅨ類土器**

Ⅹ類以外の無文土器をⅩⅨ類と分類した。

**ⅩⅩ類土器**

Ⅰ～ⅩⅨ類までに分類できなかったものである。

以上の分類に従って，抽出した土器を記述する。

**（1）Ⅰ類土器（第 246・247 図　236～252）**

Ⅰ類土器は外面に浅い貝殻条痕調整もしくはナデを行い，口縁部に１～２段の貝殻刺突文を施す一群である。

236～242 は口縁部外面に貝殻腹縁を縦位に押し当て押引き状の刺突を１段施す。いずれも口唇部外端に刻目を施し，236・237・241・242 は小波状の口唇部となる。また，240 以外は内面に稜をもつ。236～240 は押引き状の刺突の下位に横位の刺突を１段施す。240 は縦位の刺突痕が幅 2.2㎝程度の弧状を呈し，放射肋の溝幅も広いことから，やや大きい貝殻を用いている。器面調整は繊維状の工具によるナデを行うが，236 の内面には一部条痕調整もみられる。

243・244 は口縁部外面に貝殻刺突文を縦位に１段施す。243 は口縁部に貝殻刺突文を縦位，斜位に１段施している。243・244 とも口唇部には貝殻による刻目が施される。243 の外面調整はナデ，244 は貝殻条痕後にナデが施される。また，いずれの内面も丁寧なナデを行っている。

245～247 は口縁部に逆「く」の字状を呈するような貝殻腹縁部による斜位の連続刺突文を２段施す。貝殻を器面に対して寝かせるように斜めに押し当て，施文している。いずれも口唇部先端を内傾させ，稜を作り出す。245 の内面は繊維状の工具で丁寧なナデを行うが，247 は剥落のため明確に確認できない。

248～252 は口縁部に貝殻腹縁による斜位の連続刺突文を１段施す。貝殻を器面に対して斜めに押し当て，施文している。口唇部を平坦に成形し，内面を面取りをするように内傾させ，わずかな段を作り出している。外面は貝殻条痕を横位，斜位に施す。

**（2）Ⅱ類土器（第 248～254 図　253～305）**

Ⅱ類土器は外面に明瞭な貝殻条痕を施し，口縁部に１～２段の貝殻腹縁やヘラ状工具による刺突文を施す一群である。

253・254 は縦位の貝殻刺突を１段施している。貝殻腹縁を器面に対し，縦位に直交するよう押し当て，刺突を施している点がⅠ類土器と異なる。いずれの口唇部にも先端を舌状に加工した工具により刻目を入れている。外面は横位の明瞭な貝殻条痕を施している。

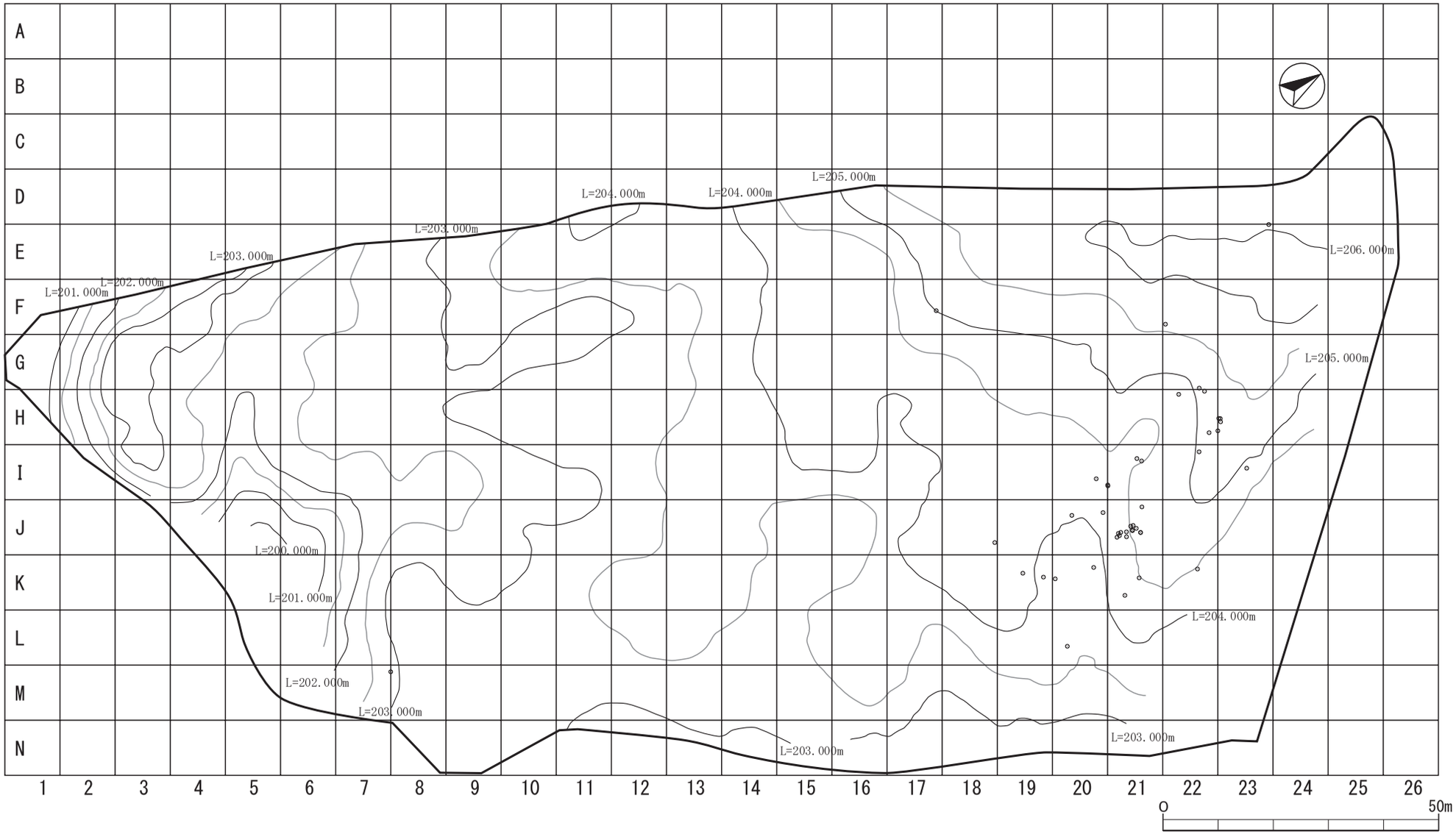
255～266 はヘラ状工具による刺突を縦位に１段施す一群である。内面は縦位のケズリを行っている。外面は横位の明瞭な貝殻条痕を施す。254 以外は口唇部に刻目を入れている。253・256・260・264・265 には，焼成後に穿孔した縦長の補修孔が確認できる。257 は底面は欠損しているが，底面外周に粘土紐を巻き付けるように輪積みして胴部を成形している。258 の胴部内面は縦位のケズリを行い，口縁部内面付近のみ横位のケズリとナデを行い，器壁を薄くしている。口縁部内面の横位のケズリの調整幅と外面の刺突文の施文幅は，ほぼ同程度である。266 は口縁部の一部に波頂部をもつ点などが他と異なる器形である。波頂部付近は角筒土器にみられるような明瞭な角部ではないが，やや屈曲するような成形が行われている。

267・268 はヘラ状工具による刺突文を縦位に１段施した後，下位に連続刺突文を１～２条施す一群である。縦位の刺突を密接に施した後，267 はその下に先端を舌状に加工した棒状工具による刺突文を左から右に行っている。施文具を器面から離さずに連続的に施文するため，溝状の圧痕が形成される。268 は施文具を器面から離して施文しているため，独立した刺突痕となっている。いずれも口唇部には施文具を浅く連続押圧し，刻目を入れている。

269～275 は口縁部にヘラ状工具による刺突を縦位に２段施した一群である。外面は横位の明瞭な貝殻条痕が施された後に刺突が施文される。内面は底部付近を斜位に，その後胴部上面までを縦位に，口縁部付近を横位，斜位にケズリとナデを行っている。270～272 は口唇部に施文具をやや強く押圧し，明瞭な刻目を入れている。269 には焼成後に穿孔した縦長の補修孔が確認できる。

276～283 は口縁部外面に縦位の刺突を１～２段施し，胴部外面に横位の明瞭な貝殻条痕を施した後，縦位や斜位の浅い条痕や沈線を重ねて施文するものである。276～281 は口縁部外面にヘラ状工具による縦位の刺突を施す。刺突列は 276～278 が１段，279～281 が２段である。282 は貝殻腹縁で，283 は先端部を三叉状に加工した工具で縦位の刺突を１段施している。また，胴部は横位の貝殻条痕を施した後，条痕や沈線を重ねて施文している。276 は胴部上半に弧状のモチーフを描くような浅い条痕を重ねて施文している。277 は貝殻条痕を施した後，貝殻腹縁の向きを変えるか，別の大きさの貝殻腹縁を用いて縦位の浅い条痕を部分的に施している。279～281 は先端の細い棒状工具による沈線で鋸歯状のモチーフを描いている。282 は貝殻腹縁か棒状工具により３本１単位の縦位の浅い沈線を刺突と条痕に重ねるように施文している。283 は口縁部の刺突に用いた工具で浅い刺突を縦位に施し，口唇部をやや内傾するように成形している点が特徴的である。283 以外は口唇部にヘラ状工具を浅く押圧し，刻目を入れている。277 は内面を横位と縦位のケズリを行い，器壁を薄く成形している。

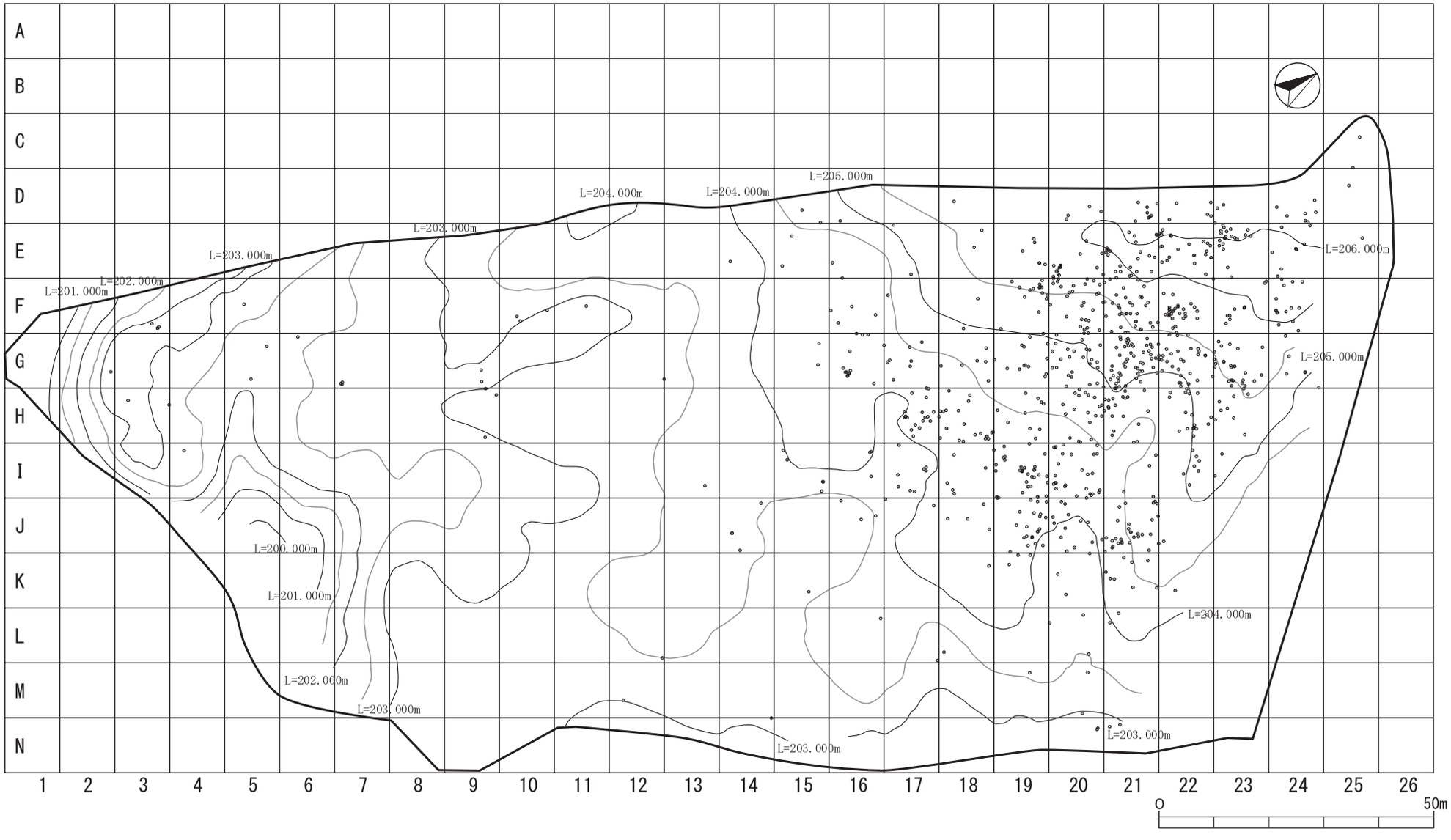
284～305 は胴部から底部にかけて残存するものである。284～300 は底面境まで横位，斜位の明瞭な貝殻条痕を施すものである。胴部内面部分は縦位，斜位のケズリを行っている。底部外面はケズリの後，ナデを行っている。284 は底面境付近に棒状工具による刺突を部分的に施している。285・288・289・291・293 は粘土版を円形に成形し，その外周部分に１段目の粘土紐を巻き付けて胴部を輪積み成形したと考えられる。底部内面には，成形



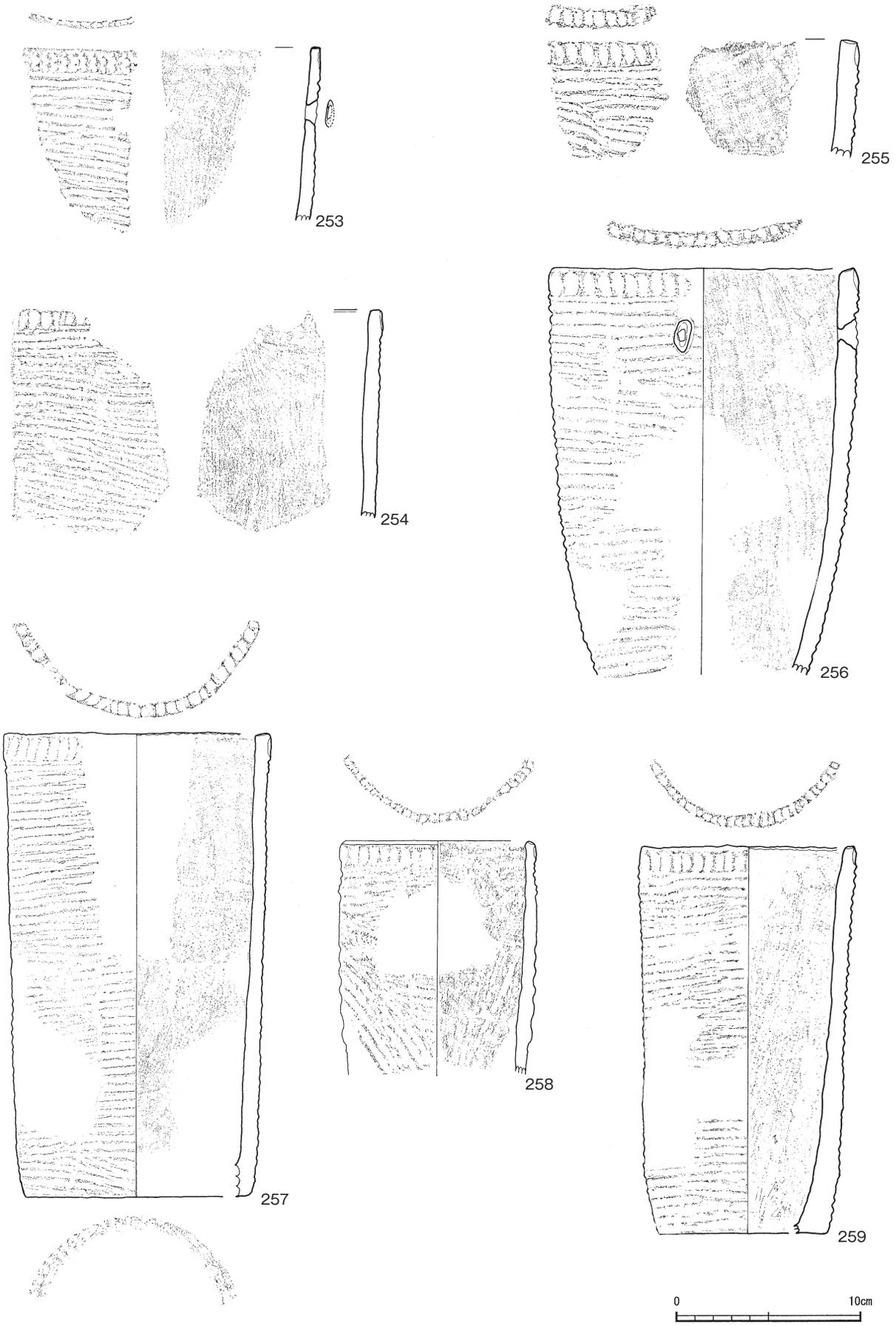

第 246 図　Ⅰ類土器出土分布図


236
237
238
239
240
241
242
243
244
245
246
247
248
249
250
251
252
0
10cm

第 247 図　Ⅰ類土器



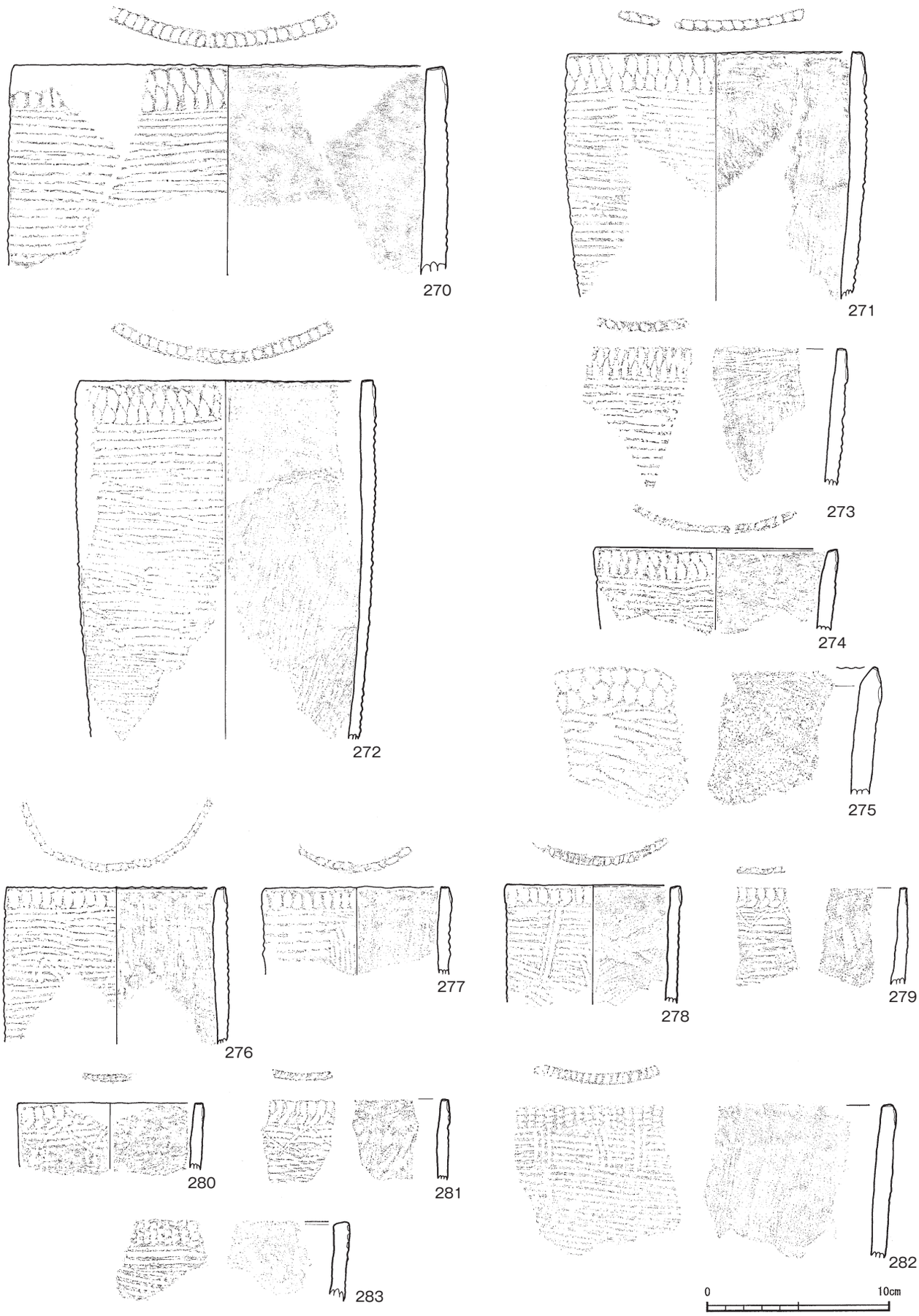

第 248 図　Ⅱ類土器出土分布図




第 249 図　Ⅱ類土器（1）



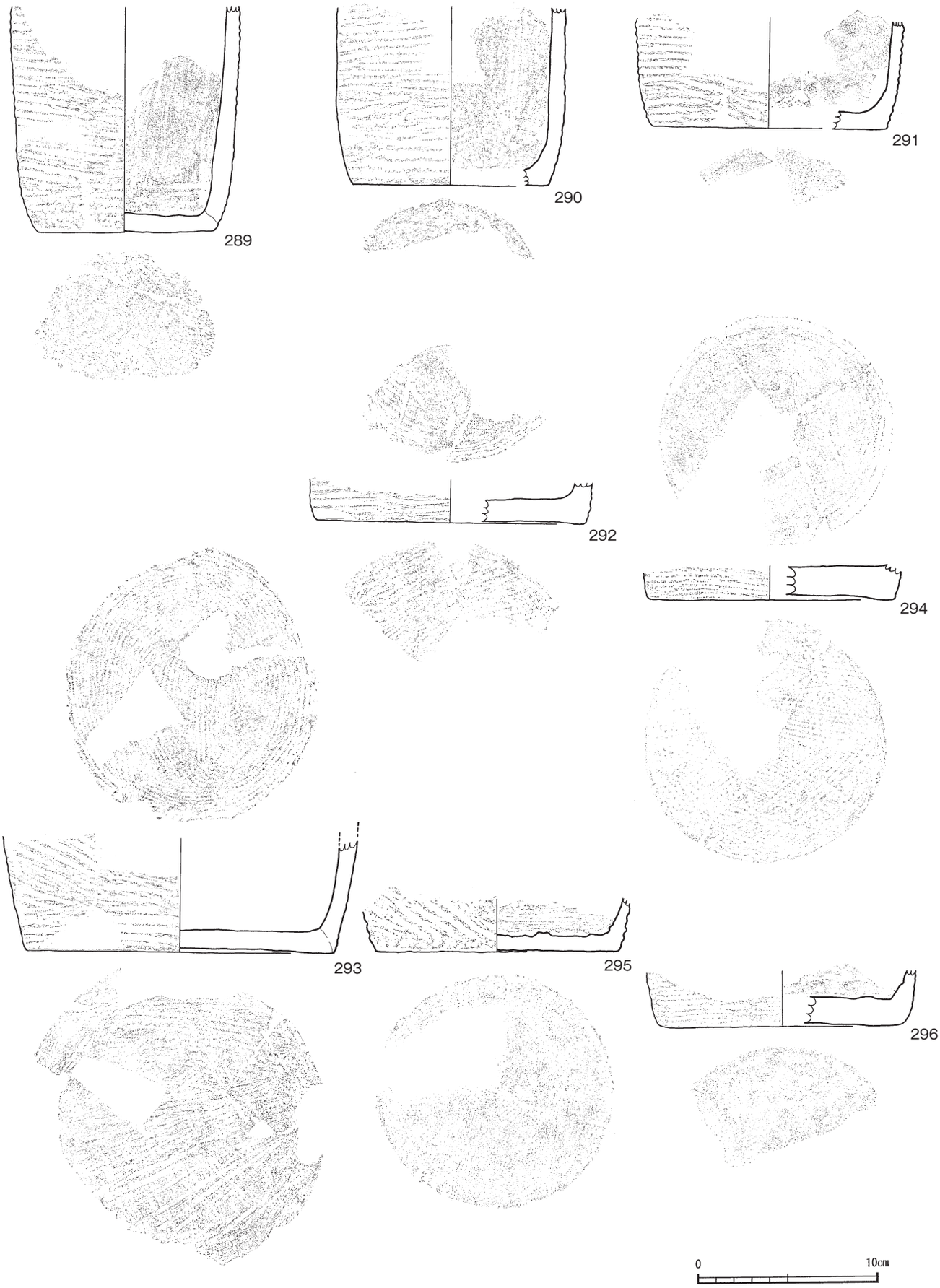

第 250 図　Ⅱ類土器（2）



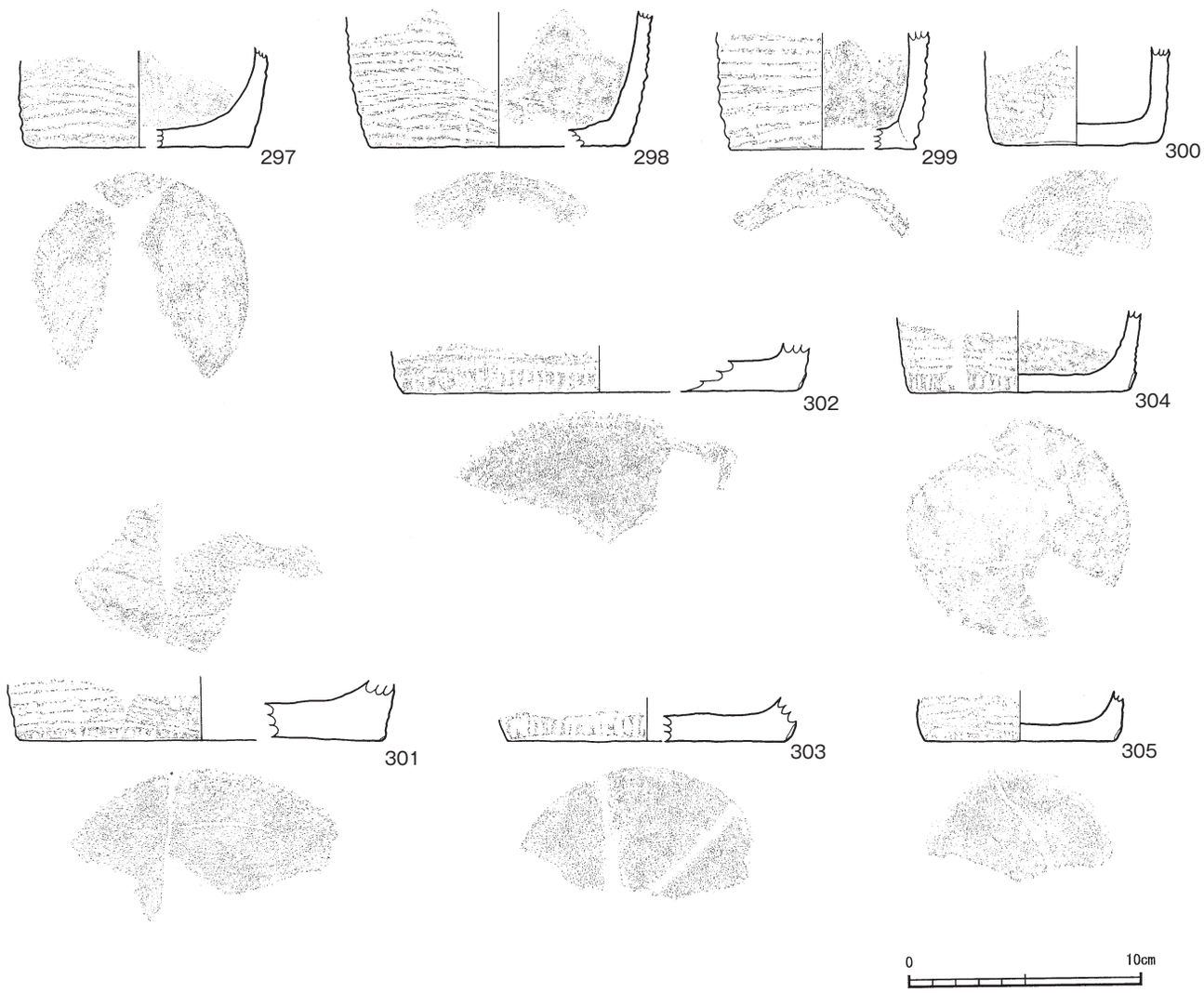

第 251 図　Ⅱ類土器（3）




第 252 図　Ⅱ類土器（４）




第 253 図　Ⅱ類土器（5）




第 254 図　Ⅱ類土器（６）

時と思われる指おさえ痕や工具痕も確認できる。胴部内面は底部との接合部分より少し上まで横位のケズリが，それより上は縦位のケズリが行われている。287 は角部のような屈折部分はないものの，緩やかなカーブを呈する胴部片である。293 は底部内面の外縁を繊維状の工具で時計回りにケズリを行い，内側を弧状にケズリを行っている。294 は底部内面をヘラ状工具で外縁を同心円状に，内側は直線的にケズリを行った後，全体的にケズリ痕を消すような丁寧なナデを行い，平滑化をはかっている。

301～305 は横位の貝殻条痕を施した後，底面境付近に縦位の沈線を施すものである。底部内面はヘラ状工具でケズリを行い，底部外面は丁寧なナデを行っている。

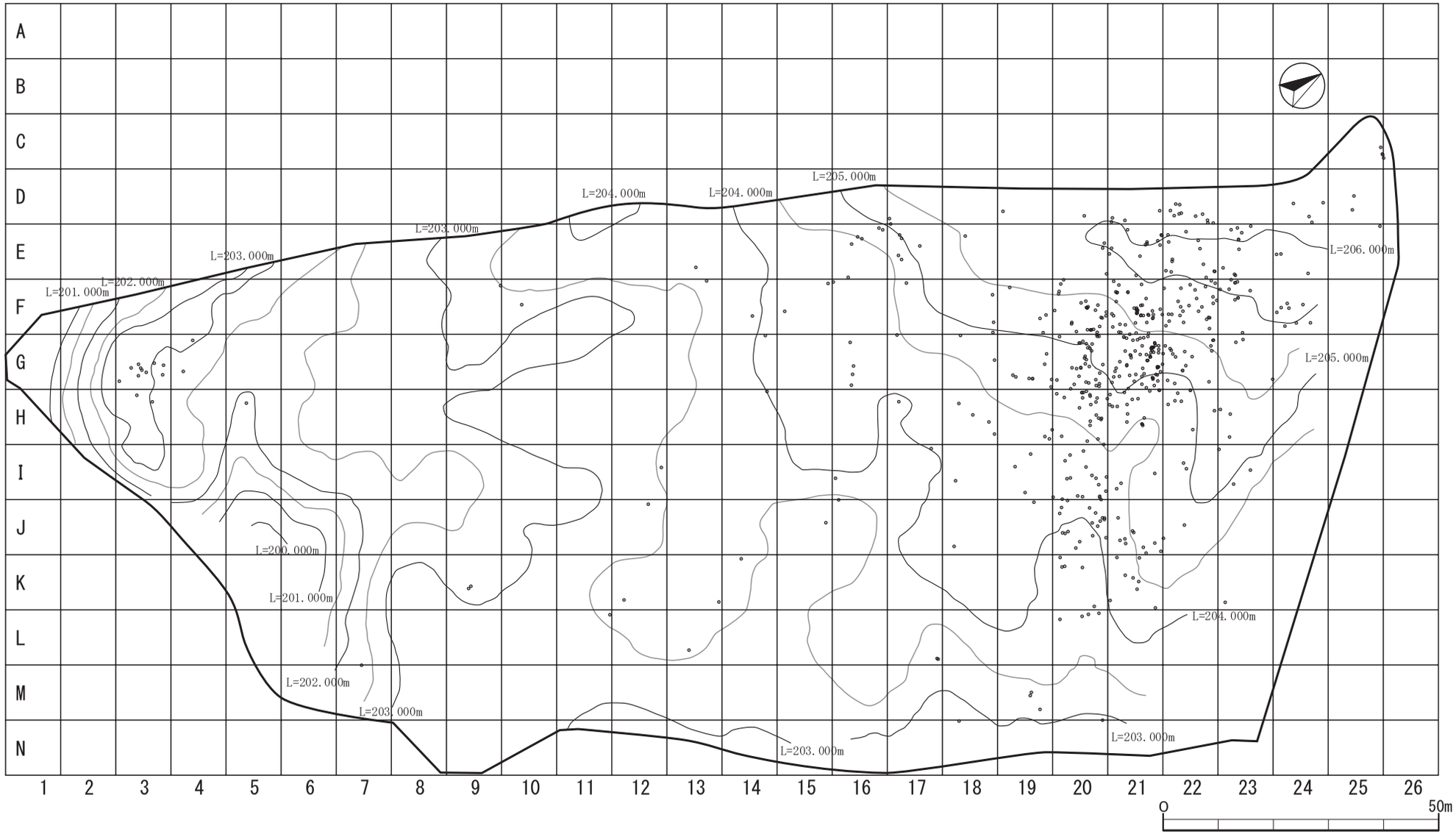
なお，273 に付着した炭化物で年代測定を実施したところ，8,793 － 8,618calBC の値が得られた。

### （３）Ⅲ類土器（第 255～261 図　306～347）

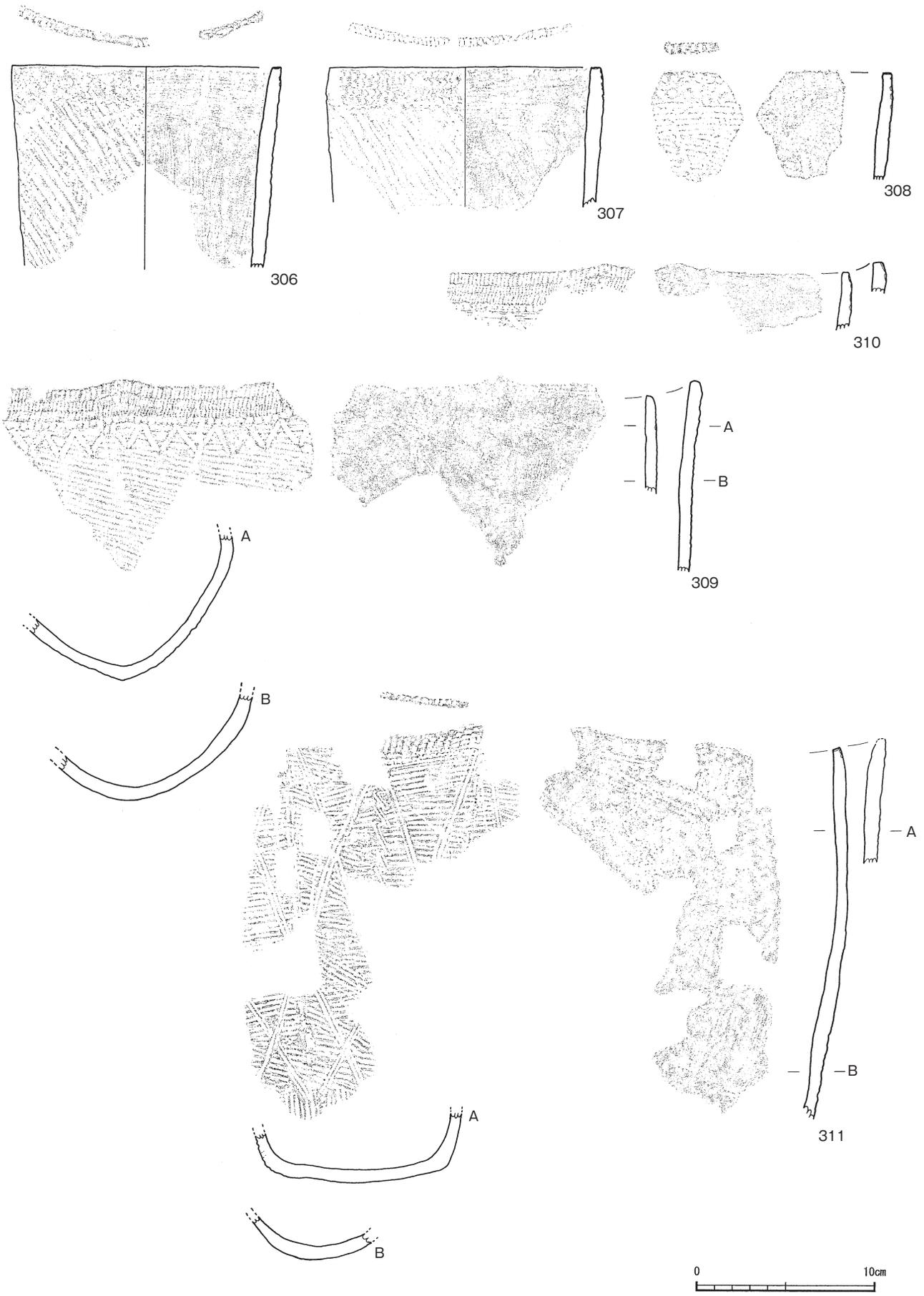
Ⅲ類土器は口縁部に貝殻刺突線文を施し，胴部は貝殻条痕を施した後，沈線や刺突により幾何学状のモチーフを描く一群である。口縁部上位に１～４段の貝殻刺突文を施すものや楔形突起を貼り付けるものもある。円筒形以外にも，角筒形やレモン形の器形も存在する。

306～318 は口縁部上位に縦位の貝殻刺突文を，口縁部下位に横位の貝殻刺突線文を施し，胴部を斜位の沈線で施文する一群である。口唇部には棒状工具による浅い刻目を入れているものもある。

306～308 は円筒形の器形となる。306・307 は口縁部上位を逆「Ｅ」字状の叉状工具により縦位の刺突を２段施した後，口縁部下位に横位の貝殻刺突線文を施している。308 は棒状工具を用いて円形刺突を３段施した後，胴部は横位，斜位の貝殻条痕の上に斜位の貝殻刺突線文




第 255 図　Ⅲ類土器出土分布図




第 256 図　Ⅲ類土器（1）

を鋸歯状に施している。口唇部には，細かい刻目を密接に入れている。

309～318 は角筒形土器である。309・310 は口縁部上位に縦位の連続する貝殻刺突を３段施した後，横位の貝殻刺突線文で区画を行っている。その上から棒状工具による沈線で，鋸歯状のモチーフを描いている。311・312 は口縁部上位に縦位の貝殻刺突を施し，下位は横位の貝殻刺突線文を施している。胴部は横位の貝殻条痕の上から２本１単位の斜位の沈線により「X」字状のモチーフを描いている。斜位の沈線を施文後，角部は縦位の垂下短沈線を，胴部中央には縦位の波状の垂下沈線を施している。313 は貝殻刺突線文による区画線の下より波状の３本１単位の垂下沈線を施している。314 は横位の浅い貝殻条痕を施した後，口縁部にヘラ状工具により１段，貝殻腹縁により１段の計２段の縦位の連続刺突を施している。施文具を変えることにより，下位部分は横位の刺突線文による区画線と同様の効果を図っていると考えられる。315 は口縁部外面に縦位の連続する貝殻刺突を３段施している。１段目は貝殻の放射肋と放射溝の間隔が非常に狭い小振りの貝殻を用いたと考えられるが，２及び３段目の刺突はそれよりも大きい貝殻が施文具として用いられており，サイズの異なる貝殻を用いたことにより，異なる刺突具を用いた 314 と類似したような施文効果となっている。

角筒形を呈する中でも 309・311・313・318 は，上角下円の器形になると考えられる。309・311・313 は口縁部である。角部がゆるやかになる部分の胴部内面は指おさえ痕や器壁が厚い箇所が確認でき，はじめに底部から胴部下半を円筒器形に，胴部上半より上位を角筒器形に変化させ成形していることがわかる。318 は胴部である。横位の貝殻条痕を施した後，角部から底部に向かってヘラ状工具による縦位の刺突が施される。さらに，角部と角部の間にも，同様の施文具で浅い縦位の刺突を施している。刺突の一部が交点になるように，方向の異なる斜位の沈線で「X」字状のモチーフが描かれる。この沈線は，交点となる刺突を貫くように施文されることはない。このことから刺突は，沈線を施す際の起点と終点になるよう割付けの基準となっていると考えられる。313・314 には，焼成後に穿孔したと考えられる縦長の補修孔が確認できる。

319～330 は口縁部外面に横位の貝殻刺突線文を施し，胴部には横位または斜位の条痕を施した後，縦位や斜位の貝殻刺突線文を施す一群である。

319～322 は円筒器形の口縁部である。319 は縦位の貝殻刺突線文を胴部下半まで施した後，口縁部下位より斜位の貝殻刺突線文を方向を違えて施すことにより菱形状のモチーフを描いている。320 は縦位の貝殻刺突線文の間隔が狭いために，斜位の貝殻刺突線文によるモチーフも間延びしている。口縁部下位に焼成後の穿孔による縦長の補修孔が確認できる。322 は口縁部がやや外傾する器形である。口縁部下位より胴部上半にかけて，3.7㎝程度の間隔で縦位に楔形突起を３段貼り付けている。胴部は楔形突起の延長線上に１段，次の楔形突起までの中間に１段の間隔で縦位の貝殻刺突線文を施している。その際に楔形突起の両脇にも刺突を施している。その後，斜位の貝殻刺突線文で鋸歯状のモチーフを描いている。

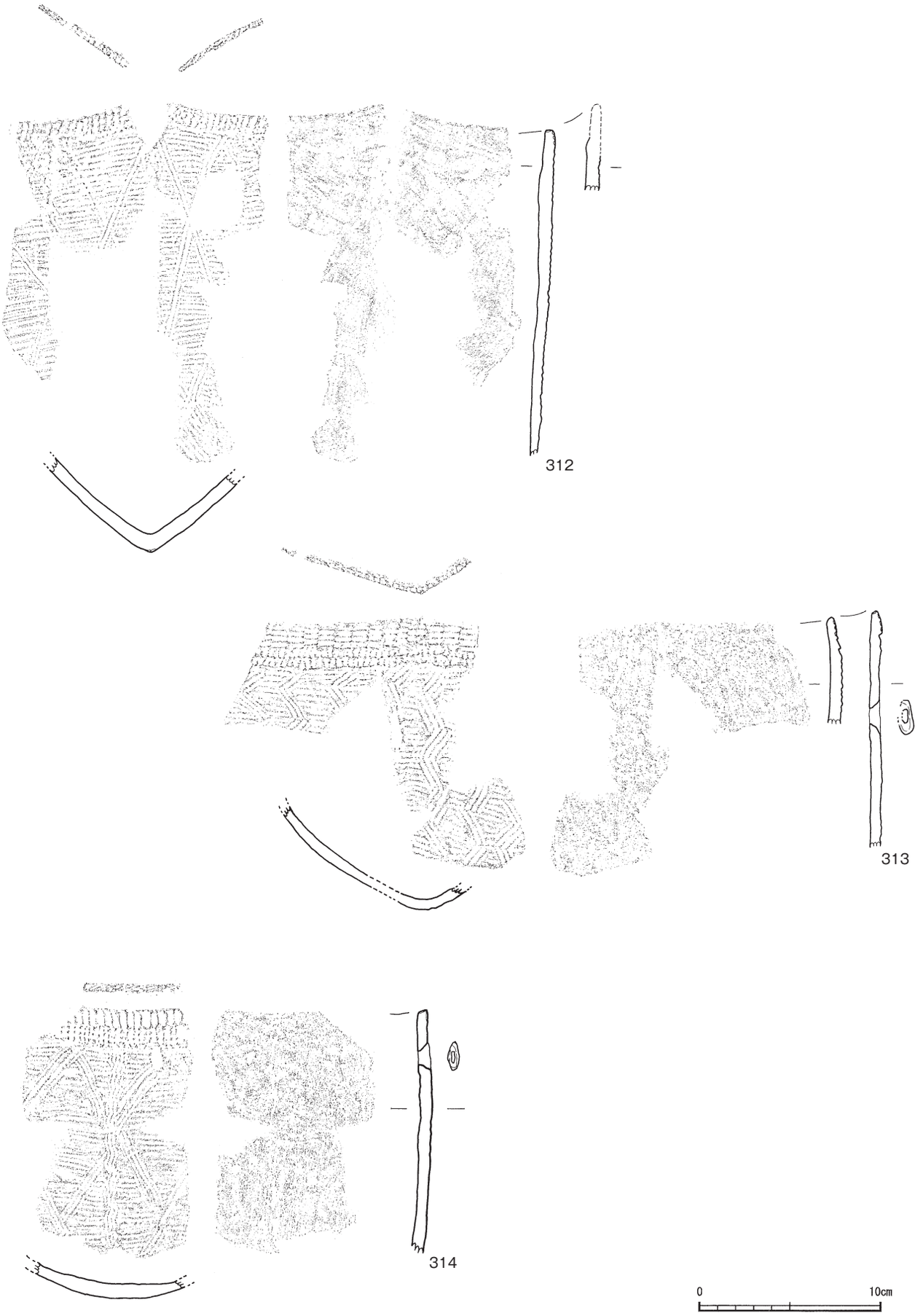
323・324 は円筒器形の胴部である。外面は横位の貝殻条痕を施した後，縦位や斜位の貝殻刺突線文を施している。いずれも内面に縦位や斜位のケズリを行っている。

325～328 は角筒器形の口縁部である。波状口縁のものは，波頂部間を湾曲するように口縁部を成形している。内面は湾曲に沿うように横位の，胴部は縦位・斜位のケズリが行われている。いずれも口唇部には，細かい刻目を入れている。口縁部の横位の貝殻刺突線文は，325 が４条，326・327 は３条，328 は５条施されている。胴部は縦位の貝殻刺突線文を施した後，その間を斜位の貝殻刺突線文により，325 は鋸歯状の，326 は「X」字状のモチーフを描いている。角部には縦位の貝殻刺突を施している。327 は楔形突起が剥落している箇所から，貝殻刺突線文を施した後に楔形突起を貼り付けていることが確認できる。

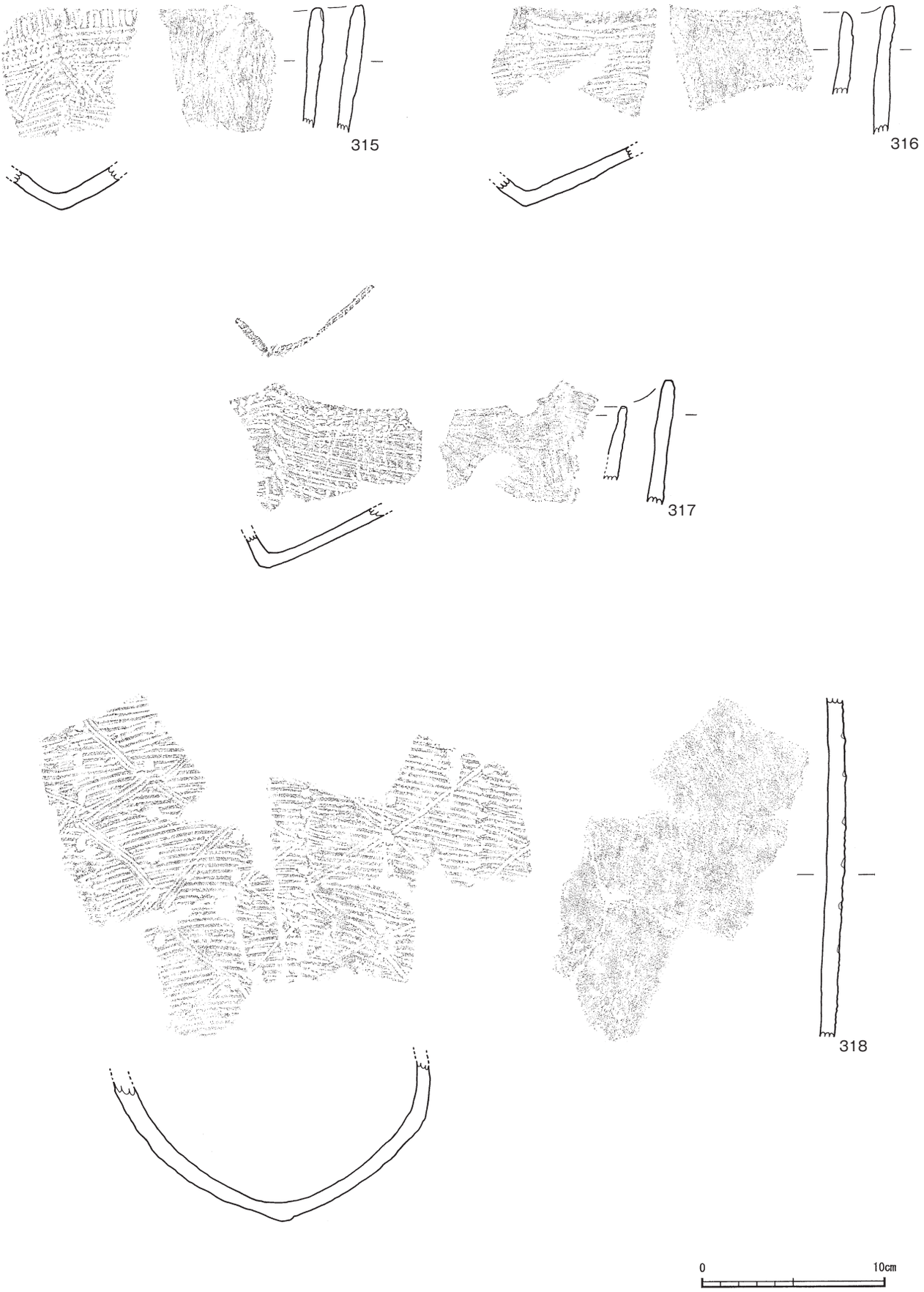
329・330 は角筒器形の胴部である。縦位の貝殻刺突線文の間を斜位の貝殻刺突線文により，329 は幾何学状の，330 は鋸歯状のモチーフを描いている。

331～336 は口縁部下位から胴部に縦位の貝殻刺突線文を密接に施文する一群である。すべて円筒形の器形である。口唇部の平坦面には，斜位の細かい刻目を入れている。331 は口縁部がやや外傾する器形である。外面は，口縁部上位に縦位の連続する貝殻刺突文を１段施している。332 は器壁厚が 0.8㎝程度とやや厚いのが特徴的である。外面は口縁部に貝殻腹縁による横位の貝殻刺突線文を２条施した後，下位はやや肥大した楔形突起を縦位に上から２段貼り付け，楔形突起間に縦位の貝殻刺突線文を充填している。貝殻刺突線文は，２つの楔形突起をはみ出ない範囲で施されている。333 は楔形突起付近が外傾することから口縁部付近の胴部と考えられる。細身の楔形突起を縦位に２段貼り付けた後，縦位の貝殻刺突線文を密接に施している。334・335 は外面に密接した縦位の貝殻刺突線文を施しているのに対して，336 はやや間隔の広い縦位の貝殻刺突線文を施している。また，焼成後に穿孔した縦長の補修孔も確認できる。

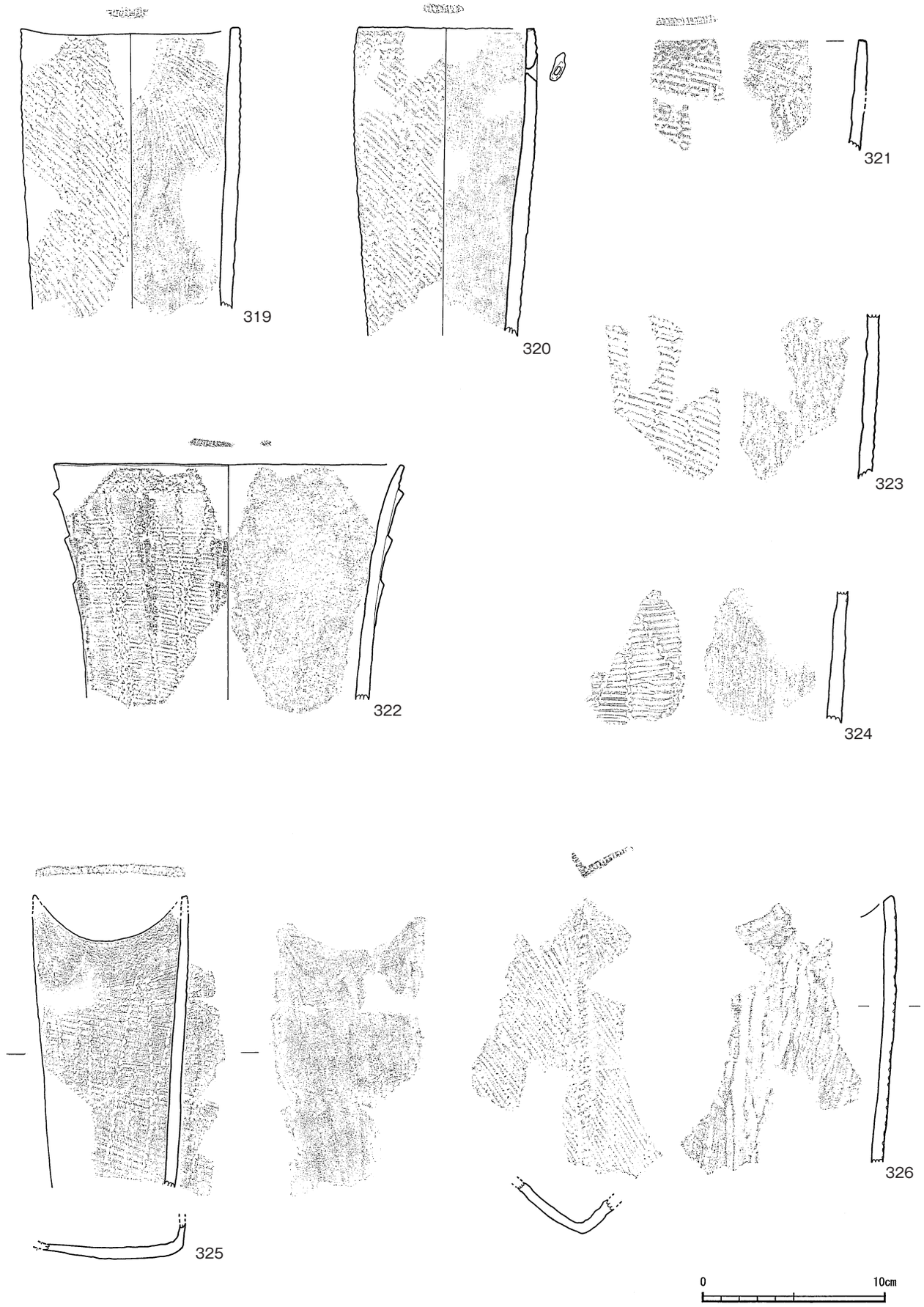
337～347 はⅢ類土器の底部である。その中でも，337～342 は円筒器形の底部である。Ⅱ類土器と同様に底部外周に粘土紐を巻き付け接合し，胴部を輪積み成形している。337～340 は外面を横位の浅い貝殻条痕を施した後，底面境付近に縦位の沈線を施している。341 は



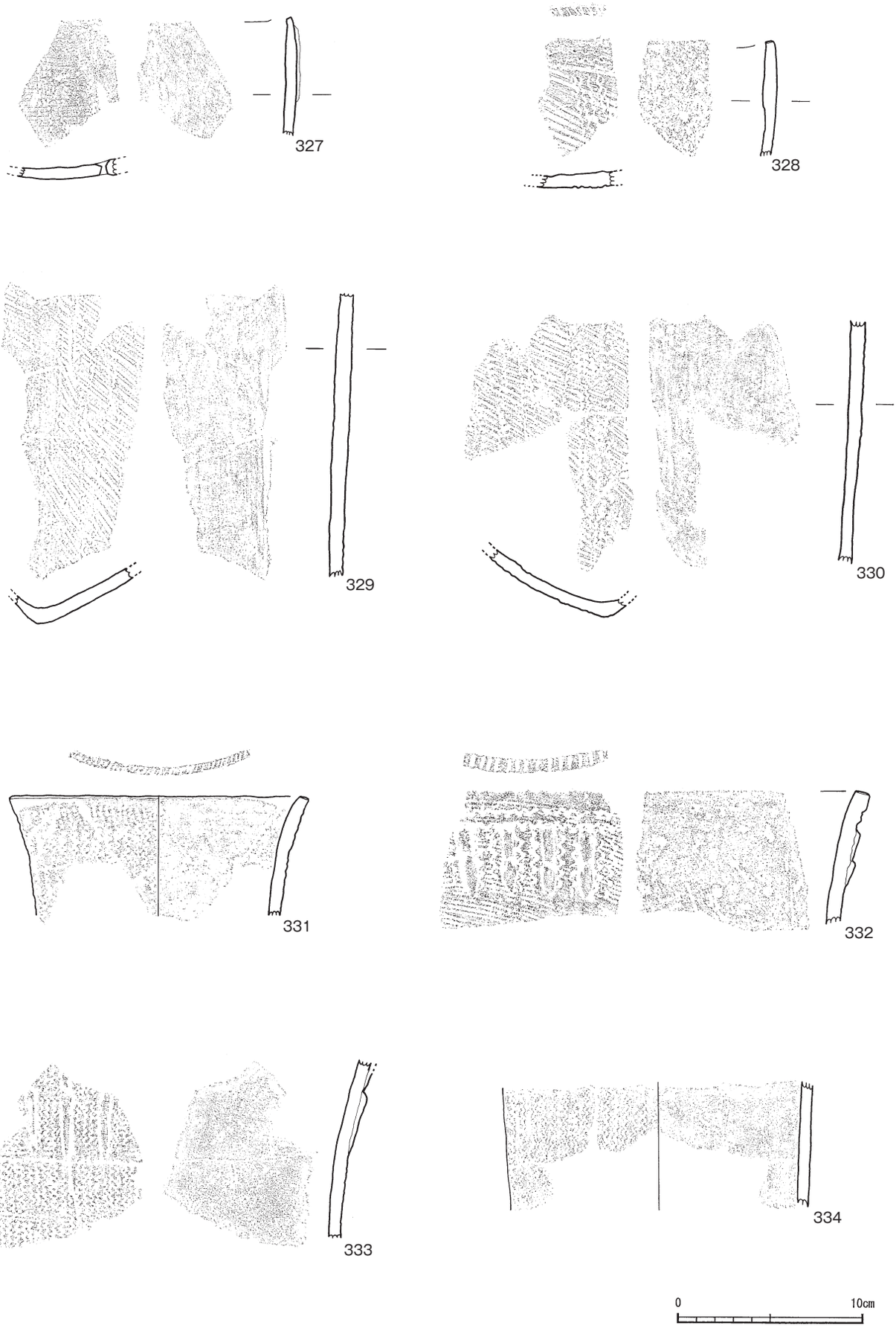

第 257 図　Ⅲ類土器（2）



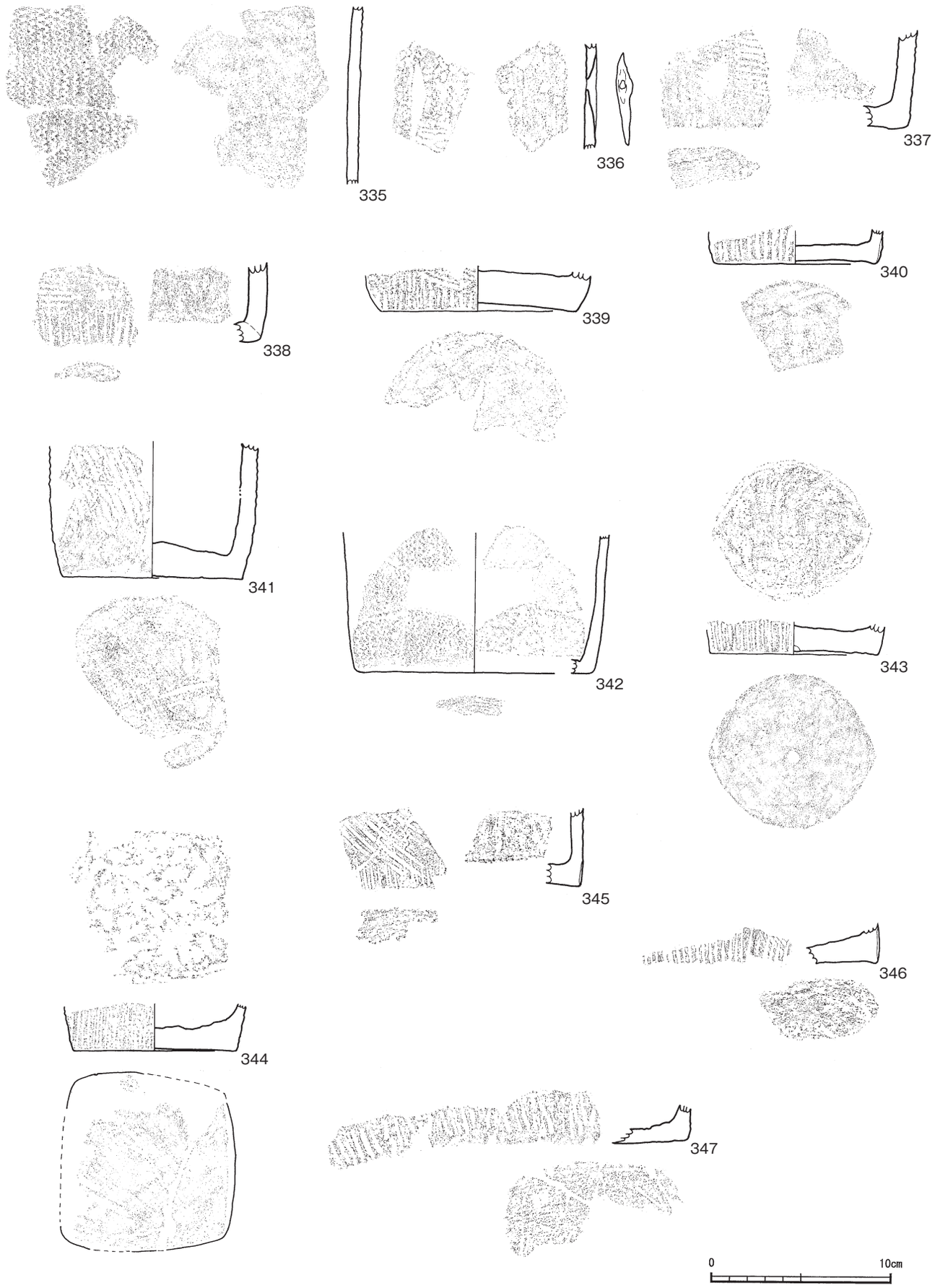

第 258 図　Ⅲ類土器（3）




第 259 図　Ⅲ類土器（４）




第 260 図　Ⅲ類土器（5）




第 261 図　Ⅲ類土器（6）

外面に斜位の貝殻条痕を施した後に縦位の貝殻刺突線文を施している。342は縦位の貝殻刺突線文を底面境まで密接に施している。343はレモン形の器形である。底部円盤をレモン形に成形後,外周部分に粘土紐を巻き付け,底部内面に胴部内面端を撫でつけるように接合している。底部外面中央には,棒状工具による回転穿孔による未貫通の孔がある。344～347は角筒器形の底部である。344は底面の器壁厚が1.7㎝程度とやや厚い底部である。底部内面は成形時のヘラ状工具痕や指おさえ痕が明瞭で凹凸も激しい。底部と胴部の接合部分には,わずかに隙間がみられ,底部外周部分に粘土紐を巻き付けて成形したことがわかる。角部付近も同一の粘土帯がカーブしていることから円筒形と同じように輪積みによる胴部成形と考えられる。外面は底面境付近に縦位の沈線が密接に施される。底部外面はケズリと丁寧なナデが行われる。345は胴部外面を斜位の貝殻条痕を施した後,縦位の貝殻刺突線文を３条施している。347は底部と胴部に丁寧なナデを行い,接合していることが内面から確認できる。底部内面の粘土を胴部側に伸ばすことによって接合部分に生じる隙間を埋めている。底面境付近の短沈線は,幅が他に比べ広く,間隔もやや疎である。

**（４）Ⅳ類土器（第262・263図　348～356）**

Ⅳ類土器は口縁部に貝殻刺突を施し,胴部に貝殻による横位の押引文・刺突文が全面に施される一群である。

348～350は口縁部である。348は口縁部がやや外傾する器形である。内面は丁寧なナデを行い,外面は横位の貝殻条痕を施した後,口縁部上位には横位の貝殻刺突線文を２条施す。その下には,貝殻刺突線文に直交するように先端を尖らせた棒状工具による刺突を１段施す。さらに口縁部下位には,縦位,斜位の貝殻刺突文を楔形状に施文している。口唇部の平坦面には,斜位の刻目を入れている。349は口縁部上位に斜位の貝殻刺突を施し,口縁部下位には横位の貝殻刺突線文を施している。350は口縁部上位に１条,下位に２条の横位の貝殻刺突線文で区画し,その中を斜位の貝殻刺突を密接に施文し充填している。口唇部の平坦面には,斜位の刻目を入れている。

351～356は胴部である。351・352は内面に丁寧なナデを行っている。外面は横位の浅い押引文を１条施し,その下に貝殻腹縁かヘラ状工具による横位の条痕を施している。さらにその下位には,横位の浅い押引きが部分的に施文されているのが確認できる。このように押引文と条痕文を交互に施文するのが特徴的である。353～356は横位の貝殻腹縁による押引文状の連続刺突文を器面全面に施している。353～356は文様,胎土等が類似することから,同一個体の可能性が高いと考えられる。

**（５）Ⅴ類土器（第264～276図　357～439）**

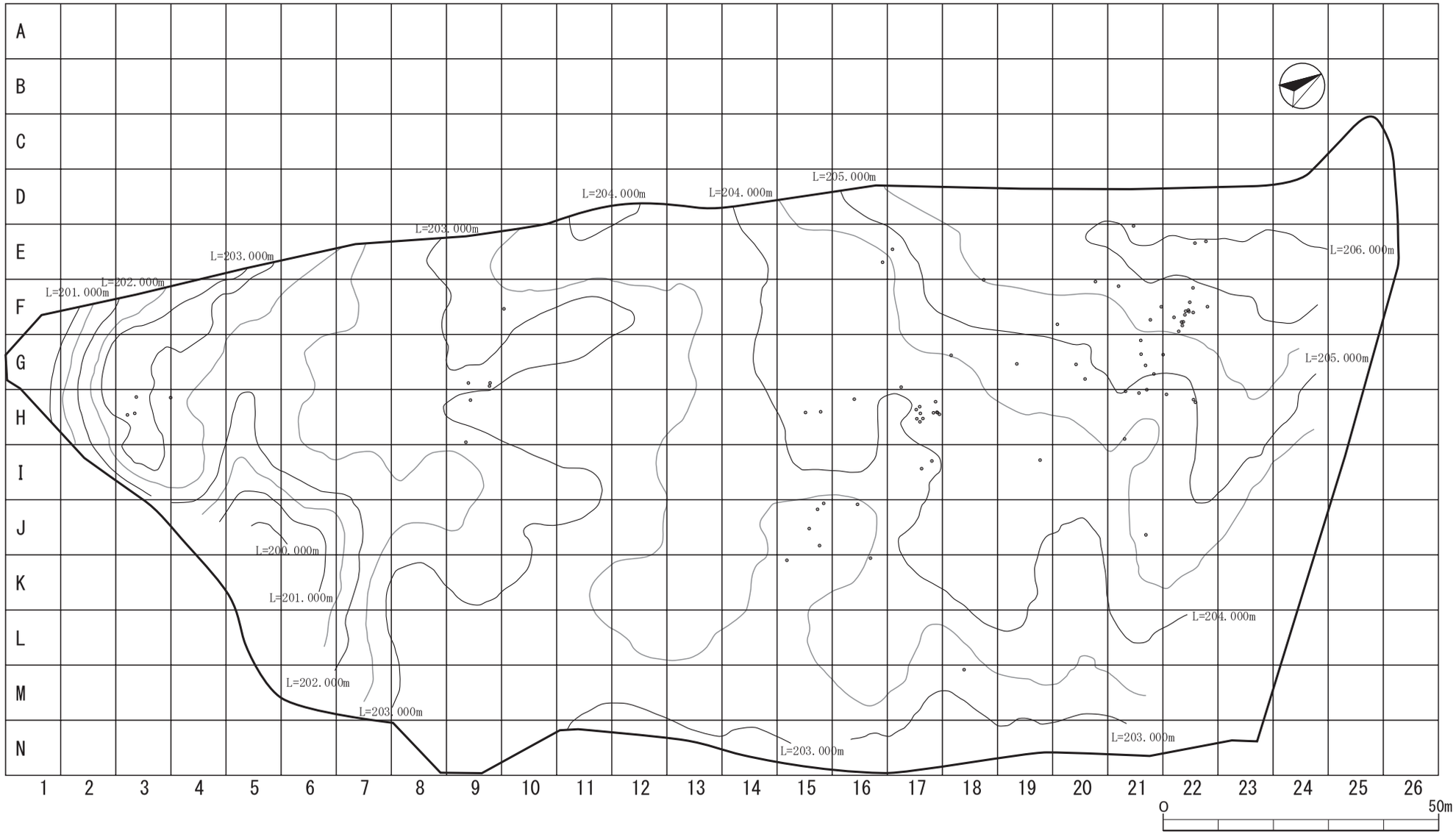
Ⅴ類土器は口縁部に斜位・羽状・縦位・横位等の刺突文,胴部外面に綾杉状の貝殻条痕文等が施される一群である。器形は口縁部が外反するもの,外傾するもの,直口するものとがある。底部は平底である。内面はナデが行われている。本類は口縁部形態と刺突方法やモチーフで細分した。

357～374は口縁部が外反し,口縁部外面に貝殻腹縁部による斜位の刺突を施す一群である。口唇部刻目の位置でさらに２つに分けられる。

357～360は口唇部内端に刻目を入れる一群である。357は口縁部外面の上下に横位の貝殻刺突をそれぞれ１段施した後,斜位の貝殻刺突を施している。358は口縁部上位に横位の貝殻刺突を２段施し,その下位に斜位の貝殻刺突を施している。この貝殻刺突は一部ナデ消されている。360は口縁部が大きく外反する器形である。波状口縁を呈しているが,波頂部は欠損している。胴部外面は綾杉状のモチーフが崩れ,斜位の貝殻条痕で空間を埋めるような施文が行われている。357・358・360は口唇部内端に浅い斜位の刻目を入れているが,359は先端を舌状に加工した工具により明瞭な刻目を入れている。

361～374は口唇部外端もしくは平坦面に刻目を入れる一群である。361は口縁部が大きく外反する器形で,口唇部の平坦面にヘラ状工具による浅い刻目を入れている。362・363の口唇部外端に施される刻目は,棒状工具を斜位に押し当て施文している。刻み痕は米粒状である。366は器壁が薄く成形され,内面のナデも非常に丁寧である。口縁部外面の斜位の貝殻刺突の間隔は疎であり,一部ナデ消されている。367は２単位の波状口縁を呈すると考えられる。外面は浅い貝殻条痕を施した後,頸部に横位の貝殻刺突線文を３段施し,口縁部と胴部の区画を行っている。その後,口縁部に斜位の貝殻刺突を,胴部に縦位の貝殻刺突線文を施している。胴部の貝殻刺突線文は,胴部下半まで及ぶ長いものと胴部上半までの５～６㎝の短いものを間隔を空けて交互に施文している。368は胴部の綾杉状の貝殻条痕が崩れ,横位に施されている。369は大型の器形である。胴部は横位の浅い貝殻条痕をやや間隔を空けて施した後,その間を鋸歯状のモチーフを描くように斜位の貝殻条痕で充填している。370～373は斜位の貝殻刺突を施した施文具で口唇部外面にも横位の刺突を行っている。また,胴部の鋸歯状の貝殻条痕は非常に明瞭で,刺突に用いた貝殻腹縁部を用いている。372は２単位の波状口縁を呈すると考えられる。また,斜位の貝殻刺突は施文具を下方に引くように施文している。373は口縁部から底部までを復元することができる。胴部の貝殻条痕は底面境まで及んでおり,左から右へ斜位に施文している。

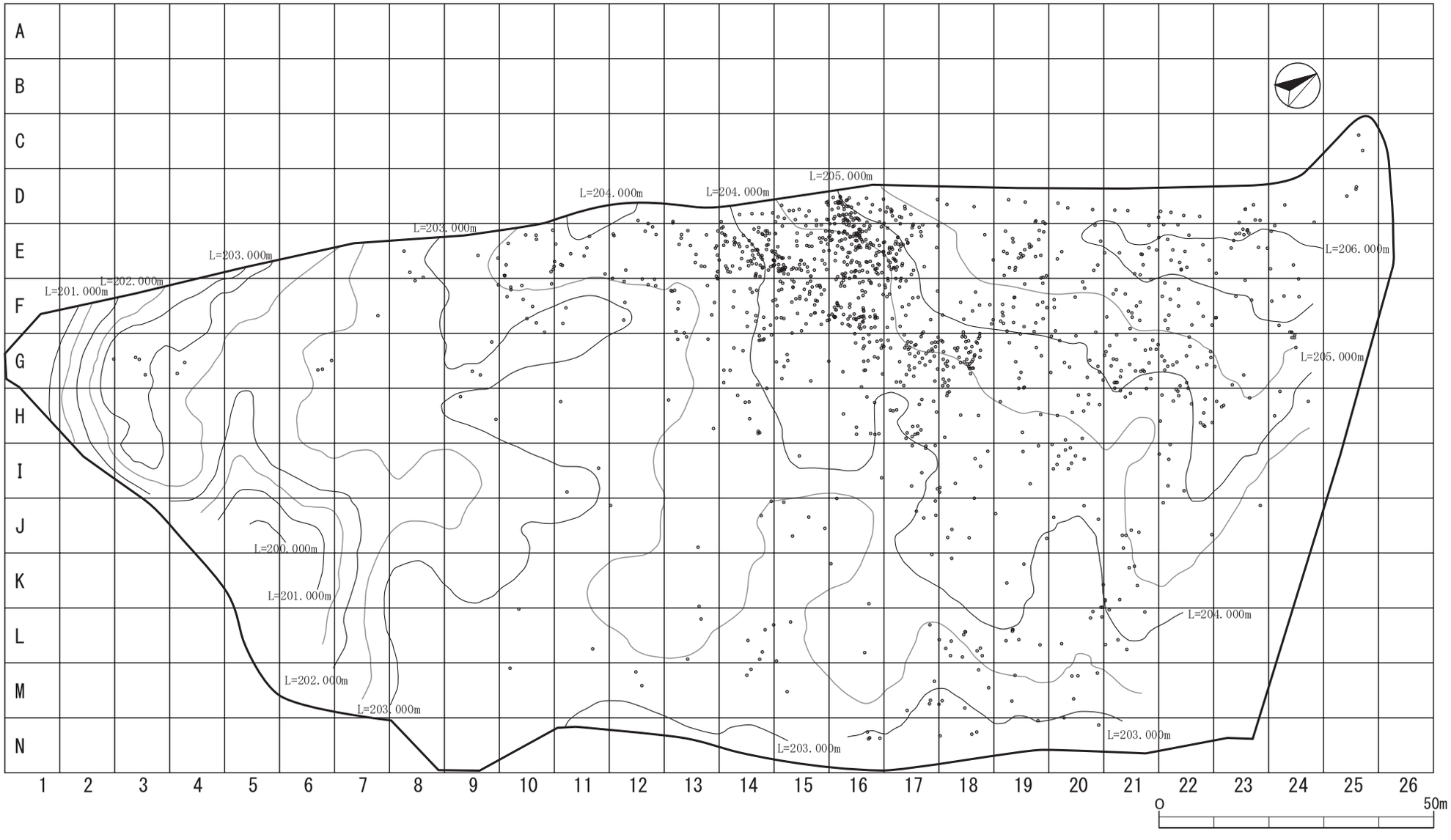
375～377は口縁部が外反し,口縁部外面に貝殻腹縁部による斜位の刺突を方向を違えて施すことにより羽状のモチーフを描く一群である。375・376は貝殻刺突の上段




第 262 図　Ⅳ類土器出土分布図




第 263 図　Ⅳ類土器




第 264 図　Ｖ類土器出土分布図

が右上がり，下段が右下がりとなる。いずれも口唇部内端に斜位の浅い刻目を入れている。377 は口縁部から底部までが復元できる。底面は残存しないが，底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け，輪積みによる成形を行っている。内面には横位の繊維状の擦痕が確認でき，丁寧なナデを行っている。外面は貝殻腹縁部による綾杉状の条痕を施した後，口縁部は 375・376 とは逆方向の貝殻刺突による羽状のモチーフを描いている。口唇部外面には，米粒状の刻目を入れている。底面境の外面には，先端が爪形状の工具で浅い刻目を入れている。

378 は口縁部が外反し，口縁部外面に方向の異なる斜位の貝殻刺突を交差させて施文している。右上がりの刺突を行った後，右下がりの刺突を行っている。口唇部に，斜位の浅い刻目を入れている。

379～382 は口縁部が外反し，口縁部外面に貝殻腹縁部による縦位の刺突を施す一群である。379 は貝殻刺突の上に一部斜位の短沈線が確認できる。

380～382 は大型の器形である。いずれも，口縁部外面の縦位の貝殻刺突は，浅く施文されている。胴部の綾杉状の貝殻条痕は非常に明瞭である。口唇部平坦面から内端に施される斜位の刻目は先端の細い棒状工具により入れられている。

383～401 は口縁部が外反もしくは外傾し，口縁部外面に貝殻腹縁部による横位の刺突を施している。口唇部刻目の有無と刻目の位置で３つに分けられる。

383～388 は口唇部内端に斜位の刻目を密接に入れる一群である。386～388 は横位の貝殻刺突を施した後，その下位に斜位の貝殻刺突を施している。387・388 の口唇部は，やや肥厚している。

389～394 は口唇部平坦面及び外端に浅い斜位の刻目を入れる一群である。口縁部はやや外傾する。389 は胴部の綾杉状の貝殻条痕が整然と施されているが，390 の口縁部付近は横位に貝殻条痕が施されている。また，口唇部外端から平坦面にかけて貝殻刺突が施され，口縁部の上位付近に及ぶ箇所もあり，口縁部文様と一体化している。内面は縦位，斜位のケズリが行われている。391 は口縁部以外に，胴部の貝殻条痕の上に縦位・斜位の貝殻刺突を施している。393・394 は口縁部外面に横位，その下位に斜位の貝殻刺突を施している。斜位の刺突痕が明瞭で，施文幅は短い。特に 393 は 388 と施文が類似している。394 の横位の貝殻刺突は非常に浅く，明瞭さに欠ける。

395～401 は口唇部に刻目が見られない一群である。395 は口縁部が大きく外反し，２単位の波状口縁を呈すると考えられる。口縁部外面に６～７段の密接した横位の貝殻刺突を施す。底面境付近には，棒状工具による縦位の短沈線を一定の間隔で施している。396 は口唇部のみを外傾させている。胴部外面には浅い縦位の貝殻条痕を施す。398 は口縁部外面の横位の貝殻刺突は施文幅が不統一で，やや乱雑に施文されている。胴部も棒状工具による縦位・斜位の沈線が不規則に施されている。399・400 も横位の貝殻刺突がやや乱れて施文されている。401 は外反する口縁部である。口唇部は丁寧なナデが行われ，平坦化されている。口縁部外面に横位の貝殻刺突を２段施し，その下位に施文幅の短い斜位の貝殻刺突を施す。胴部の貝殻条痕も施文する貝殻腹縁部の幅が短く，綾杉状のモチーフが乱れている。

402～405 は口縁部が外反し，口縁部外面に貝殻刺突以外の施文を行う一群である。

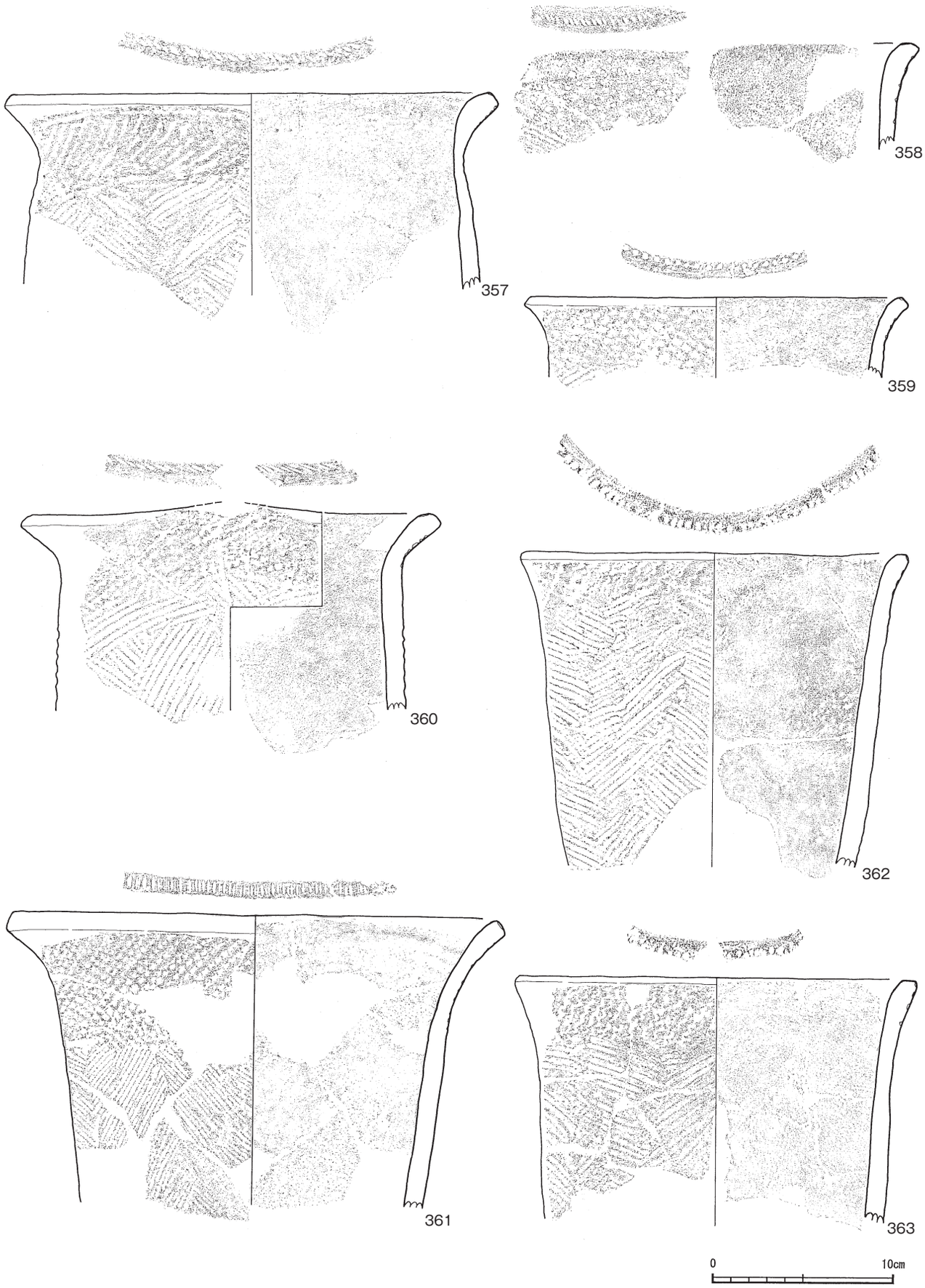
402・403 は口縁部外面に棒状工具による斜位の刺突を方向を違えて３段行っている。口唇部には，同様の施文具で浅い斜位の刻目を入れている。404 は棒状工具による横位の浅い連続刺突を３段行っている。405 は胴部に斜位の貝殻条痕を施した後に，口縁部外面に縦位の貝殻条痕を密接に施している。最後に，頸部付近に横位の貝殻条痕が一部施される。

406～412 は口縁部が直口もしくはわずかに外傾する一群である。

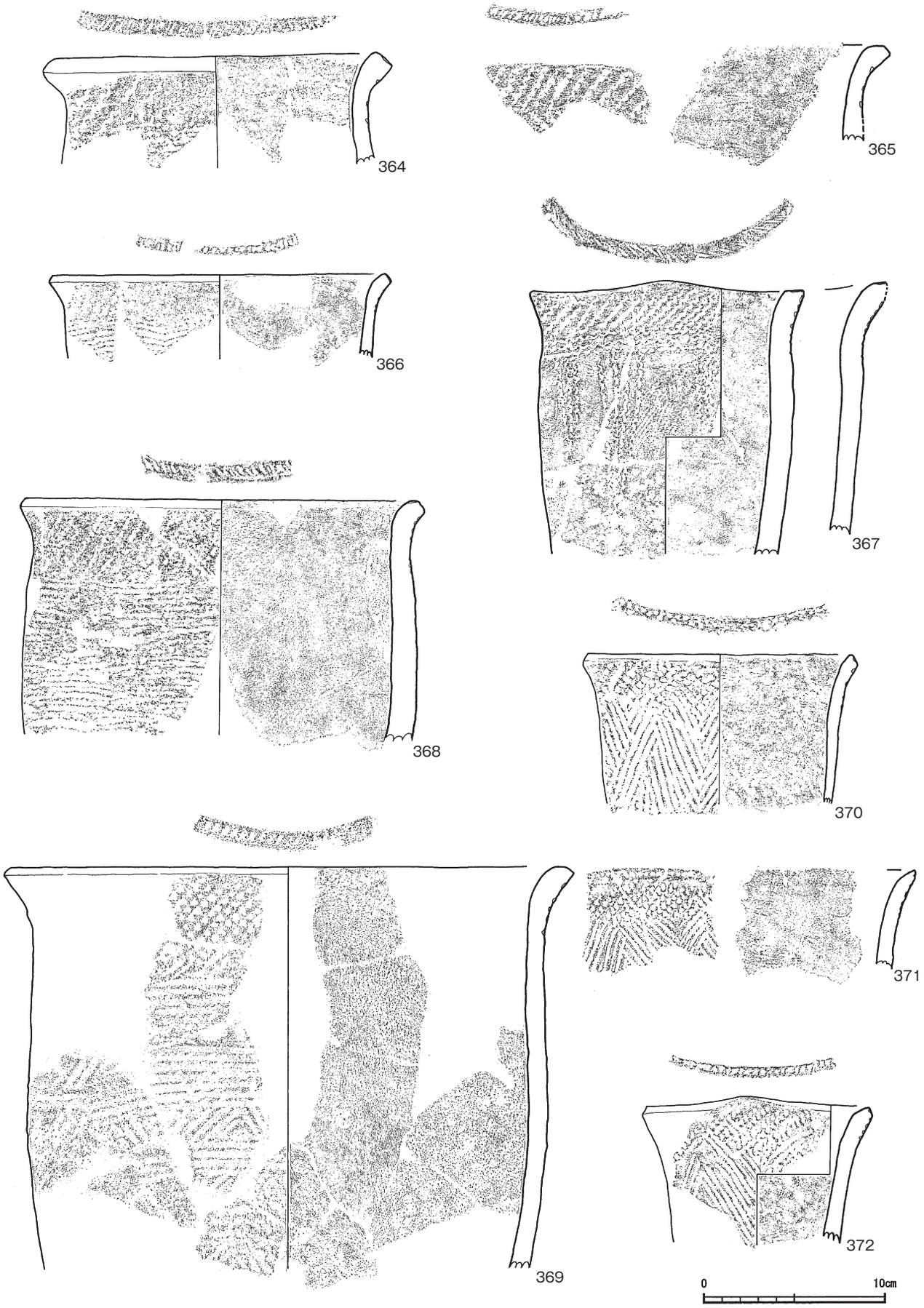
406 は口縁部外面に右上がり斜位の貝殻刺突を施しているが，一部右下がり斜位の貝殻刺突を施し羽状のモチーフを描いている。また，斜位の貝殻刺突より下位の胴部との境付近に横位の貝殻刺突を施す箇所がある。さらに，口唇部には貝殻刺突を行い，底面境付近には浅い刻目を入れている。407 はわずかに外傾する口縁部で口唇部を舌状に成形し，刺突を部分的に施している。口縁部外端に斜位の貝殻刺突を施した後に，貝殻条痕が施されている胴部との境付近に横位の浅い刺突を施している。408・409 は縦位に近い斜位の貝殻刺突を密接に施している。410 は口縁部外面に縦位の貝殻腹縁部による刺突を施している。口唇部の平坦面に貝殻腹縁部を口唇部に対して上方より直交するように押し当て刺突を行っている。411 は外面を口縁部から胴部にかけてヘラ状工具により非常に浅い鋸歯状の沈線を密接に施した後，口縁部の沈線をナデ消し，同様の施文具で横位の刺突を２段施す。胎土に金雲母を多く含んでいる。

413～421 は胴部で，貝殻条痕の施文方向で３つに分けられる。

413～417 は綾杉状の貝殻条痕を施す一群である。413 は胴部上半が外反し，底部に向けて直線的にすぼまる。綾杉状の明瞭な貝殻条痕を施した後に，上位に縦位の貝殻刺突を施している。380・381・382 と施文や調整が類似している。414 は底部付近に横位の貝殻条痕を施している。415 は口縁部付近に方向の異なる斜位の貝殻刺突を交差させて施文している。右上がりの刺突を行った後，右下がりの刺突を行っている。その下位に，横位の貝殻刺突を施している。378 と文様，調整，胎土等が類



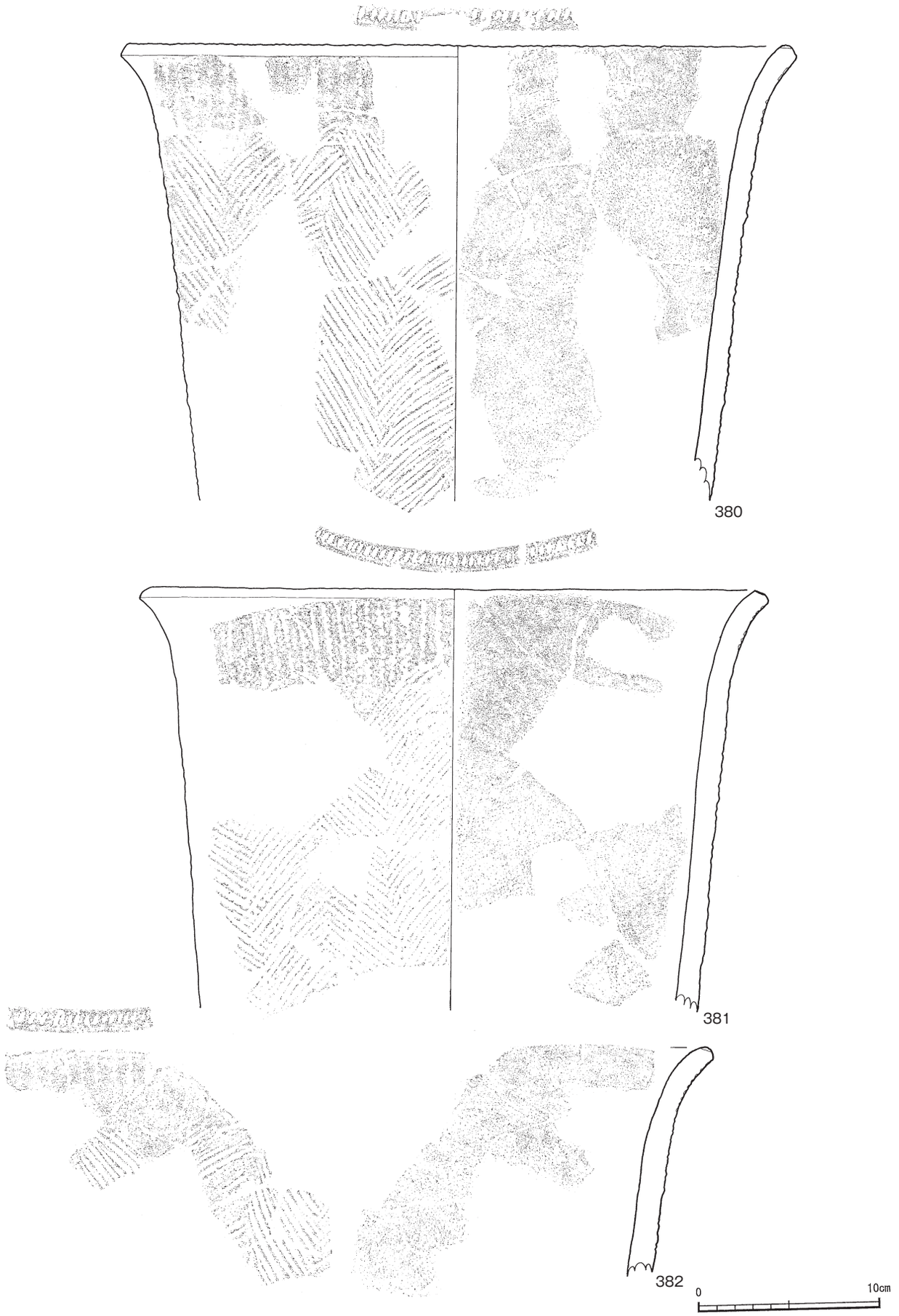

第 265 図　V類土器（1）



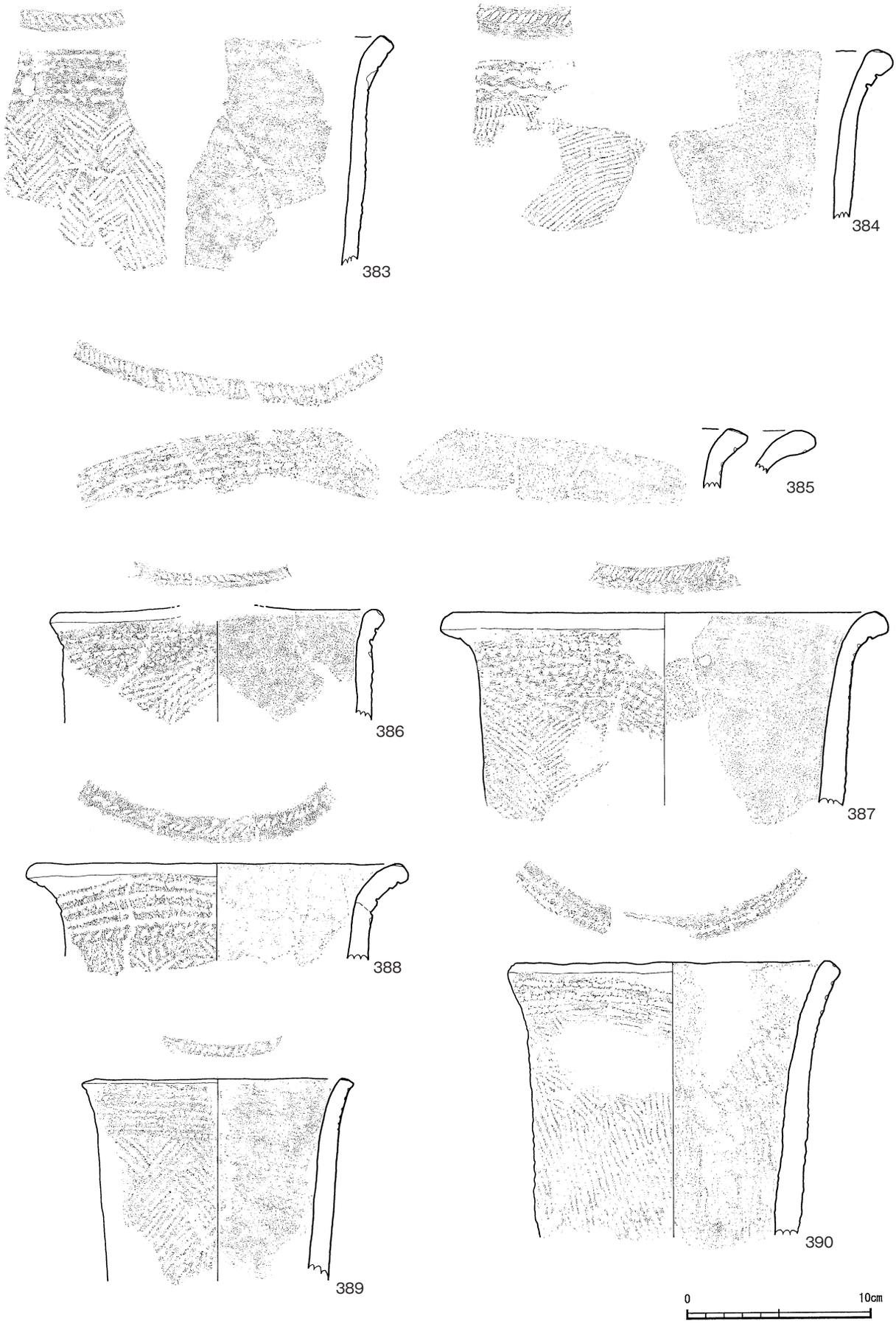

第 266 図　V類土器（2）




第 267 図　V類土器（3）




第 268 図　V類土器（4）



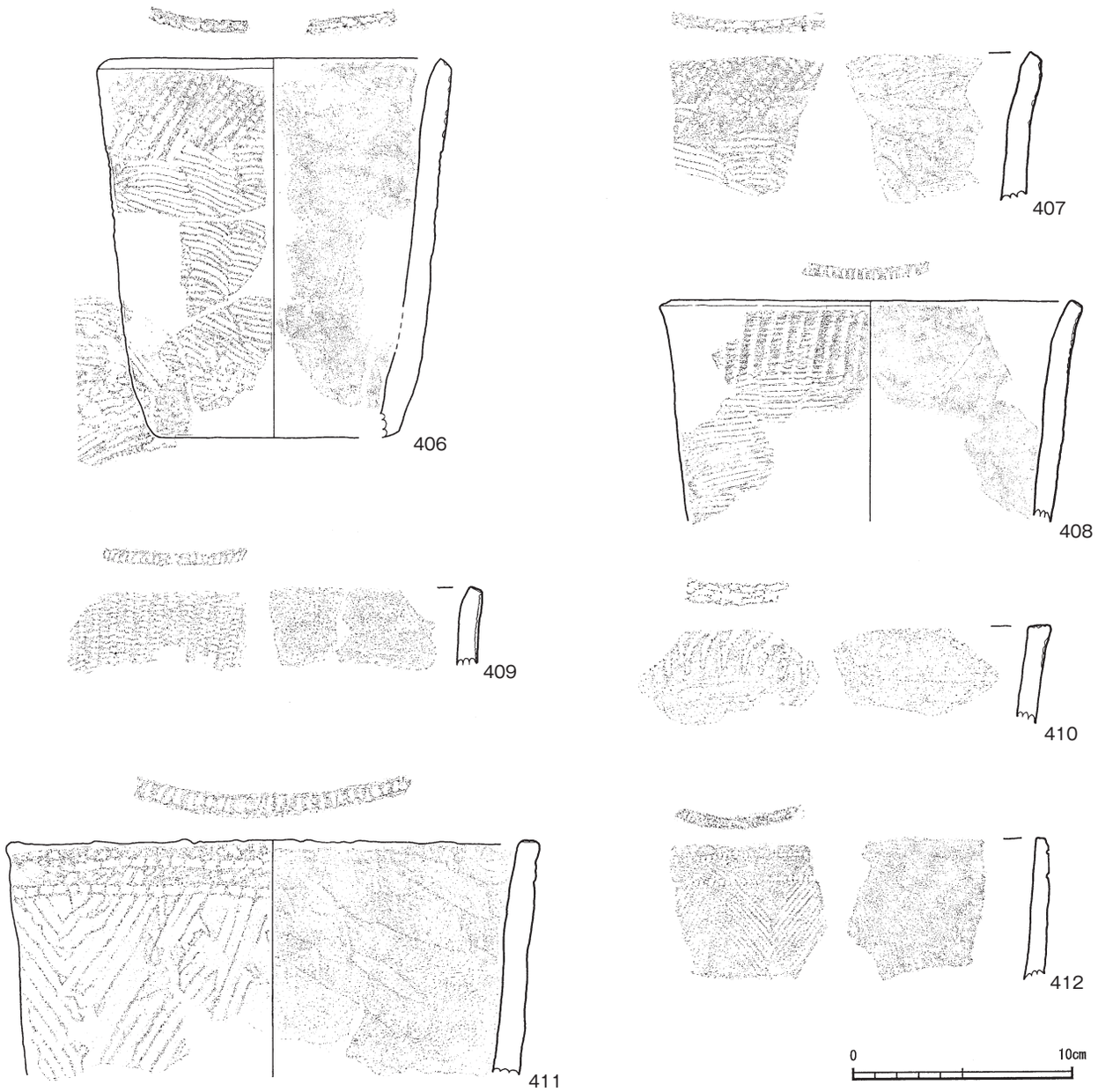

第 269 図　V類土器（5）




第 270 図　V類土器（6）




第 271 図　V類土器（7）




第 272 図　V類土器（8）

似することから，同一個体の可能性が考えられる。416は上位の残存部分は少ないが，貝殻腹縁部による斜位の刺突を方向を違えて施すことにより羽状のモチーフを描いている。この刺突は上段が右上がり，下段が右下がりである。

418・419 は斜位の貝殻条痕を施す胴部である。418 は明瞭な貝殻条痕であるが，部分的にヘラ状工具による沈線が重ねて施文される。419 は浅い貝殻条痕でやや不規則に施文している。上位に斜位の貝殻刺突をわずかに観察できる。また，胎土に白色粒子を多く含む。

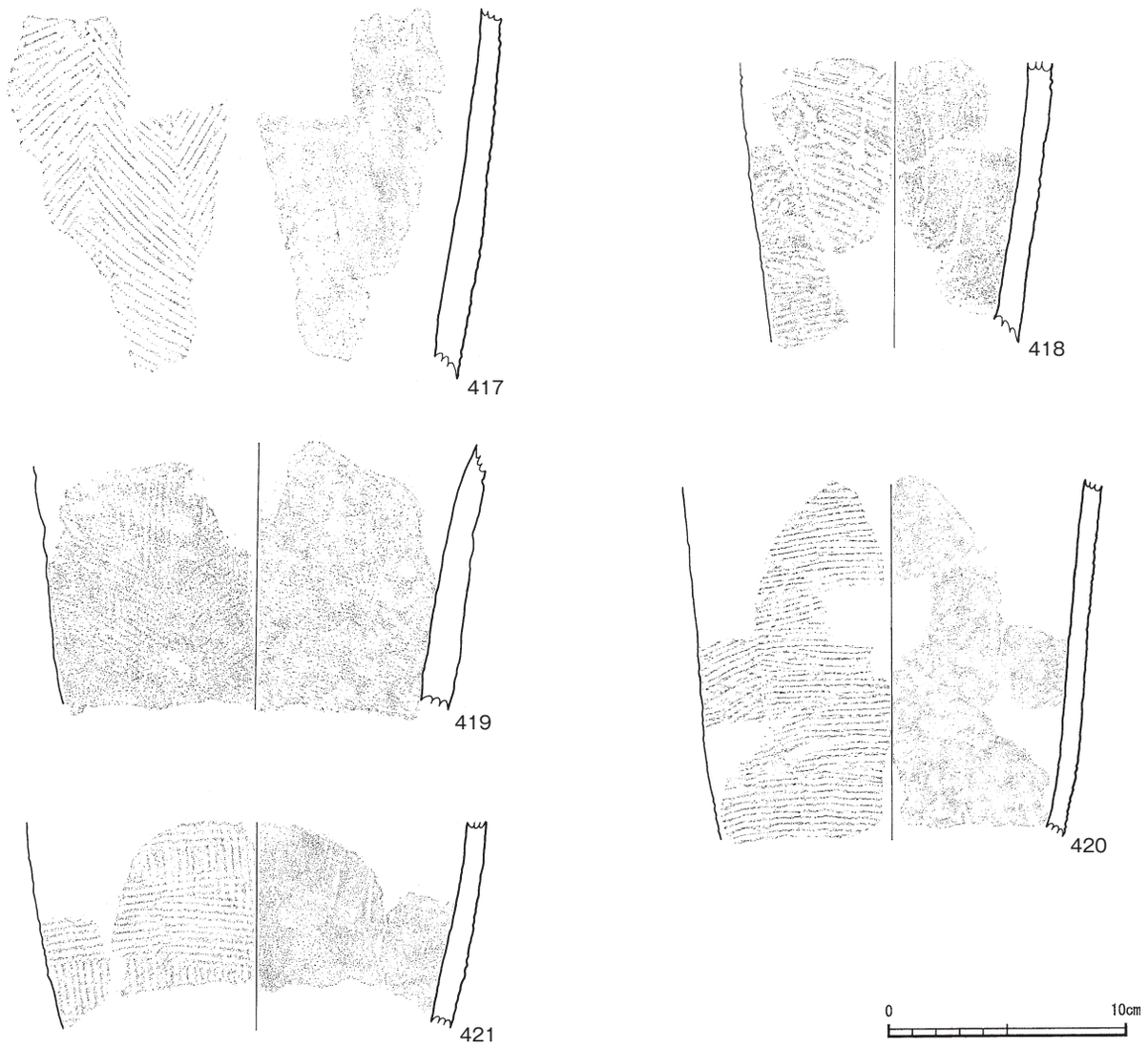
420・421 は横位の貝殻条痕を施す胴部である。421 は帯状の空白部ができるように横位の貝殻条痕を間隔を空けて施した後に，空白部を縦位の貝殻条痕で充填している。

422～439 は底部である。底面境付近の胴部外面の貝殻条痕の方向と底面境付近の刻みの有無で分類した。

422～432 は底面境付近に横位の貝殻条痕を施した後，刻目を入れる一群である。422 は底部外周部分と胴部が




第 273 図　V類土器（9）

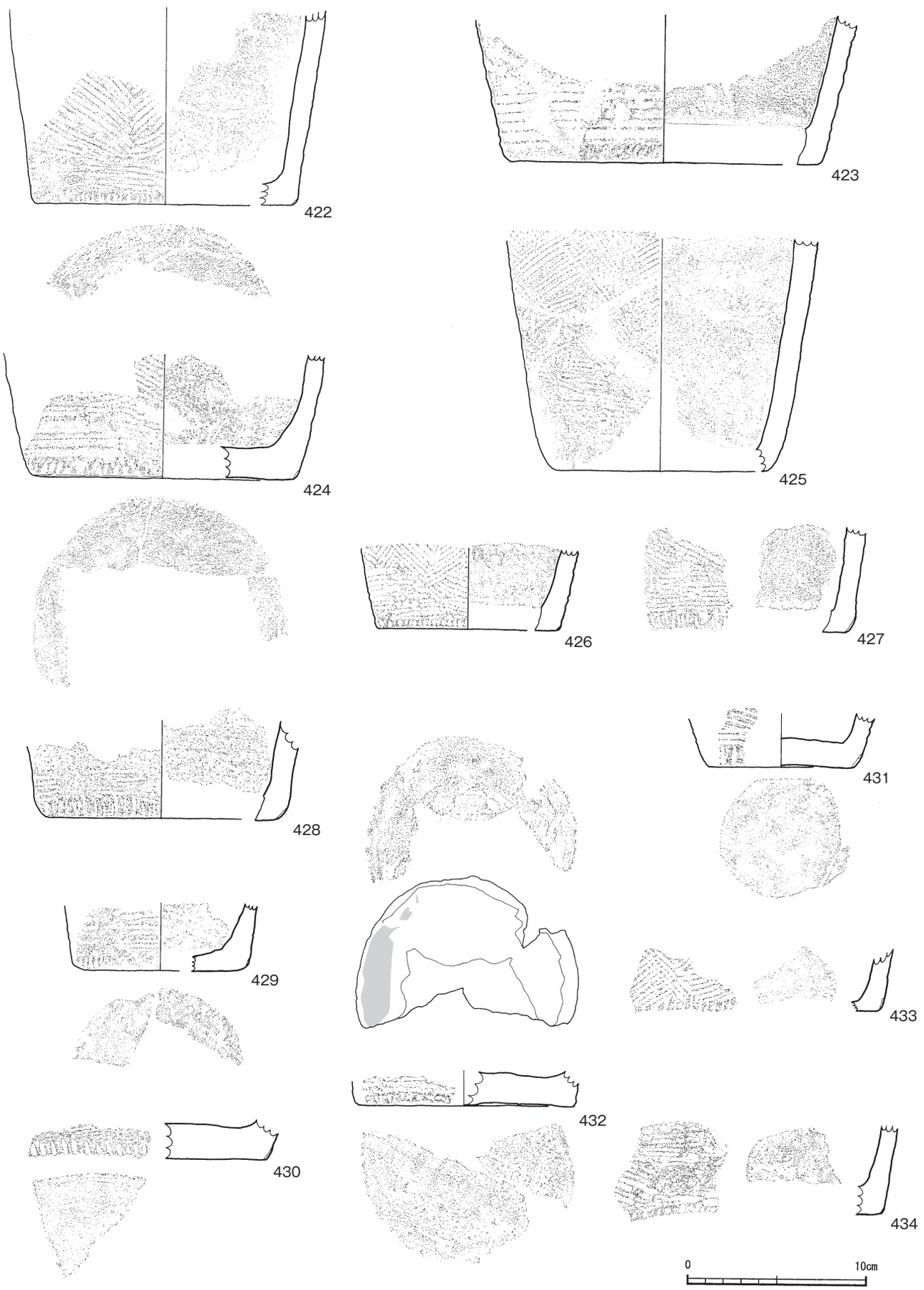



第 274 図　V類土器（10）

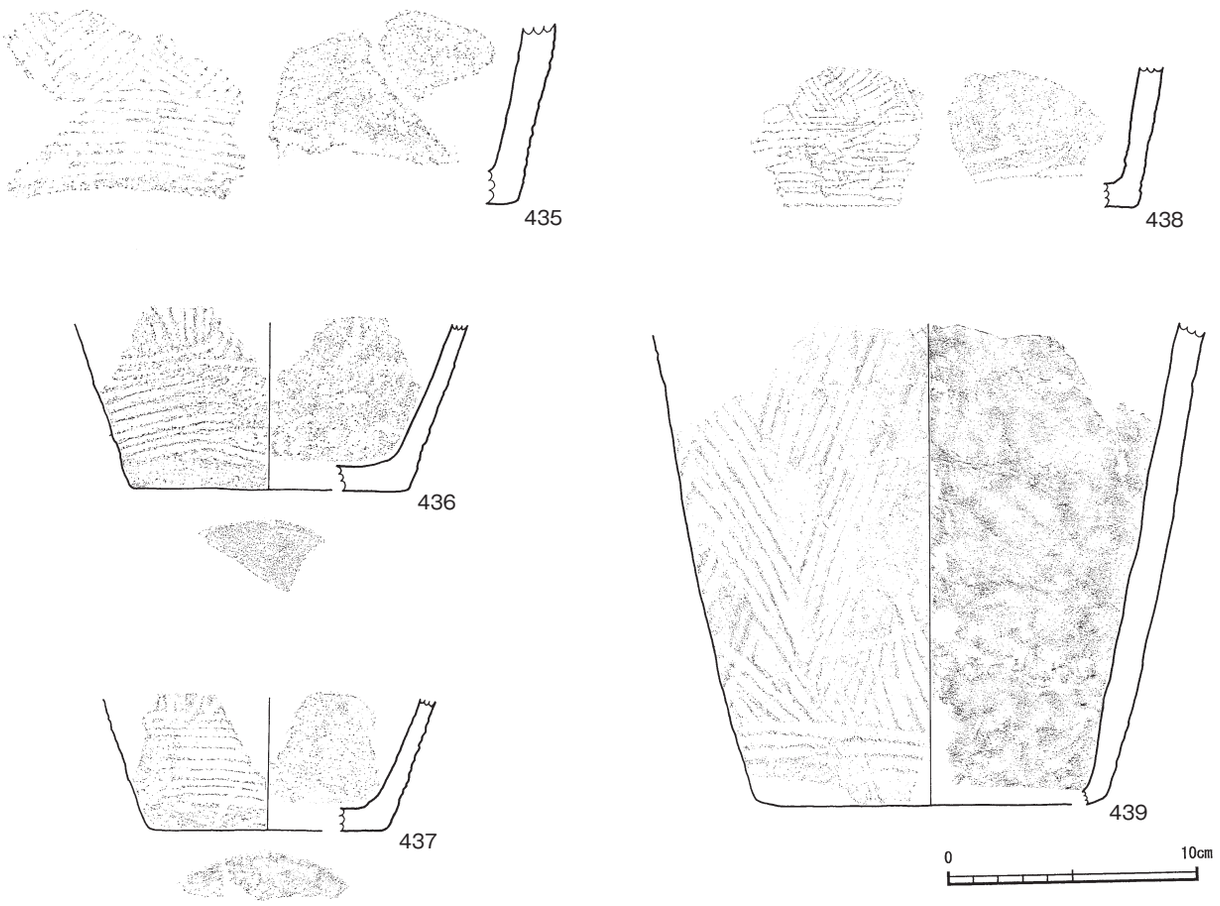
残存している。底部円盤の外周部分に粘土紐を巡らせ，その上に粘土紐を輪積みし，胴部を成形している。底部内面側の粘土を少し伸ばすようにして胴部と接合している。内外面ともに丁寧にナデを行っている。423 は綾杉状の貝殻条痕を施した後，その下位に横位の貝殻条痕を施している。底面境付近に斜位の刻目が，部分的に入れられている。424 は横位の貝殻条痕の施文幅がやや広く，刻み痕は米粒状である。425 の底面境付近には磨耗し判然としない箇所もあるが，刻目を確認できる。428・429 の底面境付近には横位の貝殻条痕が断続的に施され，刻目もやや乱雑に入れられている。428 は胎土に白色粒子が多く含まれている。430・431 は胴部外面があまり残存していないが，横位の貝殻条痕が確認できる。431 はやや上げ底気味の底部で，内外面とも丁寧にナデを行っている。底面境付近の刻目は棒状の工具で短沈線状に入れられている。また，胎土に細かい白色粒子が含まれている。432 は胴部外面の横位の貝殻条痕がわずかに観察できる。また，底部内面には，白色の付着物が部分的に確認できる。

433・434 は底面境付近まで斜位の貝殻条痕を施した後，刻目を入れる一群である。433 は細い短沈線状の明瞭な刻目を，434 は米粒状の刻目を入れている。

435～439 は底面境付近に横位の貝殻条痕を施すが，刻目は入れない一群である。435 は整然とした綾杉状の貝殻条痕を施した後に，横位の貝殻条痕を施している。胎土に白色粒子を多く含む。436・437 は底面境付近の横位の貝殻条痕の施文幅がやや広い。438 は胴部外面の斜位の貝殻条痕が乱雑に施され，横位の貝殻条痕も断続的に施されている。439 はヘラ状工具により非常に浅い鋸歯状の沈線を密接に施した後，底面境付近には同様の沈線




第 275 図　V類土器（11）




第 276 図　Ⅴ類土器（12）

を横位に施している。胎土に金雲母を多く含んでいる。411 と同一個体の可能性が高い。

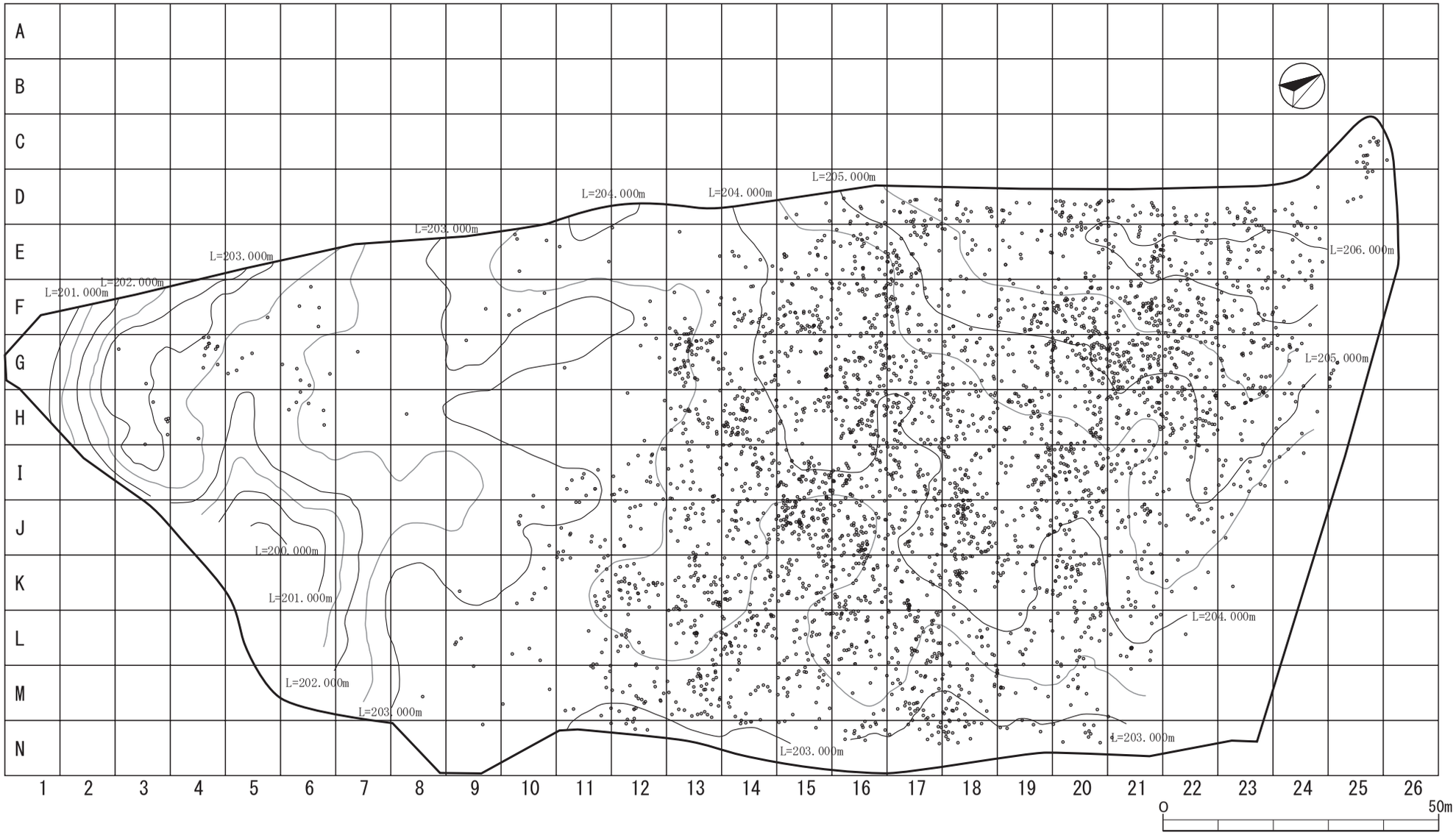
なお，357 に付着した炭化物で年代測定を実施したところ，8,295 － 8,202calBC の値が得られた。

**（６）Ⅵ類土器（第 277～286 図　440～521）**

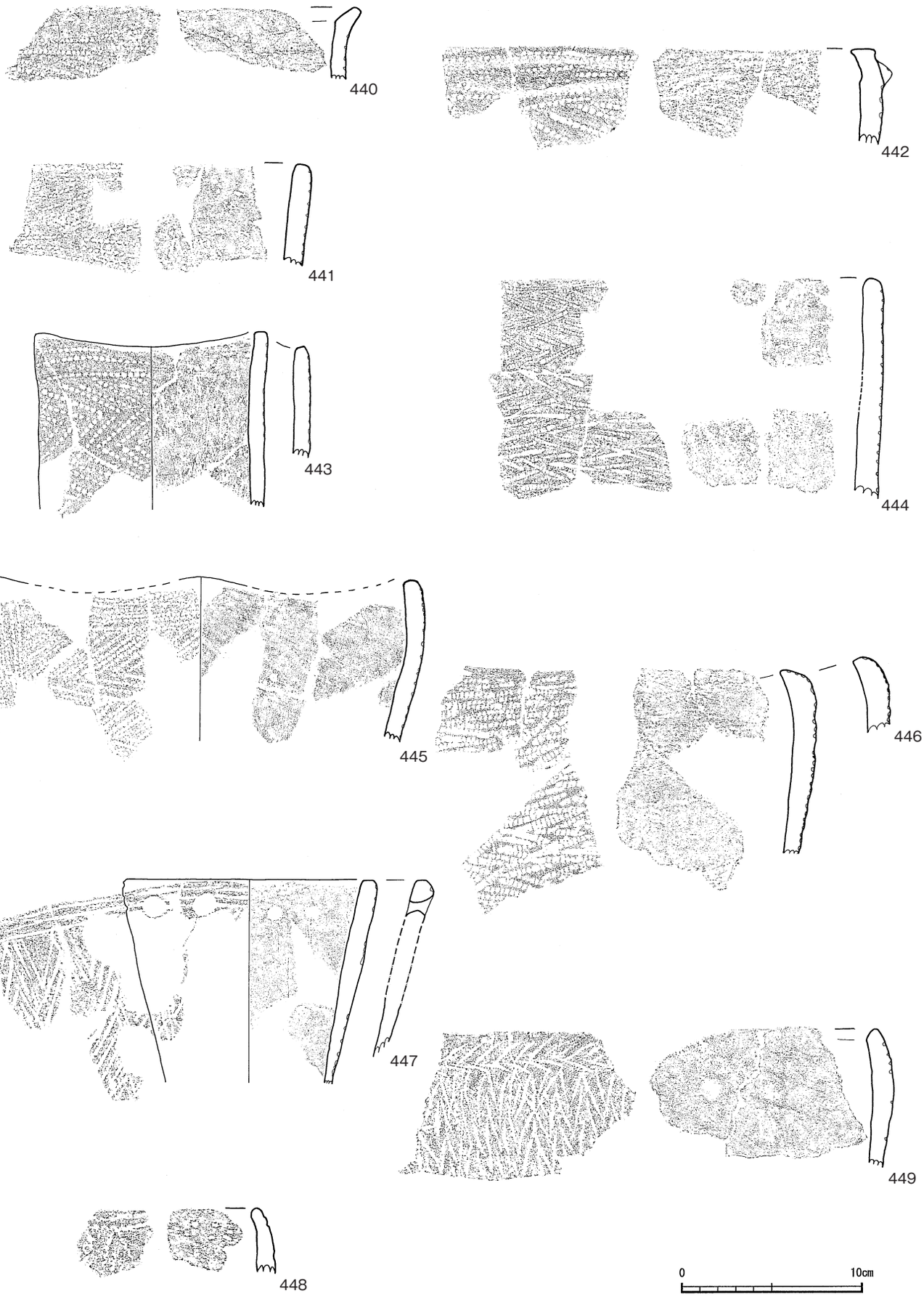
Ⅵ類土器は貝殻刺突文を施す一群である。口縁部と胴部の２帯に分けて施文するものと口縁部から胴部下半まで１帯で施文するものとがある。貝殻刺突の施文方向と文様構成により細分した。

440～446 は口縁部外面に横位の貝殻刺突文を施し，胴部に斜位もしくは斜位の方向を違えて，「く」の字状の貝殻刺突文を施す一群である。いずれも口唇部はミガキ状の丁寧なナデを行う。内面はナデを行うが，440・445・446 は口唇部と同様にミガキ状の丁寧なナデを行う。440 は口縁部がやや外反する器形である。口縁部内面に明瞭な稜をもち，ミガキ状の丁寧なナデを行っている。口縁部外面上位は丁寧にナデを行い無文部とし，頸部から横位，斜位の貝殻刺突文を施している。441 は口縁部外面に横位の貝殻刺突文を２段施した後，右上がりの斜位の貝殻刺突文を１段，その下位に横位の貝殻刺突文を施している。442 は横位のやや太めの瘤状突起を貼り付けた後，口縁部外面と瘤状突起に横位の貝殻刺突文を，胴部に斜位の貝殻刺突文を施す。ヘラ状工具を口縁部内面に横位に当て，粘土を口唇部に押し出すようにして口唇部の平坦面を作り出している。443 は波状口縁を呈している。胴部内面は縦位のケズリを行い，口縁部内面は丁寧なナデを行っている。444 は口縁部外面に横位の貝殻刺突文を施した後，「く」の字状の貝殻刺突文を全面に施している。胎土に白色粒子を多く含む。445 は４単位の波状口縁を呈すると考えられる。波頂部より縦位の貝殻刺突文を施し，割付けを行った上で，口縁部外面に横位の貝殻刺突文を施し，その下位に「く」の字状の貝殻刺突文を施している。446 は波状口縁を呈し，口縁部が内湾する器形である。口唇部外面から口縁部上位にかけて，横位の貝殻刺突文を，その下位に「く」の字状の貝殻刺突文を密接に施している。

447～449 は口縁部外面に横位もしくは「く」の字状の貝殻刺突文を施した後，胴部に「ハ」の字状の貝殻刺突




第 277 図　Ⅵ類土器出土分布図




第 278 図　Ⅵ類土器（1）

文を施す一群である。447 は口縁部外面に横位の貝殻刺突文を３段施した後，胴部に「ハ」の字状の貝殻刺突文を施す。口唇部内面をミガキ状の丁寧なナデを行っている。焼成後穿孔の補修孔が２か所確認できる。胎土に白色粒子を多く含む。449 は口縁部がやや内湾する器形である。口唇部は内傾し，平坦面は丁寧にナデを行っている。口縁部外面に「く」の字状の貝殻刺突文を施した後，胴部に「ハ」の字状の貝殻刺突文を施す。

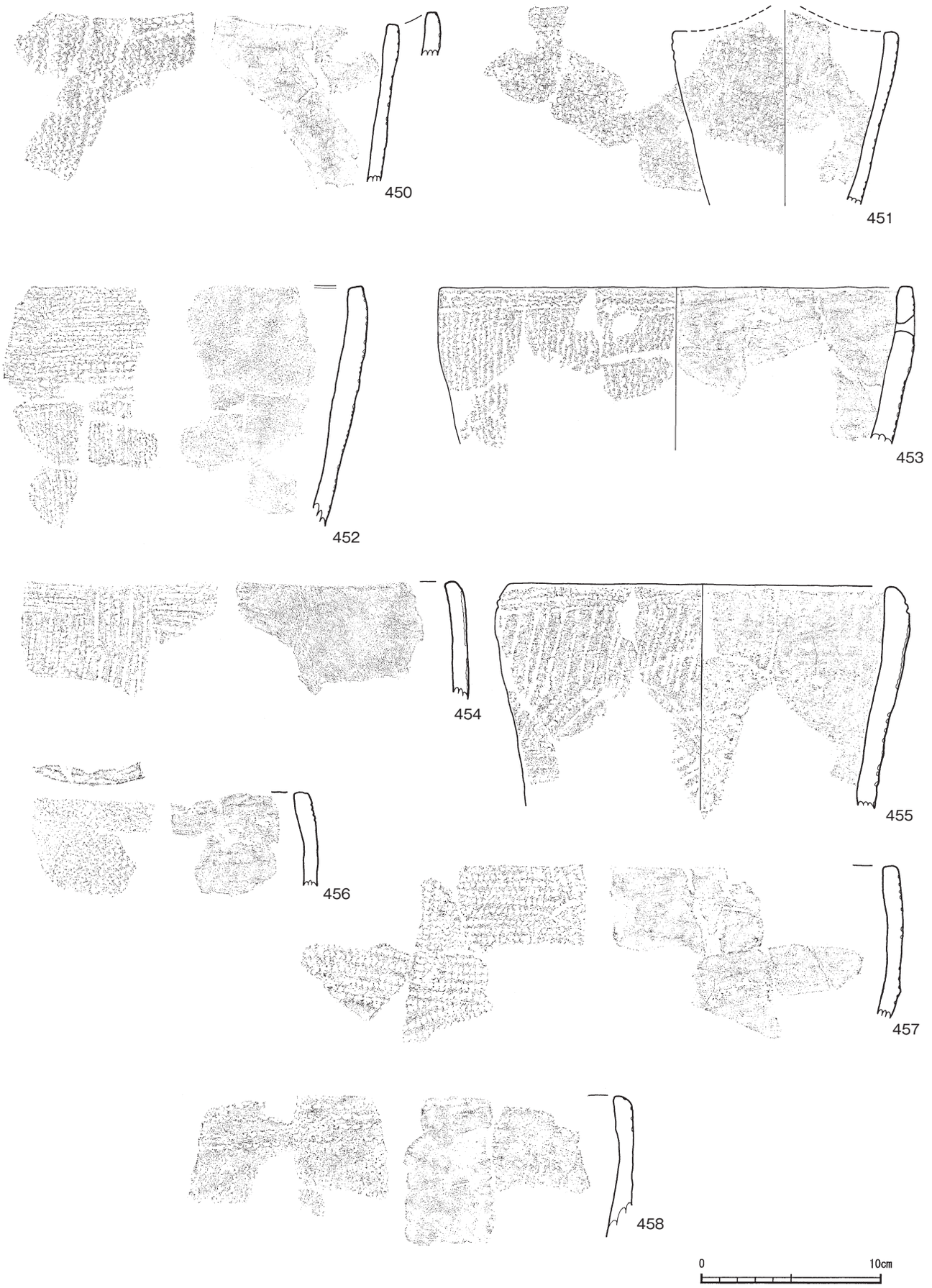
450～462 は口縁部外面に横位の貝殻刺突を施した後，胴部に縦位もしくはやや斜位の貝殻刺突を施す一群である。一部，貝殻刺突を模した先端を逆「Ｃ」字状に加工した施文具による刺突を施したものも含む。450・451 は波状口縁を呈する。ただし，451 は波頂部付近は残存していない。いずれも口唇部の平坦面は，ミガキ状の丁寧なナデを行っている。452 は口縁部外面の横位の貝殻刺突の施文幅が広いのが特徴的である。胴部に縦位の貝殻刺突文を密接に施している。453 は口縁部外面に横位の貝殻刺突文を３段施した後に，胴部に縦位の貝殻刺突文を密接に施している。焼成後穿孔の補修孔が２か所確認できる。胎土に白色粒子を多く含む。454 は口縁部外面に横位と縦位の貝殻刺突文を交互に施す。口唇部及び内面にミガキ状の丁寧なナデを行っている。455 は口縁部外面に横位の貝殻刺突を２段，その下位に斜位の貝殻刺突文を１段，さらにその下位に「く」の字状の貝殻刺突文を施している。内面は全体的にナデを行っているが，胴部内面に一部縦位のケズリ痕が確認できる。456 は口縁部がやや内湾する器形である。口縁部外面に横位の貝殻刺突文を施した後，胴部に縦位の貝殻刺突を密接して施すが，一部無文部が確認できる。457 は口縁部外面に一定の間隔で縦位の貝殻刺突文を施した後に，横位の貝殻刺突文を施している。胴部には斜位の貝殻刺突を施している。458 はやや内湾する器形であるが，口唇部外面は外傾するように成形されている。口唇部外面の横位の貝殻刺突と口縁部外面の横位の貝殻刺突が一体化して施文されている。胴部外面はやや間隔を空けて斜位の貝殻刺突文が施される。459・460 は４単位の波状口縁を呈すると考えられる。459 は口縁部内面から口唇部に向けて粘土を押し出して成形し，内面部分がやや厚い口唇部となっている。口縁部外面は波頂部の下に縦長の豆粒状の突起を貼り付け，横位の貝殻刺突文を施している。胴部は縦位，斜位の貝殻刺突文を密接に施している。なお，口縁部には補修孔が穿たれている。460 は波頂部付近の口縁部外面に縦位の貝殻刺突文を施した後，その周辺に横位の貝殻刺突文を，胴部に縦位及び斜位の貝殻刺突文を施している。461・462 は先端を逆「C」字状に加工した施文具による刺突を施している。461 は豆粒状のやや横長の突起が２か所確認できる。口縁部外面は横位の刺突文を施した後，胴部に縦位の刺突文を密接に施している。459 と同様に口縁部内面から口唇部に向けて粘土を押し出して口唇部に肥厚する部分を作り出している。胴部内面にはミガキ状の丁寧なナデを行っている。462 も 461 と同様のやや横長の豆粒状の突起を貼り付けた後に，刺突文を施している。突起より上位に，焼成後穿孔の円形の補修孔が確認できる。

463・464 は口縁部に縦位の貝殻刺突文を施した後，胴部に横位もしくは斜位の貝殻刺突文を施す一群である。463 は口縁部に縦位の貝殻刺突文を施した後，胴部に横位の貝殻刺突文を２段施している。さらに，その下位に斜位の貝殻刺突文を施している。胎土に白色粒子を多く含む。464 は波状口縁を呈する。波頂部付近の口縁部外面は間延びした「く」の字状の貝殻刺突を施す。それ以外の口縁部外面は縦位の施文幅の短い貝殻刺突を施す。胴部は斜位の貝殻刺突文を不規則に施している。

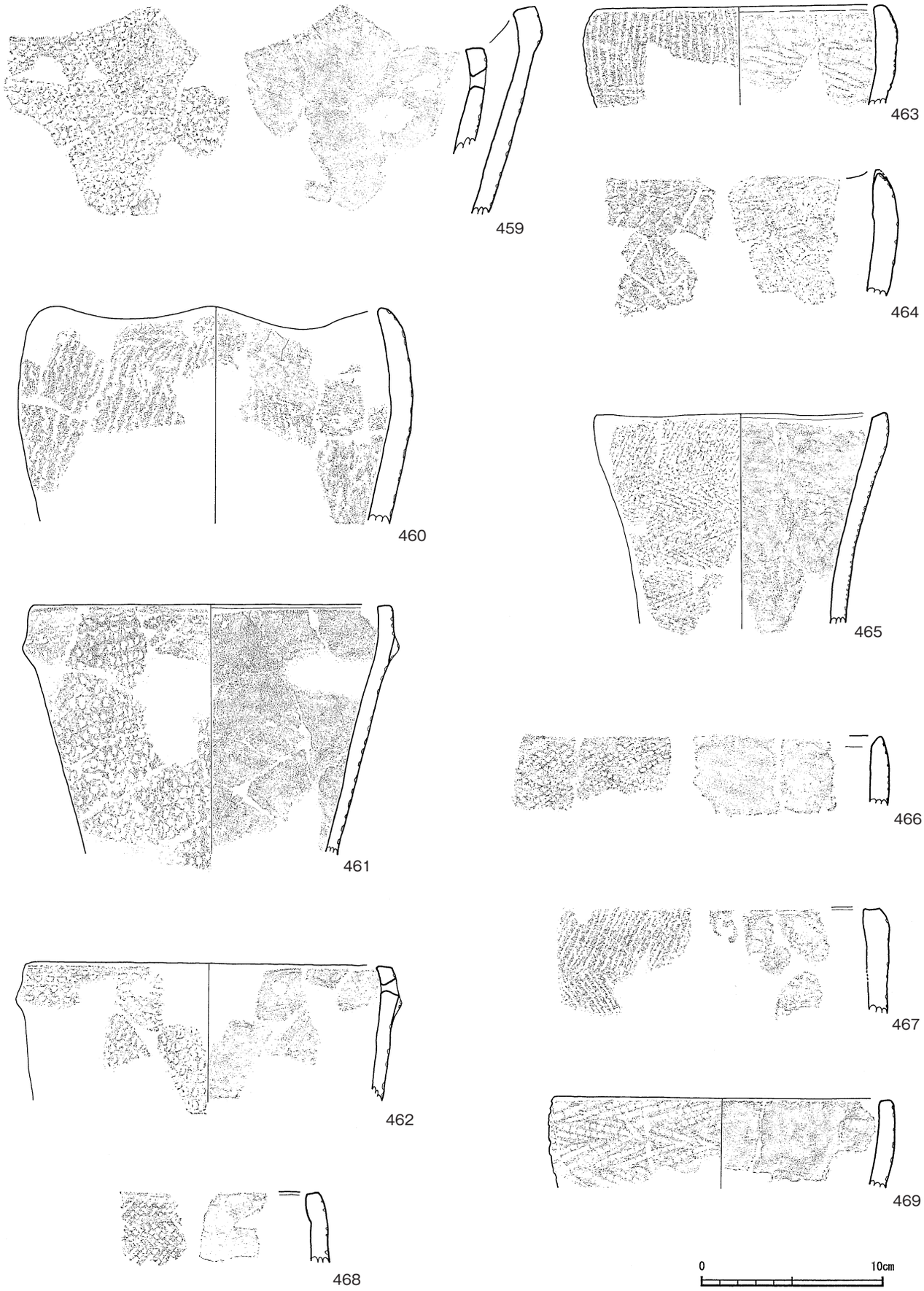
465～477 は器面全面に「く」の字状の貝殻刺突文を施す一群である。短沈線による同様のモチーフを持つものも含む。470 は焼成後穿孔の円形の補修孔が２か所確認できる。いずれも補修孔下位の内面側に，未貫通の穿孔が確認でき，位置を変えて穿孔し直したと考えられる。466・473 の口唇部は内傾している。470・477 は胎土に白色粒子を多く含む。472 はやや鋭角に「く」の字状の刺突を行っている。471・474・476 は斜位の短沈線により「く」の字状のモチーフを描いている。いずれも口縁部が内湾する器形である。口唇部はミガキ状の丁寧なナデを行っている。474・476 は口唇部成形時にはみ出した粘土が口唇部外面にまで及んでいる。

478 は器面全面に「ハ」の字状の貝殻刺突文を施している。口縁部がやや内湾する器形で，口唇部を内傾するように成形し，丁寧なナデを行っている。胎土には金雲母がやや多く含まれている。

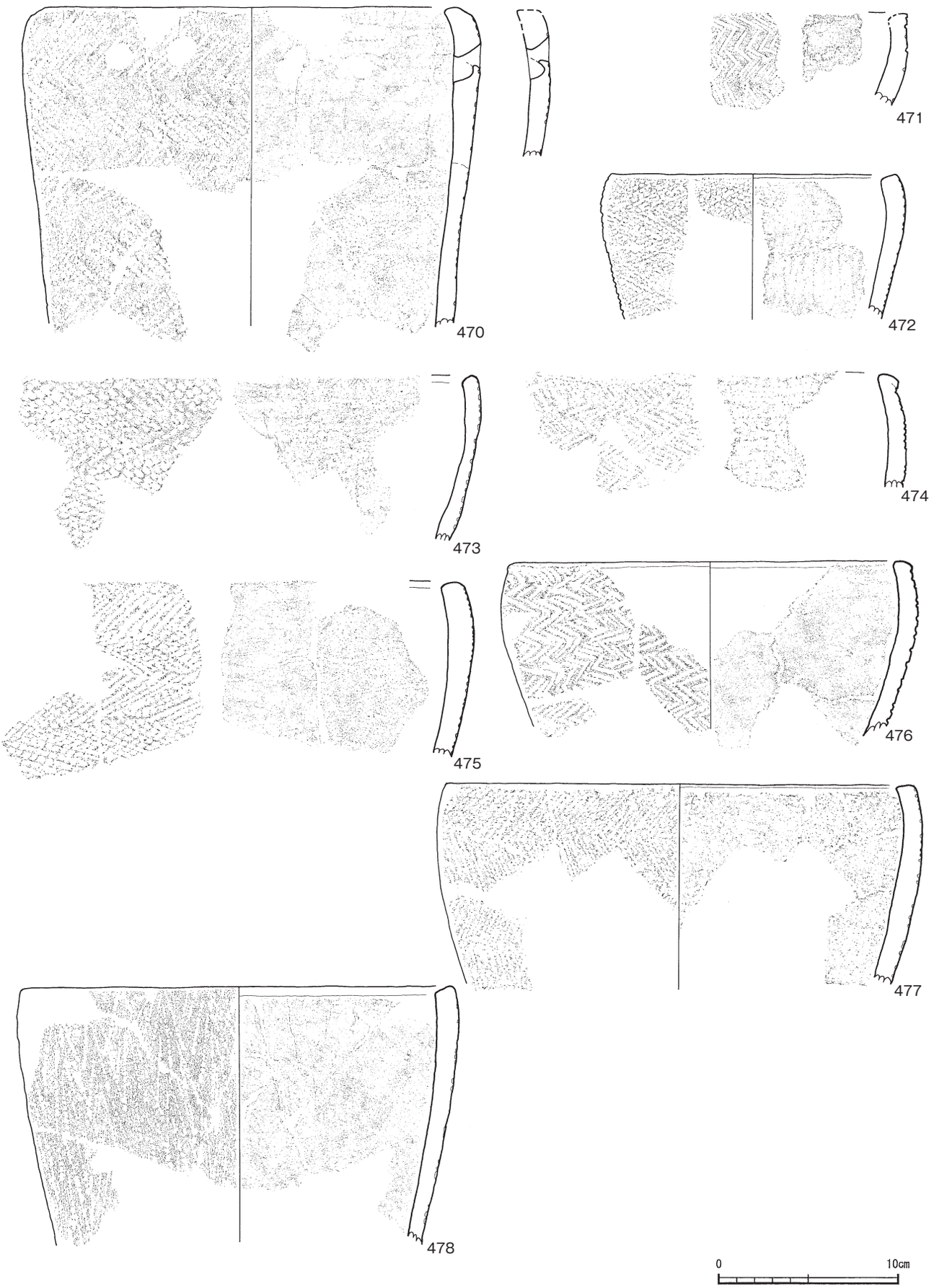
479～495 は器面全面に横位の貝殻刺突文を施している一群である。479 は口縁部外面に焼成後，回転技法で穿孔したと考えられ，やや縦長の補修孔が確認できる。479・482・483 は口唇部にミガキ状の丁寧なナデを行っている。480 は口縁部外面に縦位の瘤状突起を貼り付けた後，横位の貝殻刺突文を施している。481 は大振りの貝殻を用いて，間隔を空けて横位の刺突を行っている。内面には，ヘラ状工具による横位のナデを行ったと考えられる明瞭な調整痕が確認できる。483 は外面に成形時の指おさえ痕が複数確認できる。484 は口縁部～胴部外面に間隔を空けて不規則に横位，斜位の貝殻刺突文を施す。内面は口縁部付近を横位の，胴部を縦位のケズリで器面調整を行っている。485・490 は外面から焼成後穿孔したと考えられる円形の補修孔が確認できる。486・488 は横位の貝殻刺突文を密接に施している。489 はやや大振りの貝殻の腹縁部を用いて横位の刺突を行っている。胎土に粒子の大きい白色粒子を非常に多く含んでいる。



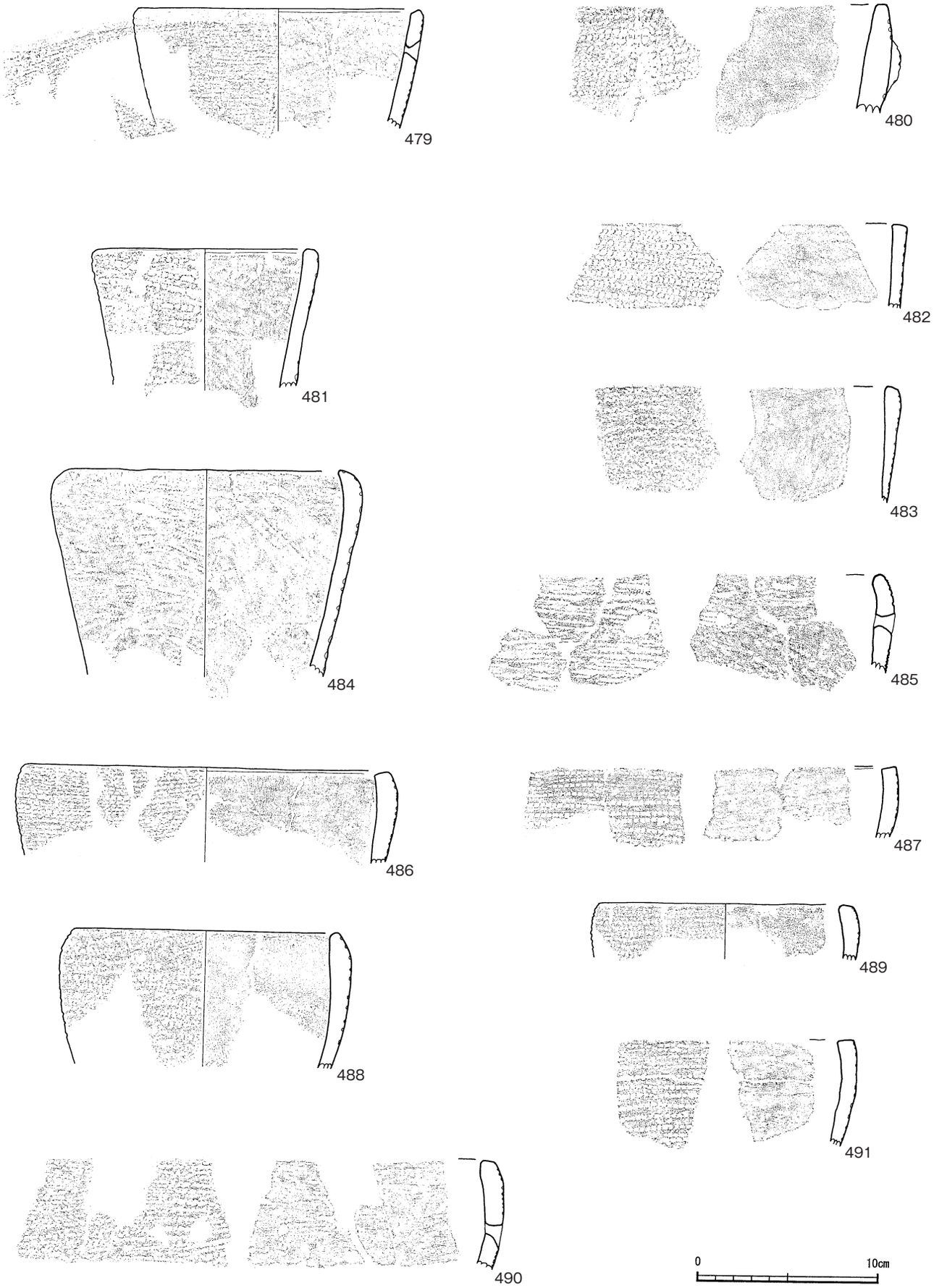

第 279 図　Ⅵ類土器（２）




第 280 図　Ⅵ類土器（3）




第 281 図　Ⅵ類土器（４）



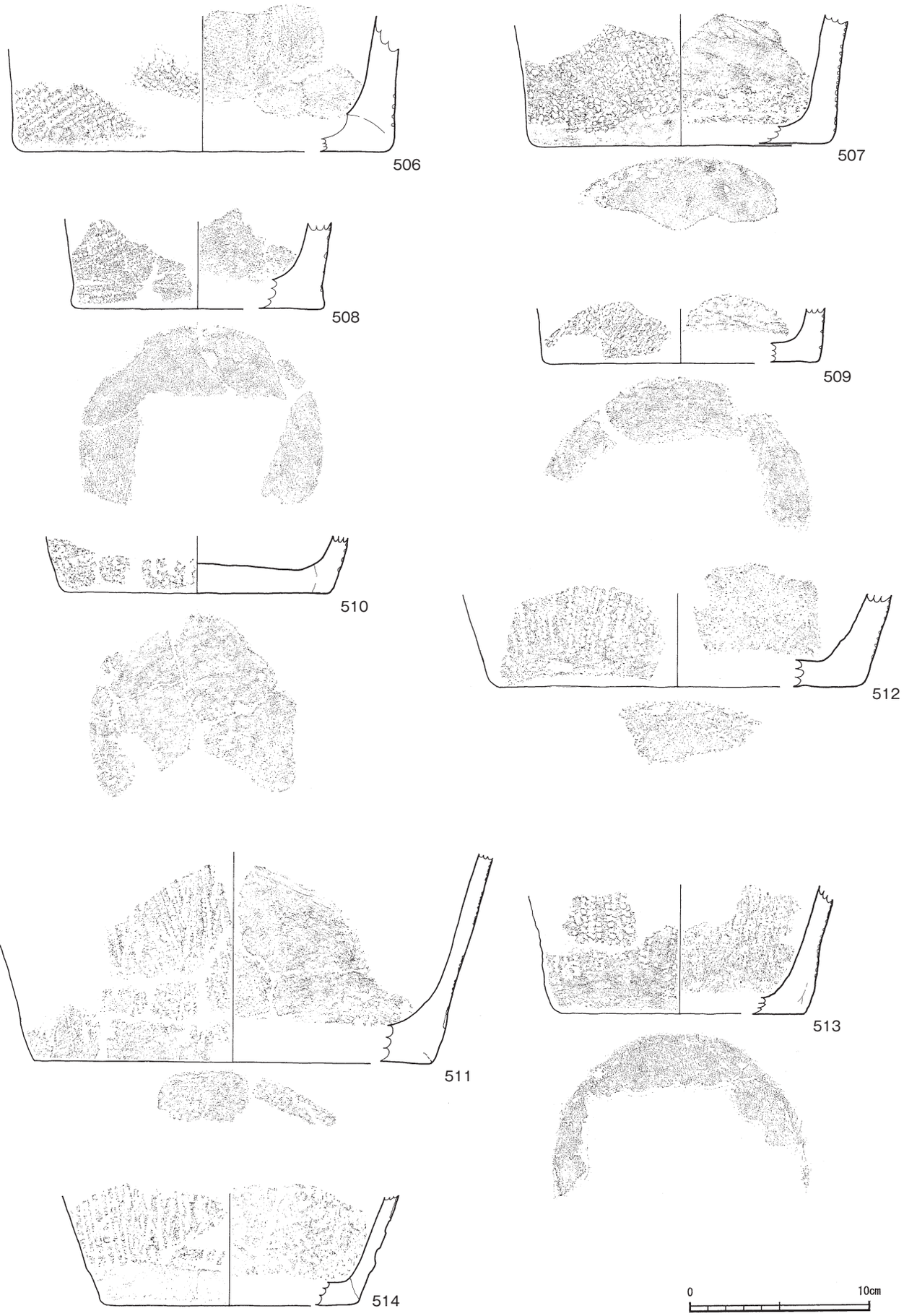

第 282 図　Ⅵ類土器（5）



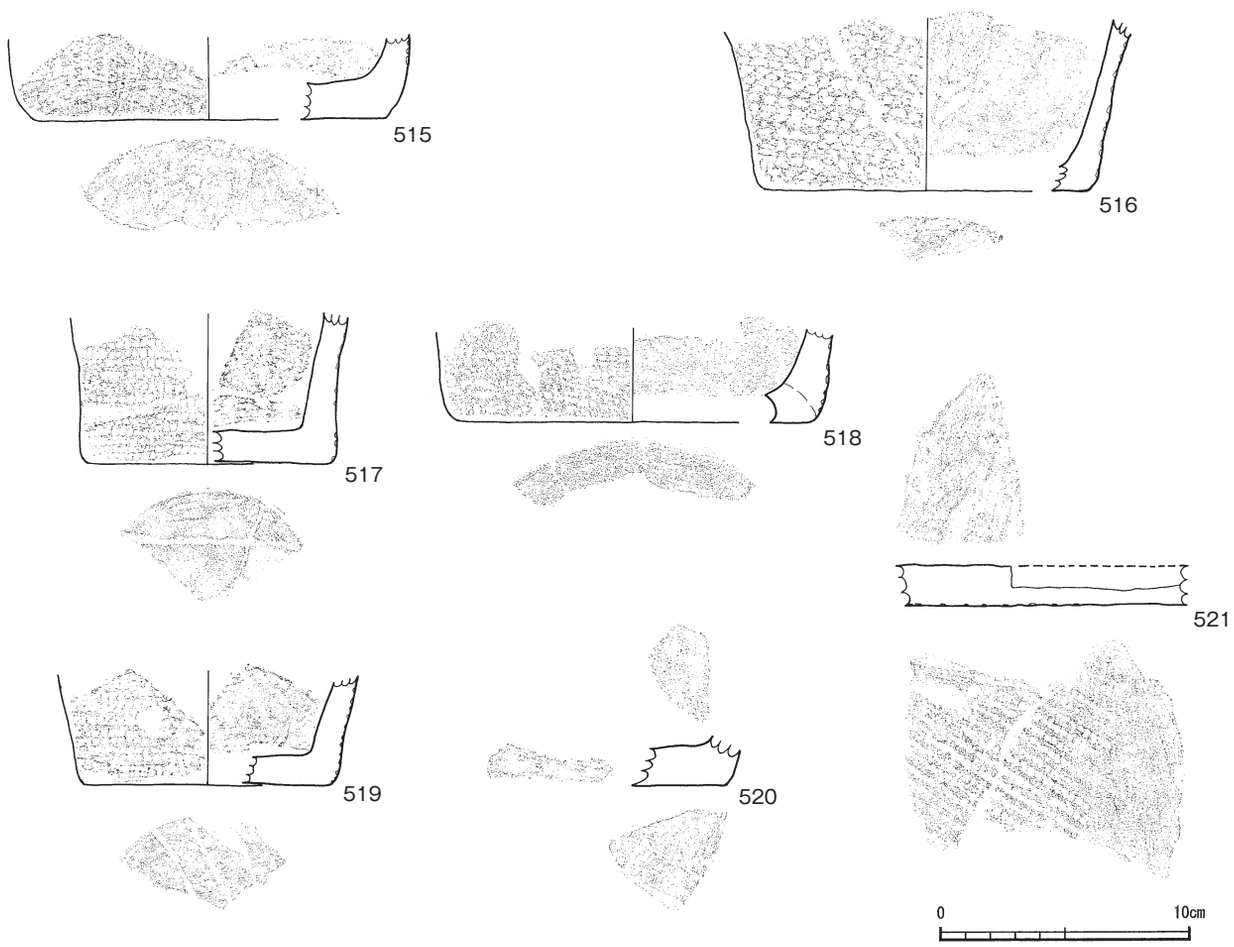

第 283 図　Ⅵ類土器（6）




第 284 図　Ⅵ類土器（7）




第 285 図　Ⅵ類土器（8）




第 286 図　Ⅵ類土器（９）

490 は内面にミガキ状の丁寧なナデを行っている。491 の胴部の横位の貝殻刺突は，やや間隔を空けて乱雑に施文されている。494 は口唇部の平坦面にミガキ状の丁寧なナデを行っている。

496～505 は胴部である。

496～500 は外面に「く」の字状の貝殻刺突文を施す一群である。496・497 は短い貝殻刺突文を「く」の字状に構成する。内面はミガキ状の丁寧なナデを行っている。498 は「く」の字状の貝殻刺突文を施した後，横位の貝殻刺突文を施している。499 は比較的大型の土器と考えられ，「く」の字状の貝殻刺突文を器面全面に密接に施している。胎土に金雲母や粒子の大きい白色粒子を多く含む。498・499 ともに内面は胴部下半を縦位の，胴部上半を横位のケズリを行った後，ナデを行っている。500 は胴部下半から底部付近の部位である。「く」の字状の貝殻刺突文を施した後，底面境付近は，横位の貝殻刺突文を密接に施す。底部近くの胴部内面は，ミガキ状の非常に丁寧なナデを施している。胎土に白色粒子を多く含む。

501～503 は外面に「ハ」の字状の貝殻刺突文を施す一群である。501 はやや大振りの貝殻を施文具として用いている。横位の貝殻刺突文を施し，区画を行った後，「ハ」の字状の貝殻刺突を施している。内面はヘラ状工具による丁寧なナデが行われている。502 は胴部下半から底部付近の部位で，比較的小型の土器である。底部と接合する部分に，接合痕が明瞭に確認できる。外面は小振りの貝殻を用いて刺突を行っている。底面境まで「ハ」の字状の貝殻刺突文を密接に施している。503 はやや間延びした「ハ」の字状の貝殻刺突文を施している。内面は縦位のケズリを行った後，ナデを行っている。

504・505 は外面に横位の貝殻刺突文を密接に施す一群である。504 は胎土に白色粒子を多く含む。505 は底部との接合痕が確認できる。

506～521 は底部である。

506～511 は外面に「く」の字状の貝殻刺突文を施す一群である。その刺突の一部と考えられる斜位の貝殻刺突

を施すものも含む。506は底部と胴部の接合の際に生じた隙間や接合痕が内面で確認できる。胴部は底部円盤の上に粘土を輪積みし，成形したと考えられる。特に，底面境との胴部の粘土紐は太く，器壁を厚くして安定した底部となっている。底部外面は丁寧なナデを行い，平滑化をはかっている。胴部外面は底面境付近まで貝殻刺突文を施している。507は内外面ともにミガキ状の丁寧なナデを行っている。胎土に白色粒子，小石を多く含む。508は底部円盤外周の上のやや内側に胴部成形用の粘土紐を置き，輪積みしたためか外面の胴部と底部との接合部分が一部くびれている。509・510は「く」の字状の貝殻刺突文の一部と考えられる斜位の貝殻刺突が確認できる。511は内外面ともにミガキ状の丁寧なナデを行っている。底面境付近の外面の無文部は，底部外面と同様に特に丁寧なナデを行っている。

512～515は外面に縦位，もしくは縦位に近い斜位の貝殻刺突文を施す一群である。512は縦位の貝殻刺突文を密接に施している。胎土に粒子の大きい白色粒子を非常に多く含む。514は小振りの貝殻を用いて縦位の刺突を施している。貝殻を押圧する幅を狭くすることにより，Ⅶ類土器やⅧ類土器に見られるような短沈線を模したような貝殻刺突を一部施している。内外面とも丁寧なナデを行っている。また，底面境との外面には508のようなくびれが確認できる。513は胴部内面の一部に縦位のケズリを行っている。

516～520は外面に横位の貝殻刺突文を施す一群である。516は底面境までやや大振りの貝殻を用いて横位の刺突を密接に施している。胴部内面は縦位のケズリを行った後，ナデを行っている。517・519は比較的小型の土器で，内面は丁寧なナデを行っている。外面は横位の貝殻刺突文を底面境付近まで密接に施している。518はやや間隔の空いた横位の貝殻刺突文を施している。胎土に白色粒子や小石を多く含む。519・520は底部外面に木葉痕が確認できる。

521の底部外面には網代痕が確認でき，ケズリを行っている。内面の半分以上が剥落しているが，残存部にはヘラ状工具によるナデが観察できる。

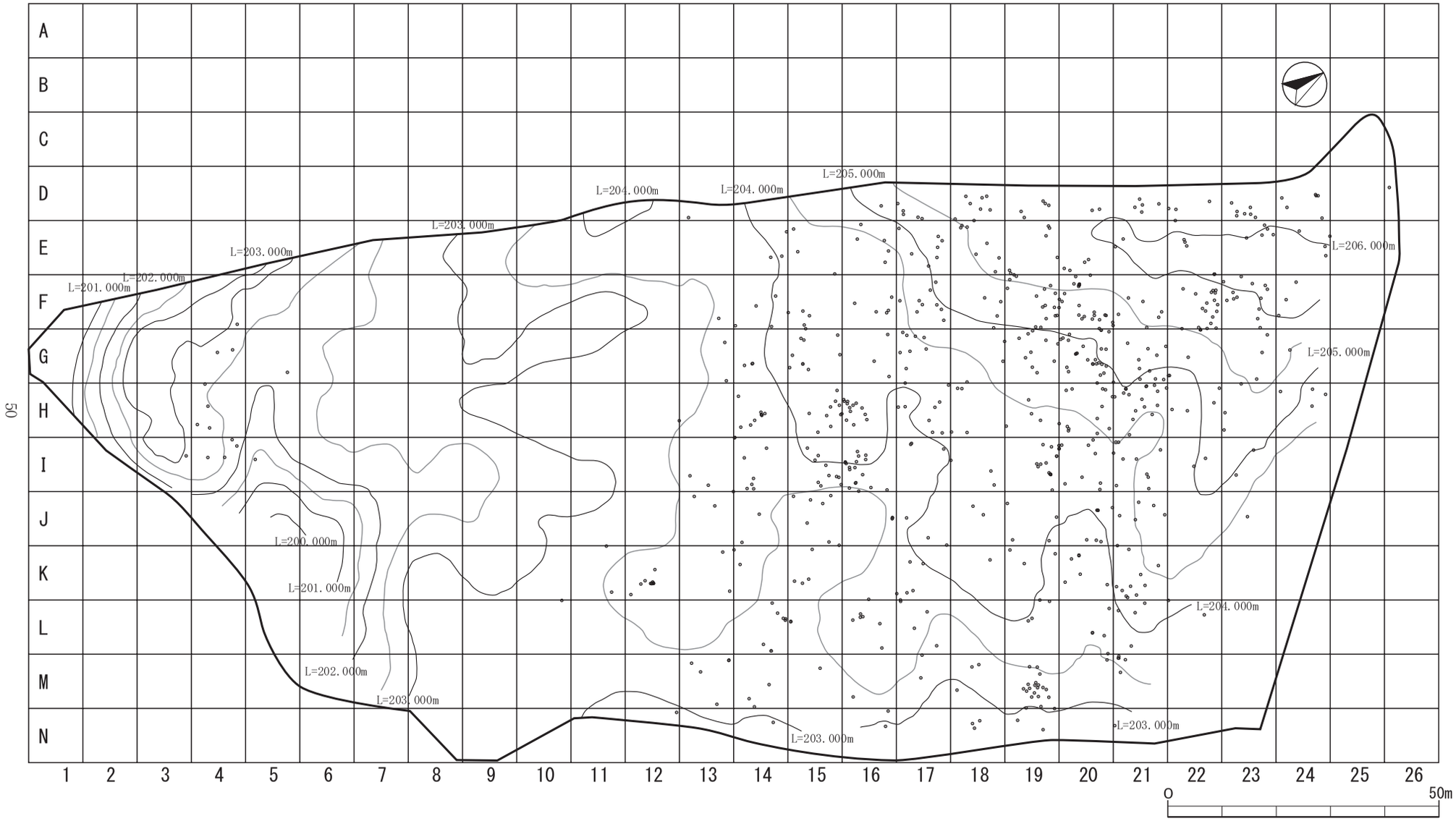
**（7）Ⅶ類土器（第287～292図　522～558）**

Ⅶ類土器は，先端を細く加工した棒状工具による短沈線を羽状に施文する一群である。Ⅵ類土器の主要な文様要素である貝殻刺突と組み合わせて施文しているものもある。施文の方向と文様構成により細分した。

522～549は口縁部である。

522～529は口縁部外面に羽状の短沈線文や貝殻刺突文を横方向に展開し，胴部に縦位や斜位の貝殻刺突文を施す一群である。胴部に貝殻腹縁部による縦位の短沈線を施すものも含む。胎土に白色粒子，小礫を多く含む。522は口縁部が直口する。外面は口縁部に羽状の短沈線を施した後，横位の貝殻刺突文を1段施し，その下位に斜位の貝殻刺突文を密接に施文している。口唇部及び内面は，ミガキ状の丁寧なナデが行われている。523は直口する口縁部である。外面は口縁部に羽状の短沈線を施した後，その下位に横位の貝殻刺突文を密接に施す。これらの施文を胴部上半まで交互に行った後，胴部下半には縦位，斜位の貝殻刺突を密接に施す。524は口縁部が内湾する比較的大型の土器である。口縁部に羽状の短沈線を施した後，横位の貝殻刺突で胴部下半との区画を行っている。胴部下半の縦位の貝殻刺突は，底面境まで密接に施している。内面は丁寧なナデを行っている。525は口縁部に貝殻腹縁部による羽状の刺突を施した後，胴部との境付近のみに棒状工具による羽状の短沈線を施す。胴部は縦位の貝殻刺突を密接に施す。口唇部はミガキ状の丁寧なナデを行っている。526は器壁厚が1.5㎝程度とやや厚い。外面は口縁部に横位の短沈線を1段施した後，その下位に羽状の短沈線を施す。胴部は横位の貝殻刺突文を施した後，斜位の貝殻刺突文を施している。527は内湾する器形である。外面は口縁部に羽状の短沈線を施した後，下位に横位の貝殻刺突文を1段施し，さらに下位に貝殻腹縁部による縦位の短沈線と横位の貝殻刺突文を施す。内傾した口唇部には丁寧なナデを行っている。528は口縁部が大きく内傾する器形である。外面は口縁部に羽状の短沈線を施した後，屈曲部を境に胴部は斜位の貝殻刺突文を施す。529は4単位と考えられる湾曲の大きい波状口縁を呈する器形である。外面は口縁部に羽状の短沈線を施した後，横位や斜位の貝殻刺突文で胴部との区画を行っている。下位に一部残存している横位の貝殻刺突文から，これらの区画は一定の間隔で行われたと考えられる。胴部は，この横位の貝殻刺突文間に「ハ」の字状の貝殻刺突文を施す。

530～535は口縁部外面に縦位の施文で割り付けを行い，その間に横位の施文を行う一群である。530は口縁部外面に縦位の微隆線状の突起を口唇部から口縁部文様帯の部分に貼り付け，突起の側面に縦位の貝殻刺突を施す。その後，口縁部に間隔を置いて横位の貝殻刺突文を施すことにより割付けを行っている。そして，上位の区画には羽状の短沈線を，下位の区画には短沈線を横方向に展開させている。胴部は「ハ」の字状の貝殻刺突文を密接に施す。531～533は波状口縁を呈する器形である。531と533の外面は波頂部より縦位の短沈線による割付けを行った後，口縁部上位に縦位の短沈線を，その下位に羽状の短沈線を横方法に展開する。両者は同一個体と考えられる。532は外面を波頂部より縦位の短沈線を施した後，口縁部上位に横位の貝殻刺突を，下位には斜位の貝殻刺突を施文する。内面はミガキ状の丁寧なナデを行う。534は口縁部外面に縦位の貝殻刺突文を一定の間隔を空けて密接に施文し，その間に横位の羽状の短沈線



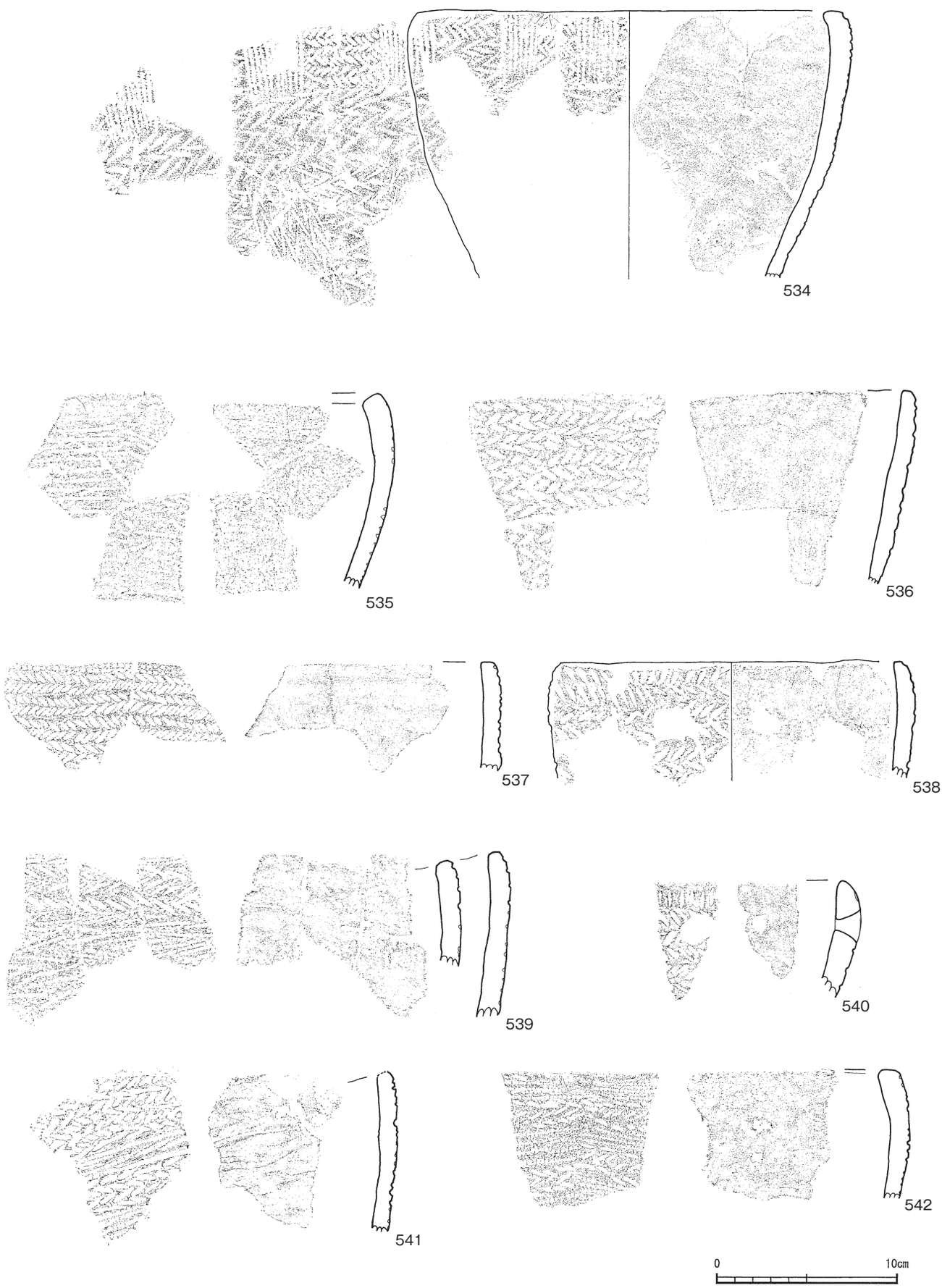

第 287 図　Ⅶ類土器出土分布図




第 288 図　Ⅶ類土器（1）




第 289 図　Ⅶ類土器（2）




第 290 図　Ⅶ類土器（3）




第 291 図　Ⅶ類土器（４）




第 292 図　Ⅶ類土器（5）

と「く」の字状の貝殻刺突文を交互に施文している。胴部は「く」の字状の貝殻刺突文を施した後，その下位には「く」の字状と「ハ」の字状の細沈線を交互に施文している。535 は内湾する器形で，内傾する口唇部をもつ。外面は口縁部を先端の細い棒状工具により縦位の刺突を行った後，横位の沈線を施している。

536～543 は口縁部の文様を横方向に展開する一群である。一部胴部に斜位の貝殻刺突を施すものも含む。536・538 は外面に横位の羽状の短沈線を繰り返し施文している。537 は口縁部外面に横位の貝殻刺突を２段施した後，横位の羽状の短沈線を繰り返して施文している。口唇部，内面ともにミガキ状の丁寧なナデを行っている。539 は緩やかな波状口縁を呈する。口縁部上端に横位の短沈線を１段施した後，横位の羽状の短沈線を施す。その下には，「く」の字状の貝殻刺突を密接に施す。540 は口縁部上端に縦位の短沈線を施した後，羽状の短沈線を施している。外面から穿孔したと考えられる円形の補修孔が１か所確認できる。内面は丁寧なナデを行っている。541 は口唇部がやや磨耗しているが，緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。文様は 543 と類似するが，口縁部外面に横位の羽状の短沈線を施した後，下位に密接した横位や斜位の貝殻刺突文を施す。この施文パターンが繰り返されると考えられる。542 は口縁部がやや内湾する器形である。外面に横位の貝殻刺突と横位の羽状の短沈線を繰り返し施文している。胎土に小礫を多く含む。543 は口縁部が内湾する大型の土器である。口縁部外面に横位の羽状の短沈線を施した後，横位の貝殻刺突文を４段施す。さらにその下に横位の羽状の短沈線，横位の貝殻刺突文を施している。口唇部・内面ともにミガキ状の丁寧なナデを行っている。

544～549 は口縁部外面に，縦位もしくは斜位を基調とした施文を行う一群である。544 は鋸歯状のモチーフを描くように縦位の短沈線を外面全面に施している。羽状ではないがこの類に含めた。545 は口縁部がやや肥厚し，やや内湾する器形である。口縁部外面を斜位の貝殻刺突で鋸歯状に施文した後，その中を横位の羽状の短沈線で一部充填している。胴部との境付近に横位の貝殻刺突を密接に施す。口縁部外面に未貫通の補修孔が１か所確認できる。546 は大型の器形である。口縁部外面に 549 と同じような施文を行った後，胴部下半まで横位の貝殻刺突を密接に施文している。胎土に白色粒子と小礫を多く含む。547 は口縁部外面に，縦位の羽状の短沈線と同様の施文具で縦位の刺突を施している。内外面ともミガキ状の丁寧なナデを行っている。548 は口縁部が内湾するやや大型の器形である。口唇部平坦面には棒状工具による刺突が，口唇部外端にはヘラ状工具による刻目が入る。口縁部外面に，縦位の貝殻刺突と羽状の短沈線を交互に施文している。その下に横位の羽状の短沈線と貝殻刺突を施し，胴部との区画を行った上で，胴部は密接した縦位や斜位の貝殻刺突を施している。549 は 548 と同様に口縁部外面に縦位の羽状の短沈線を交互に施文しているが，一部施文が乱れ，横位の羽状の短沈線を施す箇所がある。その下に横位の貝殻刺突を４段施した後に，胴部はやや間延びした「ハ」の字状の斜位の貝殻刺突を施している。

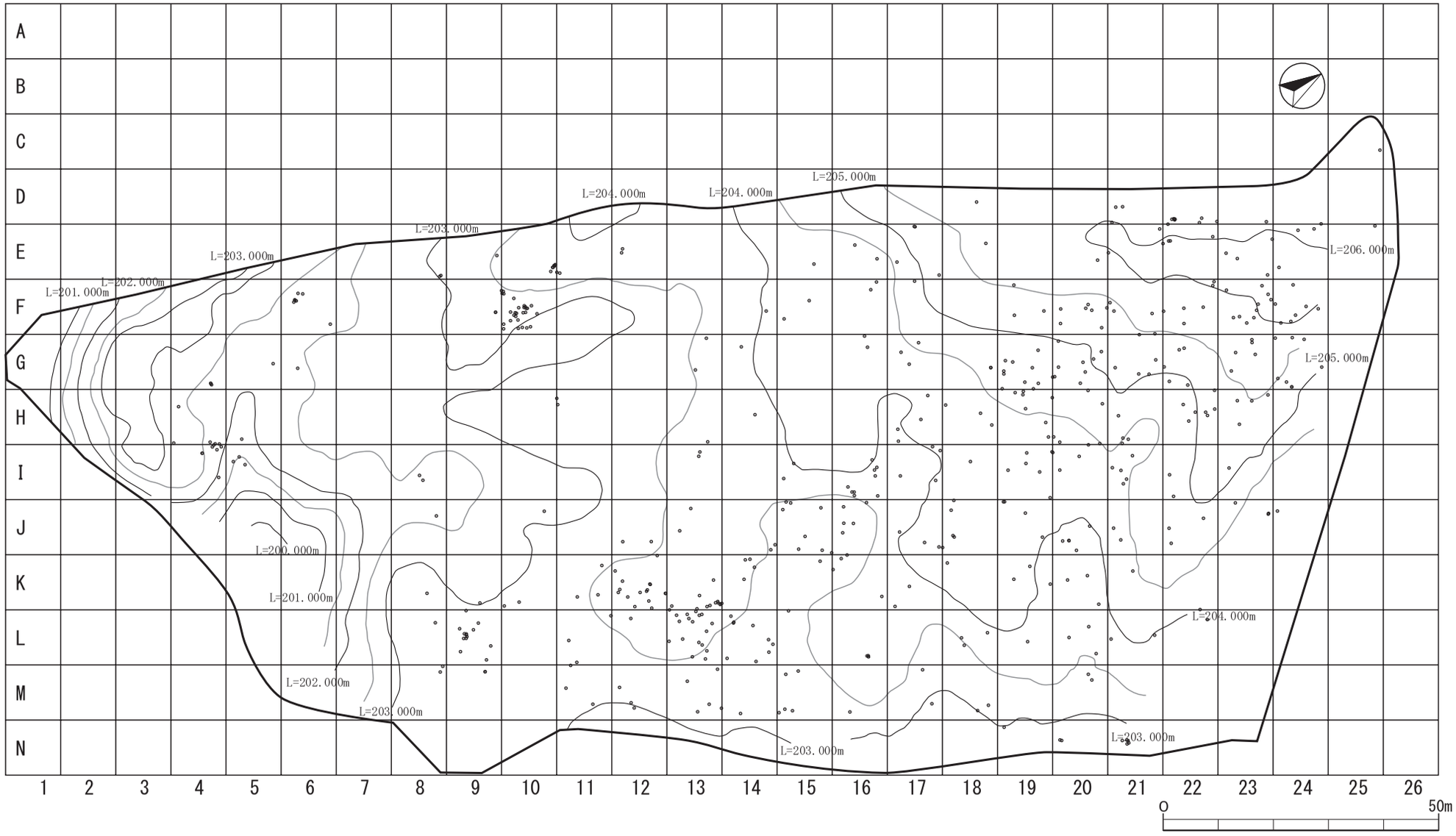
550～555 は胴部である。550 はやや大型の器形である。外面に横位の貝殻刺突を間隔を空けて２段施し区画を行う。上位と下位の区画には「く」の字状の貝殻刺突文を，中位の区画には羽状の短沈線を横位に施す。551 は外面に横位の微隆線状の突起を貼り付け，突起の上も含め横位の短沈線を密接に施した後，横位の貝殻刺突を２段施す。その下に「く」の字状の斜位の貝殻刺突を施す。552 は底部近くと考えられる。外面は底面境付近までやや乱れた横位の貝殻刺突と斜位の短沈線を交互に施文している。553 は縦位の羽状の短沈線と縦位や斜位の貝殻刺突を横方向へ繰り返し施文し，横位の短沈線で胴部下半との区画を行っている。554 は胴部中央外面に屈曲する膨らみをもつ器形である。先に屈曲部に横位の短沈線を施し区画を行った上で，胴部上半，胴部下半に縦位の羽状の短沈線と縦位の貝殻刺突をそれぞれ施している。外面より穿孔したと考えられる円形の補修孔が１か所確認できる。555 は外面に羽状の短沈線を横位に施し，その下位には横位や斜位の貝殻刺突文を施す。これを２回繰り返して文様を構成し，胴部下半は縦位や斜位の貝殻刺突を密接に施している。

556～558 は底部である。556 は底部との接合痕が明瞭に確認できる。底部円盤上の外周部分に沿うように粘土紐をのせ，胴部を輪積み成形したと考えられる。内面は丁寧にナデを行っているものの，外面は胎土中の粒子の大きい白色粒子や小礫が多く確認でき，器面調整が粗い。横位の羽状の短沈線を底面境まで施文している。557 は胴部外面に縦位の貝殻刺突と縦位の短沈線を交互に施文し，底面境付近は無文部としてミガキ状の丁寧なナデを行っている。558 は筒状の小型の器形である。底部と胴部との接合面付近で剥離痕と考えられる亀裂が内外面から明瞭に確認でき，556 と同様に底部円盤上に粘土紐をのせ，胴部を輪積み成形している。外面は横位の羽状の短沈線を施し，底面境付近のみ縦位の貝殻刺突を施す。胎土に白色粒子を多く含む。

なお，525 に付着した炭化物で年代測定を実施したところ，10,241 － 10,156calBP の値を得た。

**（８）Ⅷ類土器（第 293～297 図　559～599）**

Ⅷ類土器は，櫛歯状工具や貝殻腹縁部により条線や沈線を施す一群である。同様の文様効果を図ったと考えられる縦位，斜位の短沈線や縦位の刺突を施す一群もⅧ類に含む。文様要素と文様構成で細分した。




第 293 図　Ⅷ類土器出土分布図

559～578 は口縁部である。

559～566 は口縁部に横展開の文様を施し，胴部に縦位の条線や短沈線を施す一群である。559 は内傾するように成形した口唇部をもち，口唇部や内面に丁寧なナデを行っている。口縁部外面に斜位の貝殻刺突文を１段施した後，縦位に一定の施文幅で，貝殻腹縁部による縦位の条線文と斜位の貝殻刺突文を繰り返し施している。内面は横位のケズリと丁寧なナデを行っている。560 は口縁部外面に横位の貝殻腹縁部による条線と斜位の貝殻刺突を施した後，縦位に一定の施文幅で貝殻腹縁部を用いた斜位の刺突文，縦位の条線文，横位の刺突文を交互に施文している。口唇部はミガキ状の丁寧なナデを施す。内面は横位のケズリとナデを行っている。561 は口唇部外端が緩やかな波状を呈している。口縁部上端より縦位の沈線で波状文を描き，その後口縁部上位に横位の沈線を２条施す。内面は横位のケズリを行った後，ナデ調整で仕上げている。562・563 は口縁部外面に横位の貝殻刺突を３～５段施した後，櫛歯状工具による縦位の短めの条線を器面全面に施す。胎土に白色粒子を多く含む。564 は口縁部外面に横位の貝殻刺突を３段施した後，「ハ」の字状の条線文を胴部下半まで施す。口唇部と内面は，ミガキ状の丁寧なナデを行っている。565 は口縁部がやや内湾する器形である。口縁部外面に横位の貝殻刺突を６段施した後，条線で曲線文を描く。胎土に白色粒子を多く含む。566 は口縁部が内湾する器形である。口縁部外面を櫛歯状工具による横位の短沈線を施した後，胴部は横位，縦位，斜位の短沈線を器面全面に施す。割付けを行った痕跡は確認できないが，全てを不規則に施文している状況でもない。

567～570 は口縁部から胴部まで縦位の条線や沈線による施文が行われる一群である。567 は内傾する口唇部で，緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。口縁部外面より「く」の字状のモチーフを条線で縦方向に連続して描いている。568 は口縁部が内湾する器形である。外面に３本１単位の工具による条線で縦位の波状文を施す。口唇部，内面ともににミガキ状の丁寧なナデを行っている。569・570 の外面はいずれも条線で縦位の曲線文を描き，口唇部にミガキ状の丁寧なナデを行っている。

571～578 は口縁部に棒状工具で縦位，斜位の短沈線や縦位の刺突を施す一群である。571 は外面を間延びした「Ｃ」字状に加工した工具で縦位に刺突を施している。572 は縦位に短沈線を密接に施す。口唇部はミガキ状の丁寧なナデを施す。573 は先端をヘラ状に加工した工具による沈線で口縁部付近は「く」の字状のモチーフを，その下位は一部施文が乱れるものの「ハ」の字状のモチーフを描く。内面は丁寧なナデを行っている。574 は口縁部外面に横位の短沈線を１段施した後，その下位には斜位の短沈線を施す。胎土に小礫を多く含む。575 は口縁部外面に横位の沈線を１条施した後，下位には斜位の短沈線を施す。一部羽状を呈する部分もあるが，短沈線を施す工具は先端がヘラ状に加工されており，Ⅶ類の施文具とは異なる。576 は波状口縁を呈すると考えられる。口縁部外面に横位の沈線を１条施した後，「ハ」の字状の沈線を施している。577・578 は口縁部外面に，横位の沈線を１条施した後，縦位の短沈線を施す。口唇部はミガキ状の丁寧なナデを行っている。

579～591 は胴部である。

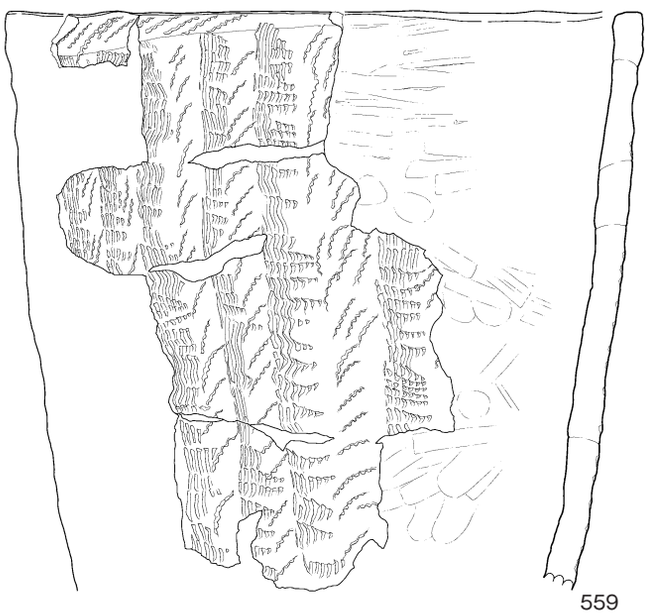
579～581 は胴部に縦位の条線を施す一群である。579・580 は外面に３本１単位の工具による条線で縦位の波状文を施す。580 は底部付近と考えられる。568 と同一個体の可能性がある。内面は縦位のケズリを行った後，ナデを行っている。581 は外面に３本１単位の工具による条線を斜位に施す。

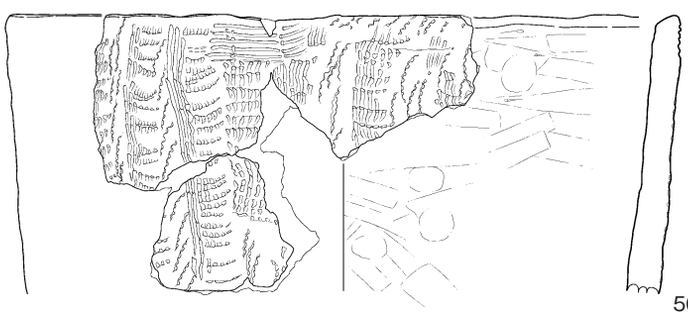
582～591 は胴部に棒状工具により縦位，斜位の短沈線や縦位の刺突を施す一群である。582 は外面に３本１単位の工具による縦位の短沈線をやや間隔を空けて施文している。内面はミガキ状の丁寧なナデを施す。583～585 は，外面に先端を細く加工した棒状工具を器面に深く押し当て縦位の沈線を施している。これらは同一個体の可能性がある。586 は外面に縦位の短沈線と斜位の沈線を施している。内面は丁寧にナデを行っている。587 は外面を先端を細くした工具で縦位の短沈線と，先端を舌状に加工した工具で沈線を施している。内面は横位のケズリを行っている。588 は外面を縦位，斜位の短沈線を密接に施している。内面はミガキ状の丁寧なナデを施す。589・590 は先端を舌状に加工した工具による縦位の刺突を密接に施す。589 の内面の一部はミガキ状の丁寧なナデを施す。591 は器壁厚が 0.5㎝程度と底部付近としては薄いことから，小型の器形と考えられる。

592～599 は底部である。

592 は外面に３本１単位の工具による条線で縦位の波状文を施す底部である。内面はミガキ状の丁寧なナデを行っている。568 と同一個体の可能性がある。

593～599 は外面に棒状工具により縦位，斜位の沈線や短沈線，縦位の刺突を施す一群である。他のⅧ類土器の胎土，焼成，調整等が類似するものも含む。593 は外面に縦位，斜位の沈線を施すが，底面境付近は無文である。内面は丁寧なナデを施す。594 は外面に底面境付近まで斜位の沈線を施し，胎土に白色粒子，金雲母を多く含む。やや上げ底気味の底部である。595 は外面に，やや間隔を空けて縦位の短沈線を施すが，底面付近は無文である。断面に底部と胴部の接合痕が確認できる。円盤上に粘土紐を置き，胴部の輪積みを開始したと考えられる。596 は外面に斜位の沈線で「ハ」の字状モチーフを描いている。底部と胴部の接合痕が明瞭に確認できる。595 と同様の方法で胴部を成形したと考えられるが，底面境付近



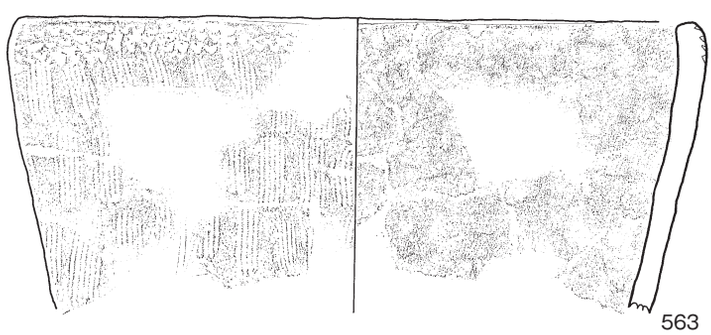


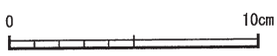




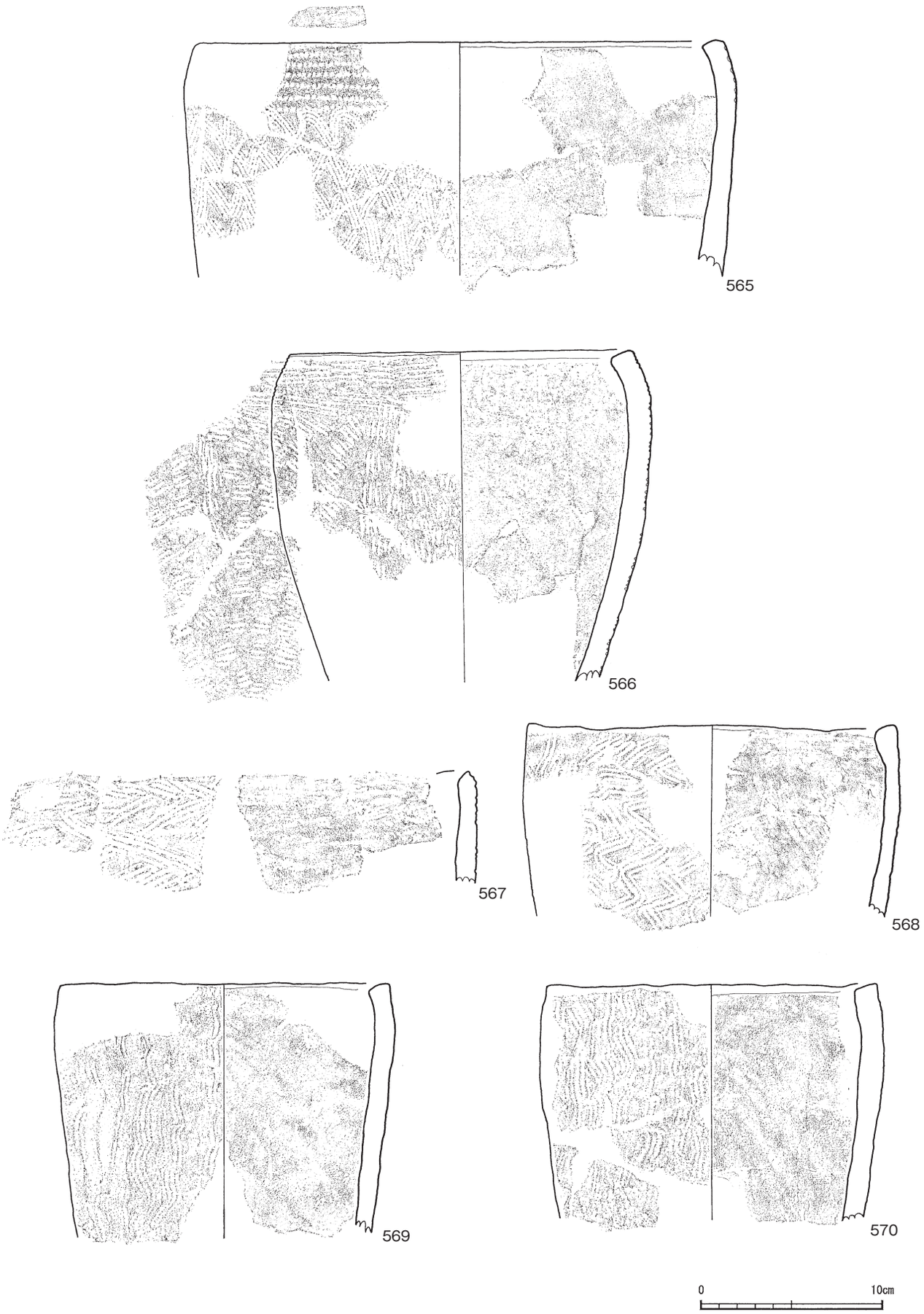




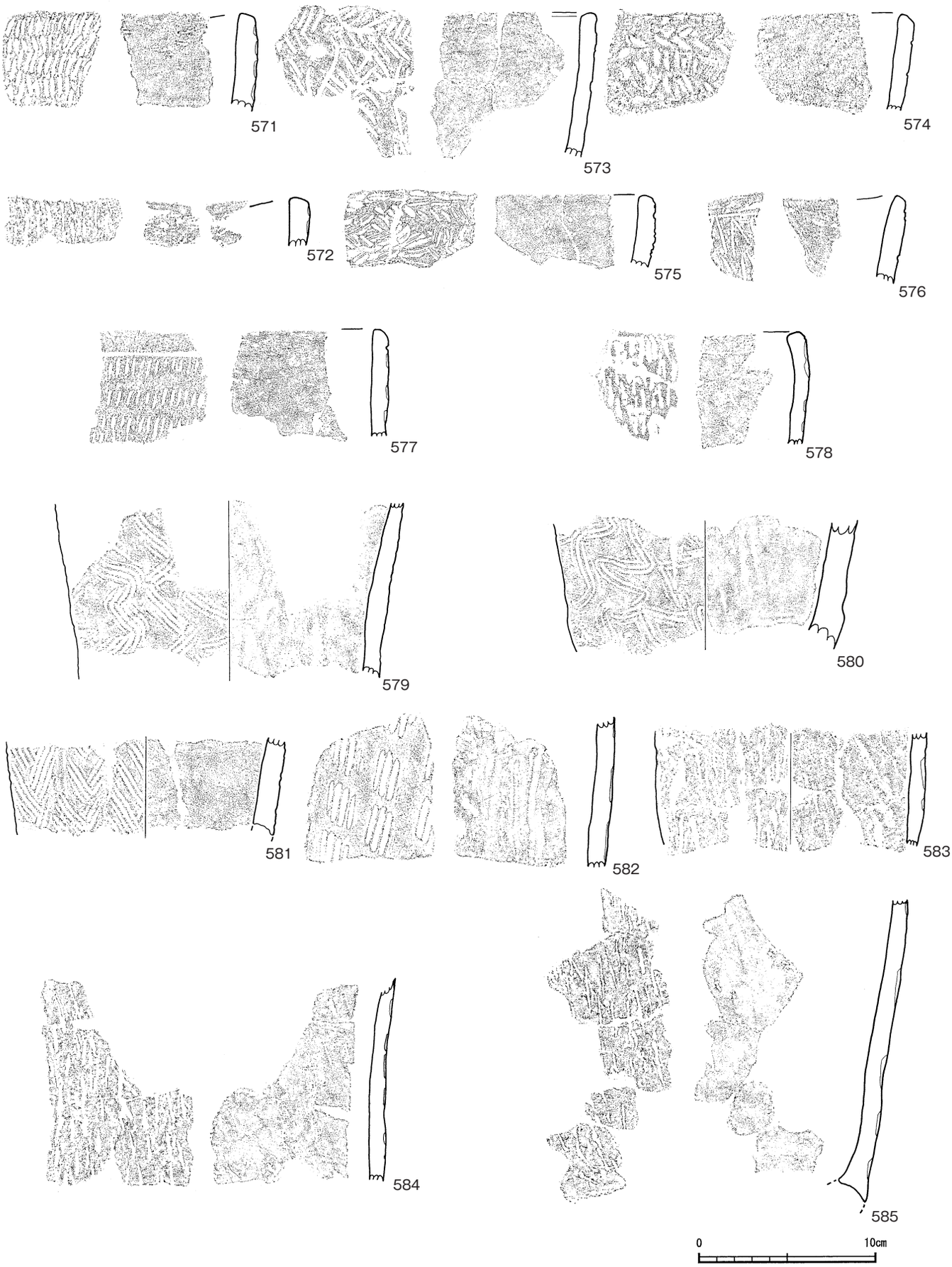


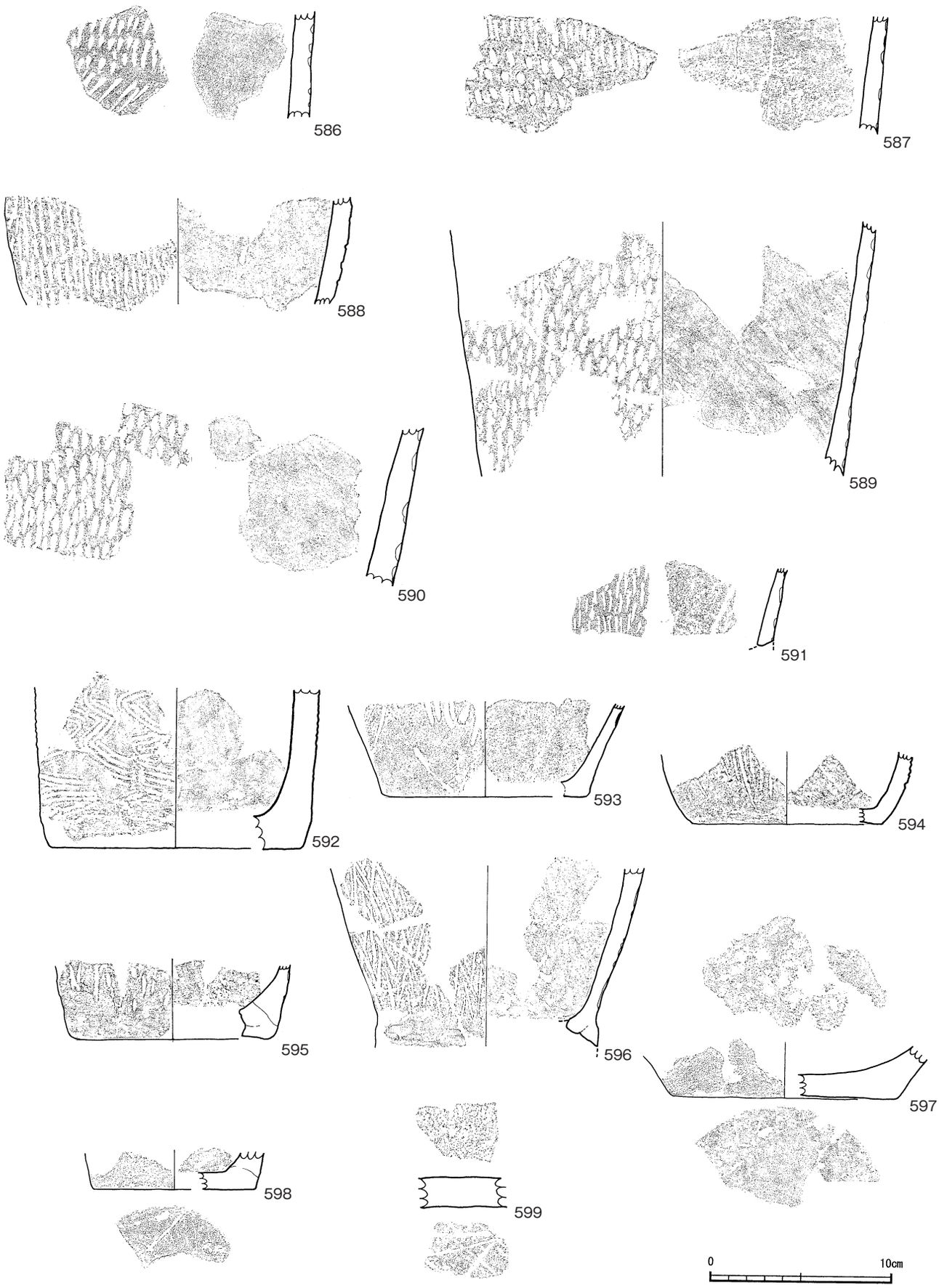

第 294 図　Ⅷ類土器（1）




第 295 図　Ⅷ類土器（２）


571
572
573
574
575
576
577
578
579
580
581
582
583
584
585
0
10cm

第 296 図　Ⅷ類土器（3）




第 297 図　Ⅷ類土器（４）

ややくびれていることから，底部円盤外周のやや内側に粘土紐を置き輪積みを開始したと考えられる。597・598・599 の文様は，確認できない。Ⅵ類・Ⅶ類土器の可能性もあるが，他のⅧ類土器と胎土，調整，焼成等が類似している。598・599 は底部外面に木葉痕が確認できる。

**（9）Ⅸ類土器（第 298～300 図　600～618）**

Ⅸ類土器は円筒形の器形に，口縁部～胴部上半に貝殻条痕文を施す一群である。横位と縦位に施文するものと横位のみに施文するものとがある。文様構成により細分した。

600～608 は口縁部から胴部外面に縦位の貝殻条痕を施した後，横位の貝殻条痕を密接に施す一群である。ただし，縦位の貝殻条痕は部分的であったり，わずかに残っているものが多い。また，横位の貝殻条痕で，緩やかな波状のモチーフを描くものも含む。

器形は口縁部がわずかに外傾するもの（600・601・602），直口するもの（603～606），わずかに内湾するもの（607・608）がある。また，口唇部が舌状を呈するもの（601～606），平坦面を有するもの（600・607・608）に細分できる。調整は口唇部から内面にかけてミガキ状の丁寧なナデ，もしくは丁寧なナデを行う。

600 は口縁部がわずかに外反し，胴部下半が底部に向けてすぼまる比較的大型の器形であると考えられる。外面は横位の貝殻条痕が胴部下半まで及び，縦位の貝殻条痕も一部確認できる。胎土に小礫を多く含む。601・608 は口縁部外面に縦位の貝殻条痕をわずかに観察できる。また，横位の貝殻条痕は一部波状を呈する部分がある。胎土に小礫を多く含み，色調は明赤褐色である。602・606 は外面に縦位の貝殻条痕がわずかに確認できる。いずれも外面より穿孔したと考えられる円形の補修孔が 1 か所確認でき，胎土は長粒の角閃石を含み，色調は灰黄褐色である。603・604 は縦位の貝殻条痕が明瞭に残り，横位の貝殻条痕は細かな波状となる。内面を口縁部は横位のケズリ，胴部は縦位のケズリを行った後，ナデを行っている。胎土に小礫を含む。604 は外面から穿とうとした未貫通の補修孔と考えられる痕跡が 1 か所確認できる。605 は横位の貝殻条痕の一部に，先に施文した縦位の貝殻条痕が確認できる。胎土に 1 ㎜を越える長粒の角閃石を多く含み，色調は灰黄褐色である。口唇部もミガキ状の丁寧なナデを行う。607 は縦位の貝殻条痕が部分的に施文される。なお，口縁部内面の煤状の炭化物を年代測定した結果，10,157 － 9,980calBP の値が得られた。

609～615 は口縁部～胴部外面に横位の貝殻条痕を密接に施す一群である。器形は口縁部が直口するもの（609・610），内傾するもの（611），やや内湾するもの（612・613），内湾するもの（614・615）がある。609 は口縁部外面にやや浅い横位の貝殻条痕を密接に施している。口唇部及び内面は，非常に丁寧なナデを行っている。胎土に金雲母を含む。610 の口唇部は外削状を呈し，ミガキ状の丁寧なナデを行っている。611 はやや小型の器形である。胴部内面は縦位のケズリを行った後，ナデを行っている。胎土に角閃石を含み，色調は灰黄褐色である。612 は口唇部に平坦面を有し，口縁部外面に横位の貝殻条痕を密接に施す。一部緩やかな波状を呈する箇所がある。613・614 は横位の条痕で波状のモチーフを描いている。いずれも口唇部は舌状を呈し，内面には丁寧なナデを行っている。615 の横位の貝殻条痕は施文後にナデが部分的に行われている。

616～618 は胴部である。616 は外面に縦位の貝殻条痕を密接に施した後，横位の貝殻条痕を施している。内面は縦位のケズリを行った後，丁寧なナデを行っている。胎土に角閃石を多く含む。色調は灰黄褐色である。617 は胴部上半に横位の貝殻条痕を密接に施す。文様と無文部の境界あたりから底部に向けてすぼまる器形となる。胴部下半は被熱により剥落している部分もあるが，縦位のケズリを行っていることが確認できる。内面は縦位のケズリを行った後，ナデを行っている。胎土に長粒の角閃石を多く含み，色調は灰黄褐色である。618 は外面に横位の貝殻条痕を密接に施しているが，一部に縦位の貝殻条痕が確認できる。胎土は白色粒子や小礫を含み，色調は明赤褐色である。

なお，2 点の本類土器に付着していた炭化物で年代測定を実施した。その結果，607 の炭化物は 10,157 － 9,980calBP，618 の炭化物は 10,179 － 9,887calBP の値を得た。

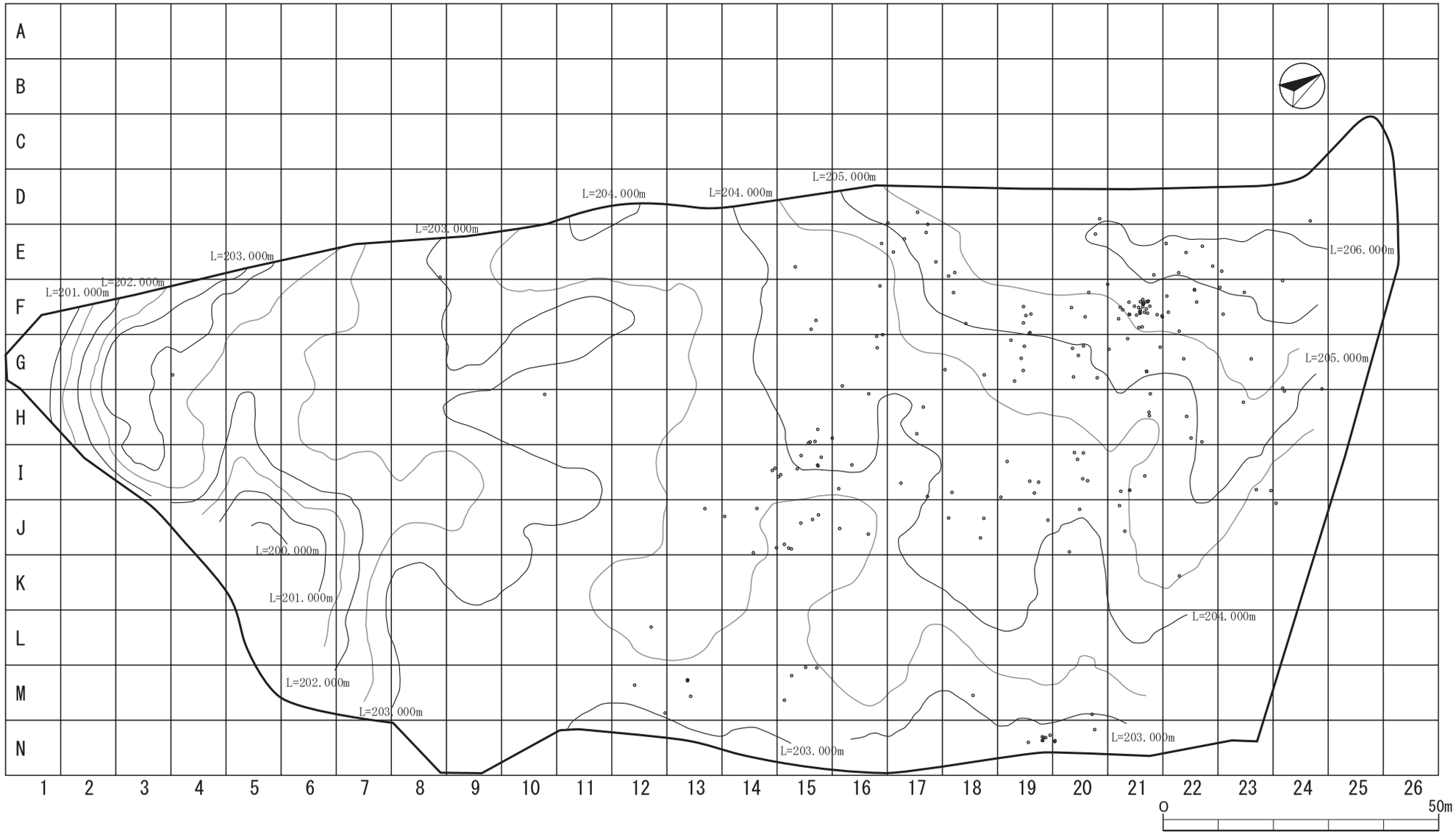
**（10）Ⅹ類土器（第 301～307 図　619～646）**

Ⅹ類土器は，口縁部がやや内傾もしくは直口する器形である。器壁が非常に厚いのが特徴の無文土器である。ナデ，貝殻条痕などの器面調整を行う。器形や器面調整で細分した。

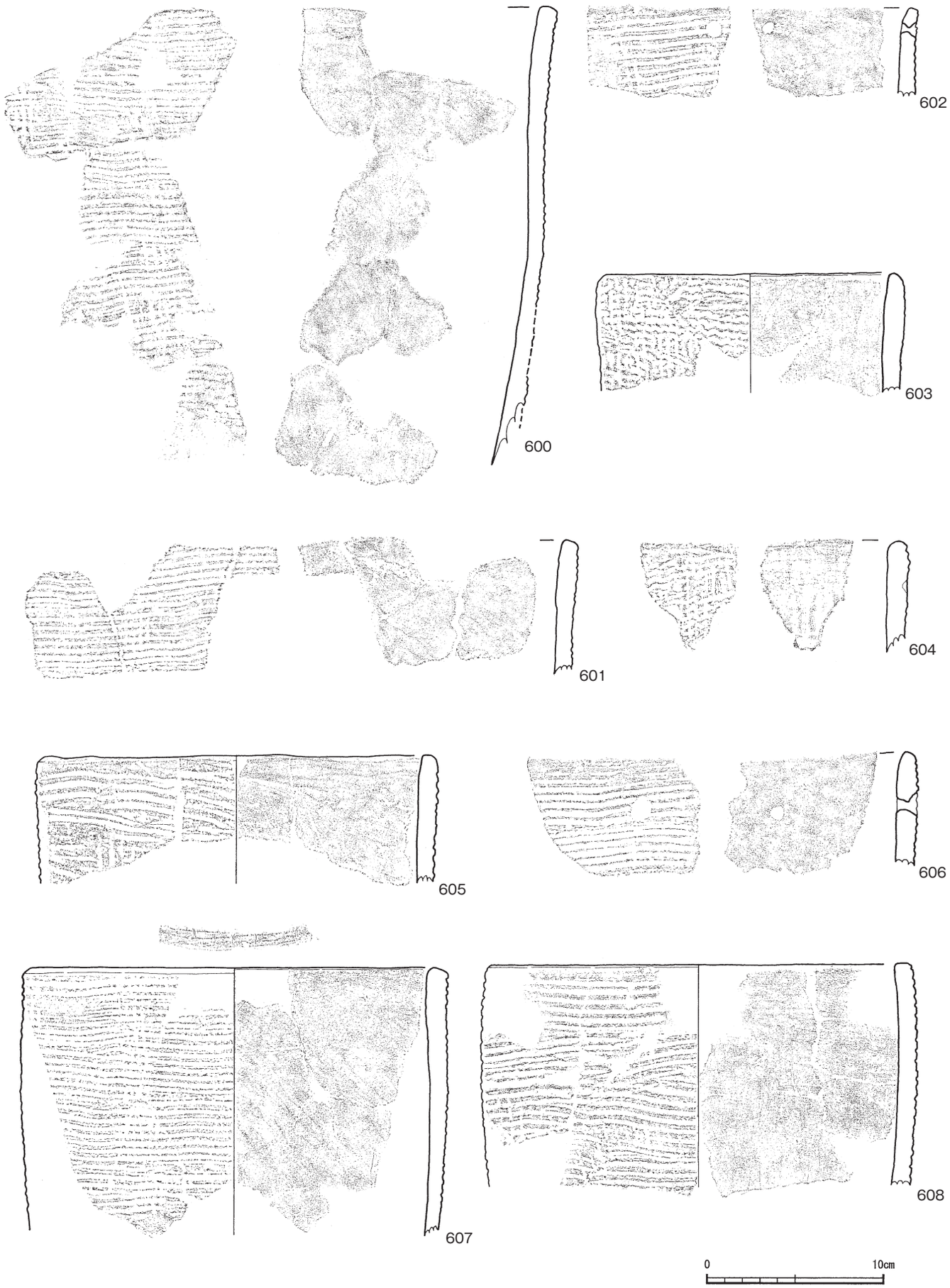
619～633 は口縁部である。

619～621 は内傾する口縁部の内外面に浅い貝殻条痕を施す一群である。また，口唇部にも刻目を入れたような斜位の貝殻条痕が一部施される。さらに，成形時の指おさえ痕が多く確認できる。胎土の色調はいずれも明赤褐色である。619 は口唇部を外面より一部折り返して成形したことが断面より確認できる。口縁部に焼成前に穿った円形の孔が確認できる。内面の孔の周辺には粘土を円形に貼り付けてあり，貼り付け後に穿孔していると考えられる。620・621 は口縁部が内傾する器形と考えられる。621 は外面の一部が被熱により剥落しているが，周辺に煤状の付着物が確認できる。

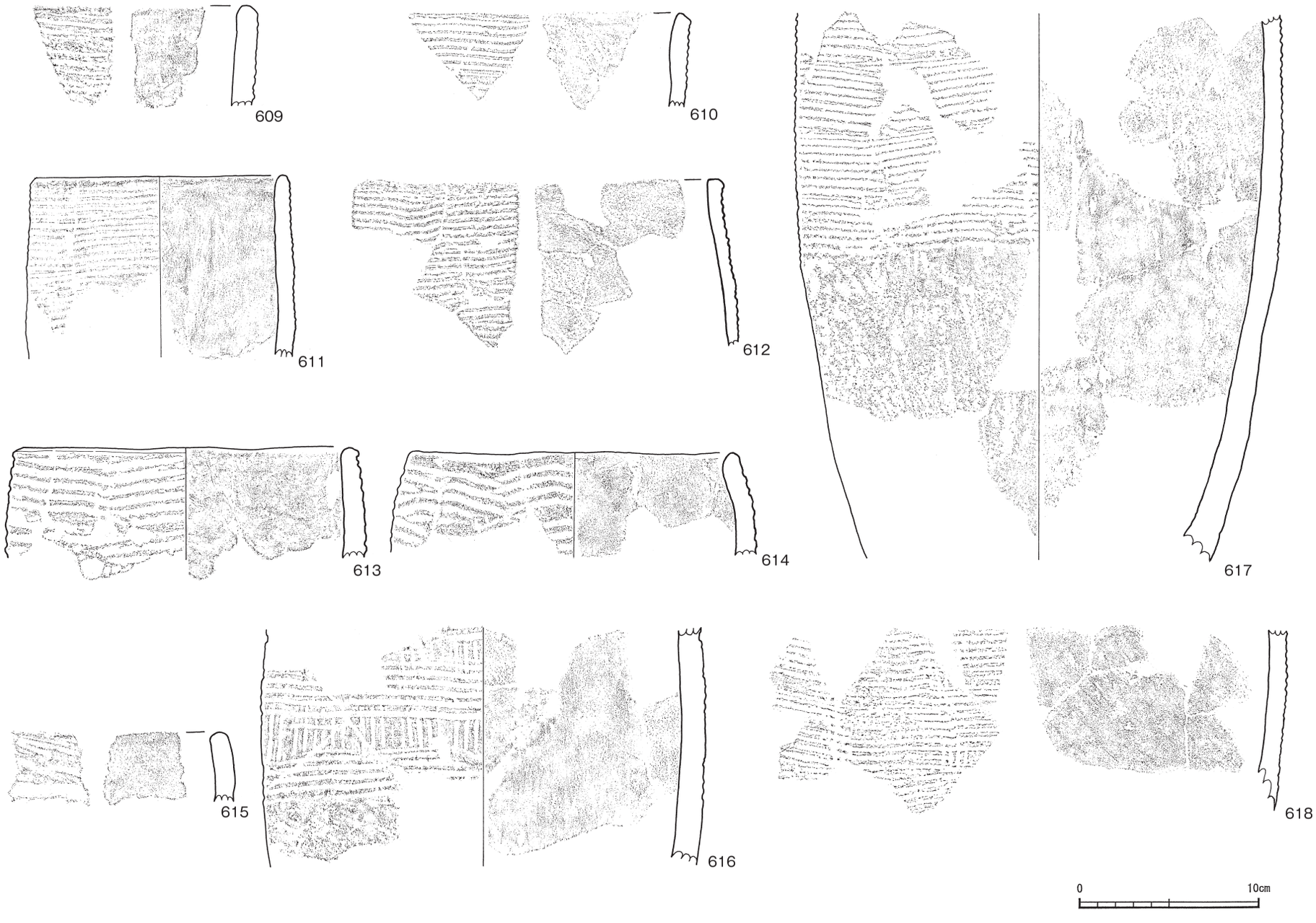
622 は口縁部がやや内傾する器形で，内外面ともに横位のナデを行ったと考えられる繊維状の擦痕が確認できる。口唇部の平坦面は非常に丁寧なナデを行っている。



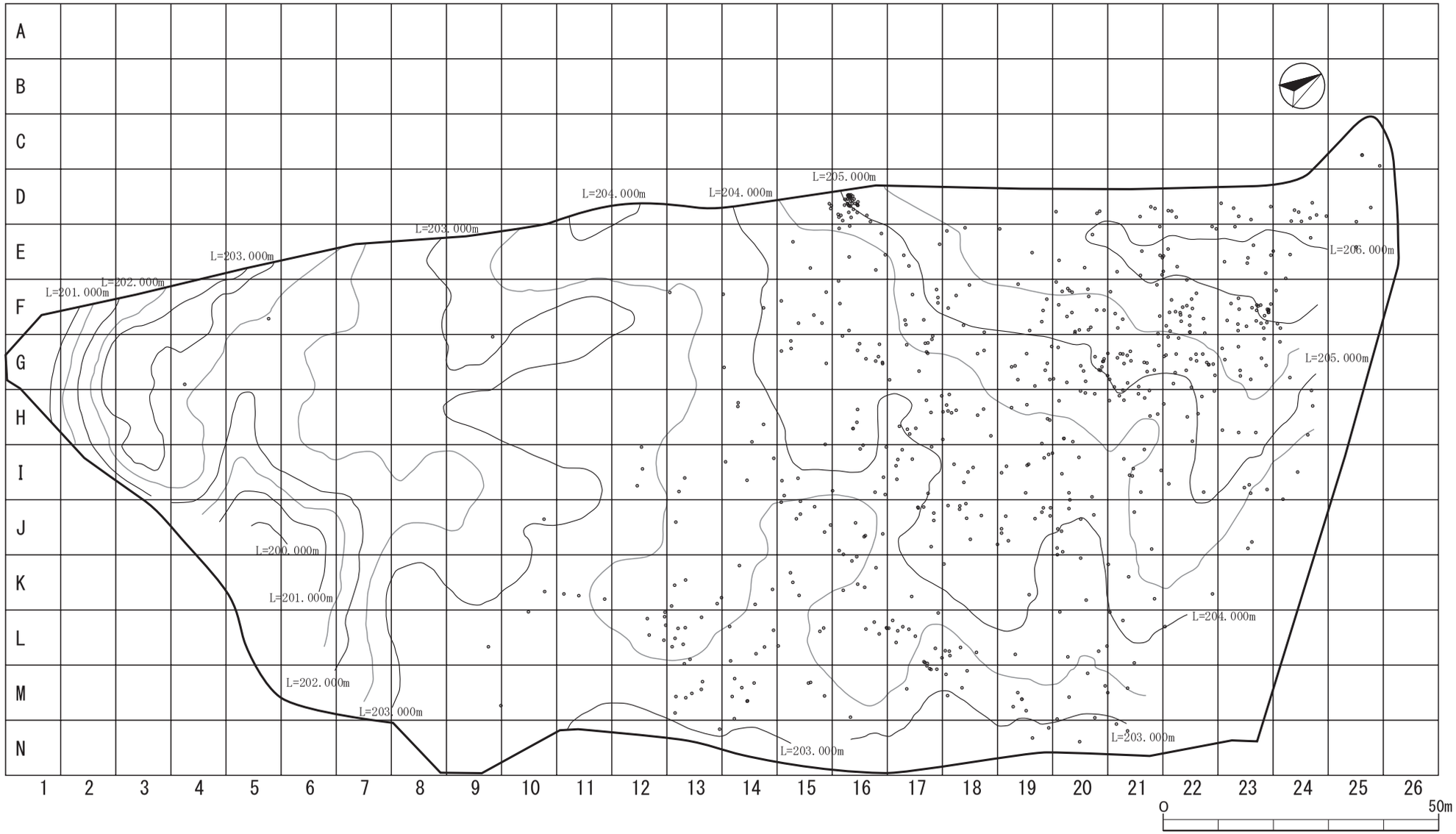

第 298 図　Ⅸ類土器出土分布図



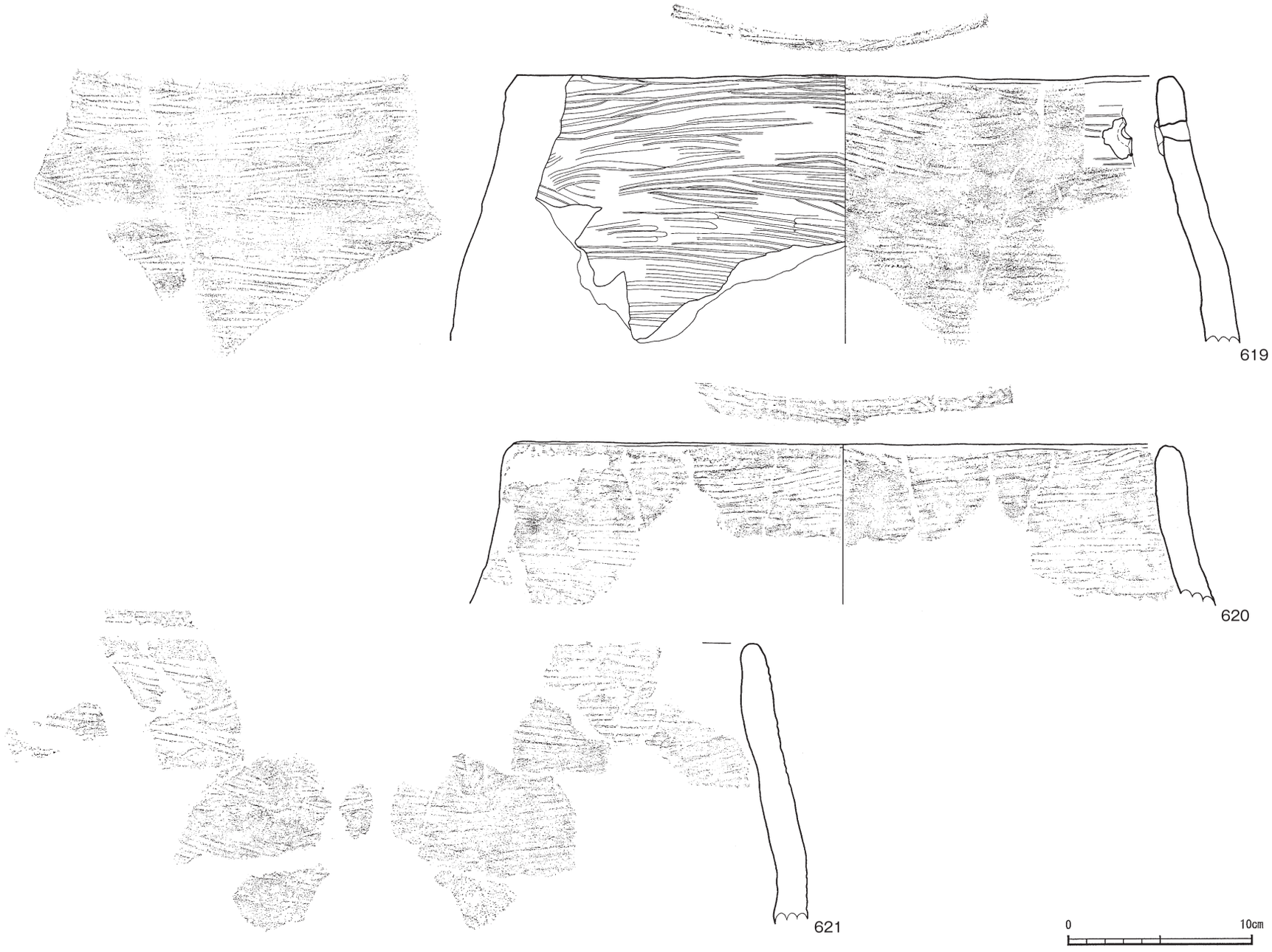

第 299 図　Ⅸ類土器（1）



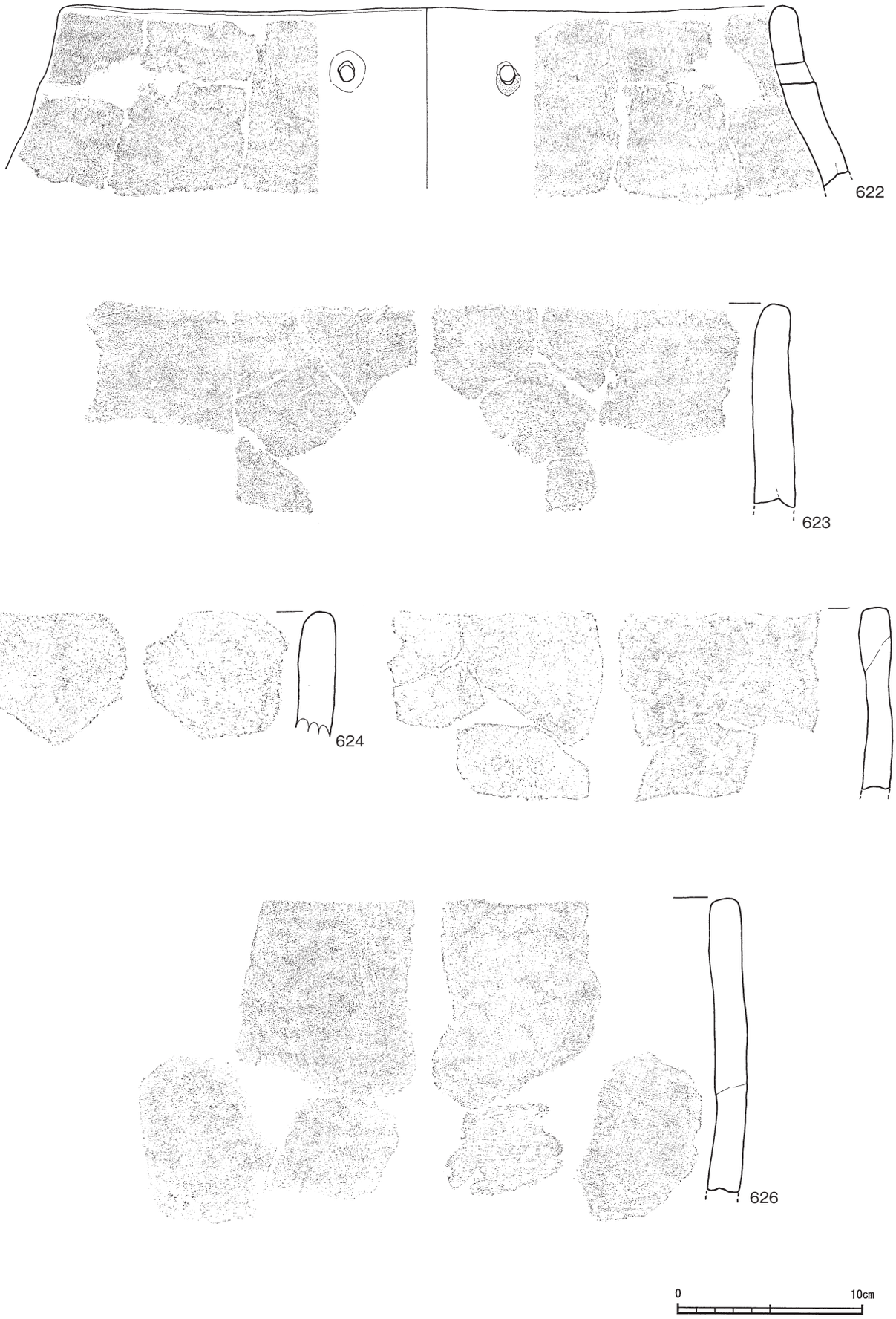

第300図　Ⅸ類土器（2）



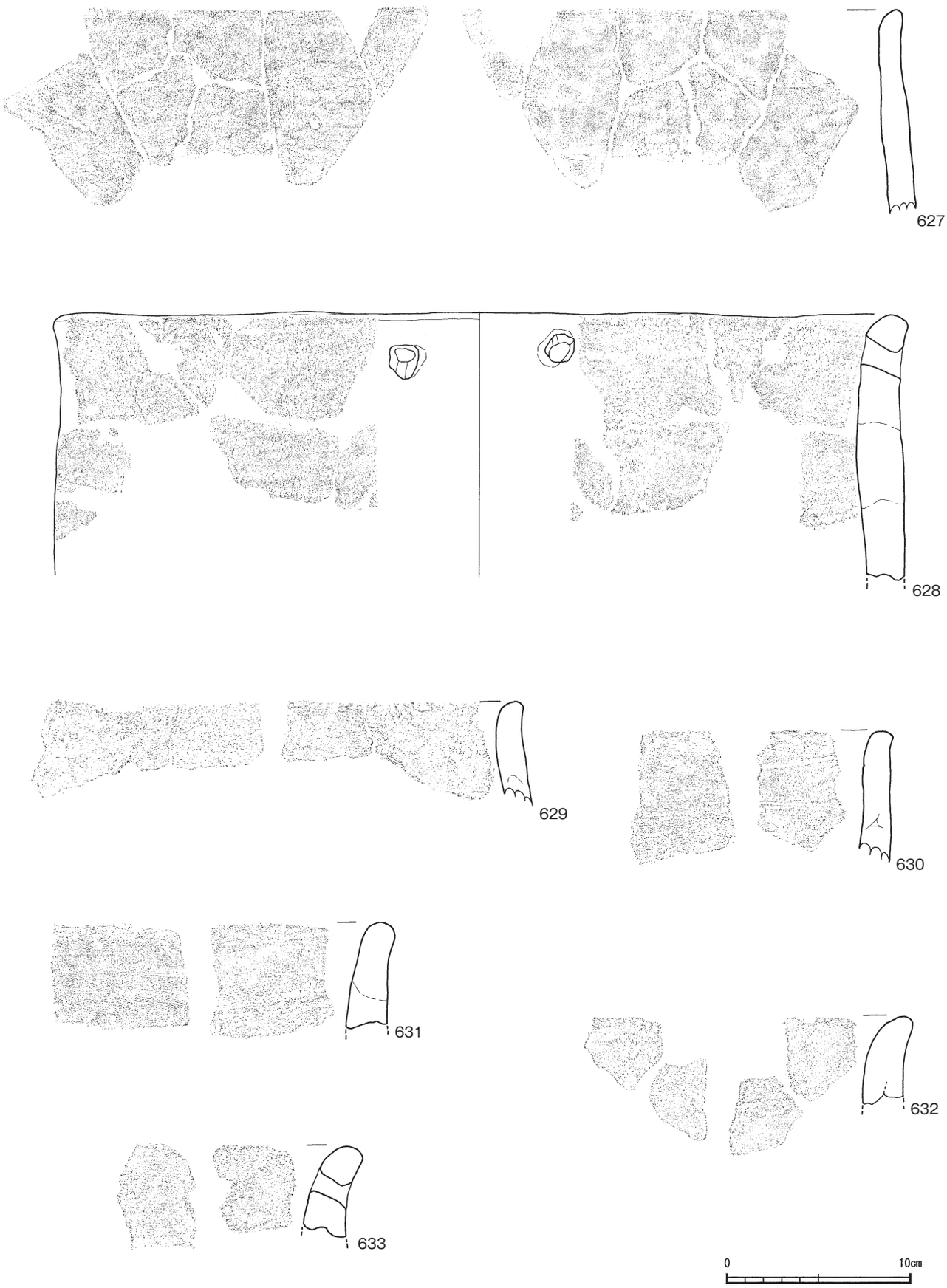

第 301 図　X類土器出土分布図



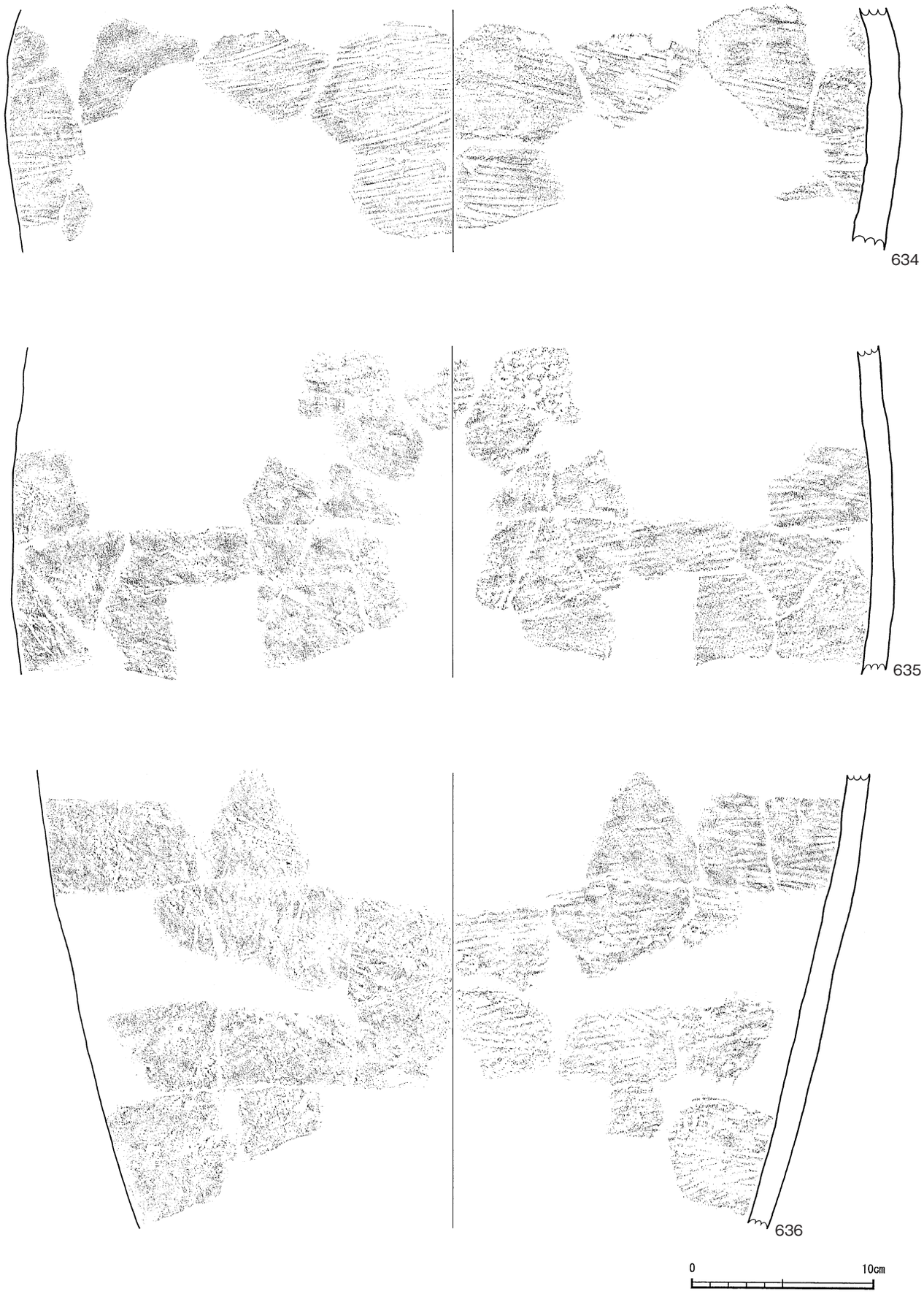

第 302 図　X類土器（1）



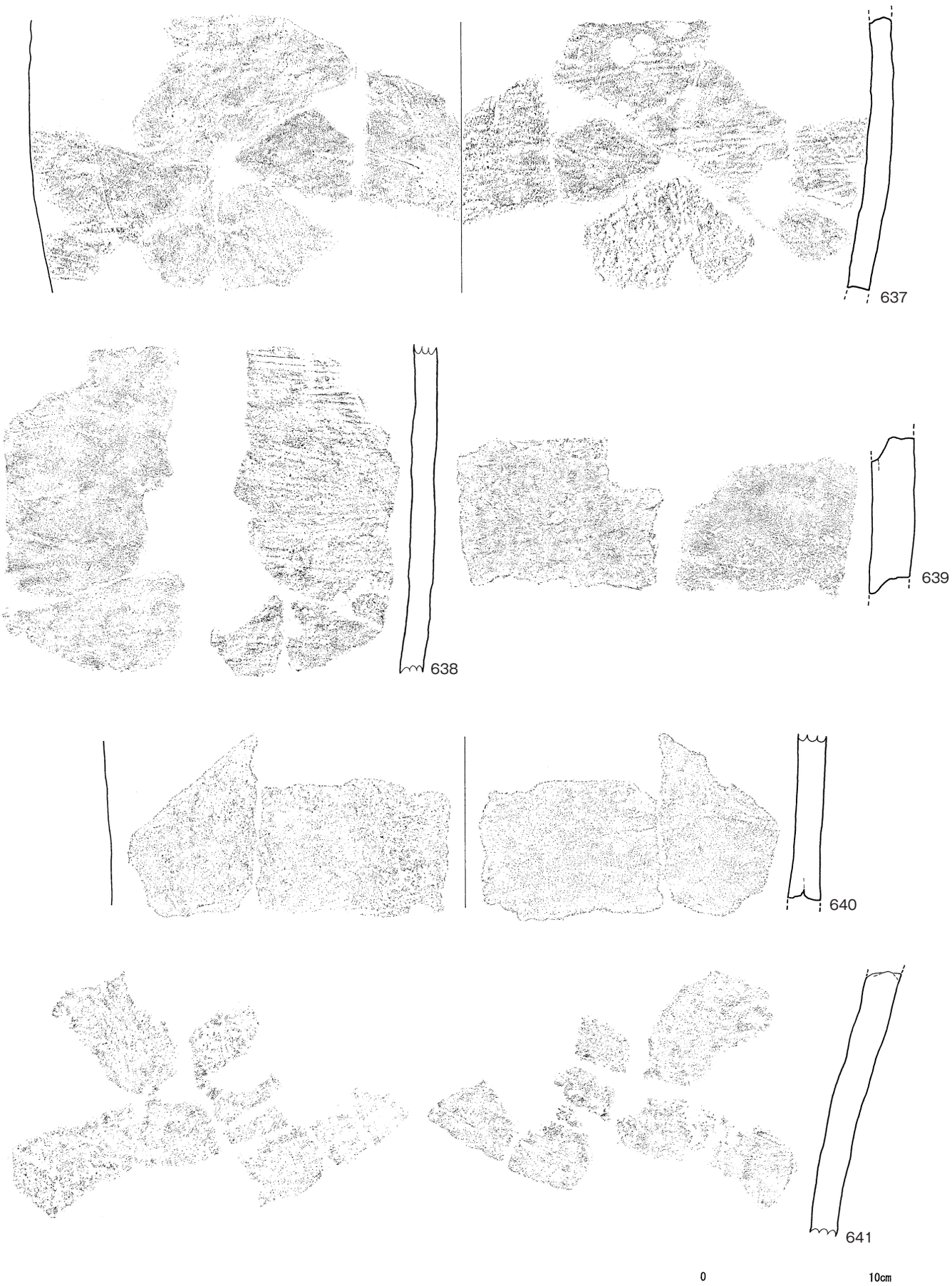

第 303 図　X類土器（2）



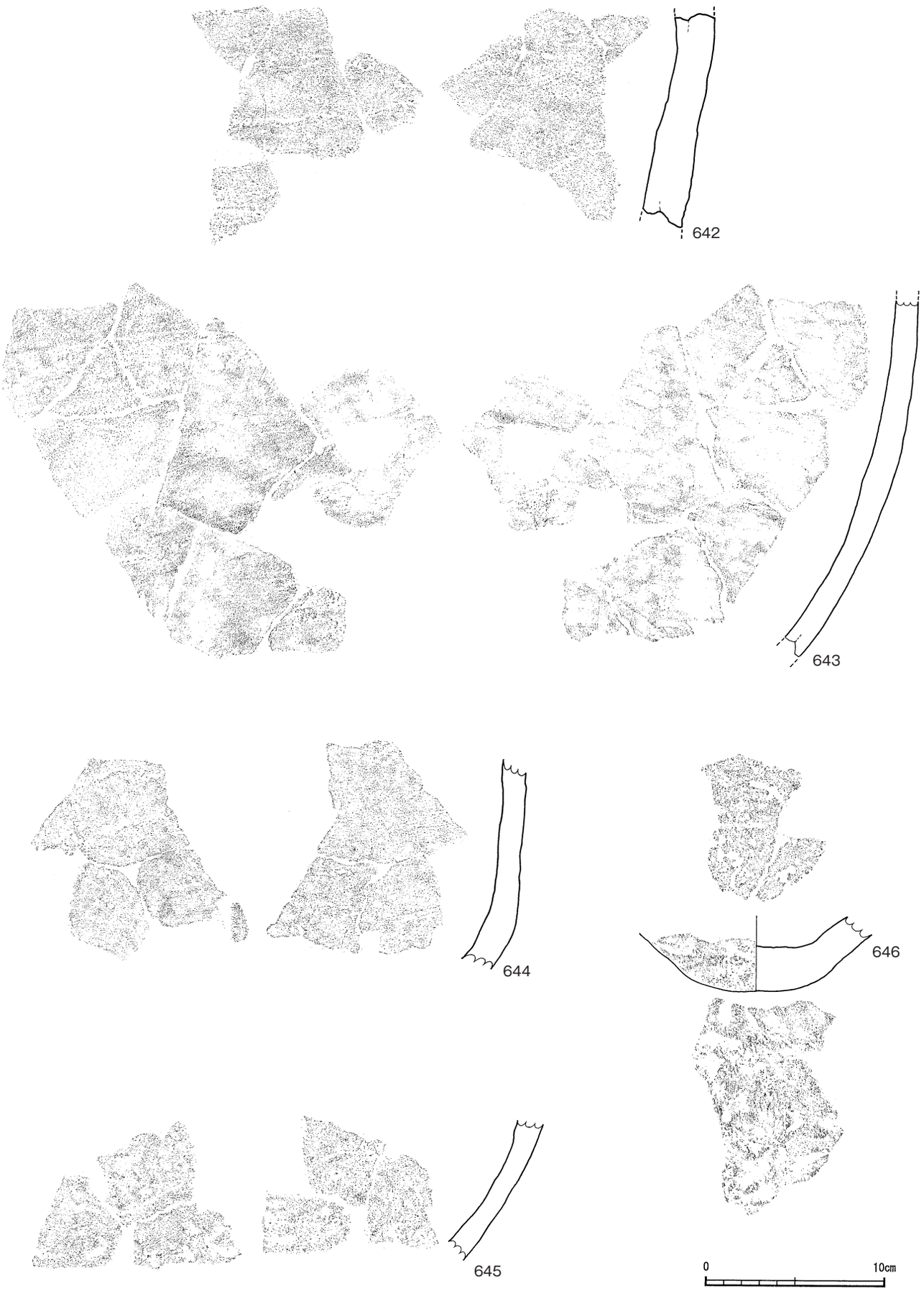

第 304 図　X類土器（3）




第 305 図　X類土器（4）




第306図　X類土器（5）




第 307 図　X類土器（6）

胎土に白色粒子や金雲母を多く含む。口縁部に焼成前に穿った孔が１か所確認できる。

623～626 は口縁部が直口する器形で，内外面にナデを行う一群である。623 は胎土に小礫，白色粒子を多く含む。624 の外面には横位の擦痕が確認できる。625・626 の外面には縦位や斜位のナデを行ったと考えられる繊維状の擦痕が，内面は横位の同様の擦痕が確認できる。胎土には塊状の軽石質の白色粒子を多く含む。また，粒子の小さい白色粒子，金雲母も含む。色調は灰黄褐色である。

627～633 は直口する口縁部の端部が若干外反し，内外面ともナデを行う一群である。いずれも口縁部外面に外反させるためのくびれがある。内外面とも横位のヘラ状工具による擦痕や成形時の指おさえ痕が確認できる。627 は他に比べ器壁厚がやや薄い。628 は口縁部に焼成前に穿たれた円形の孔が残る。穿孔に用いた棒状工具の痕跡が，孔の下部に一部確認できる。胎土に小礫，白色粒子を多く含む。629 は胎土に小礫，白色粒子を多く含む。胎土に混和剤として混入したと考えられるような繊維痕が確認できる。また，断面には 630 と同様の接合痕が見られる。630 の外面には横位の擦痕が，内面には沈線状の圧痕が一部確認できる。文様というよりは調整時に生じたものと考えられる。胎土には塊状の軽石質の白色粒子を多く含む。また，粒子の小さい白色粒子や金雲母も含む。色調は灰黄褐色である。断面より接合痕の一部が確認できる。輪積みする粘土紐の上方を舌状に成形し，次に接合する粘土紐の下方をわずかに叉状に開いた状態で下の粘土紐を挟み込むように接合したと考えられる。631・632・633 は胎土に小礫，白色粒子を多く含む。633 は口縁部に孔が穿たれている。孔の断面より穿孔する過程が確認できる。まず，内面側から穿孔を開始し，次に外面側は内面側より孔を一回り大きくなるように，棒状工具を外面で回転させ孔を広げるようして穿孔している。

634～645 は胴部である。

634～638 は内外面もしくは内面に貝殻条痕を施す一群である。ただし，内面のみ貝殻条痕が確認できるものは外面をナデ消した可能性もある。いずれも胎土に小礫，白色粒子を含み，色調は明赤褐色である。内面には，成形時の指おさえ痕が多く確認できる。634 は内外面に浅い貝殻条痕を施し，外面には煤状の付着物が確認できる。635～638 は内面のみに浅い貝殻条痕を施し，外面はミガキ状の丁寧なナデを行う。

639～645 は内外面にナデを行う一群である。成形時の指おさえ痕が内外面ともに確認できる。640・642 は胎土に小礫，金雲母を含む。内外面ともに横位のナデを基調としながらも，外面は部分的に縦位や斜位の繊維痕が確認できる。641 はやや外反する胴部下半である。胎土に白色粒子を多く含み，色調は灰黄褐色である。641 は上方に接合部分を舌状に成形した箇所があり，642 は下方に接合部分を叉状に開いた箇所が確認できる。630 と同様の接合方法であったと考えられる。643・644・645 は底部付近と考えられる。643 は内外面ともに横位を基調とした丁寧なナデを行っているが，底部に近い部分が特に丁寧である。胎土に混和剤として混入したと考えられるような繊維痕が確認できる。644・645 は胎土に白色粒子を多く含み，644 は金雲母も多く含む。外面はミガキ状の丁寧なナデを行っている。

646 は丸底の底部である。底面付近は器壁厚が約 2.5㎝ある。直径が 10㎝程度の粘土塊を口径に対して極端に小さい丸底に成形し作り出したと考えられる。底部外面には，ミガキ状の丁寧なナデを行っている。また，煤状の付着物も確認できる。胎土は白色粒子を多く含み，混和剤として混入したと考えられるような繊維痕も確認できる。

**（11）Ⅺ類土器（第 308～330 図　647～862）**

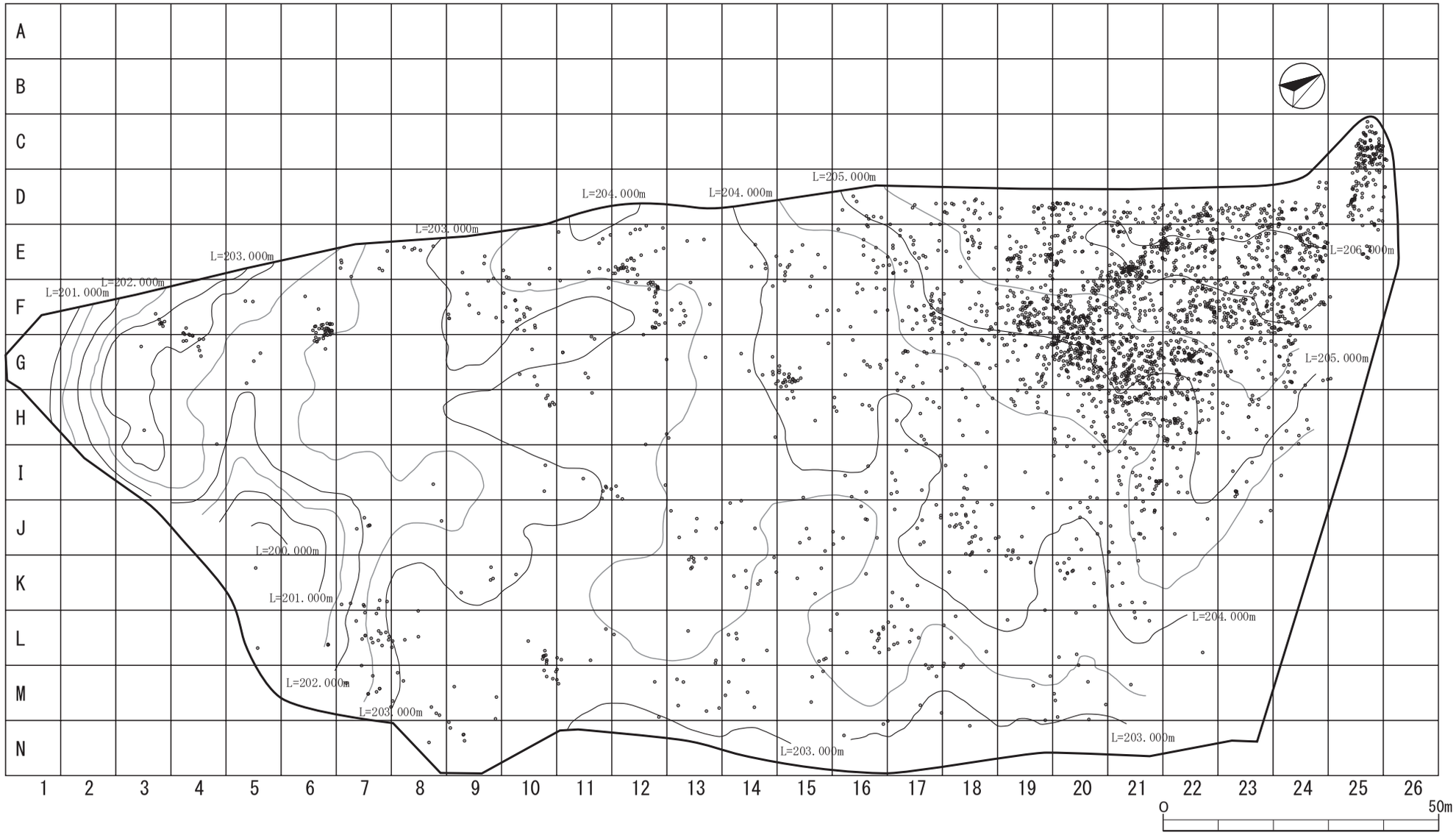
Ⅺ類土器は，原体を回転することにより施文する一群である。原体の種類により楕円押型文を施す一群，山形押型文を施す一群，連珠押型文を施す一群，波状押型文を施す一群，ネガティブな押型文を施す一群，縄文を施す一群，撚糸文を施す一群，変形撚糸文を施す一群，短枝回転文を施す一群に大別し，さらに，施文方向，器形，調整等により細分した。なお，647～859 は深鉢形土器，860～862 は壺形土器と考えられる。

647～660 は外面に楕円押型文を横位に施す一群である。なお，647～650 及び 658～660 は，器壁が薄いことから２分の１の縮尺で掲載している。

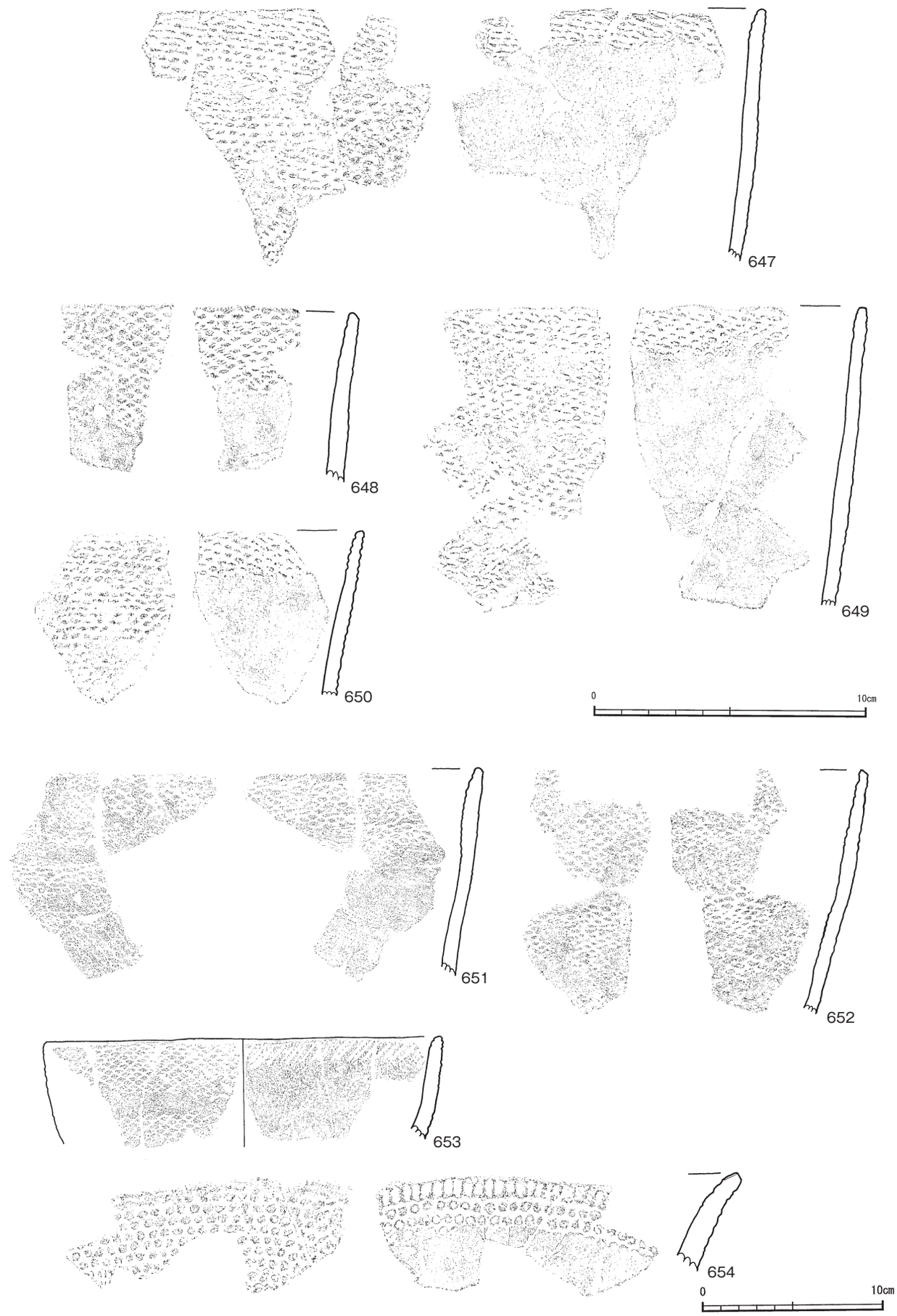
647～653 は口縁部で，わずかに外傾しながら直口する器形である。器壁はいずれも薄く，0.5㎝～0.8㎝である。また，色調は褐色である。口唇部を舌状に成形する。外面の楕円押型文は小粒である。特に，647・648・651～653 は楕円押型文を帯状に施し，その一部をナデ消すことにより幅狭の無文帯を設けている。内面には外面と同様に楕円押型文を横位に施文するが，653 のみ斜位の沈線を施す。内面の横位の施文幅は，647・649・650 が 1.2㎝～1.5㎝である。これは原体１単位幅の施文であると考えられる。648 の施文幅はやや長く 2.6㎝で，２単位幅の施文である。651 は３単位幅の施文を行っているが，一部文様をナデ消している。652 は内面の施文が，胴部上半に及んでいる。

647・649・650 の胎土には繊維痕が確認でき，653 の胎土には金雲母を含む。647・650 は外面に，649 は内面に煤状の付着物が確認できる。647・649～653 の内面には，指おさえ痕が確認できる。649・653 は外面の楕円押型文を施した後，口唇部に非常に丁寧なナデを行っている。

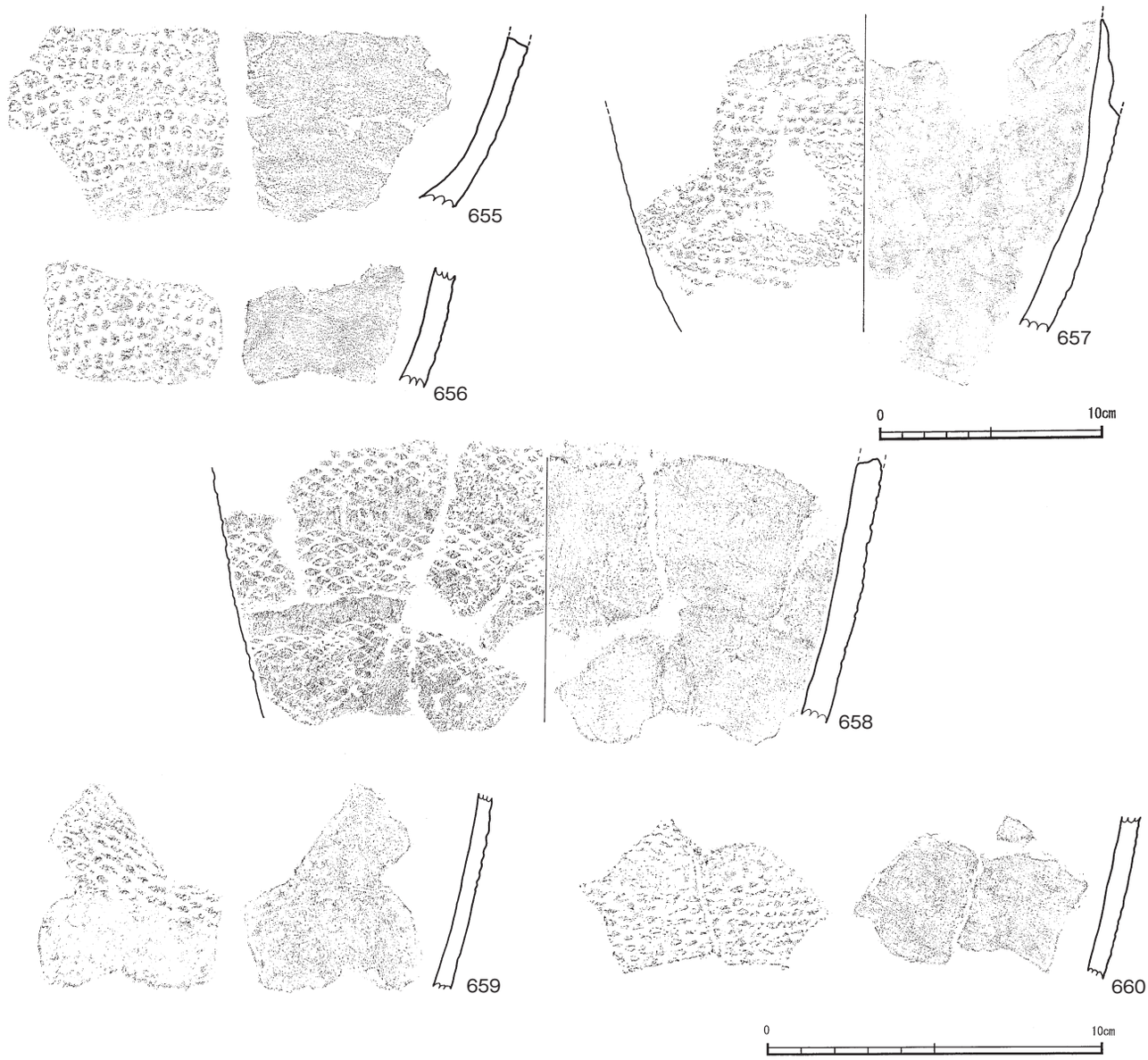
654 は口縁部が外反する器形である。口縁部外面に横




第 308 図　XI類土器出土分布図




第 309 図　XI類土器（1）




第 310 図　Ⅺ類土器（２）

位の楕円押型文を施している。内面には柵状文を施した後，横位の楕円押型文を施している。それより下位は丁寧なナデを行っている。胎土に角閃石を含み，色調は灰黄褐色である。

655～660 は胴部である。

655～657 は器面全体に大粒の楕円押型文を横位に施す。内面はナデを行っている。657 は楕円押型文を施した後に一部文様をナデ消した箇所がある。655 は底部に近い部位である。底面境付近は，施文せずに丁寧なナデを行っている。658～660 は器壁が薄く，小粒の楕円押型文を帯状に横位に施す一群である。特に 659・660 は器壁厚が 0.4cm～0.5cmと非常に薄く，胎土に繊維痕が確認できる。659 は文様，調整，胎土等から 649 と同一個体の可能性が高いと考えられる。

661～717 は外面に楕円押型文を縦位もしくはやや斜位に施す一群である。口縁部形態や内面調整・内面施文等により細分した。

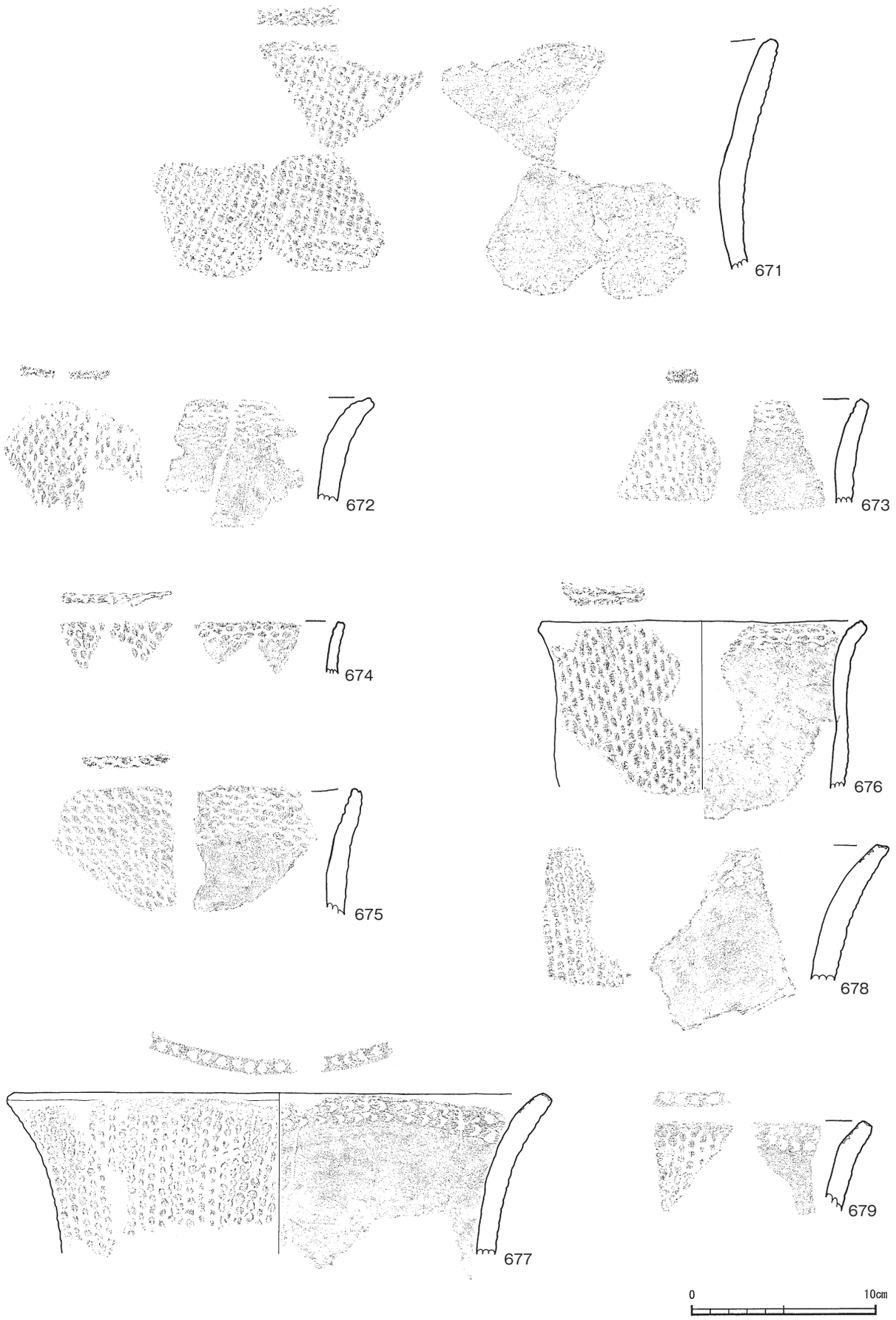
661～687 は口縁部で，直口するものと外反するものがある。

661 は口縁部が直口する器形で，口唇部を舌状に成形する。外面は小粒の楕円押型文を斜位に施す。口縁部付近は一部横位に施す箇所もある。施文は器面全面に及ばず，部分的で規則性はない。内面はナデを行い，胎土に小礫や白色粒子を非常に多く含む。

662～676 は口縁部が外反する。内面の器面調整は丁寧なナデ，内面の施文は横位の楕円押型文である。口唇




第 311 図　XI類土器（3）




第 312 図　XI類土器（4）

部にも楕円押型文を施す。662～670は小粒，671～676はやや大粒の楕円押型文である。663・664の胴部内面には，成形時の指おさえ痕が確認できる。667は内面に焼成後穿孔の未貫通の孔があり，その上方には，外面から穿孔したと考えられる補修孔が１か所確認できる。これは外面から穿孔をやり直したものと考えられる。

内面の横位の施文幅は多くが原体１単位幅の施文と考えられるが，670は２単位幅の施文である。671・675・676は，緩やかな波状口縁を呈する。671の口縁部内面の施文幅は，非常に狭い。外面は楕円押型文を斜位に施した後，口唇部直下に沈線が一部確認できる。内面には成形時の指おさえ痕が多く確認できる。胎土に角閃石を含み，色調は灰黄褐色である。676は小型の器形である。内面には内傾接合と考えられる接合痕が確認でき，成形時の指おさえ痕も多く見られる。また，煤状の付着物も確認できる。

677～679は口縁部が外反し，内面調整は丁寧なナデである。口唇部と内面には半截竹管による逆「C」字状の刺突を施す。内面の刺突は横位に２段である。逆「C」字状を呈することから竹管の内皮側を左側にし，器面に対して直交するように刺突を施している。外面の楕円押型文は，やや大粒である。

680～684は口縁部が外反し，口縁部内面はナデを，胴部内面はケズリを行う。また，内面には横位もしくは斜位の楕円押型文を施す。楕円押型文はやや大粒である。さらに，口唇部を平坦に成形し，楕円押型文を施す。680の内面には，楕円押型文を横位と斜位に施す。680・681・683・684は，胎土に小礫や金雲母を多く含む。680・681は文様，調整，胎土等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。682は器壁が薄く，0.6㎝である。外面には楕円押型文を施し，米粒状の粘土を横位に貼り付けた箇所が確認できる。683は口唇部から口縁部内面にかけて，煤状の付着物が確認できる。684は緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。内面は楕円押型文を斜位に施す。

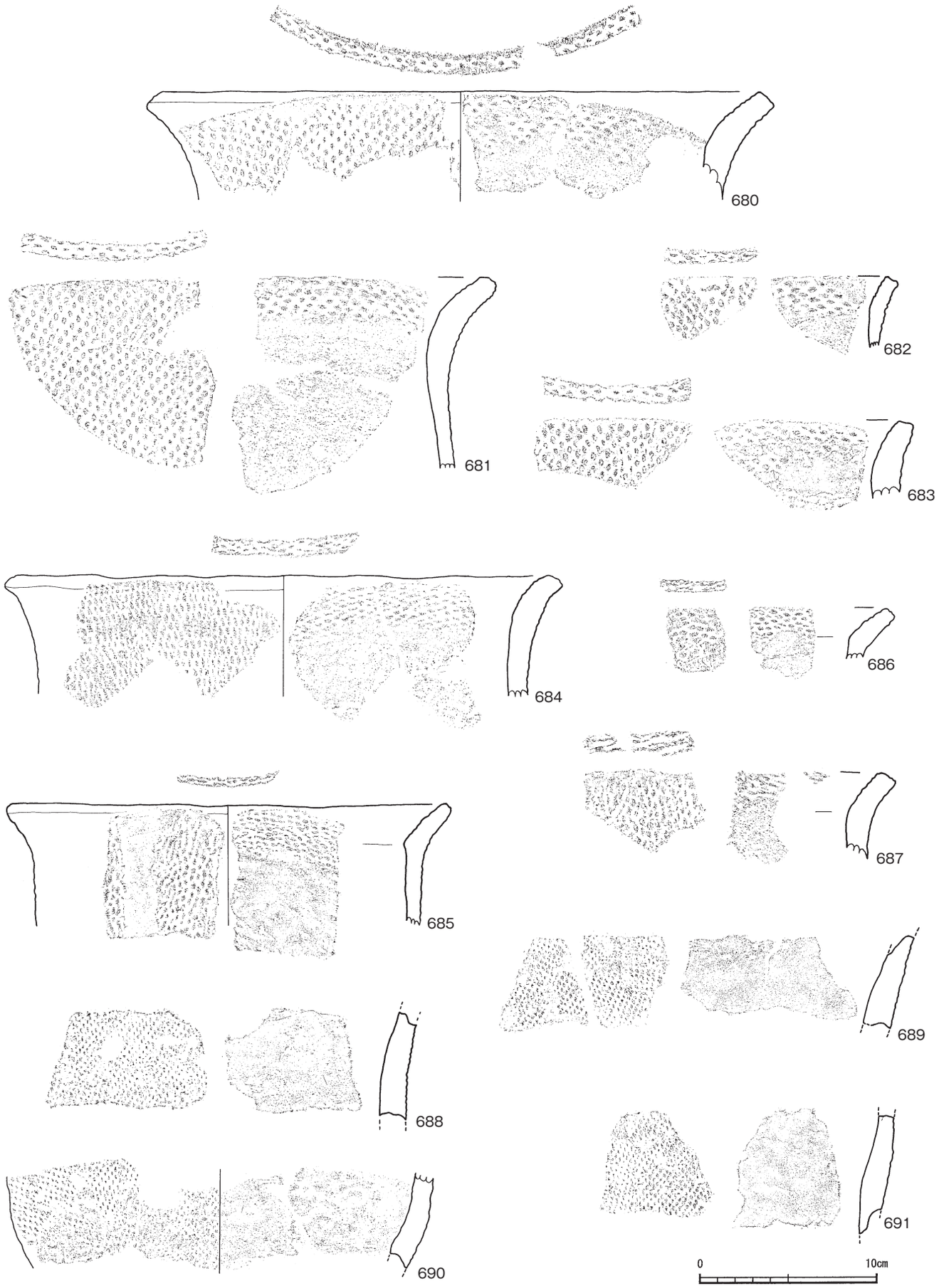
685～687は口縁部が外反し，口縁部内面はナデを，胴部内面はケズリを行う。また，内面に小粒な楕円押型文を横位に施す。さらに，口縁部内面に明瞭な稜をもつ。口唇部にも楕円押型文を施す。胎土に小礫や白色粒子を多く含む。685は緩やかな波状口縁を呈する。外面には，1.5㎝～2.0㎝幅で帯状に文様をナデ消した箇所がある。

688～707は胴部で，外面に楕円押型文を縦位もしくはやや斜位に施す。

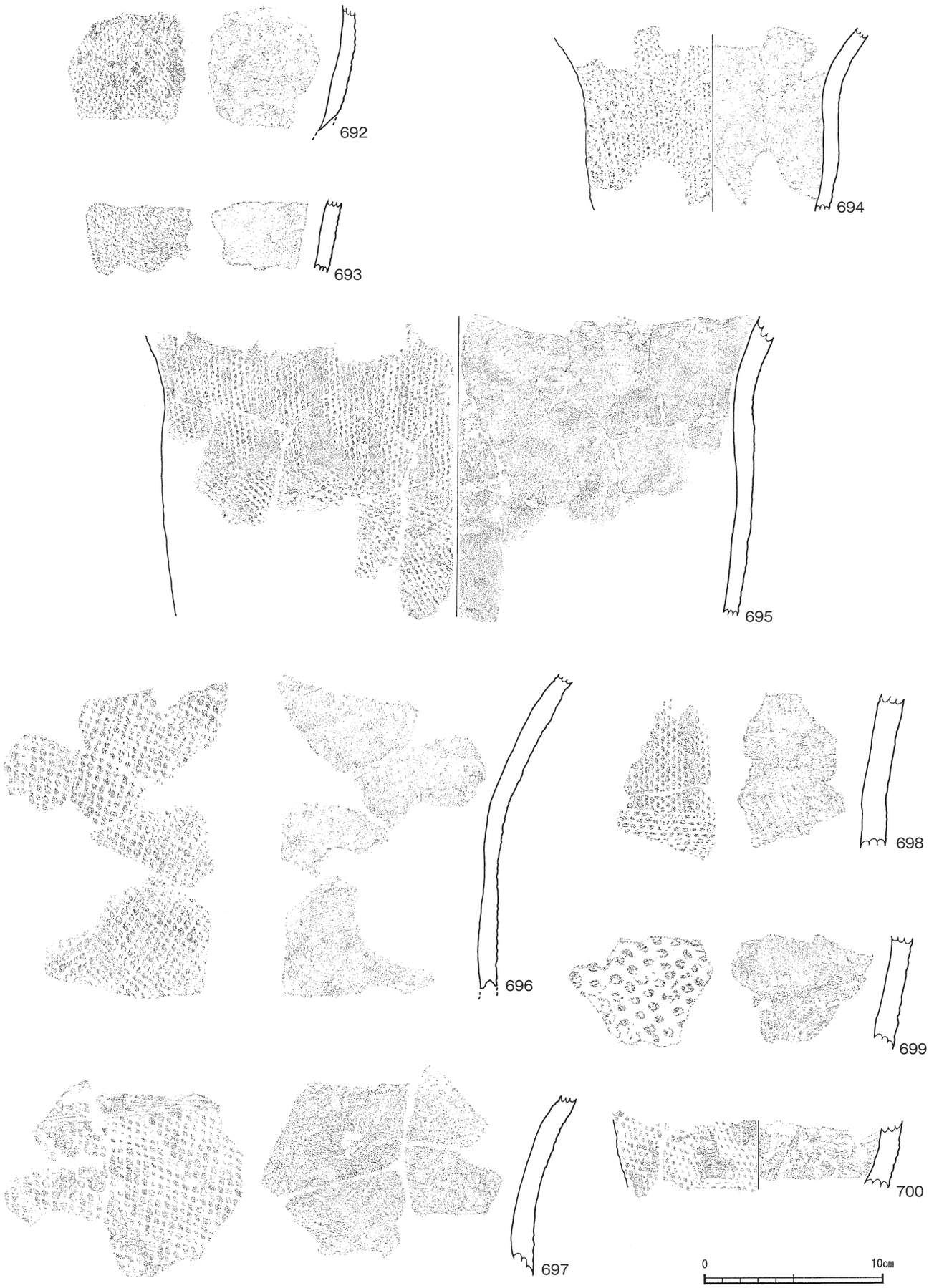
688～697は内面に丁寧なナデを行う。688～695は小粒の楕円押型文，696・697はやや大粒の楕円押型文である。692・694は胎土に金雲母を多く含む。688・689・691は接合痕が確認でき，689は擬口縁状を呈す。これらは文様，調整，胎土等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。691は外面の一部が剥落したような幅広の凹部にも楕円押型文を施している。690・692は底部付近で，内面に指おさえ痕が確認できる。694は小型の器形で，内面は丁寧なナデを行っている。695はやや大型の器形である。外面は頸部付近を境に上半は縦位の，下半は斜位の楕円押型文を施す。縦位から斜位へ移行する部分の一部に施文を行わない箇所がある。内面は胴部下半に指おさえ痕が多く確認できる。696・697は内面に横位の施文が確認できることから，口縁部付近と考えられる。外面は斜位の楕円押型文を施した後，上位に棒状工具による沈線を施文している。内面に成形時の指おさえ痕が多く確認できる。胎土に角閃石を含み，色調は灰黄褐色である。口縁部片である671と胴部の696・697は，文様，調整，胎土等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。

698～707は内面にケズリを行う。698・700は小粒の楕円押型文，699・701・702は大粒の楕円押型文，703～707は長粒の楕円押型文である。698・700は楕円押型文を横位に施した後，縦位，斜位に施している。また，一部帯状に文様をナデ消している。内面は横位のケズリを行っている。701・702は胴部下半である。外面は楕円押型文を密接に施し，内面は縦位や斜位のケズリを行っている。胎土に白色粒子を多く含む。703は器壁を薄くするために，ヘラ状の工具により内面に縦位や斜位のケズリを行っている。胎土に金雲母を多く含む。707は底部付近と考えられる。外面は底面境までは施文をせず，底面境付近は丁寧なナデを行っている。内面は横位のケズリを行っている。胎土に白色粒子，金雲母を含む。705は外面を底面境付近まで楕円押型文を縦位に施した後，横位に施している。内面は横位のケズリを行っている。

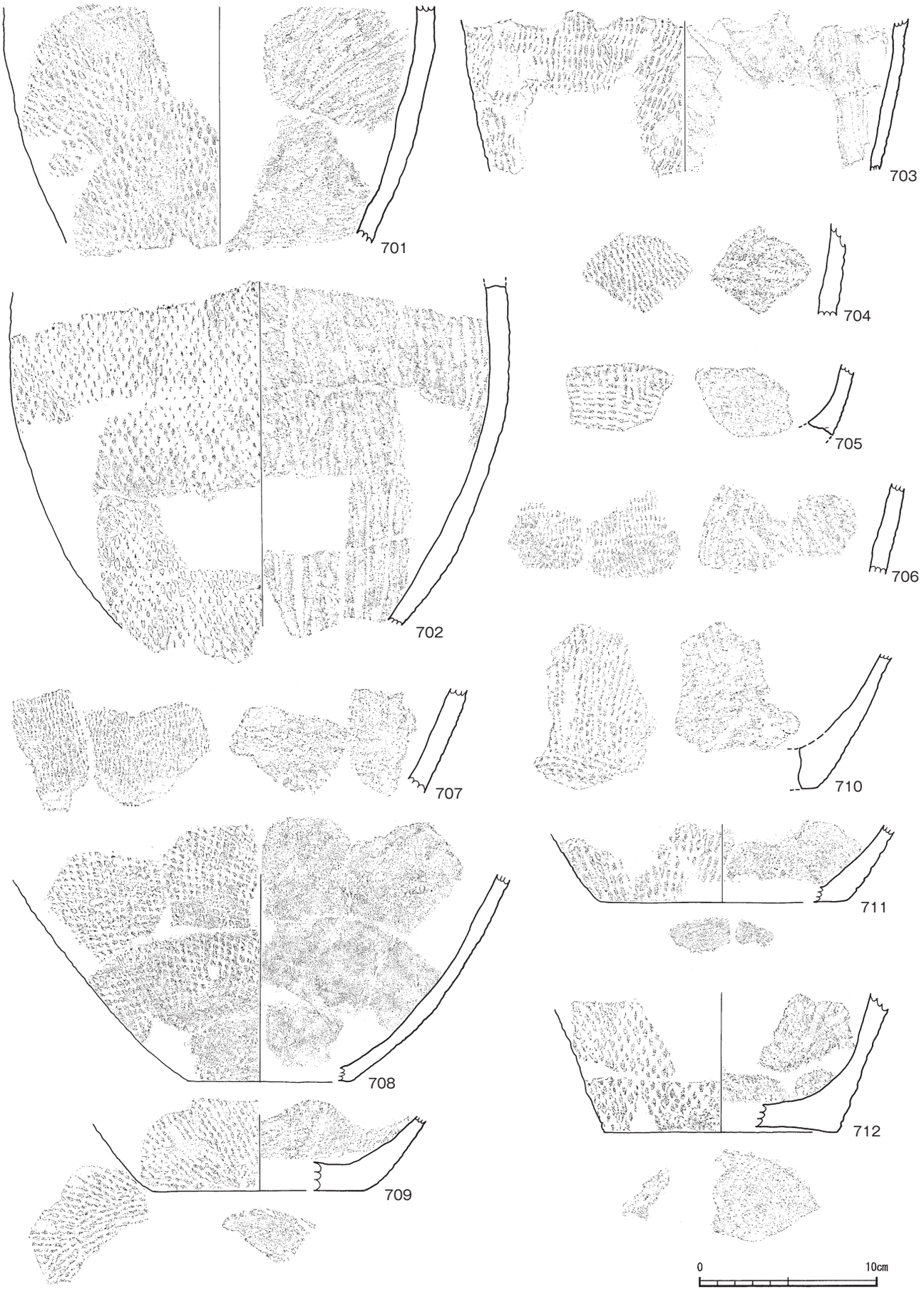
708～717は底部で，すべて平底であると考えられる。外面に楕円押型文を縦位もしくは斜位に施す。底面境付近のみ横位に施すものもある。708の内面調整はナデ，709～717の内面調整はケズリを行っている。底部円盤に粘土紐を巻き付けるように貼り付けた後，胴部を輪積み成形していると考えられる。ただし，712・713・716は，やや上げ底気味になるように粘土紐を高台状に巻き付けている。底部と胴部の接合に際しては，内面で胴部の粘土を底部側に伸ばし付けるようにして接合している。708は底部に向けて胴部下半が急にすぼまる器形である。外面はやや大粒の楕円押型文を斜位に密接に施している。内面は成形時の指おさえ痕が確認できる。胎土に小礫，角閃石を含む。色調は灰黄褐色である。709・710は外面に小粒の楕円押型文を斜位に密接に施すが，底面境付近のみ横位に施す。底部外面は丁寧なナデを行っている。胎土に小礫，金雲母，白色粒子を含む。



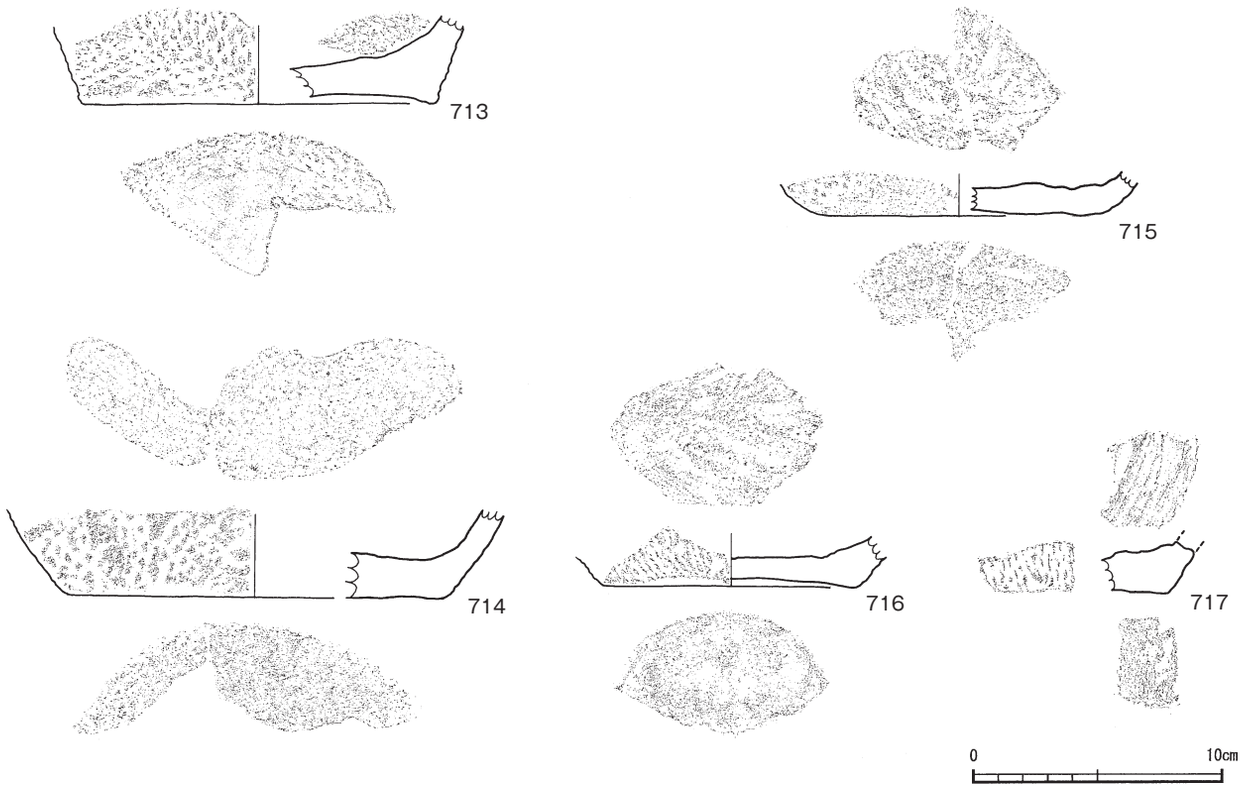

第 313 図　XI類土器（5）




第 314 図　XI類土器（6）




第 315 図　XI類土器（7）




第 316 図　XI類土器（8）

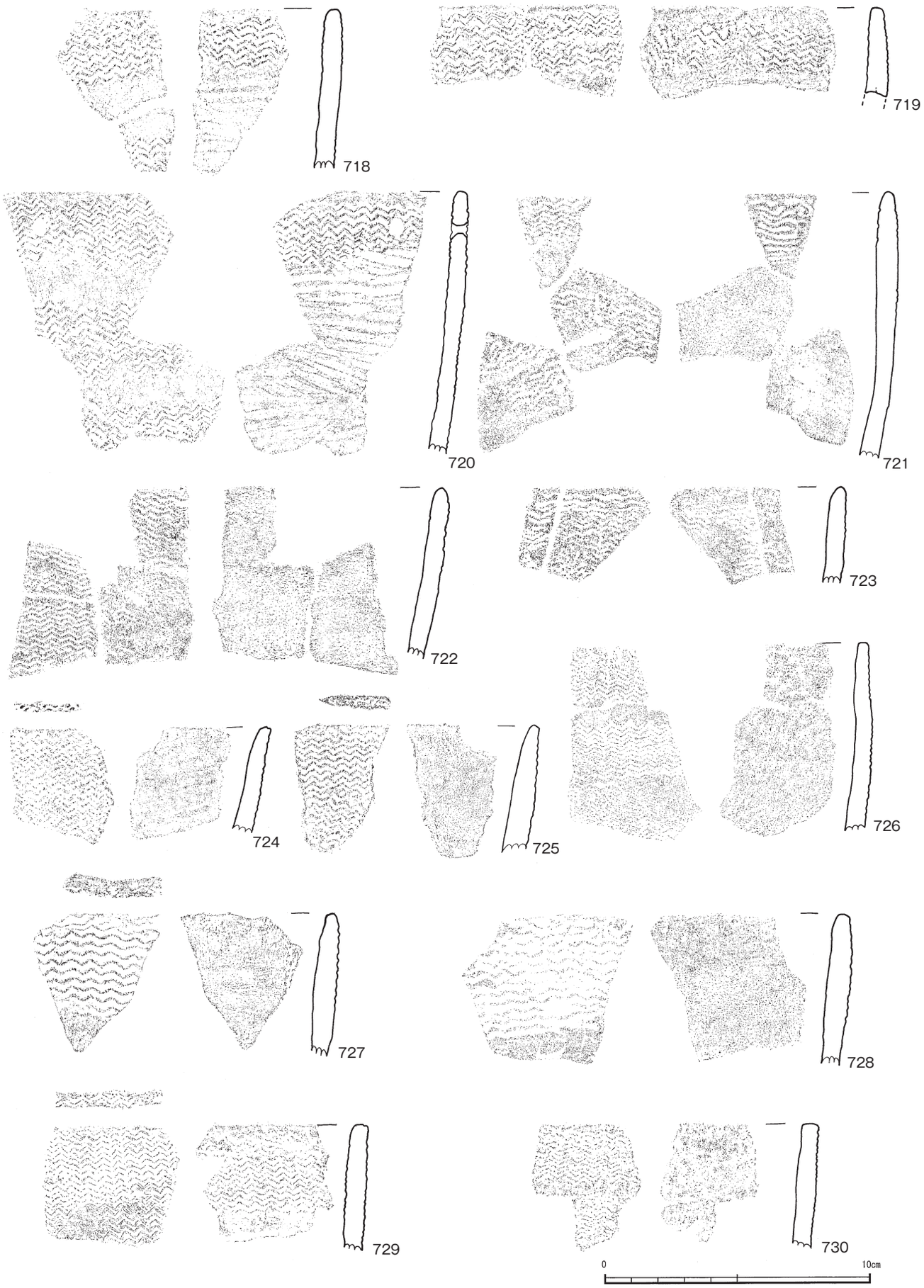
711～715 はやや大粒の楕円押型文を斜位に施している。712・713 は底面境付近のみ一部横位に施文している。713 は底部外面の外周部分の一部にまで施文が及んでいる。711～714 は底部外面にナデを行っているが，715 はケズリを行った後，軽くナデを行っているため工具痕が明瞭である。716・717 は長粒の楕円押型文を施している。胎土に小礫，白色粒子を多く含む。716 は底部内面を斜位に，717 は同心円状にケズリを行ったと考えられる。716 は上げ底気味の底部外面に非常に丁寧なナデを行っている。

718～736 は外面に山形押型文を横位に帯状に施す一群である。これらは器壁が薄いことから２分の１の縮尺で掲載している。

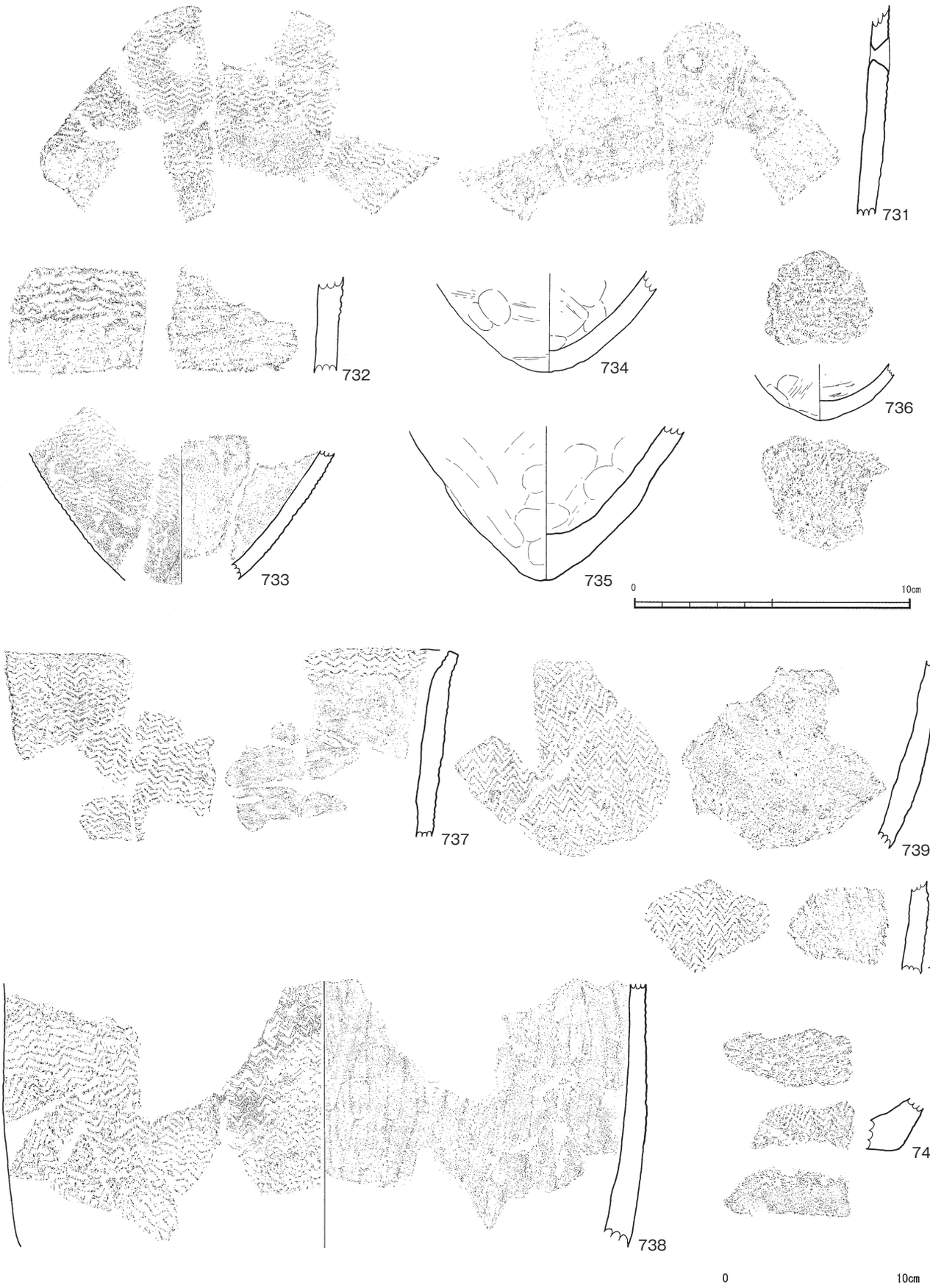
718～730 は直口する口縁部で，内面調整はナデを行う。718～723・729 は，内面にも山形押型文を横位に施す。器壁はいずれも薄く，0.4cm～0.6cmである。色調は褐色である。口唇部を 718～728 は舌状に成形し，729・730 は平坦面を作り出している。718・720～722 は，内面調整を行った工具痕が確認できる。720 は内面の施文後にヘラ状工具による非常に丁寧なナデを行っているが，721・722 は内面の施文や工具痕も一部ナデ消している。720 は焼成後，内外面より穿孔した補修孔が確認できる。725・727・729 は，口唇部にも山形押型文を施している。724・725 は内面に非常に丁寧なナデを行っている。726 は外面の山形押型文が１段目と３段目は非常に浅く施されているが，２段面は明瞭に施文されている。内面には指おさえ痕が多く確認できる。胎土に白色粒子を多く含み，繊維痕が確認できる。727・728 は内面に繊維状の擦痕や指おさえ痕が確認できる。729 は外面の無文帯は丁寧なナデを行っている。口唇部内面も一部文様をナデ消している。730 は内面に指おさえ痕が確認できる。

731・732 は胴部で，内面はナデを行っている。731 は外面に横位の山形押型文が帯状に施されるが，底部に向かう下位の一部は斜位に施す箇所がある。また，繊維状の擦痕や指おさえ痕も確認できる。焼成後内外面より穿孔した補修孔が確認できる。

733～736 は底部である。横位の帯状の山形押型文は 733 しか確認できなかった。734～736 は無文である。他の口縁部と成形方法，調整，胎土等が類似していることからここに加えた。ただし，無文土器の一部や器壁が非常に薄く，小粒の楕円押型文を横位に帯状に施文する一群の底部の可能性もある。733 は底面付近が残存していないが，尖底の底部と考えられる。横位の帯状の山形押型文は底面付近まで施しているが，先端部は無文で丁寧にナデを行っている。内面もナデを行っている。尖底部分の器壁は 735 は肥厚しているが，734・736 は薄い。こ




第 317 図　XI類土器（9）




第 318 図　XI類土器（10）

れは底部の作り出しに際して，735 は粘土塊から，734・736 は粘土板の状態から成形した差異と考えられる。734・735 は内外面に指おさえ痕や胎土に繊維痕が確認できる。736 は内外面ともに非常に丁寧なナデを行っている。

737～741 は外面に山形押型文を横位に密接に施す一群である。

737 は口縁部である。口縁部がやや外傾する器形で，口唇部を平坦に成形している。内外面に横位の山形押型文を明瞭に施している。内面の横位の施文幅は 1.4㎝である。原体 1 単位幅の施文であると考えられる。内面はナデを行っている。

738～740 は胴部である。内面に縦位，斜位のケズリを行っている。胎土に小礫，白色粒子を多く含む。738 は胴部下半で山形押型文が斜位に施されている。内面の縦位の工具痕は，幅広で明瞭である。胎土に金雲母を含む。739・740 は横位の山形押型文を明瞭に施している。文様，調整，胎土等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。

741 は底部である。山形押型文を底面境付近まで横位に施す。底部外面は指おさえ痕が確認でき，丁寧にナデを行っている。内面はケズリを行っている。

742～782 は外面に山形押型文を縦位もしくはやや斜位に施す一群である。

742～752 は口縁部である。いずれも内面に山形押型文を横位に施している。743・746～752 は，口唇部にも山形押型文を施している。

742～745 は内面にナデを行う一群である。742 は口縁部が外反する器形である。器壁はやや薄く，口唇部は舌状に成形されている。内外面にはやや間延びした山形押型文を浅く施す。743 は波状口縁を呈すると考えられる。内面の押型文は波状口縁に沿うように横位に施されている。744 は口縁部から胴部下半まで復元することができ，口縁部が外反し，胴部が若干膨らみ底部に向けてすぼまる器形である。口唇部は平坦に成形している。外面は山形押型文を口縁部から胴部上半を縦位に，膨らみのある胴部中央付近は横位に，胴部下半は斜位に施している。内面は横位の山形押型文を施している。施文幅は 1.4㎝で，原体 1 単位幅の施文であると考えられる。内面は丁寧にナデを行っている。745 は口縁部がやや外傾する小型の器形と考えられる。内面はミガキ状の非常に丁寧なナデを行う。外面は間延びした山形押型文を縦位に密接に施す。内面は指おさえ痕が確認できる。

746～752 は内面にケズリを行う一群である。746～748 はやや外反する口縁部である。胎土に金雲母を多く含む。749 はやや外傾する口縁部である。750～752 は口縁部が外反する器形で，内面に明瞭な稜をもつ。750 は口縁部内面に横位の山形押型文を施し，丁寧にナデを行っているが，稜より下位は横位，斜位のケズリを行っている。胎土に小礫，金雲母，白色粒子を多く含む。

753～771 は胴部で，外面に山形押型文を縦位もしくは斜位に施す。

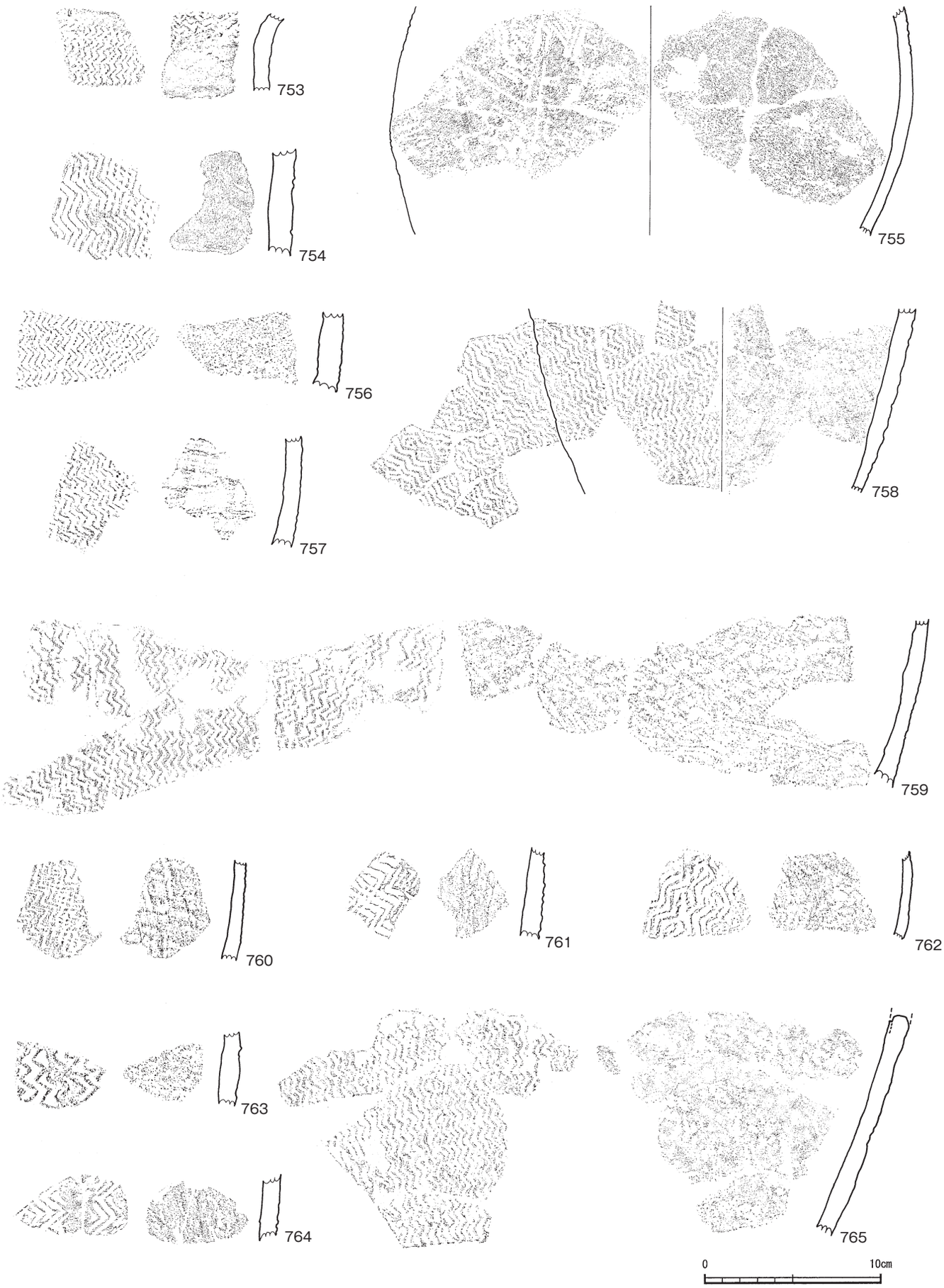
753～755 は内面にナデを行う一群である。753 は内面に横位の山形押型文を施しており，外面も上位で横位のナデを行った後，縦位の山形押型文を施しているところから，口唇部のみが剥落した口縁部付近と考えられる。内面は横位の施文が施されない箇所は丁寧なナデを行っている。754 はやや間延びした山形押型文が非常に明瞭に施されている。内面はミガキ状の非常に丁寧なナデを行っている。胎土に金雲母，白色粒子を多く含む。755 は胴部が膨らむ器形である。外面は胴部上半に斜位のやや間延びした山形押型文が非常に浅く部分的に施される。胴部下半は無文でナデを行っている。内面は湾曲を作るための内傾接合の痕跡や指おさえ痕が確認できる。

756～771 は内面にケズリを行う一群である。756 は外面に山形押型文を縦位に明瞭に施す。757・760 は外面に山形押型文を縦位に浅く施す。757 は内面に横位のケズリを行い，工具痕が明瞭に確認できる。758 は底部に向けて胴部下半が直線的にすぼまる器形である。外面は斜位の山形押型文を密接に施す。器面は指おさえ痕が多く確認できる。内面は斜位のケズリを行い，繊維状の擦痕が確認できる。759 は大型の器形と考えられる。外面は縦位，斜位の山形押型文を施すが，部分的に施文されない箇所には丁寧なナデを行っている。758 同様に外面は成形時の凹凸が確認できる。内面は横位，斜位のケズリを行っている。胎土に小礫，金雲母，白色粒子を多く含む。760 は内面に縦位，斜位のケズリを行う。胎土に金雲母を多く含む。762 は外面にやや間延びした山形押型文を斜位に施す。器壁が 0.5㎝と薄い。761 は外面にやや長大な山形押型文を縦位に密接に施す。内面は縦位のケズリを行う。763・764 は外面にやや長大な山形押型文を間隔を空けて縦位に施す。764 の外面の無文部はナデを行っている。765～771 は底部付近である。外面に成形時の指おさえ痕が確認できる。765 は外面にやや間延びした縦位の山形押型文を施す。胎土に小礫，白色粒子，金雲母を多く含む。内面は丁寧なナデを行っている。766・768 は縦位，767・769～771 は斜位のケズリを行っている。767・770 は外面に山形押型文を一部施さない部分がある。

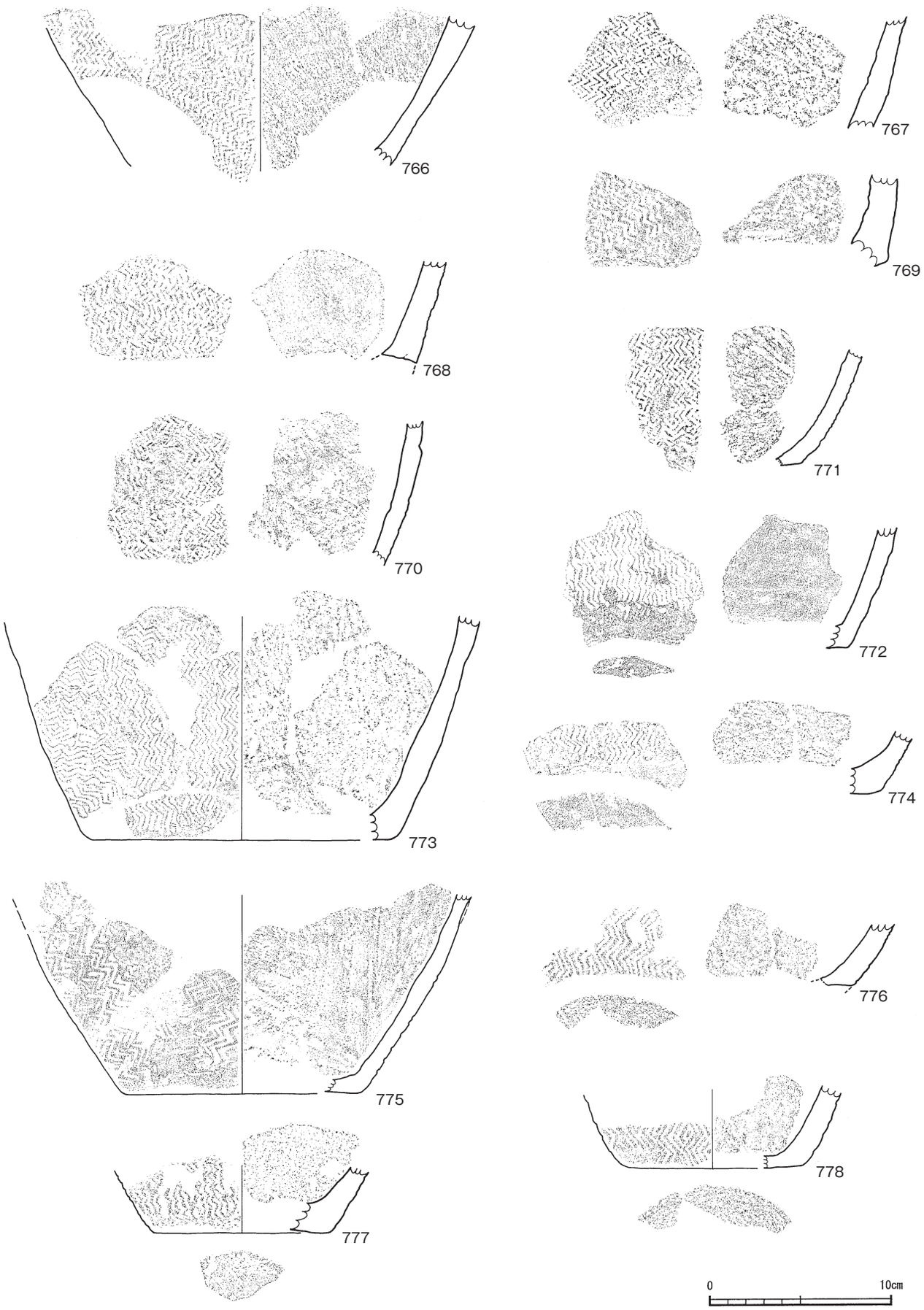
772～782 は底部である。外面に山形押型文を縦位もしくは斜位に施す。772 のみ内面にナデを行っている。他はケズリを行っている。772 は外面に山形押型文を縦位に密接に施す。また，横方向の指おさえ痕が多数確認できる。さらに，底面境付近は，無文でミガキ状の非常に丁寧なナデを行っている。底面もわずかに残存しているが，底部外面にも同様のナデが行われている。773 も



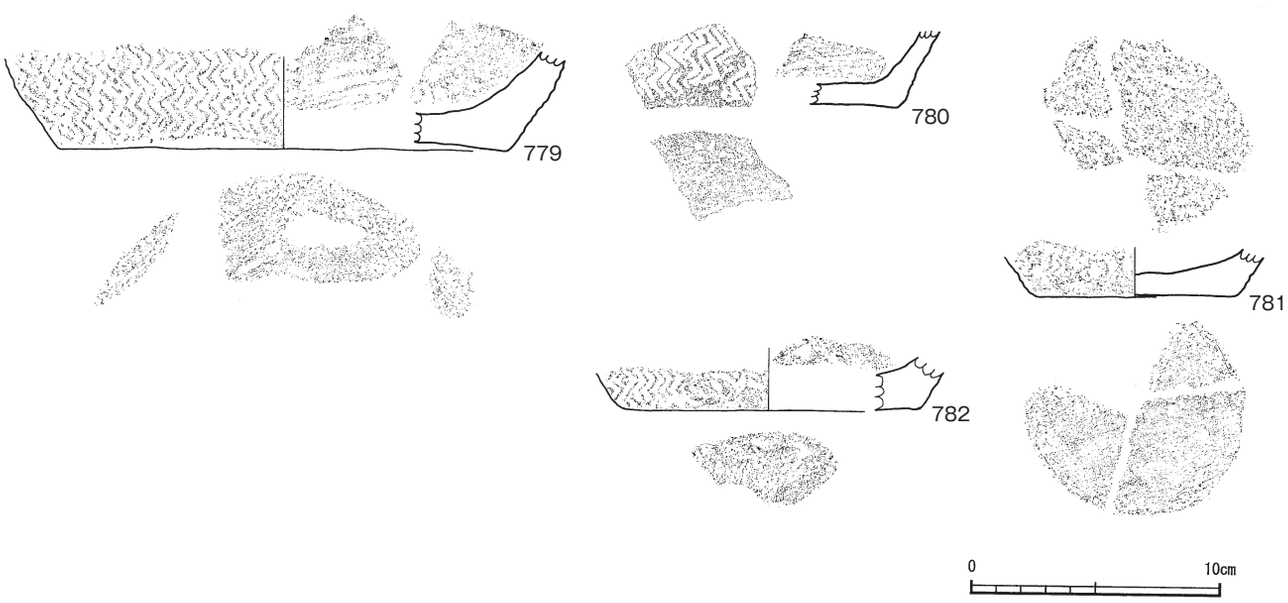

第 319 図　XI類土器（11）




第 320 図　XI類土器（12）




第 321 図　XI類土器（13）




第 322 図　XI類土器（14）

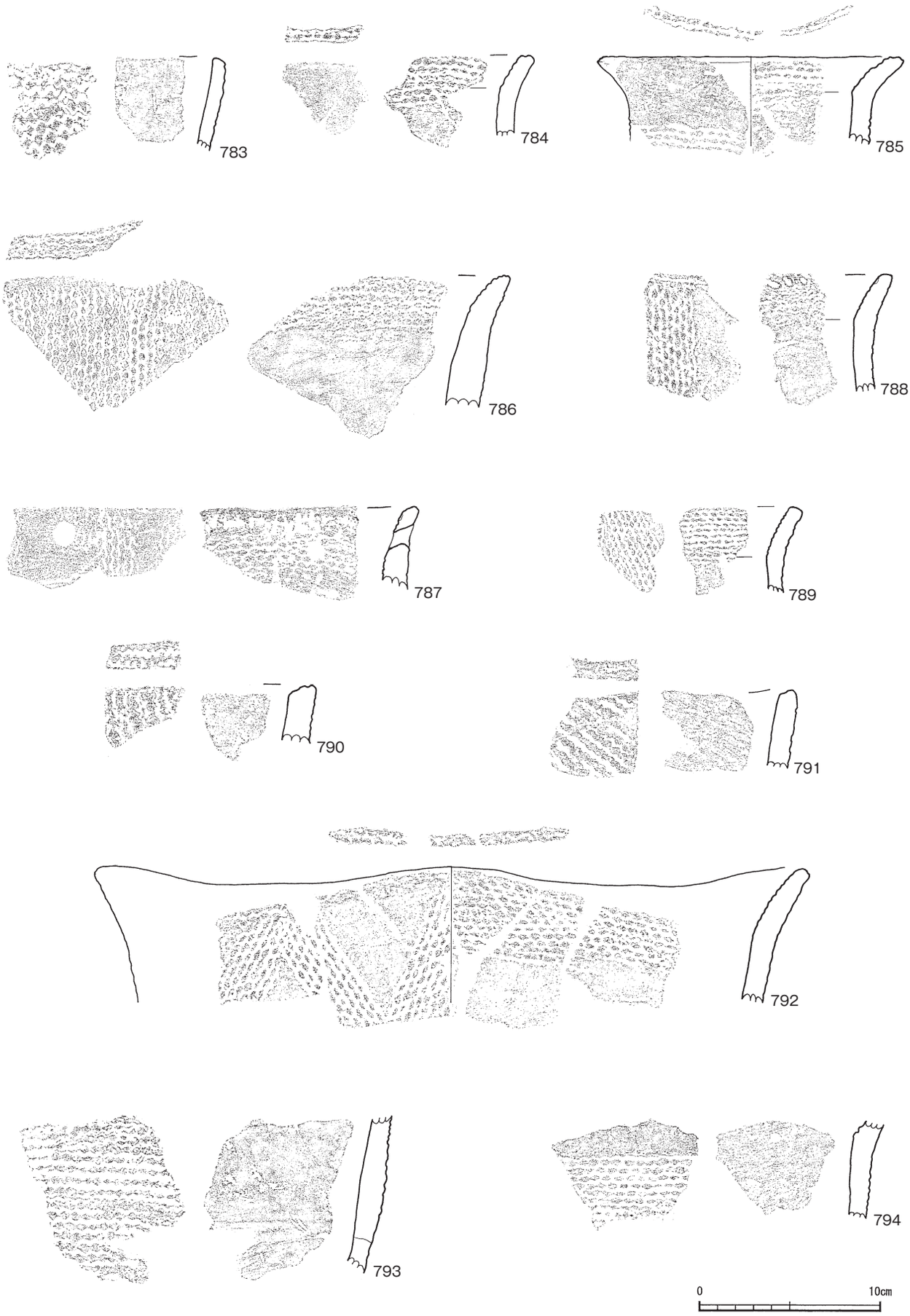
外面に横方向の指おさえ痕が多数確認できる。外面は縦位の山形押型文を底面境付近まで密接に施す。内面は幅広のヘラ状工具による斜位のケズリを行っている。胎土に小礫，金雲母を多く含む。774 の底面境付近は無文で，底部外面まで丁寧なナデを行っている。胴部内面は斜位のケズリを行っている。775 は山形押型文を，間隔を空けて縦位，斜位に施す。無文部と底部外面はナデを行っている。底部の器壁は薄い。胎土に小礫，金雲母を多く含む。776・777 は微細な山形押型文を縦位に施す。775～777 の底部と胴部は底部円盤の外周部に粘土紐を巻き付け，胴部を外側に傾斜するように成形し，その後，胴部から底部内面に粘土を伸ばして接合している。底部外面はナデを行っている。胎土に金雲母を含む。778 は山形押型文を縦位に底面境付近まで施すが，施文具の向きを交互に変え，菱形状のモチーフとなっている。一部無文の箇所はナデを行っている。内面や底部外面はケズリを行っている。779 はやや大型の底部である。外面は明瞭な山形押型文を縦位に密接に施す。内面と底部外面の外周部分はケズリを行っているが，底部外面の内側は丁寧なナデを行っている。底部円盤外周に粘土紐を高台状に巻き付け，底部円盤外面もヘラ状工具により器壁を一部薄く成形することによりやや上げ底気味の底部となっている。780 は器壁が薄く，内面には横方向のケズリを行っている。外面は山形押型文を底面境まで縦位に密接に施す。底部外面は丁寧なナデを行う。胎土に小礫，金雲母，白色粒子を多く含む。781 も底部外面の内側に同様の成形時の工具痕が確認できる。ただし，底部外面すべて丁寧なナデを行っている。

783～798 は連珠押型文を外面に施す一群である。連珠とは，それぞれの粒が独立している楕円押型文と異なり楕円の粒が連なるような文様を指す。

783～792 は口縁部である。783～785 は外面の連珠押型文を横位に施すものである。783 は口縁部がやや外傾しながら直口する器形で器壁が薄い。口唇部，内面にミガキ状の非常に丁寧なナデを行っている。外面の連珠押型文は，大粒で密接に施される。胎土に金雲母を含み，色調は褐色である。784・785 は内面に明瞭な稜をもち，口縁部が外反する器形である。いずれも口唇部，口縁部内面に横位の連珠押型文を施し，内面の稜より下位はケズリを行っている。785 の口縁部外面は無文で丁寧なナデを行うが，頸部付近から胴部にかけて横位の連珠押型文を密接に施す。なお，784 の外面は無文であるが，785 と同様の施文と考えられるために本類に含めた。

786～788 は口縁部外面に連珠押型文を縦位に，内面に横位の連珠押型文を施す。786 の口唇部は舌状を呈し，口縁部がやや外反する。器壁が 2.0㎝とかなり厚く，内面はナデを行っている。787・788 は外面に縦位の連珠押型文を施し，部分的にナデ消している。787 には焼成後内外面から穿孔したと考えられる補修孔が，１か所確認できる。788 は口縁部が外反する器形で内面に明瞭な稜をもち，ナデを行っている。やや長粒の連珠押型文を外面は縦位に，内面は横位に施す。内面の横位の連珠押型文を施した後，口唇部内面には棒状工具による横位の刺突を１段施す。内面の稜より下位はナデを行っている。

789～791 は外面に斜位の連珠押型文を施すものである。789 は口縁部がやや外反する器形である。口唇部は




第 323 図　XI類土器（15）

平坦に成形し，丁寧にナデを行っている。小粒の連珠押型文を外面は斜位に，内面は横位に施す。790・791 は口縁部が直口する器形である。791 は緩やかな波状口縁となる。いずれも口唇部が内傾する。また，口唇部に連珠押型文を施しているが，791 は部分的に無文の箇所は丁寧にナデを行っている。内面は 790・791 ともケズリを行っている。

792 は 4 単位の波状口縁を呈する比較的大型の深鉢と考えられる。外面は連珠押型文を帯状に方向を変えて斜位に施す。無文部はナデを行っている。口縁部内面に横位の連珠押型文を施す。内面はケズリを行った後丁寧なナデを行っている。胎土に長粒の角閃石を非常に多く含む。

793・794 は胴部である。793 は外面を横位の連珠押型文を密接に施す。内面は非常に丁寧なナデを行っている。胎土に金雲母，白色粒子を多く含む。794 は内面上部に横位の連珠押型文を施していることから，口縁部付近と考えられる。外面は上位が無文で丁寧なナデを行っている。下位は横位の連珠押型文を密接に施す。内面はケズリを行っている。785 と文様，調整，胎土等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。

795～798 は底部で，外面に横位の連珠押型文が施される。795 は小型の底部である。外面の底面境付近は無文で，斜位のケズリを行っている。内面もケズリを行っている。底部外面に木葉痕が確認できる。796 は外面を底面境付近まで横位の連珠押型文を施す。底部外面，内面はナデを行っている。797 は外面に横位の連珠押型文を密接に施すが，一部斜位の箇所がある。底面境付近は無文で，底部外面とともにミガキ状の非常に丁寧なナデを施す。内面は縦位，斜位のケズリを行った後，ナデを行っている。798 は比較的大型の深鉢である。胴部中央から底部まであり，残存状況も良好である。外面は底面境まで施文が及ぶ。内面はナデが行われている。795～798 は底面境付近の胴部が底面より僅かにやや内側から立ち上がっていることから，底部円盤の外周上に粘土紐をのせ，胴部を輪積み成形したと考えられる。

799～813 は波状押型文を施す一群である。波状押型文とは山形押型文がやや変形し，波状を呈するものを指す。さらに，押型文の太さで細分した。

799～807 は外面に太めの波状押型文を施す一群である。

799･800 は口縁部である。799 は口縁部がやや外反し，胴部下半が底部へ向けてすぼまる器形を呈する。口唇部は平坦に成形し，丁寧にナデを行っている。外面は太めの波状押型文を口縁部から胴部上半にかけて縦位に，胴部下半は横位に，さらにその下位には斜位に施す。口縁部内面にも横位の太めの波状押型文を施す。それより下位は丁寧なナデを行っている。800 は口縁部がやや外傾する器形である。外面は太めの波状押型文を縦位に間隔を空けて施す。無文部は丁寧なナデを行う。口縁部内面には横位の太めの波状押型文を施し，それより下位はナデを行っている。なお，土器付着の炭化物を放射性炭素年代測定した結果，9,455～9,271calBP の結果が得られた。

801～804 は胴部である。801 は外面施文の一部に間隔の開いた箇所がある。内面は丁寧なナデを行う。802 は底部付近と考えられる。外面は太めの波状押型文を上部は縦位に，下部は横位に施す。内面は丁寧なナデを行う。799・801・802 は，文様構成や調整，胎土等から同一個体の可能性が高いと考えられる。804 は底部付近と考えられる。外面は太めの波状押型文を縦位，斜位に施し，底面境付近は無文で丁寧なナデを行っている。内面はナデを行っている。

805～807 は底部である。805 は小型の土器である。外面は太めの波状押型文を底面境付近まで縦位に密接に施す。底部外面，内面はナデを行っている。807 は底面が僅かに残存し，平底と考えられる。外面は太めの波状押型文を横位に施す。底面境付近は無文でミガキ状の非常に丁寧なナデを行っている。内面調整も同様である。胎土に小礫，金雲母，白色粒子を多く含む。

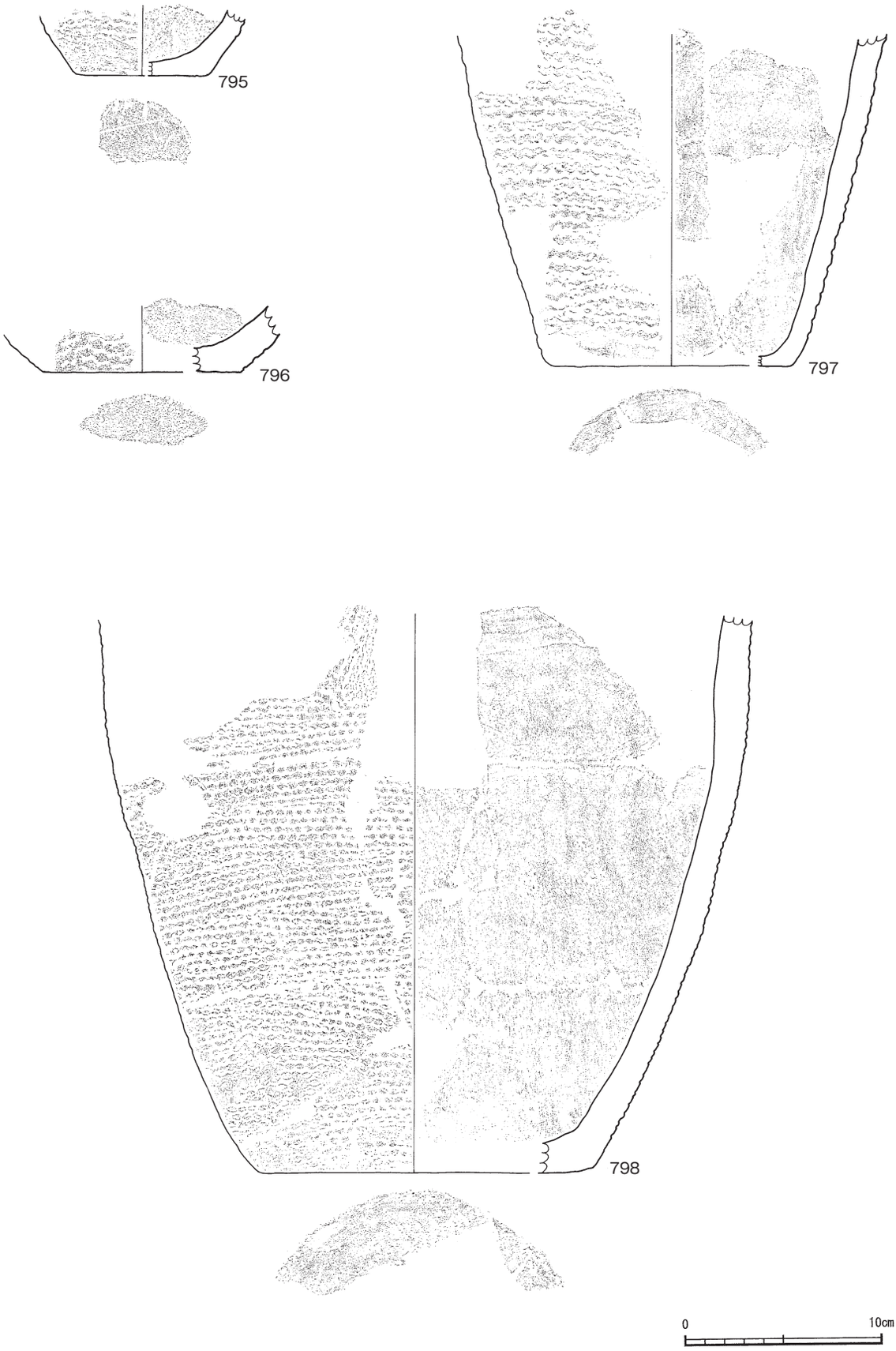
808～813 は外面に細めの波状押型文を施す一群である。

808・809 は口縁部である。いずれも口縁部がやや外反する器形である。808 は内面に明瞭な稜をもつ。外面は口縁部を縦位の，頸部は横位の細めの波状押型文を施す。口唇部内面に短い柵状文を施し，口縁部内面には横位の細めの波状押型文を施す。それより下位は横位のケズリを行う。809 は外面に細めの波状押型文を口縁部上位は横位に，下位は斜位に施す。口唇部や口縁部外面の一部は丁寧なナデを行う。口縁部は横位の細めの波状押型文を施した後に，口唇部内面より柵状文を施す。波状押型文より下位はケズリを行っている。

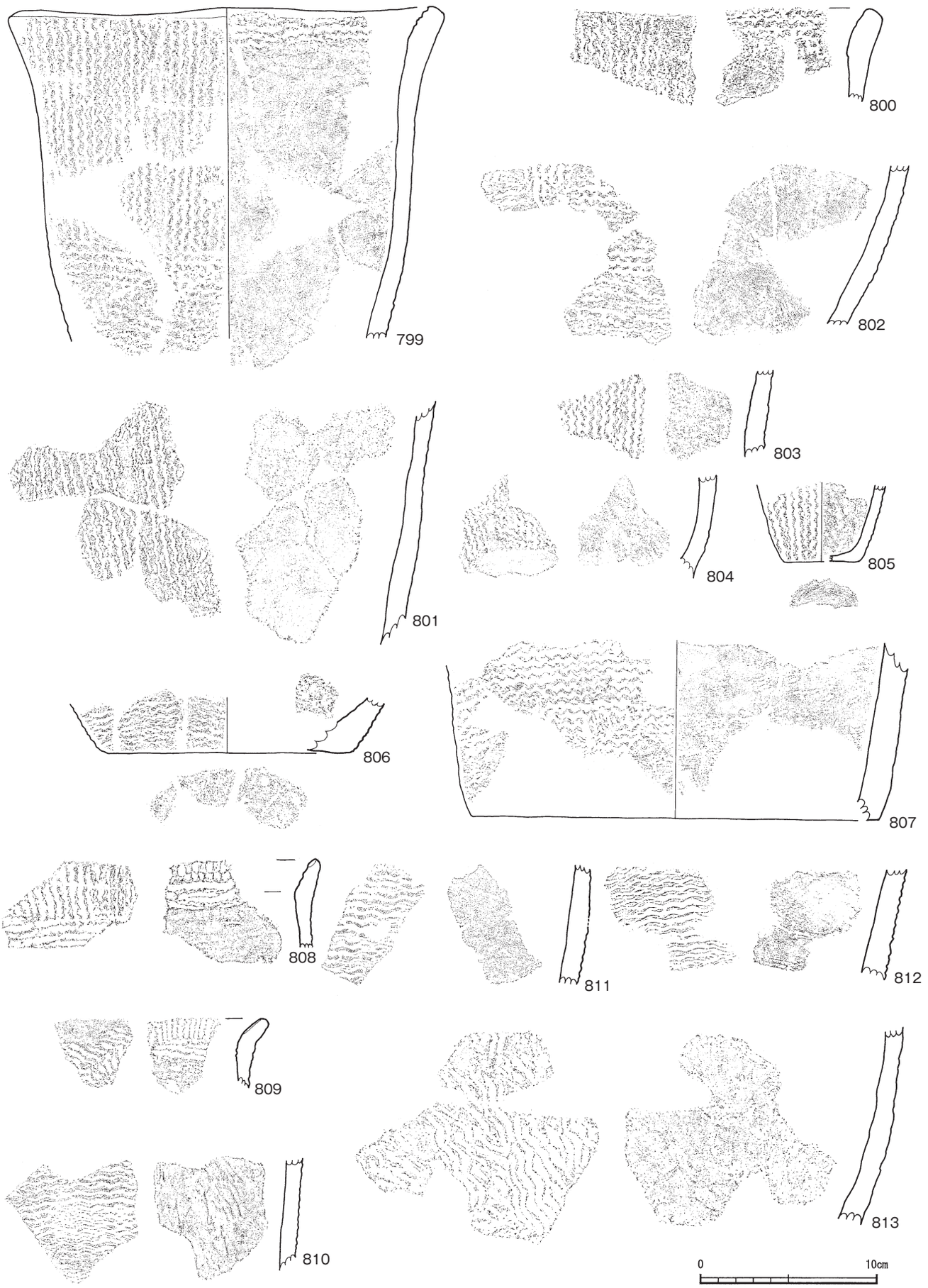
810～813 は胴部である。810～812 は外面に横位の細めの波状押型文を施す。内面は丁寧なナデを行う。813 は外面に斜位の細めの波状押型文を施す。一部施文を行わない箇所があり，丁寧なナデを行う。内面は縦位，斜位のケズリを行う。

814～817 はネガティブな押型文を施す一群である。814～816 は菱形状，817 はキャタピラー状となる。814 は口縁部に向けて直線的に開く器形と考えられる。外面は縦位もしくは斜位の施文を行う。内面はケズリを行った後，丁寧なナデを施す。816 は外面の文様を一部ナデ消した箇所がある。817 の外面は原体を縦位に施文したと考えられる。

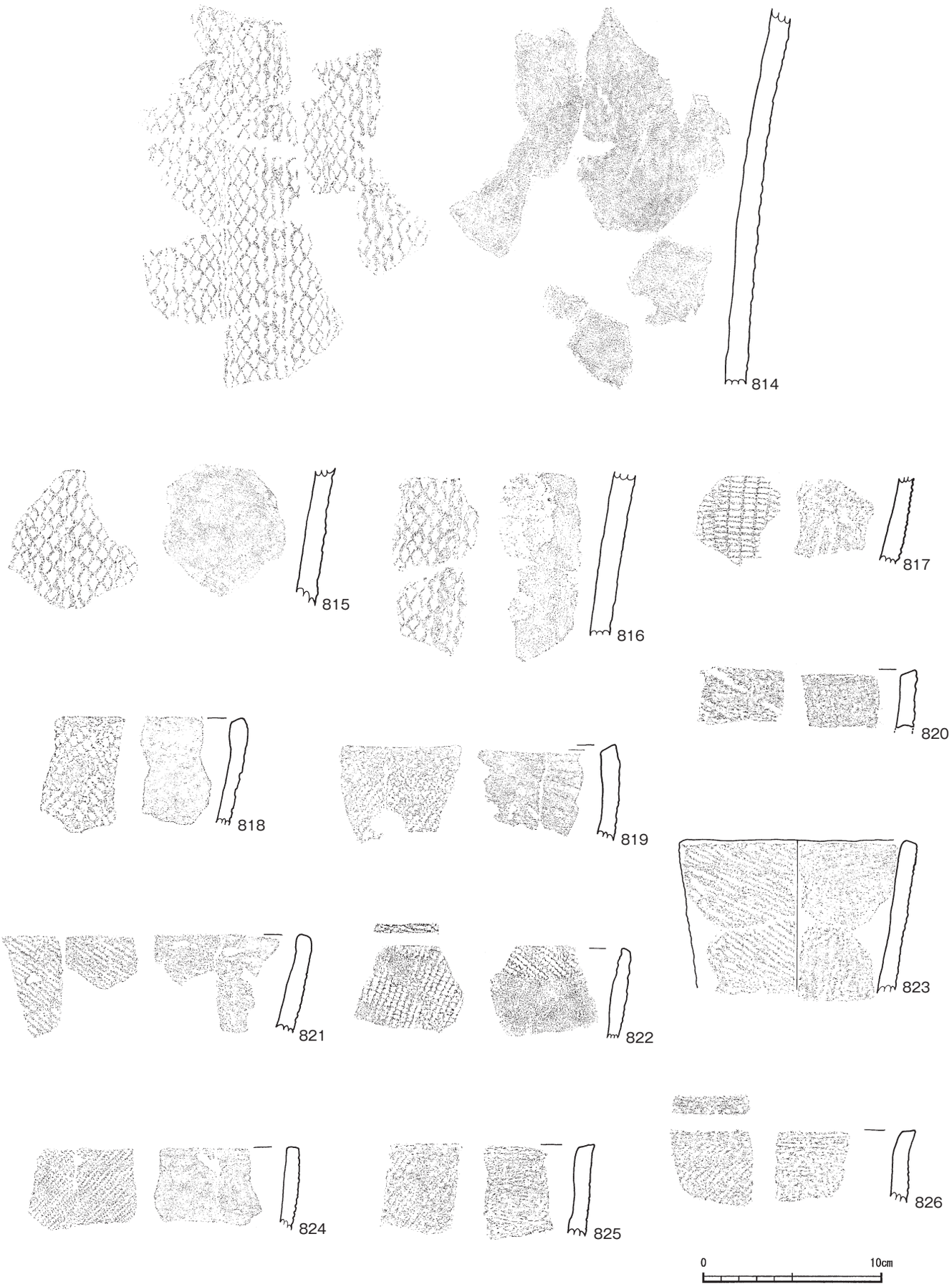
818～826 は縄文を施す一群である。口縁部はやや内傾するか直口する器形である。いずれも内面はナデが行




第 324 図　XI類土器（16）



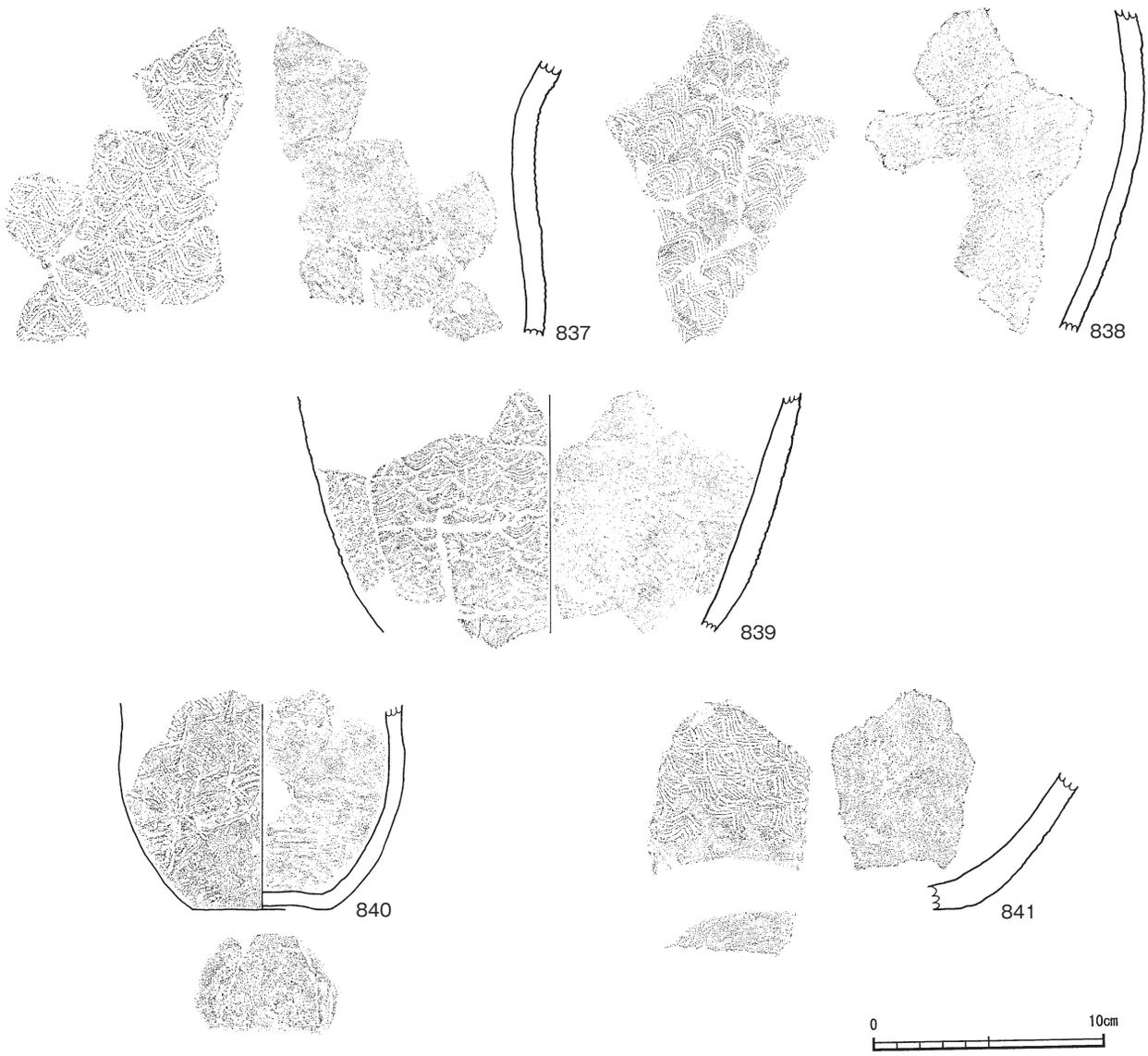

第 325 図　XI類土器（17）




第 326 図　XI類土器（18）




第 327 図　XI類土器（19）



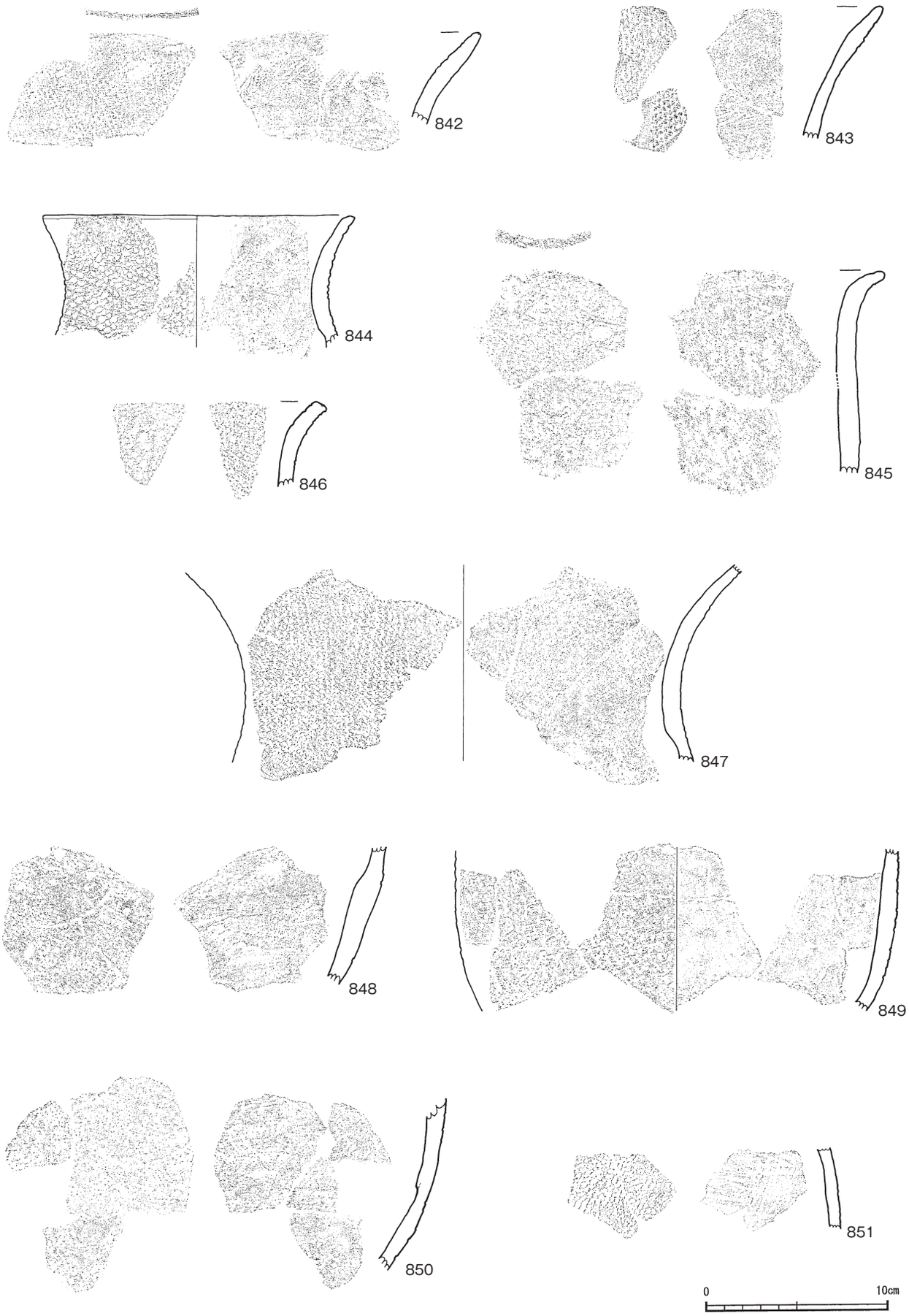

第 328 図　XI類土器（20）

われるが，特に 818･819 はミガキ状の丁寧なナデを行う。818～820 は口唇部に内傾する平坦面をもつ。821・823 は口縁部が直口する器形で，口唇部を平坦に作り，内面までナデを行っている。文様，調整，胎土等から同一個体の可能性が高いと考えられる。825･826 の口唇部は平坦で，口唇部外端が外側へ張り出す。818･819･824･825･826 は単節斜行縄文 LR を，820 は単節斜行縄文 RL を，821・823 は無節斜行縄文 R を横位に施す。822 は外面に単節斜行縄文 LR を，内面には単節斜行縄文 RL を横位に施す。胎土に 818 は金雲母を，819・821・823 は小礫，金雲母，白色粒子を，820・825 は角閃石を多く含む。

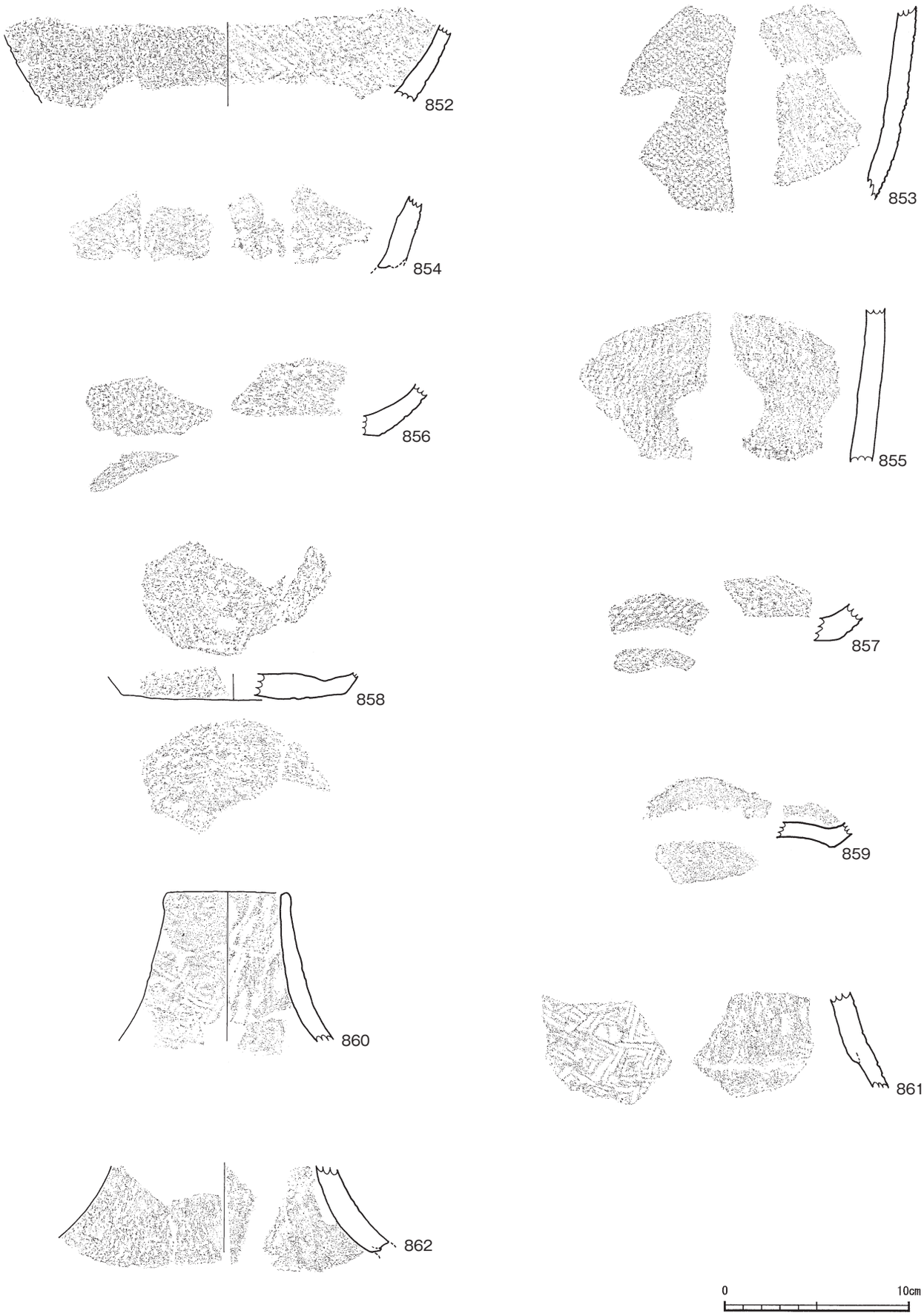
827～831 は撚糸文を施す一群である。いずれも文様，調整，胎土等から同一固体の可能性が高いと考えられる。827～829 は口縁部，830･831 は口縁部に近い胴部である。口縁部が大きく外反し，胴部中央で屈曲し，底部にむけてすぼまる器形である。器壁は全体的に薄く，0.5～0.7㎝である。外面は無節斜行縄文 R の原体を軸に密接に巻き付けて，縦位に施文している。口唇部には無節斜行縄文 R の原体を押圧している。口縁部外面上位は 0.5㎝程度の無文部があり，ナデを行っている。内面は指おさえ痕が多く確認でき，ナデを行っている。胎土に小礫，金雲母，白色粒子を含む。

832～841 は変形撚糸文を施す一群である。

832～834 は口縁部である。832 は口縁部が外反し，胴部中央で膨らみ，底部にむけてすぼまる器形である。外面に無節斜行縄文 R の原体を軸に巻き，連弧状の変形撚糸文を横位に施す。文様が乱れて施されている。口縁部外面の一部に「８」の字状を呈する箇所がある。胴部上




第 329 図　XI類土器（21）




第 330 図　XI類土器（22）

半に文様を一部ナデ消した箇所がある。内面は丁寧にナデを行っている。834 は口縁部がやや外反する器形である。口縁部外面に無節斜行縄文Ｌの原体を軸に巻き，密接した連弧状の変形撚糸文を縦位に施す。内面は上位に丁寧なナデを行い，下位はケズリを行っている。

835～839 は胴部である。835 は外面に無節斜行縄文Ｒの原体を軸に巻き，「８」の字状の変形撚糸文を縦位に施す。内部に数条のやや斜位の縦糸が確認できる。836 は胴部下半の一部と考えられる。外面は無節斜行縄文Ｌの原体を軸に巻き，波状の変形撚糸文を縦位に施す。無文部は文様をナデ消したと考えられる。胎土に小礫，金雲母，白色粒子を多く含む。837 は上位が外反し，下位が膨らみながらすぼまる器形である。外面は無節斜行縄文Ｒの原体を軸に巻き，連弧状の変形撚糸文を横位に密接に施す。弧状の内側には，数条の横糸が確認できる。内面はケズリを行った後，丁寧なナデを行っている。838・839 は底部にむけてすぼまる部分と考えられる。838 は 837 と原体や調整等が類似するが，弧状の向きが異なる。839 は連弧状の変形撚糸文が施されるが，832 と同じようにやや乱れて施文される。内面はケズリを行った後，丁寧なナデが行われる。

840・841 は底部である。840 は小型の土器である。球状の胴部でやや上げ底気味の底部である。外面は無節斜行縄文Ｌを軸に巻き，変形撚糸文を横位に施す。文様をナデ消し，斜位，横位の文様の一部が確認できる。内外面ともに丁寧なナデを行っている。841 は底部へむけてすぼまる器形である。外面に無節斜行縄文Ｒの原体を軸に巻き，連弧状の変形撚糸文を斜位に施す。内部に数条横糸が確認できる。底部外面は丁寧にナデを行っている。内面は縦位のケズリを行った後，ナデが行われる。

842～859 は外面に短枝回転文を施す一群である。短枝とは，木の枝の先端近くにある長枝から短く伸びる木の枝を指す。短枝回転文は，短枝もしくは類似する施文原体を回転して施文を行う。

842～846 は口縁部である。842 は口縁部が大きく外反する器形と考えられる。短枝回転文を外面は横位，斜位に，内面は横位に施す。施文間隔は内外面ともにまだらである。内面は成形時の指おさえ痕が確認でき，ナデを行っている。胎土に小礫，褐色粒子を多く含む。843・844 は口縁部が大きく外反する器形である。短枝回転文を 843 は外面に横位と一部は斜位に，内面は横位に，844 は外面に横位に施す。さらに，口唇部にも施す。内面はナデを行う。845 は口縁部がやや外反する器形である。短枝回転文を外面は横位，縦位，斜位に，口縁部内面は磨耗して判然としないが横位に施す。内面はケズリを行う。

847～855 は胴部である。内面を 847～851 はナデを，852～855 はケズリを行っている。847 は口縁部付近と考えられる。外面は短枝回転文を横位に施す。内面は指おさえ痕が確認でき，丁寧なナデを行う。胎土に金雲母を多く含む。848 は短枝回転文を不規則に施す。内面は幅広のヘラ工具による横位のナデを行っている。胎土に小礫，金雲母を含む。849・850 はやや大粒の圧痕が残る短枝回転文を施す。一部無文の箇所は丁寧なナデを行っている。内面は指おさえ痕が確認でき，ケズリを行った後，ナデを行っている。850 は内傾接合の痕跡が確認できる。文様，調整，胎土等から同一個体の可能性が高いと考えられる。851 は外面に施文方向は判然としないが，短枝回転文を密接に施す。内面は丁寧なナデを行う。852 は外面に短枝回転文を縦位，斜位に施す。内面は斜位のケズリを行う。胎土に金雲母を含む。853 は外面に短枝回転文を密接に施す。内面は斜位のケズリを行う。854 は底部付近である。接合痕から底部円盤の外周上に粘土紐をのせ，胴部を輪積み成形したと考えられる。855 は外面に短枝回転文を浅く施し，内面は斜位のケズリを行う。

856～859 は底部である。856～858 は内面にナデを行っている。859 は底部外面にナデを行っている。856～858 は底部と胴部の接合部分から底部円盤の外周上に粘土紐をのせ，胴部をやや外側に開くように輪積み成形したと考えられる。859 は底部円盤の外周に粘土紐が高台状になるように巻き付け，上げ底になるように成形している。外面は底面境付近まで短枝回転文を密接に施す。

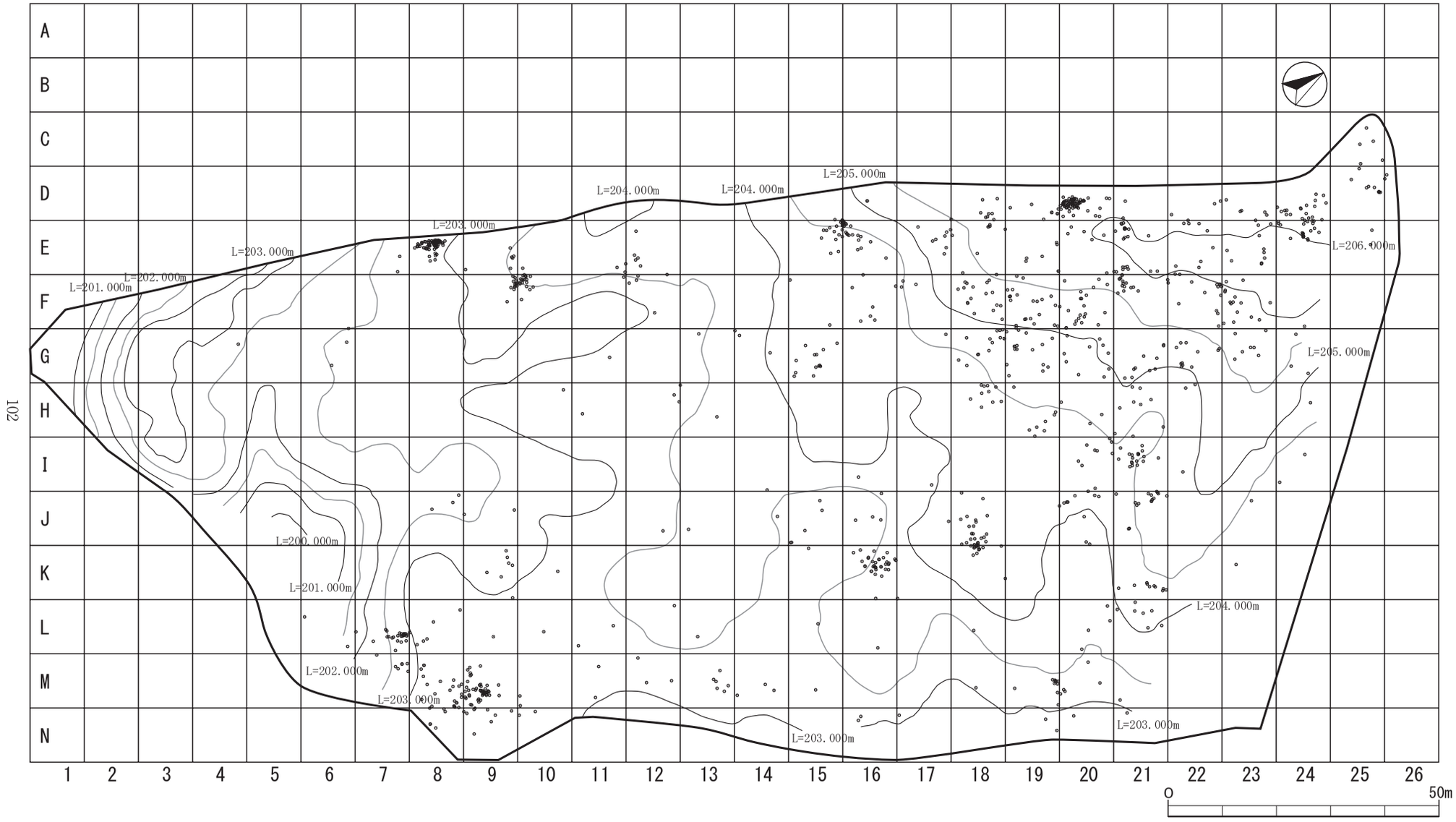
860～862 は壺形土器である。860 は口縁部である。外面は縦位の山形押型文の方向を違えて施文することにより，菱形のモチーフを描いている。内面にはヘラ状工具による縦位の調整痕が多く確認できる。861・862 は頸部である。861 は文様，調整，胎土等で 860 と同様であることから，同一個体の可能性が高いと考えられる。862 は外面に短枝回転文を施す。内面は肩部の湾曲に沿うようにヘラ状工具による縦位の調整痕が確認できる。胎土に小礫，金雲母，白色粒子を多く含む。

なお，本類土器に付着した炭化物で年代測定を行った。その結果，647 に付着した炭化物は 8,300 － 8,234calBC，720 に付着した炭化物は 8,217 － 7,936calBC，800 に付着した炭化物は 9,455 － 9,271calBP の値が得られた。

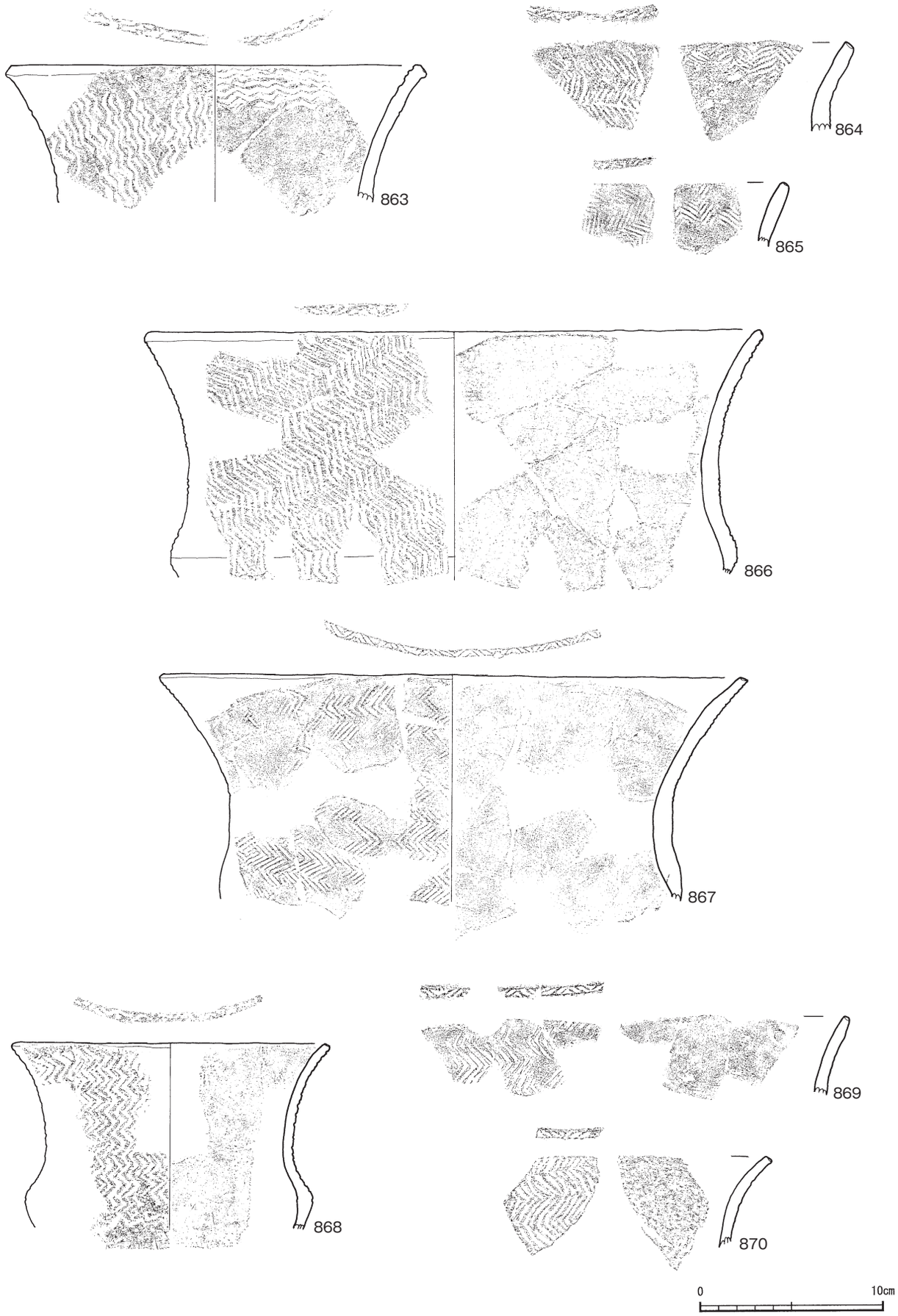
**（12）Ⅻ類土器（第 331～339 図　863～943）**

Ⅻ類土器は口縁部が大きく外反し，胴部で屈曲し，底部にむけてすぼまる器形を呈する。文様は外面及び口縁部内面に，押型文，撚糸文，細条線文，ミミズばれ文，沈線文等を施す。器面は内外面ともにナデを行う一群である。胎土に白色粒子，金雲母を含むものが多い。

863～890 は外面に山形押型文を縦位もしくは斜位に施す一群であるが，波状押型文も含む。さらに，文様構成，調整等により細分した。




第 331 図　XII類土器出土分布図




第 332 図　Ⅻ類土器（1）

863～875 は口縁部である。

863～865 は山形押型文を外面だけでなく，内面には横位に，さらに，口唇部にも施す一群である。863 は口縁部外面上位にナデを行い無文部とし，その下から山形押型文を施す。内面は横位の山形押型文を施し，その下位には丁寧なナデを行う。胎土に角閃石を多く含む。864 は外面に山形押型文をやや斜位に施す。内面には成形時の指おさえ痕が確認できる。内面は 863 と同様に山形押型文より下位はナデを行う。胎土に小礫を多く含む。865 は外面，内面，口唇部ともに山形押型文をやや浅く施す。口縁部内面の上位にナデを行い無文部とし，その下位に山形押型文を横位に施す。

866～875 は外面のみに山形押型文を縦位もしくは斜位に施す一群である。866～871 は口唇部にも山形押型文を施す。いずれも口縁部が外反する器形と考えられる。866 は大型の器形である。外面の口縁部から屈曲部の下位まで斜位の間延びした山形押型文を密接に施す。外面，口唇部ともに山形押型文は明瞭である。屈曲部内面付近には接合痕や指おさえ痕が一部確認できるが，口縁部内面は丁寧なナデを行い，器面の凹凸は少ない。867 は外面に山形押型文を縦位に浅く施す。一部文様をナデ消した箇所がある。口唇部に施された山形押型文は明瞭である。施文は口縁部から胴部上半まで及び，屈曲部より下位は非常に丁寧なナデを行う。口縁部から胴部上半内面は，横方向の繊維痕が確認でき，丁寧なナデを行う。屈曲部内面には，接合痕や指おさえ痕が確認できる。868 は小型の器形である。外面に明瞭な山形押型文を縦位に密接して施す。867 と同様に施文は，屈曲部より上の口縁部から胴部上半までである。口縁部内面は丁寧なナデを行う。屈曲部は胴部下半上位に，胴部上半部分の粘土紐を内傾接合し，上半部分が内傾するように指おさえによる成形を行っていると考えられる。屈曲部内面上位には，接合に際して生じた指おさえ痕が多数確認できる。869 は外面の山形押型文を一部ナデ消した箇所が確認できる。口縁部内面には，指おさえ痕と調整時の横方向の繊維痕が確認できる。胎土に小礫を含む。870 は外面に山形押型文を縦位に密接に施す。内面は丁寧なナデを行う。871・872 はやや間延びした明瞭な山形押型文を縦位に施す。口縁部付近の内面には丁寧なナデを行い，その下位には成形時の指おさえ痕が多く確認できる。胎土に小礫を多く含む。873 は屈曲部の内面に接合痕が確認できる。胴部上半と胴部下半の接合方法は，868 と同様で内面に指おさえ痕が多く確認できる。外面は口縁部付近や屈曲部より下位で，山形押型文を一部ナデ消した箇所がある。口唇部は丁寧なナデを行っている。胎土に小礫を多く含む。874 は文様，調整，胎土等から 873 と同一個体の可能性が高いと考えられる。875 は外面に間延びした山形押型文を浅く縦位に施す。内面は横方向の繊維状の細かい擦痕が確認でき，丁寧なナデを行う。

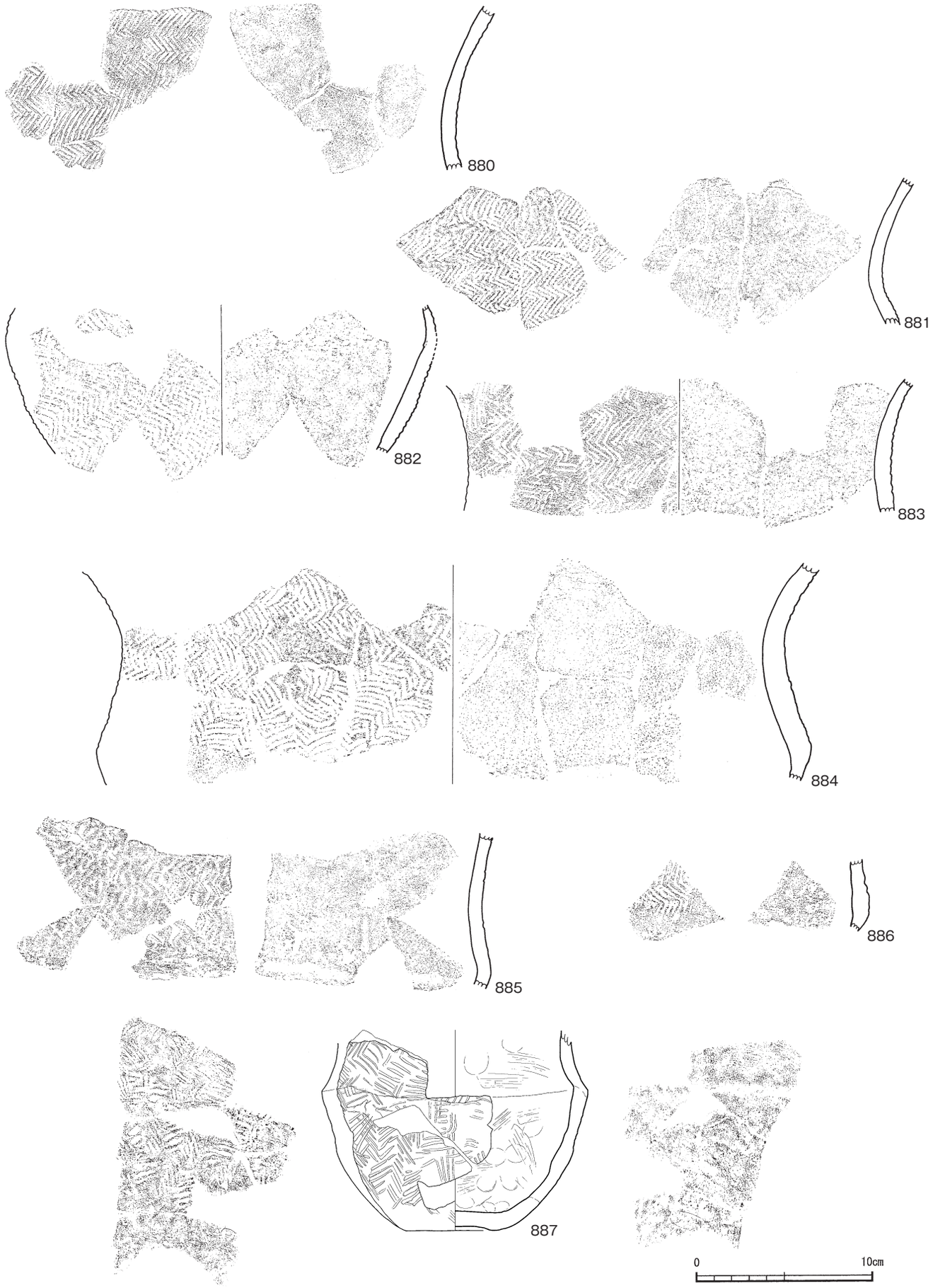
876～886 は胴部である。

876～883 は全面に文様が施される一群である。胴部上半のみ，胴部下半のみの破片も含む。876 は外面に胴部上半は縦位に，屈曲部付近は横位に明瞭な山形押型文を施す。内面は指おさえ痕が確認でき，丁寧なナデを行う。877 は大型の器形である。外面はやや間延びした山形押型文を胴部上半は縦位と一部やや斜位に，胴部下半は斜位に施す。胴部上半の一部は，原体の左右を違えて施文する箇所がある。屈曲部付近は，内外面ともに胴部上半部分を胴部下半に接合した際のナデ付け痕が一部確認できる。屈曲部で胴部上半下部を胴部下半上部に内傾接合し，外面部分は，端部を伸ばし付けるけるように胴部下半に接合していると考えられる。さらに，内面には指おさえ痕が多数確認できることから，指頭による器壁の厚さの調整を行いながら，外反するように器形の成形を行ったと考えられる。878 は外面に山形押型文を斜位に不規則に施す。下部に接合痕が確認でき，屈曲部に接合する胴部上半付近の破片と考えられる。内面には，指おさえ痕や横方向の繊維状の細かい擦痕が一部確認できる。胎土に小礫を含む。879 は外面に間延びした波状押型文を斜位に施す。内面はヘラ状の工具痕が部分的に確認でき，色調は灰黄褐色である。880 は外面に山形押型文を浅く縦位に施す。部分的に施文を行わない箇所や文様をナデ消した箇所がある。内面に横方向の繊維痕が一部確認できる。881 は外面に山形押型文を縦位に浅く施す。内面は丁寧なナデを行う。882 は胴部下半の破片と考えられる。外面に山形押型文を斜位に密接に施す。内面には指おさえ痕が多く確認できる。胎土に小礫を多く含む。883 は間延びした山形押型文を縦位，もしくはやや斜位に施す。内面は下位に指おさえ痕が確認でき，胴部上半を外反するように成形した際のものと考えられる。上位はナデをやや丁寧に行う。胎土に小礫を多く含む。

884～886 は胴部上半のみに施文する一群である。884 は大型の土器である。外面は上位に山形押型文を縦位に，屈曲部に近い下位は横位に施す。横位の施文幅は 1.5㎝程度あり，原体 1 単位分の幅であると考えられる。胴部下半は丁寧なナデを行う。内面には，屈曲部付近に胴部上半を接合した際のナデ付け痕が一部確認できる。胎土に小礫を非常に多く含む。885 は胴部下半はほとんど残存していないが，胴部上半の施文が屈曲部よりやや上部で終わり，屈曲部付近は丁寧なナデを行い無文であることから施文は胴部上半のみと考えられる。文様は拓本では山形押型文がほぼ全面に縦位，やや斜位に施されているように見えるが，左半分は文様を浅くナデ消しており，文様が判然としない箇所がある。右半分の山形押型文には，一部微隆線状の部分があるが原体を回転させ




第 333 図　Ⅻ類土器（2）




第 334 図　Ⅻ類土器（3）

施文したと考えられる。886 は外面に胴部上半下位まで山形押型文を縦位に密接に施し，屈曲部下位はナデを行う。

887 は底部で，小型の土器である。外面は間延びした山形押型文を胴部上半と屈曲部付近は斜位に，胴部下半は横位や一部斜位に施す。底面境付近は文様を一部丁寧にナデ消している。屈曲部の接合や成形は 877 に類似するが，胴部上半内面は横方向の細かい繊維状の擦痕が確認でき，指おさえ痕の凹凸が胴部下半に比べ少なく，ナデが丁寧である。上げ底状の底部で，底部円盤の外周に粘土紐を巻き付け胴部を輪積み成形していると考えられる。その際に，高台状に巻き付けることにより上げ底を作り出している。

888～890 は外面に山形押型文を縦位に施した後，沈線を施す一群である。888 は緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。外面は口縁部から胴部上半にかけて山形押型文を縦位に密接に施す。その後，２本１単位の半截竹管状の工具で口縁部上位，胴部上半のくびれ部，屈曲部付近に横位の沈線で割り付けを行い，その区画内を弧状の沈線でモチーフを描いたと考えられる。弧状の沈線は左から右へ施される。内面は口縁部下に山形押型文を横位に施す。それより下位はナデを行っている。屈曲部付近は指おさえ痕が確認できる。胎土に石英，角閃石を含む。889 は胴部上半から屈曲部付近である。外面は山形押型文を胴部上半は縦位に，屈曲部は横位に施した後，２本１単位の半截竹管状の工具で横位の沈線を施す。一部波状を呈する箇所もある。内面は屈曲部付近に幅 0.9㎝の横位方向のヘラ状の工具痕が確認できる。890 は胴部上半の一部である。888 と文様構成，調整，胎土等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。

891～900 は外面に菱形押型文を施す一群である。菱形押型文とは，同一原体上に方向の異なる山形の印刻を施すことで，菱形の押型文が施されるものである。山形押型文の施文原体を方向を違えて菱形状を呈するものとは異なる。菱形の中央部にも粒状，縦線状の押型文が施されるものもある。

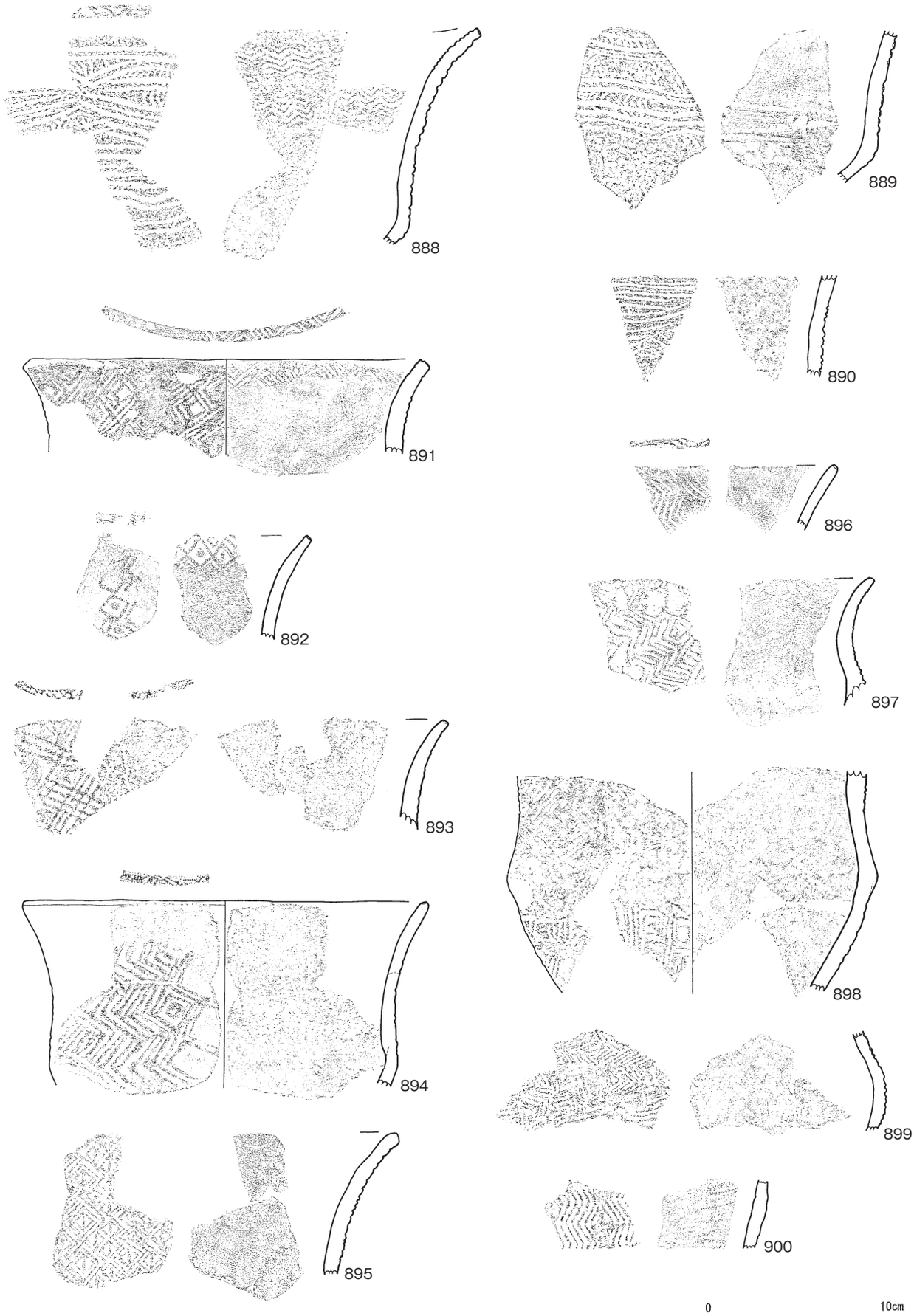
891～897 は口縁部である。891・892 は外面，口縁部内面，口唇部にも菱形押型文を施す。891 は外面の菱形押型文をナデ消した箇所があり，横方向の繊維状の細かい擦痕が確認できる。口縁部内面に指おさえ痕が確認できる。内面は丁寧なナデを行った後，口縁部は横位の菱形押型文を施す。892 の外面に施される菱形押型文は浅い。内外面とも菱形押型文の中央部は粒状の文様となる。893 は外面に斜格子状の菱形押型文を縦位に施す。胎土に小礫を含み，色調は灰黄褐色である。894 の外面には，口縁部のやや下がった位置から密接な浅い菱形押型文を縦位に施す。菱形押型文の中央部は粒状の文様となる。また，口唇部，屈曲部下位の胴部下半にも一部にも施文する。895 は口縁部が大きく外反する器形である。外面に明瞭な菱形押型文を縦位に施す。菱形押型文の中央部は，縦線状の文様となる。内面には指おさえ痕が多く確認できる。色調は灰黄褐色である。896 は器壁が薄く 0.5㎝である。外面に浅い菱形押型文をやや斜位に施す。さらに口唇部にも一部施文している。内面は丁寧なナデを行う。897 は外面に浅い菱形押型文をやや斜位に施す。菱形押型文の中央部は一部線状となるが，大半は判然としない。屈曲部が剥落しており，施文がどこまで及ぶかは不明である。内面には細かい繊維痕が確認でき，丁寧なナデを行っている。

898～900 は胴部である。898 は屈曲部付近の破片である。屈曲部の接合や成形は，877 に類似する。外面は胴部上半に菱形押型文を縦位に施した後，丁寧なナデを行う。胴部下半は明瞭な菱形押型文をやや斜位に施す。菱形押型文の中央部は粒状の文様となる。内面は胴部上半に横方向の繊維状の細かい擦痕が確認でき，丁寧なナデを行っている。胴部下半には指おさえ痕が，多く確認できる。899 は外面の胴部上半は縦位に，胴部下半は横位に明瞭な菱形押型文を施す。菱形押型文の中央部は粒状の文様となる。内面は非常に丁寧なナデを行い，器面の凹凸は少ない。900 は胴部下半の破片と考えられる。やや間延びした菱形押型文を縦位に施す。菱形押型文の中央部は粒状の文様となる。

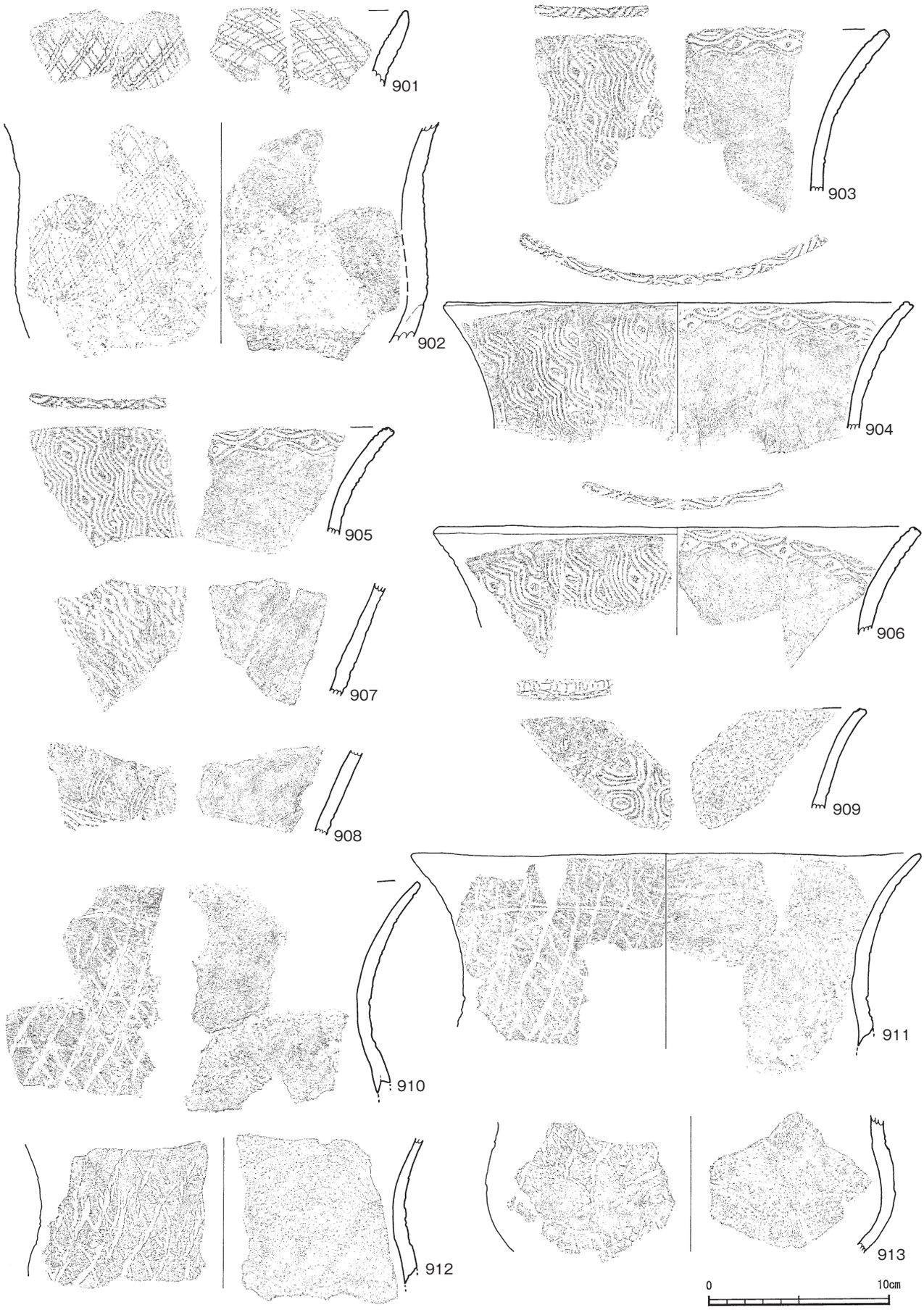
901・902 は外面に斜格子状押型文を施す一群である。斜格子状押型文は，施文原体に方向の異なる斜位の２本１単位の印刻を施すために斜格子状を呈する押型文が施されるものである。901 は口縁部である。斜格子状押型文を外面は縦位に，内面は横位に施す。胎土に小礫，長粒の角閃石を多く含み，色調は灰黄褐色である。902 は外面に胴部上半から屈曲部下位にかけて斜格子状押型文を縦位に施す。屈曲部付近が大きく剥落しており，施文範囲は判然としない。ただし，胴部上半の格子状押型文が明瞭であるのに対して，屈曲部付近は文様がナデ消された箇所がある。内面も屈曲部に近い胴部上半下位が大きく剥落している。胎土に小礫，長粒の角閃石を多く含む。色調は灰黄褐色である。文様，調整，胎土等が 901 と類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。

903～908 は外面に同心円状押型文を施す一群である。同心円状押型文とは，同一原体上に方向の異なる波状の印刻を施し，同心円状を呈する押型文が施されるものである。同心円の内部には粒状の押型文が施される。

903～906 は口縁部である。いずれも同心円状押型文を外面は縦位もしくはやや斜位に，口縁部内面は横位に，口唇部に施す。口唇部は原体を器面に直交するように当て施文している。内面は丁寧なナデを行う。903 は外面




第 335 図　Ⅻ類土器（４）




第 336 図　Ⅻ類土器（5）

に同心円状押型文を縦位に施す。内外面ともに丁寧なナデを行う。外面には煤状の付着物が多く確認できる。904・905は外面に同心円状押型文を縦位，やや斜位に施す。一部文様をナデ消す箇所がある。煤状の付着物が多く確認できる。903～905は外面の施文開始位置で一部異なるものの，文様，胎土，調整等で類似する点が多く，同一個体の可能性が高いと考えられる。906は外面に同心円状押型文を縦位，もしくはやや斜位に施す。胎土に粒子の小さい角閃石を多く含み，色調は灰黄褐色である。

907・908は胴部である。907は胴部上半の一部と考えられる。外面に同心円状押型文を斜位に施し，内面に指おさえ痕が確認できる。色調は灰黄褐色である。908は外面に浅い同心円状押型文を縦位に施した後，横位の沈線を施す。内面は丁寧なナデを行う。

909は外面に同心楕円押型文を施すものである。外面に施文した後，口縁部上位の一部をナデ消している。口唇部内面にも明瞭な同心楕円押型文を施し，内面は丁寧なナデを行う。

910～913は外面に網目状撚糸文を施す一群である。

910・911は口縁部である。外面は軸に無節斜行縄文Rをやや間隔を空けて右巻き後，左巻きしたものを縦位に施している。内面は口縁部付近に横方向の擦痕が確認でき，丁寧なナデを行っている。911は口縁部外面に横位の沈線状の擦痕が確認できる。屈曲部付近は指おさえ痕が，多く見られる。胎土に径0.1～0.3㎝程度の黒雲母・金雲母を非常に多く含み，色調は褐灰色である。

912・913は胴部である。912は胴部上半，913は胴部上半下位から屈曲部付近である。913はやや丸みを帯びた屈曲部である。外面文様，内面調整，胎土，色調ともに910・911に類似する。このことから，910～913は同一個体の可能性が高いと考えられる。913の屈曲部下位から胴部下半には施文が見られず，丁寧なナデを行っている。施文は口縁部から胴部上半に限られると考えられる。いずれも外面に煤状の付着物が確認できる。

914～916は外面に撚糸文を施す一群である。916は施文は確認できないが，914・915と調整，胎土，色調等で類似することからここに含めた。914は口縁部が大きく外反し，胴部中央の屈曲部で底部に向けて直線的にすぼまる器形である。屈曲部内面は接合痕が確認でき，877のような屈曲部の接合と異なり，胴部上半を下半になで付けるような箇所は見られない。胴部下半上位の接合面にやや内傾するように胴部上半下位にあたる部分の粘土を輪積み成形していると考えられる。外面は無節斜行縄文Rの極めて細い原体を軸に密接に巻き，口縁部から胴部上半に縦位もしくはやや斜位に施す。口唇部にも同様の絡条体で施文する。胴部下半は胴部上半と同じ原体を２本１単位で軸に左巻き後，右巻きしたものを縦位，斜位に施す。口縁部内面上位には外面の胴部上半に用いた撚糸を横位に施す。一部指おさえ痕の箇所は，文様が消されている。口縁部内面下位は，斜格子状押型文を横位に部分的に施す。胴部内面は指おさえ痕が確認できる。胎土に長粒の角閃石を多く含み，色調は灰黄褐色である。915は屈曲部付近の胴部である。外面は胴部上半に無節斜行縄文Rの細い原体を軸に密接に巻いたものを縦位に施す。屈曲部下位では原体の擦痕が一部確認できるが，無文である。屈曲部内面に接合痕が確認できる。916は上げ底の底部である。底部円盤の外周に粘土を巻き付けて胴部を輪積み接合している。底部円盤の中心部分を上げ底状に高くなるように成形している。胎土に長粒の角閃石を多く含み，色調は灰黄褐色である。

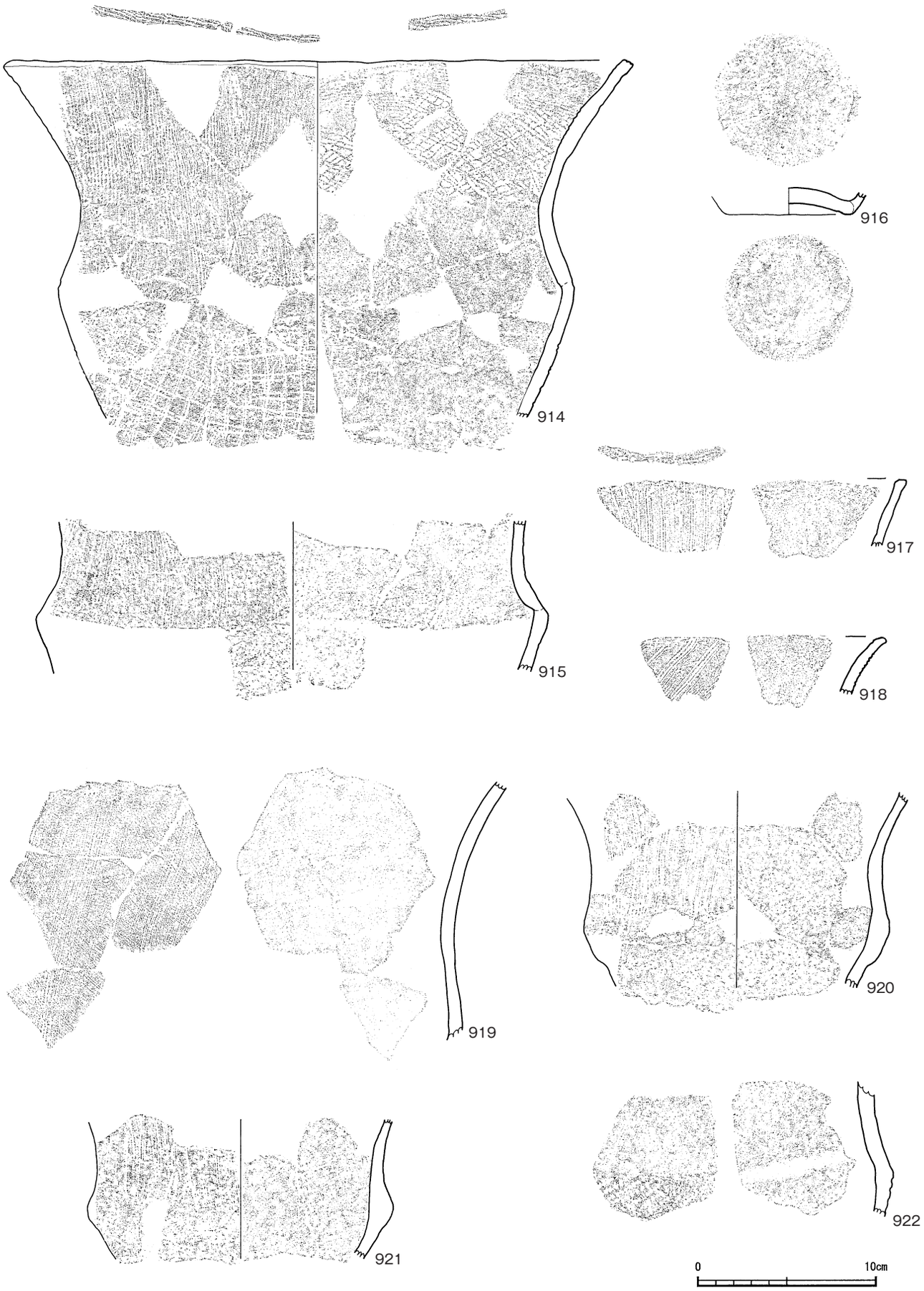
917～922は外面に細条線を施す一群である。

917・918は口縁部である。917は外面に３本１単位の細条線を縦位に施す。口唇部にも施文する。内面は指おさえ痕が多く確認できる。918は外面に３本１単位の細条線を右上がり斜位に間隔を空けて施す。内面に丁寧なナデを行う。胎土に金雲母を多く含む。

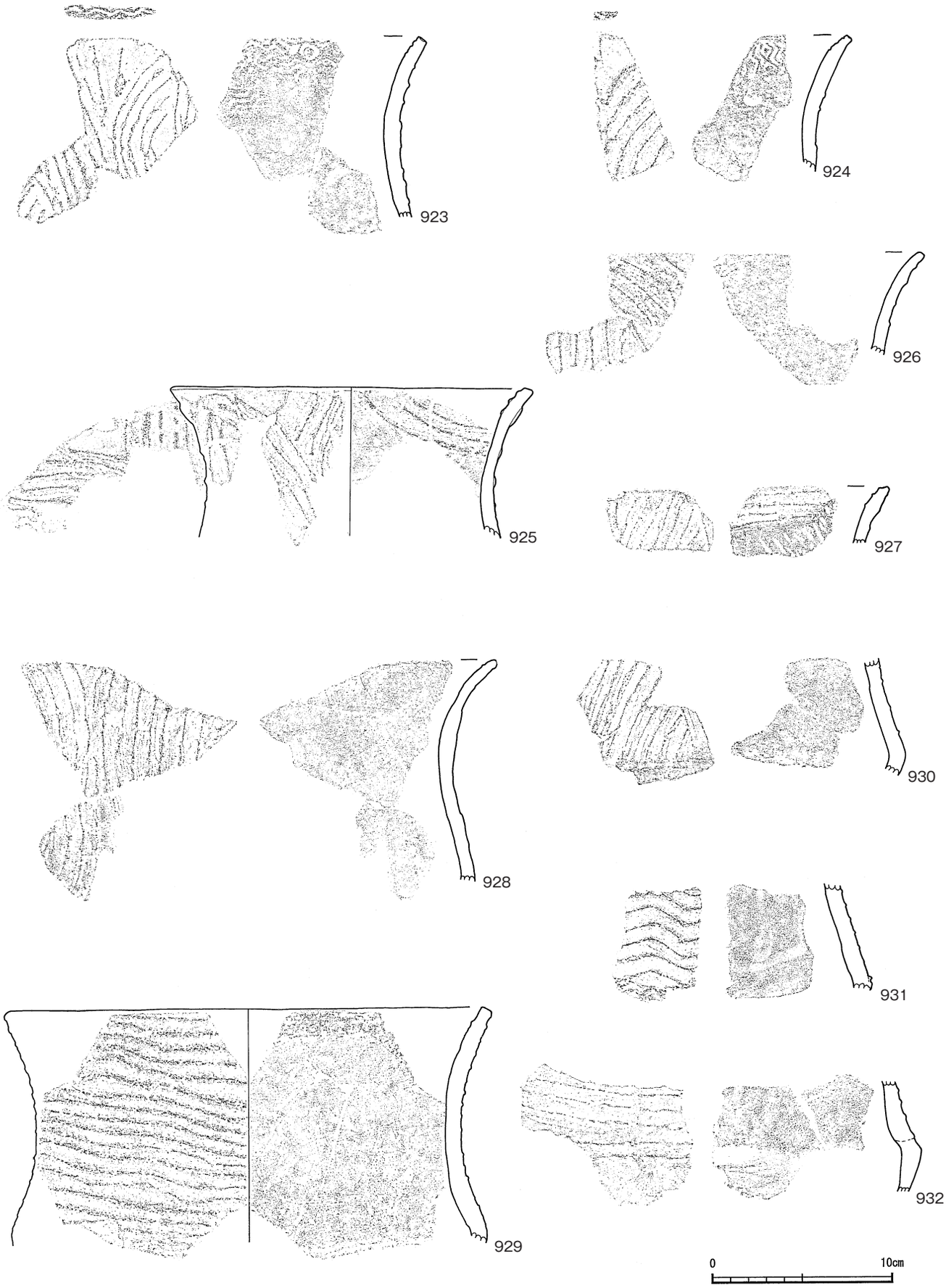
919～922は胴部である。919は胴部上半が大きく外反する屈曲部より上位の部分である。外面は櫛歯状の工具で右下がり斜位の細条線を施した後に，右上がり斜位の細条線を施す。内面には横方向の擦痕と指おさえ痕が多く確認できる。胎土に径0.1～0.2㎝の金雲母を多く含む。色調は褐色である。920・921は屈曲部付近である。外面は胴部上半に２～４本１単位の細条線を縦位，もしくはやや斜位に施す。胴部下半は，横方向の擦痕が一部確認でき，ナデを行う。屈曲部内面付近には，胴部上半下位を胴部下半上位になで付ける痕跡が確認できる。920・921は文様，調整，胎土等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。922の外面は胴部上半に細条線を方向を違えて斜位に施す。胴部下半は単節斜縄文LRを横位に施す。内面は指おさえ痕が確認できる。胎土に小礫を多く含む。

923～932は外面にミミズばれ文を施す一群である。ミミズばれ文とは，器面に微隆線を貼り付け後に，ヘラ状工具で微隆線両端をナデ付けるように調整し，ミミズばれ状を呈する微隆線文のことである。

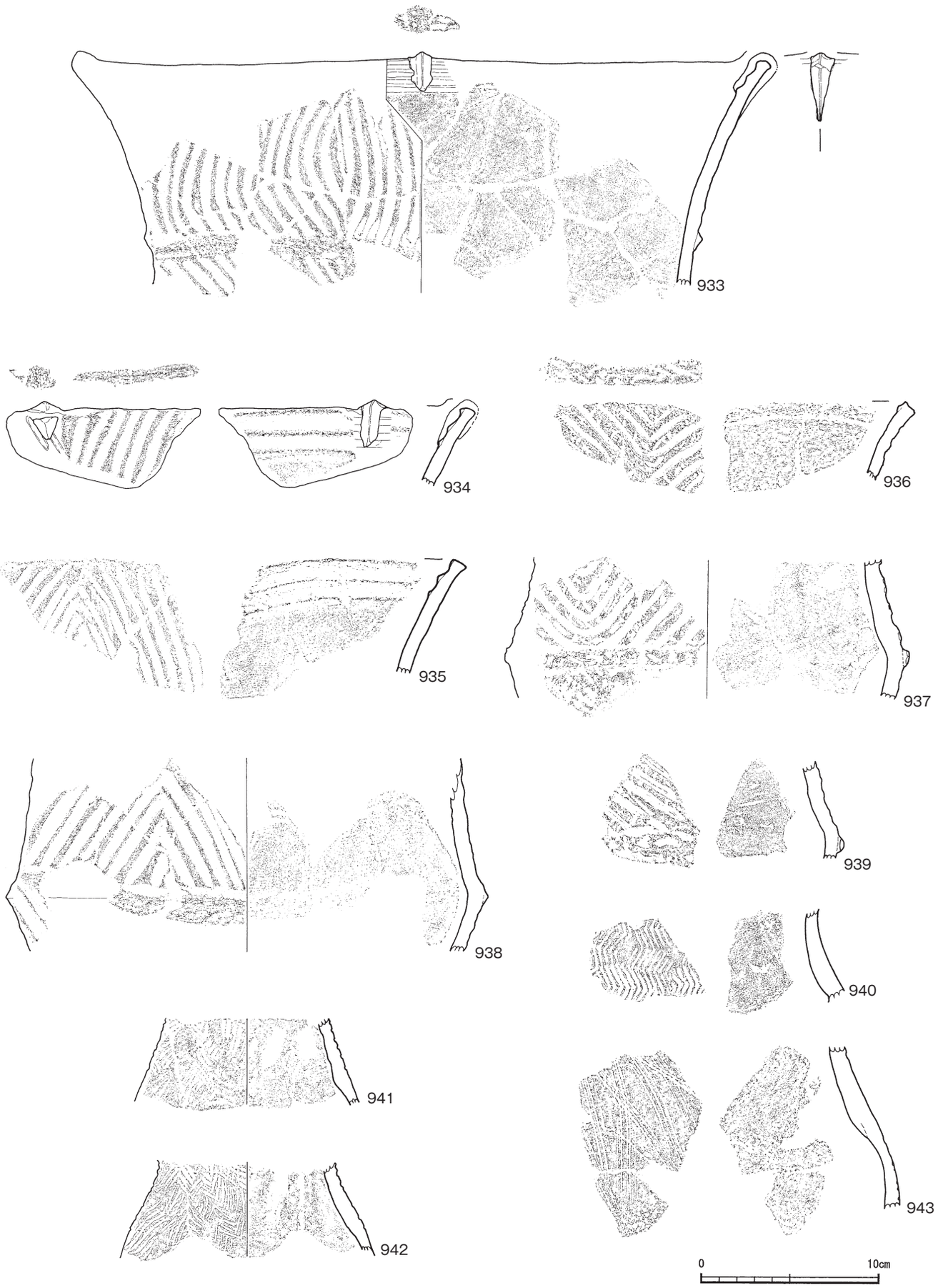
923～929は口縁部である。923・924は外面にミミズばれ文を，内面に押型文。923は外面に幅0.2～0.3㎝の粘土紐を縦位，弧状に貼り付ける。その後，幅狭のヘラ状工具で両端をナデ付けながら成形する。ミミズばれ文で重弧文状のモチーフを描く。同心円押型文を口縁部内面は横位に，さらに口唇部にも施す。内外面ともに丁寧なナデを行う。胎土に角閃石を含む。924の外面は923と同様の重弧文状のモチーフの一部と考えられる弧状のミミズばれ文を施している。口縁部内面には菱形押型文を縦位に施す。それより下位は丁寧なナデを行っている。胎土に小礫を多く含む。925～929は，内外面にミミ




第 337 図　Ⅻ類土器（6）




第 338 図　Ⅻ類土器（7）




第 339 図　Ⅻ類土器（8）

ズばれ文を施す一群である。925はやや小型の器形である。外面に粘土紐を右下がり斜位，弧状に貼り付けた後に，右上がり斜位，縦位に貼り付け，重弧文状のモチーフを描く。内面にも横位の弧状のミミズばれ文を施す。口縁部内面，口唇部に非常に丁寧なナデを行う。926・927の外面は925と同様のミミズばれ文を施すが，927は口縁部内面に横位の直線状のミミズばれ文を４段施す。いずれも内面に丁寧なナデを行う。928は外面にミミズばれ文を縦位，やや斜位に施す。口縁部内面に，斜位のミミズばれ文を施す。内面には指おさえ痕が確認でき，丁寧なナデを行っている。胎土に小礫を含む。929は内外面ともに直線状のミミズばれ文を横位に施す。一部緩やかな波状を呈する箇所がある。外面は16段，内面は１段である。内面は口縁部に横方向の繊維状の擦痕が，屈曲部付近には，指おさえ痕が確認できる。指頭による成形を行った後，丁寧なナデを行ったと考えられる。

930～932は屈曲部付近の胴部である。930の外面は胴部上半に方向を違えて斜位のミミズばれ文を施す。胴部下半は無文である。931は外面をミミズばれ文で横位の波状のモチーフを描く。一部剥落しているが，屈曲部に粘土紐を貼り付け，山形押型文を横位に施している。内面にはナデを行っている。932は外面は胴部上半に横位のミミズばれ文を施し，胴部下半は丁寧なナデを行い無文である。内面は屈曲部付近で接合痕が確認できる。

933～939は外面に沈線を施す一群である。

933～936は口縁部である。933は緩やかな波状口縁を呈する比較的大型の土器である。口縁部内面に断面三角形に成形した粘土紐を横位に３段貼り付けた後，口縁部内外面に楔状突起を縦位に貼り付ける。内面側の楔状突起は口唇部外面に上端部を引っかけるように貼り付け，内面側に垂下させている。外面は胴部上半下位に，口縁部内面に貼り付けものと同様の粘土紐を１段横位に貼り付け上下の区画を行う。その後幅0.4㎝のヘラ状工具による幅広の沈線で縦位の重弧文状のモチーフを描く。沈線は区画より下位にも及ぶ。内面には斜位の繊維状の細かい擦痕が確認でき，丁寧なナデを行う。934は緩やかな波状口縁を呈すると考えられ，933と同様の楔状突起が確認できる。933～935は文様，調整等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。936は外面に幅0.5㎝の幅広の沈線で「Ｖ」字状のモチーフ重ねて描く。口唇部内面に粘土紐を横位に貼り付けた後，棒状工具で口唇部外面から口唇部内面にかけて斜位の沈線を刻み状に施す。内面には丁寧なナデを行う。

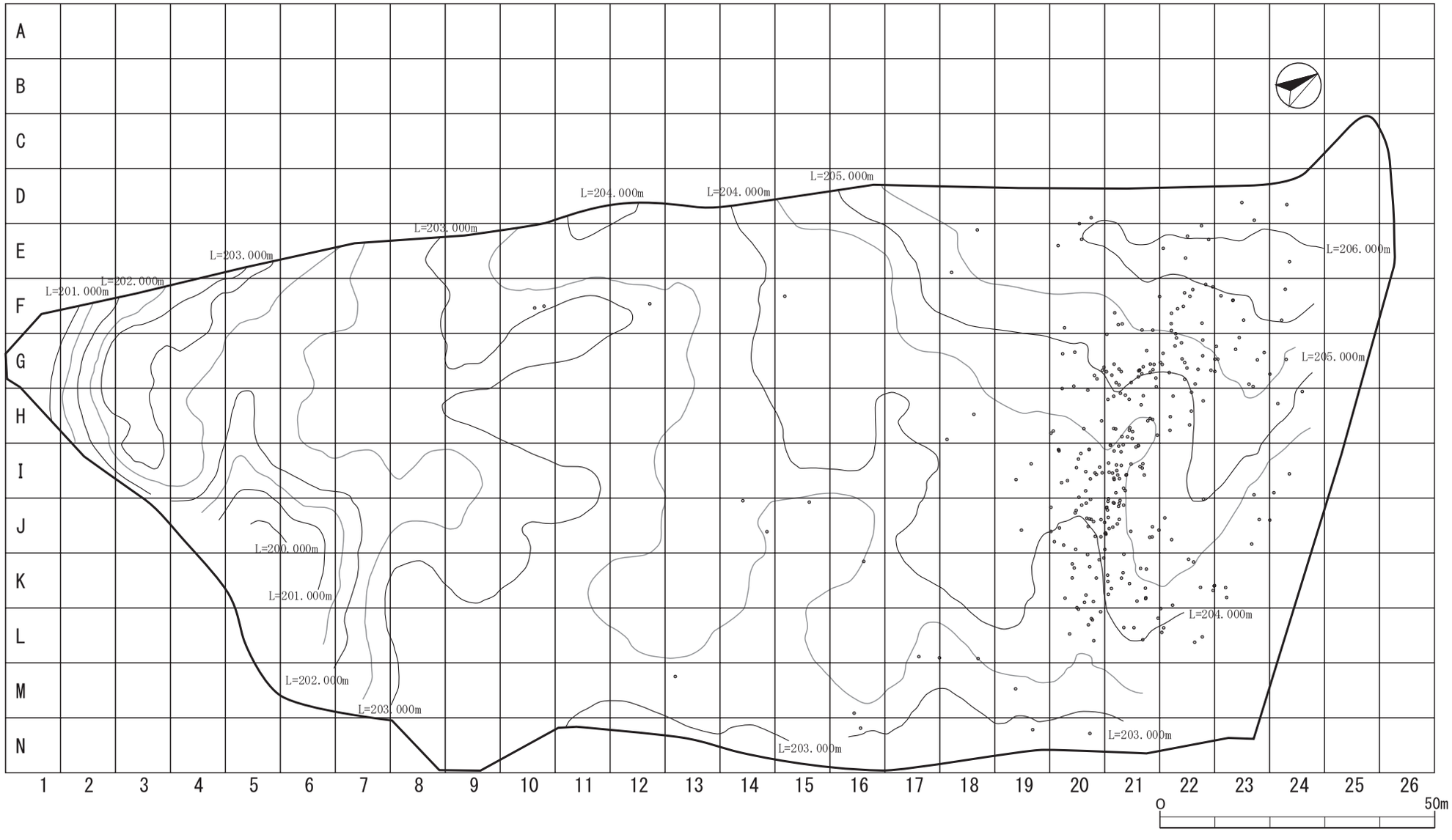
937～939は胴部である。937の胴部下半には一部沈線状の凹部が確認できる。内面は横方向の繊維痕が確認でき，ナデを行っている。胎土に小礫を多く含む。938は胴部上半から屈曲部付近である。屈曲部に粘土紐を貼り付けた後，浅い刻目を入れる。胴部上半は，ヘラ状工具による幅広の深い沈線で山形のモチーフを重ねて描く。内面に指おさえ痕が確認できる。胎土に角閃石を多く含み，色調は灰黄褐色である。937・939は文様，調整，胎土，色調等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。外面は屈曲部に粘土紐を貼り付けた後，棒状工具で縦位，斜位の刻目を入れる。胴部上半は，ヘラ状工具による幅広の深い沈線で波状のモチーフを重ねて描く。沈線を施文する前に何らかの施文が行われているが，判然としない。

940～943は壺形土器である。いずれも頸部付近である。内面には頸部を成形するためと考えられる棒状工具による縦位の調整痕が確認できる。940は外面に明瞭な山形押型文を縦位に施す。胎土に小礫を含む。941・942は文様・調整・胎土等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。外面に山形押型文を横位に施す。頸部付近は器面が傾斜し，径も小さいことから原体を回転させる幅が狭く，文様が一部乱れる箇所がある。内面は肩部の湾曲に沿うように棒状工具による縦位の調整痕が確認できる。胎土に小礫を多く含む。943は外面に２～４本１単位の細条線を方向を違えて縦位，やや斜位に施す。肩部には，棒状工具による横位の刺突が２段確認できる。胎土に小礫を多く含む。

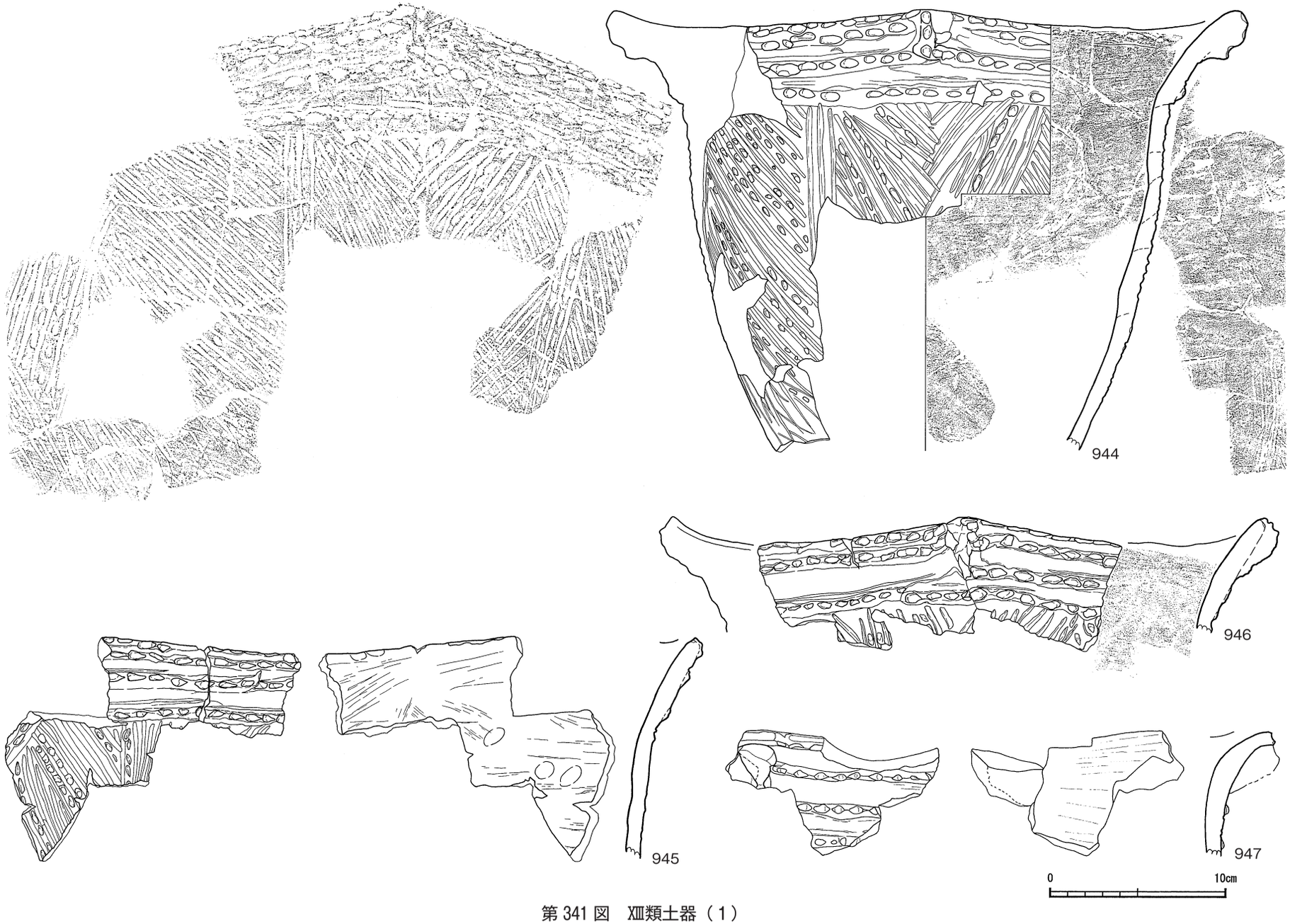
**（13）Ⅻ類土器（第340～343図　944～956）**

Ⅻ類土器は口縁部が大きく外反し，胴部中央でやや膨らみ，底部にむけてすぼまる器形を呈する。文様は口縁部と胴部の２帯構成で，外面に刻目突帯文，沈線文，刺突文等を施す一群である。口唇部に刻目を入れ，口縁部，胴部上半に瘤状突起を貼り付けるものもある。

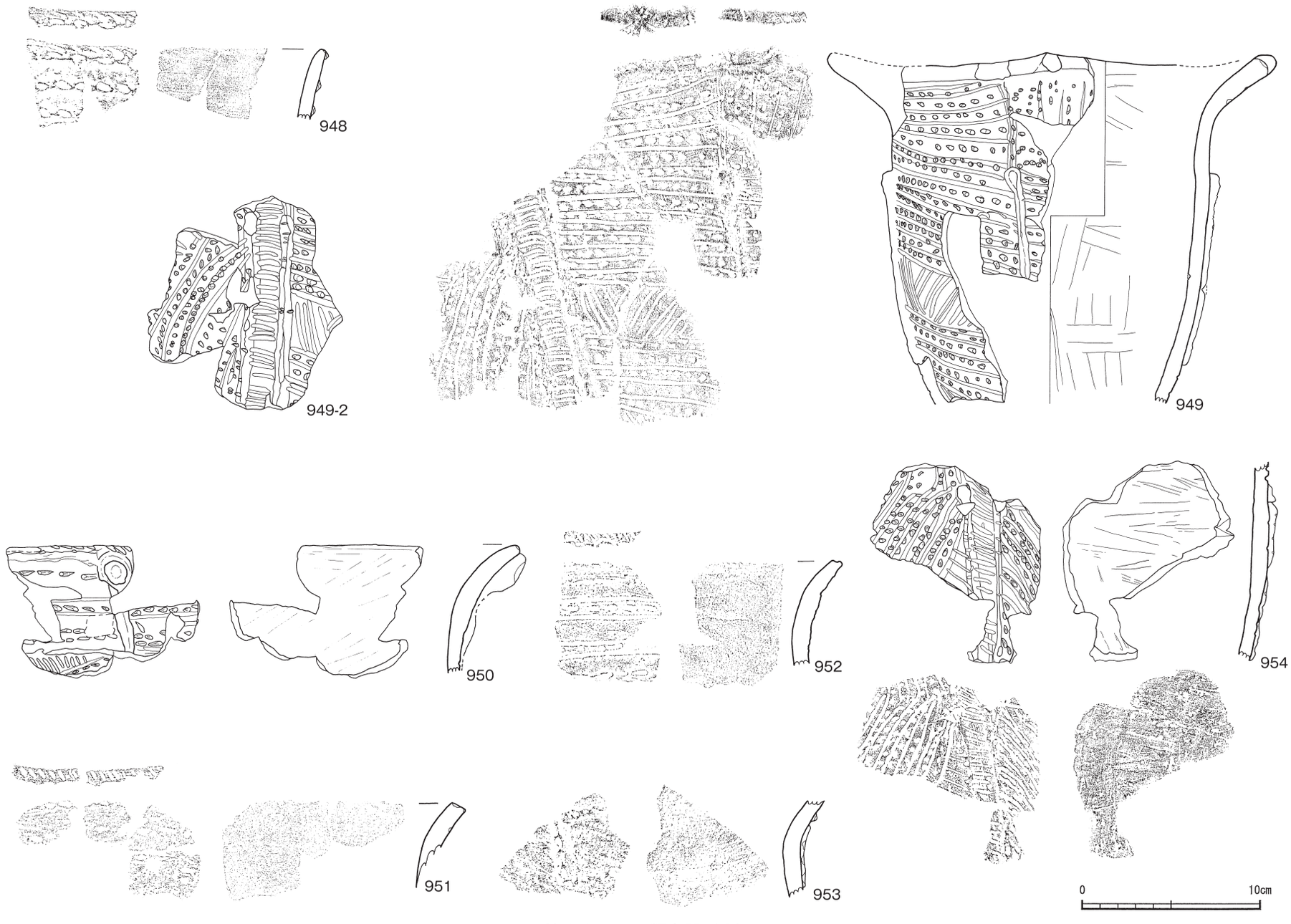
944～952は口縁部である。944は口縁部～胴部下半まで復元することができる。４単位の波状口縁を呈すると考えられる。波頂部の外面に縦長の瘤状突起を貼り付けた後，瘤状突起を起点として横位に２段，瘤状突起より下位に１段の計３段の刻目突帯を施す。粘土紐貼り付け後，刻目を入れる際に，起点となった瘤状突起上にも縦位に２段の刺突を施し，口唇部にも同様の刻目を入れる。刻目突帯間には，棒状工具による横位の沈線が部分的に施される。胴部は口縁部の３段目の刻目突帯上より４本もしくは６本１単位の縦位の沈線を施し，割付けを行う。区画内に斜位の沈線を複数施した後，方向を違えて施文する。縦位，斜位の沈線間には一部列点状の刺突を施す箇所がある。口縁部の刻目突帯の刺突が太めの長粒状で先端を丸く加工した棒状工具による施文であるのに対して，胴部の刺突は沈線に用いたものと同様の先端を細く加工した棒状工具によるものと考えられる。内面には多数の内傾接合の痕跡が確認できる。口縁部から胴部上半は丁寧なナデを行っている。胴部下半は縦位，斜位の棒状工具による調整痕が確認できる。945は944と文様構成，調整，胎土等が類似することから同一個体の可能性



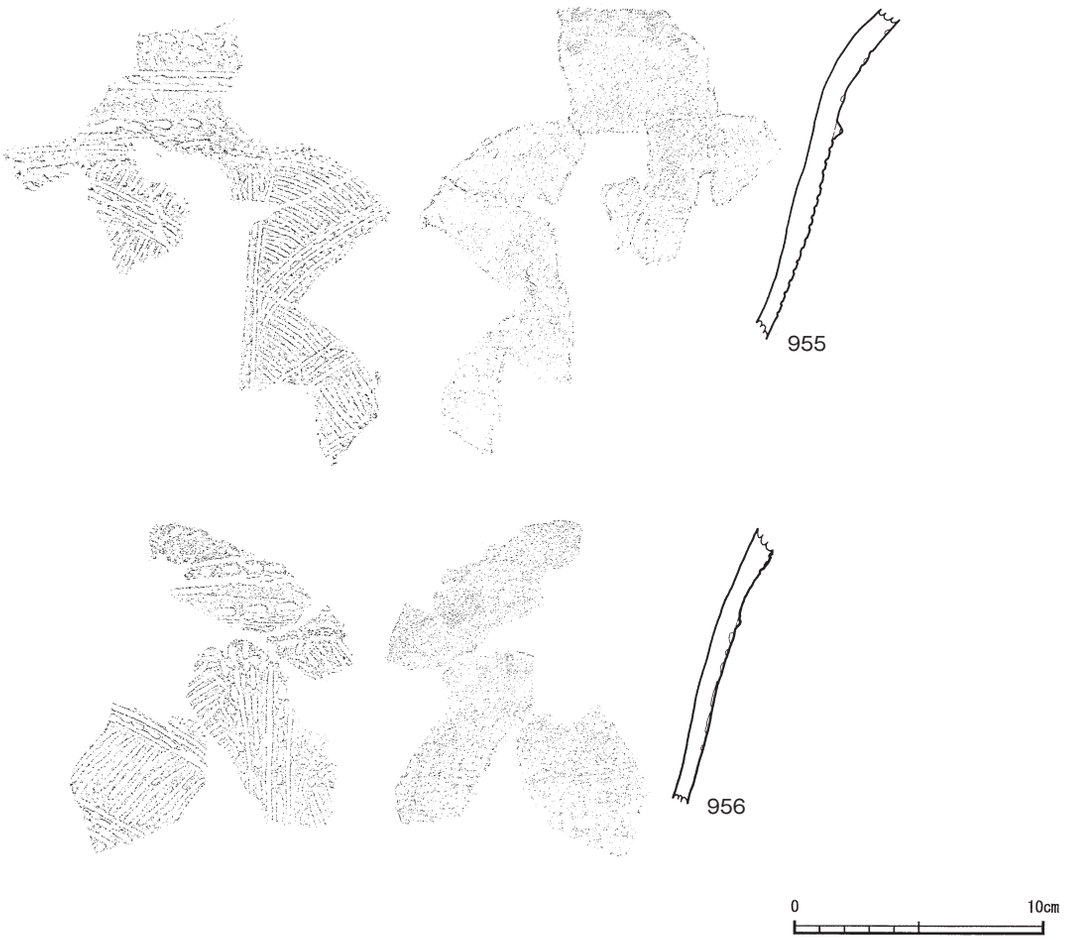

第 340 図　Ⅻ類土器出土分布図




第 341 図　Ⅻ類土器（１）




第 342 図　Ⅻ類土器（2）




第 343 図　Ⅻ類土器（３）

が高いと考えられる。内面に指おさえ痕が確認できる。946 も 944 同様に４単位の波状口縁を呈すると考えられる。波頂部より口縁部外面に瘤状突起を貼り付け，そこを起点に２段の刻目突帯を貼り付ける点も 944 と同様である。ただし，３段目の刻目突帯は瘤状突起のやや左下の２段目の刻目突帯上より貼り付けを開始し，全周していない。瘤状突起の口唇部近くの刺突は口唇部の刻目の上に施されている箇所があり，口唇部の刻目が終了した後に施されている。胴部の施文や口縁部内面の調整は 944 と同様である。947 は緩やかな波状口縁を呈する器形である。波頂部より口縁部外面に瘤状突起を貼り付けた後，微隆線状の刻目突帯を横位に４段施す。３段目と４段目の間には，沈線状の工具痕が一部確認できる。口唇部平坦面に沈線を施すが，口唇部の残存がわずかなため全周するかは不明である。内面はナデを行っている。948 は口縁部外面に単節斜行縄文 RL を縦位に施した後，微隆線状の刻目突帯を３段施す。口唇部には棒状工具を斜位に寝かせるように当て刻目を入れている。内面は丁寧なナデを行う。949 は口縁部～胴部下半まで復元することができる。４単位の波状口縁を呈すると考えられる。波頂部には小突起を作り出す。胴部上半より垂下する貼付突帯で胴部の割付けを行う。貼付突帯は上位に波頂部と同じような小突起をもつものや，２本１単位のものがある。口縁部外面は，貼付突帯の延長線上に縦位の沈線を施す。さらに波頂部付近の口縁部外面にも 1.2㎝～2.0㎝の間隔で縦位の沈線を施す。縦位の貼付突帯，縦位の沈線の施文が完了した後，口縁部より等間隔で横位の沈線を施し，沈線間に列点状の刺突を施す。ただし，胴部下半には沈線の間隔が３㎝程度空く箇所があり，そこには斜位の沈線を方向を違えて施文する。２本１単位の縦位の貼付突帯上には浅い刻みを入れた後，突帯間に横位のやや太い沈線を等間隔で施す。区画された胴部は斜位，弧状の沈線を施し，沈線内に列点状の刺突を施す箇所がある。内面は口縁部～胴部上半は横位のケズリを行う。胴部下半は縦位のケズリを行った後，丁寧なナデを行っている。950 は口縁部外面に径 1.2㎝の円

形刺突のある瘤状突起と縦位の貼付突帯を施した後に，横位の列点状の刺突を３段～４段施す。２段目の刺突の両端には横位の沈線が施されている。口縁部と胴部との境付近には横位の微隆線状の刻目突帯が，その下位には斜位の沈線が２本施される。この刻目突帯と斜位の沈線間に短沈線を，斜位の沈線間に列点状の刺突を施している。また，口唇部には斜位の刻目を施す。胎土に白色粒子，金雲母を含む。951 は口縁部外面に先端を尖らせた棒状工具による横長の刺突を２段施す。口唇部外端部に浅い刺突を施した後，平坦に成形した口唇部に斜位の明瞭な刻目を入れる。952 は口縁部外面に２本１単位の沈線を２条施し，それぞれの沈線内に 951 と同様の横長の刺突を施す。さらに，その下位に同様の刺突を１段施す。３段目の刺突の両端には沈線はない。口唇部外端に浅い刺突と口唇部平坦面に斜位の刻目を入れる。胎土に金雲母を多く含む。

953～956 は胴部である。953 は外面に単節斜行縄文 LR を縦位に施す。その後，縦位の微隆線状の刻目突帯，横位の刻目突帯の順に貼り付けている。内面は横方向の細かい繊維痕が確認でき，丁寧なナデを行っている。954 は外面に２本１単位の縦位の微隆線状の刻目突帯を貼り付け，その内側に縦位の浅い沈線を一本施文する。その後，横位の浅い沈線を等間隔に施す。刻目突帯の外側は斜位の沈線を比較的短い間隔で施し，沈線間には棒状工具の先端による列点状の刺突を施す。内面は上位を横位のケズリを，下位を縦位のケズリを行った後に丁寧なナデを行っている。955 は文様構成から口縁部下位から胴部上半付近と考えられる。口縁部外面付近に横位の２本１単位の沈線を施した後，沈線間とその上下を含む３段に横長の列点状の刺突を施している。胴部上半との境付近に微隆線状の刻目突帯を１条施している。刻目突帯より上位には浅い沈線を１条巡らせている。胴部は縦位の沈線で割り付けた後，斜位の沈線で区画内をさらに分割している。沈線間には列点状の刺突を施している。その後区画内には，斜位の沈線を充填している。内面は丁寧なナデを行っている。956 は文様構成等において 955 とほぼ同様であるが，胴部を区画する縦位の沈線の両端にそれぞれ蛇行する沈線が施される点が異なる。

**（14）ⅩⅣ類土器（第 344～377 図　957～1173）**

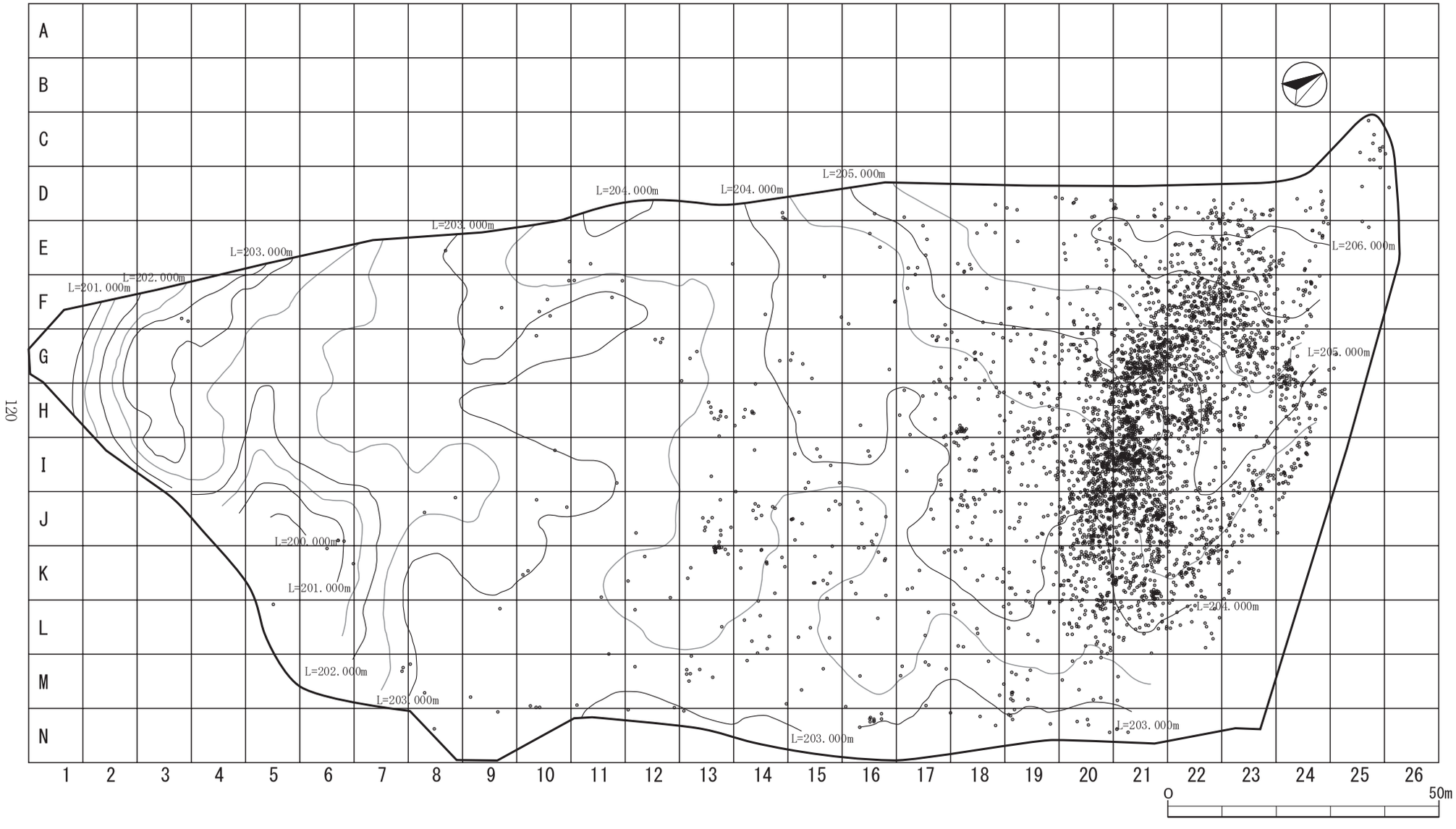
ⅩⅣ類土器は口縁部が大きく外反し，胴部中央でやや膨らみ，底部にむけてすぼまる器形を呈する。文様は口唇部もしくは口縁部，頸部，胴部の３帯構成となるが，分類は以下のように行った。

まず，口唇部外端部が肥厚する一群と口縁部上位がやや肥厚する一群に大別した。なお，口縁部が肥厚しないものの口縁部上位が肥厚する一群と同様の施文を行うものは後者に含めた。さらに，口唇部外端が肥厚する一群は口縁部から頸部外面にかけての文様構成や文様要素により分類した上で，肥厚部の文様構成や文様要素等により細分した。口縁部上位がやや肥厚する一群や同様の施文をもつ一群は，口縁部上位外面の文様構成や文様要素等により細分した。

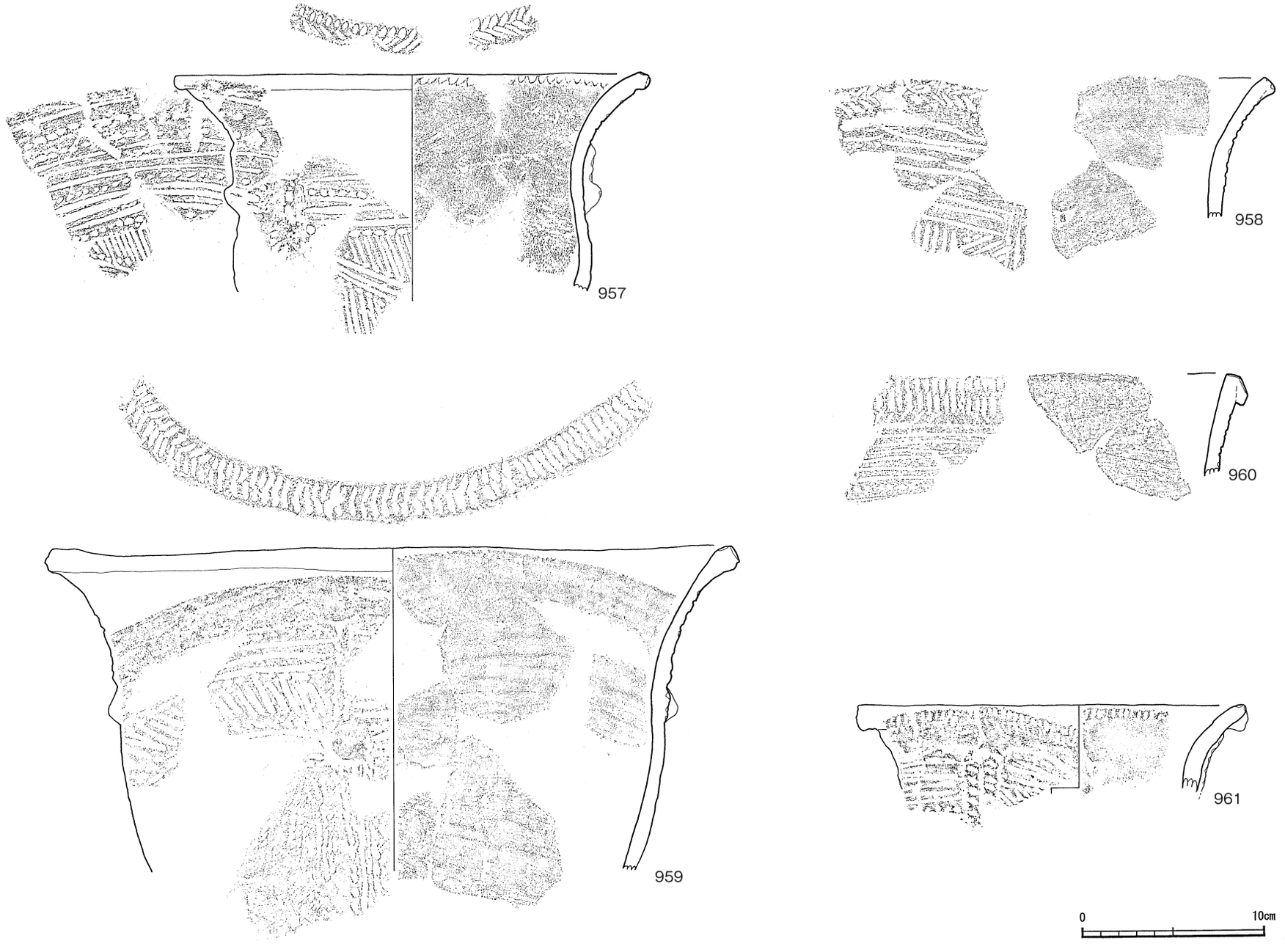
957～1036 は口唇部外端が肥厚する一群である。

957～966 は口縁部から頸部外面に横位の沈線，刺突を施す一群である。一部縦位の沈線，刺突を先に施文し，器面の割付けを行うものもある。

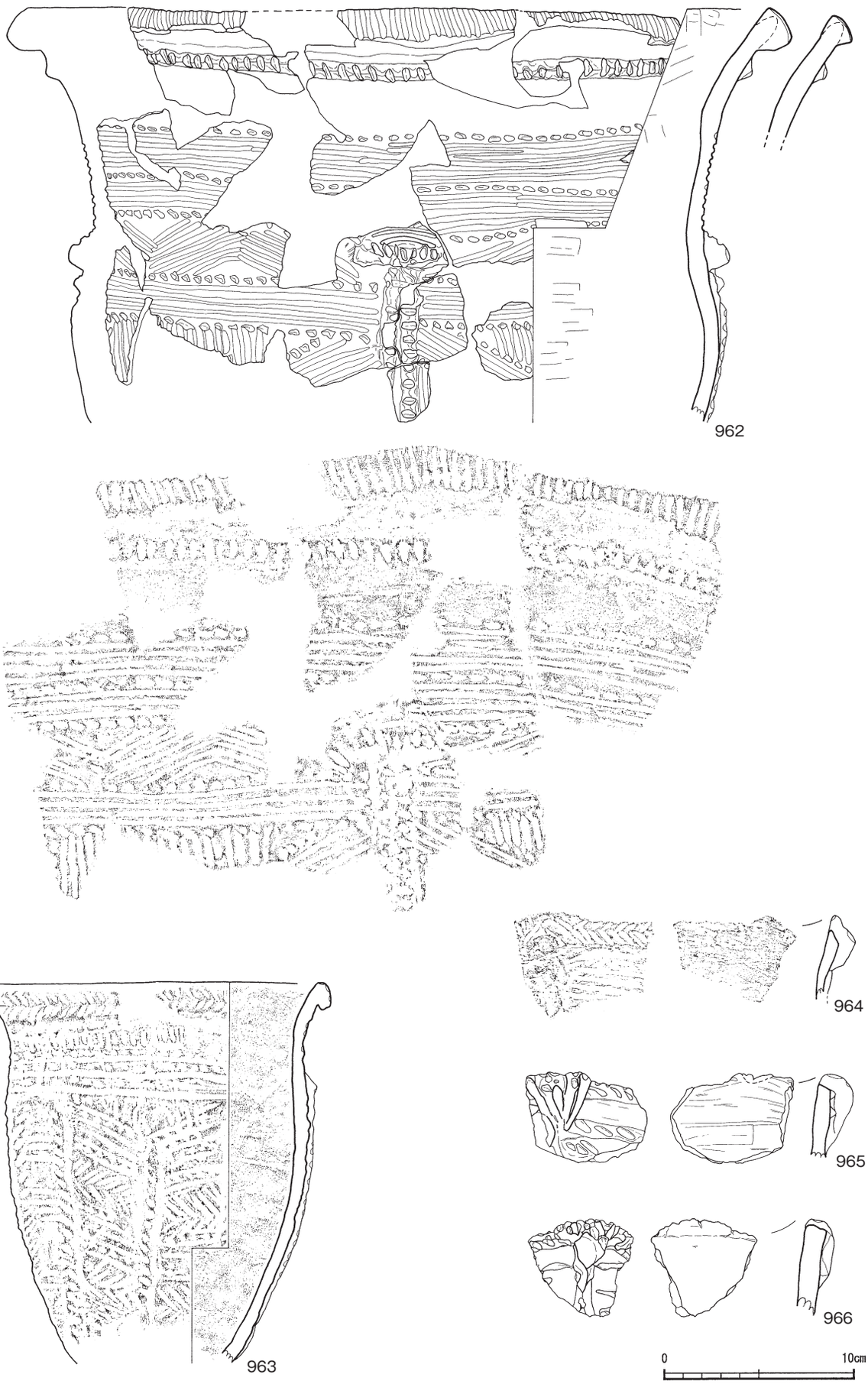
957～966 は口唇部外端の肥厚部に羽状の沈線，短沈線や刺突を施す一群である。一部，肥厚部に直線状に沈線を施すものも含む。957 は口唇部外端に微隆線状の突帯を貼り付けて，わずかに厚く成形する。頸部と胴部上半との境付近に刻目突帯と瘤状突起を縦位に貼り付け，横位の沈線を施し，沈線間には刺突を施文する。胴部は瘤状突起を起点に３本１単位の沈線を斜位に施す。横位の沈線と斜位の沈線による区画内は，沈線に沿って刺突を施した後，縦位の沈線で充填する。958 の胴部は沈線と刺突で文様が構成される。959 は肥厚部に２本の沈線で羽状，直線状の文様を施す。頸部に瘤状突起を貼り付け，その上位の口縁部から頸部にかけては縦位の刺突を施す。その後，上位に横位の沈線を３条，下位には間隔を空け１条，さらに沈線に沿うように刺突を施す。頸部付近の刺突間には斜位の沈線を充填する。胴部は瘤状突起の下より縦位の沈線，刺突を施文する。区画された胴部は単節斜行縄文 RL を縦位に施す。960・961 は肥厚部の中央部から端部までの幅でそれぞれ縦位の短沈線を施す。961 は口縁部から頸部に２本１単位の突帯を縦位に貼り付けた後，口唇部外端に突帯を貼り付け肥厚部を成形する。また，口縁部から頸部にかけて横位の沈線と刺突を施す。962 は肥厚部に刻目状の短沈線を施す。肥厚部よりやや下がった位置に刻目突帯を横位に１段施し，やや間隔を空けて，横位の沈線を密接して施す。その後，沈線の上位，中位，下位に１段ずつ刺突を施す。胴部上半は横長の瘤状突起と２本１単位の縦位の刻目突帯を施す。その後，器面に４本１単位の横位の沈線を施し，その沈線の上位と下位に刺突を施文する。頸部との間には斜位の沈線で鋸歯状のモチーフを描く。胴部下半は刻目突帯を起点に斜位の沈線を施した後，沈線に沿って刺突を施す。区画内には縦位の沈線を施文する。963 は口縁部から胴部下半まで復元できる。粘土を折り返し厚く成形する。口縁部から頸部には横位の沈線を４条施し，沈線間に刺突を施文する。１条目の沈線より上位の肥厚部直下には，刺突の施文後に縦位の短沈線を密接に施す。胴部は逆「U」字状の２本１単位の縦位の刻目突帯とやや短めの縦位の刻目突帯を交互に４本ずつ施す。逆「U」字状の刻目突帯間は横位の沈線を等間隔に施す。やや短めの刻目突帯と逆「U」字状の刻目突帯間には斜位の沈線が施され，刺突や「く」の字状，逆「く」の字状の沈



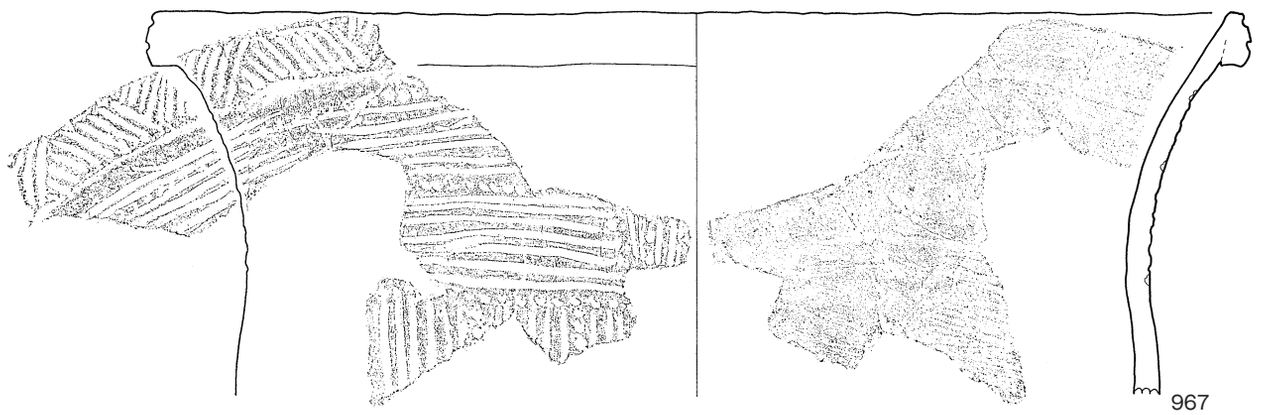

第 344 図　XIV類土器出土分布図

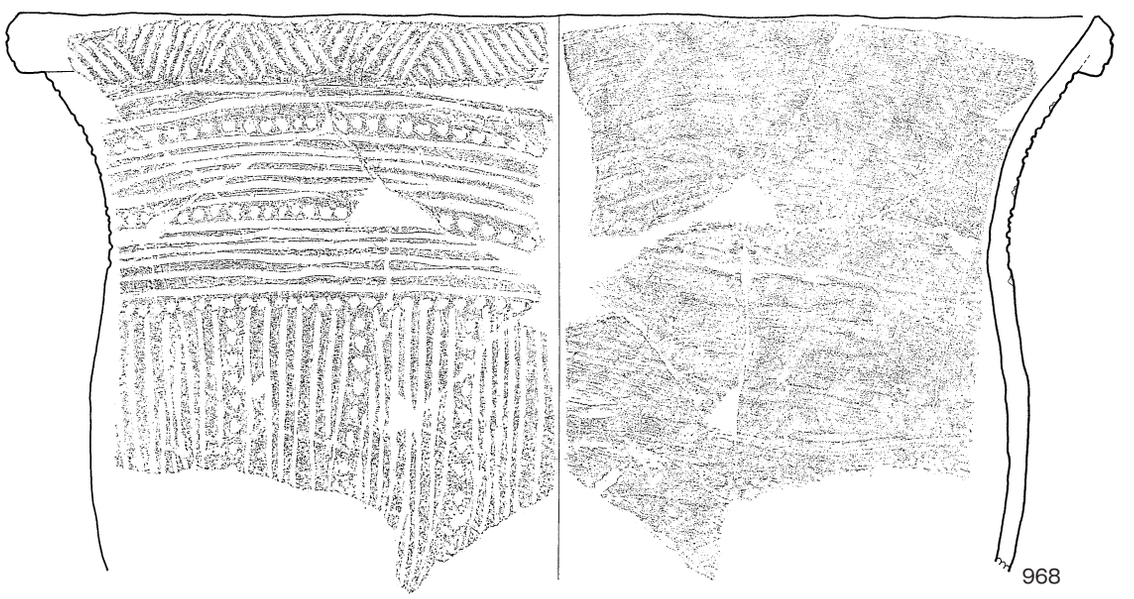



第 345 図　XIV類土器（１）




第 346 図　Ⅻ類土器（2）

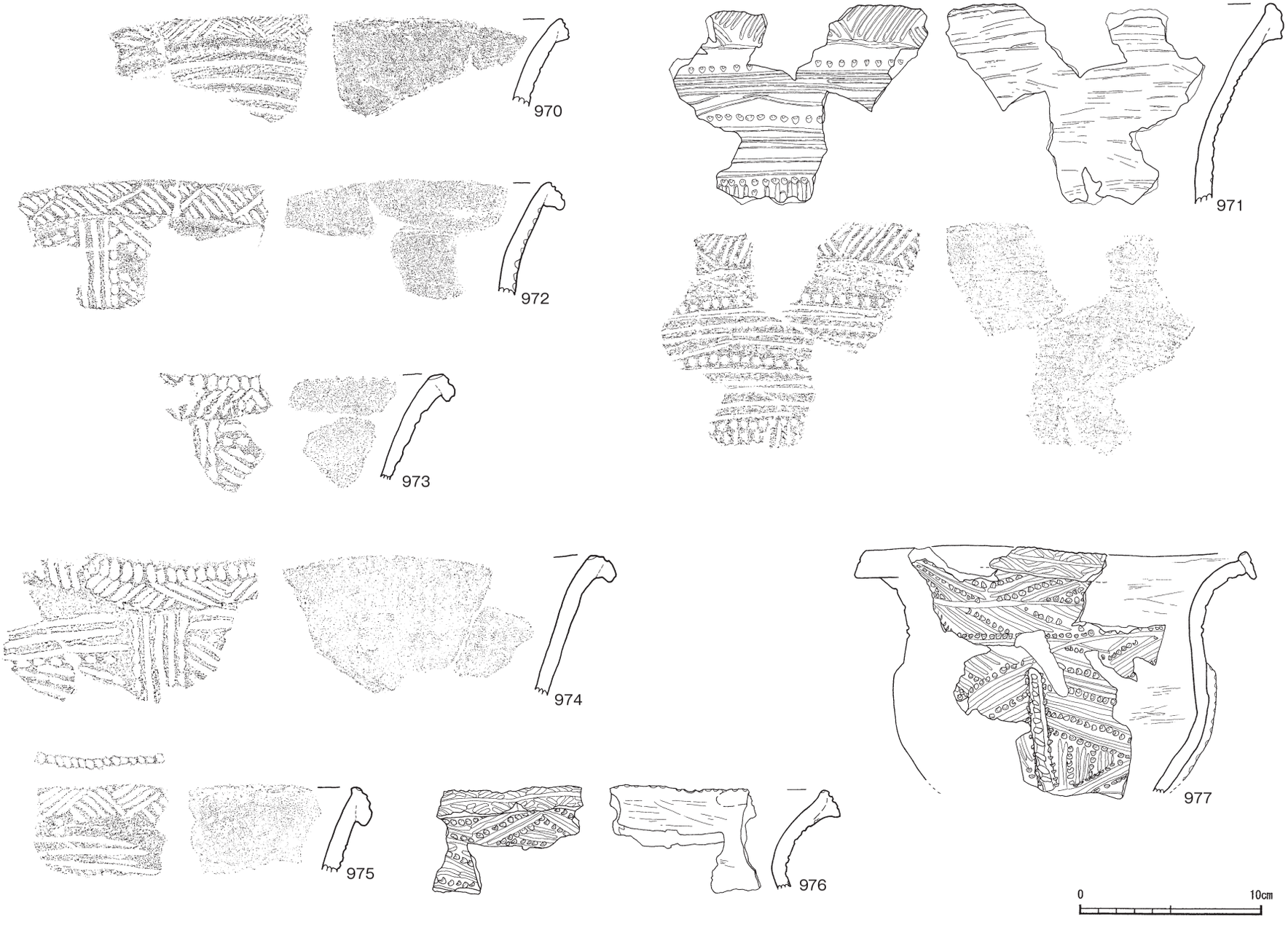


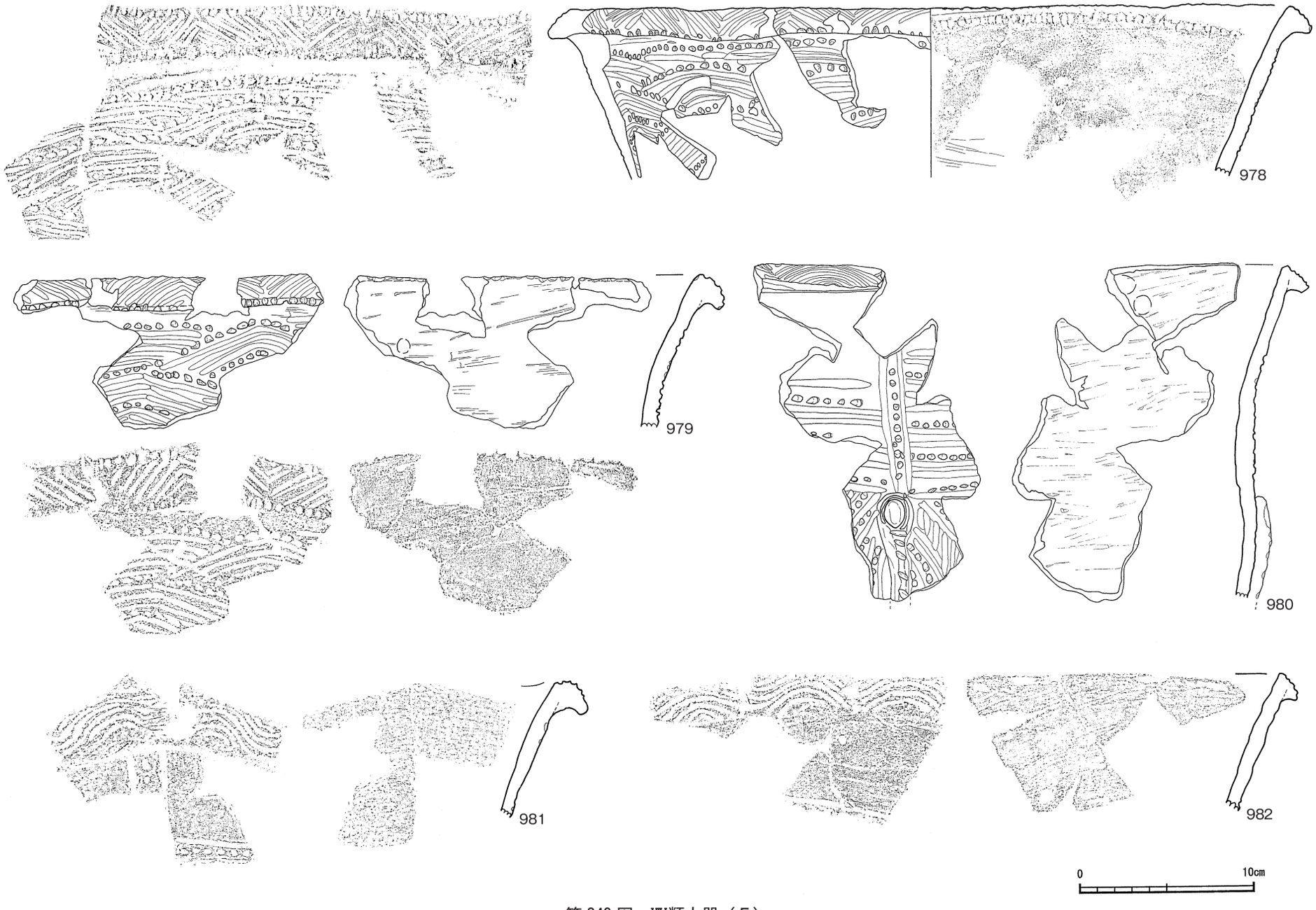




第 347 図　Ⅻ類土器（3）




第348図　XIV類土器（4）




第 349 図　XIV類土器（５）

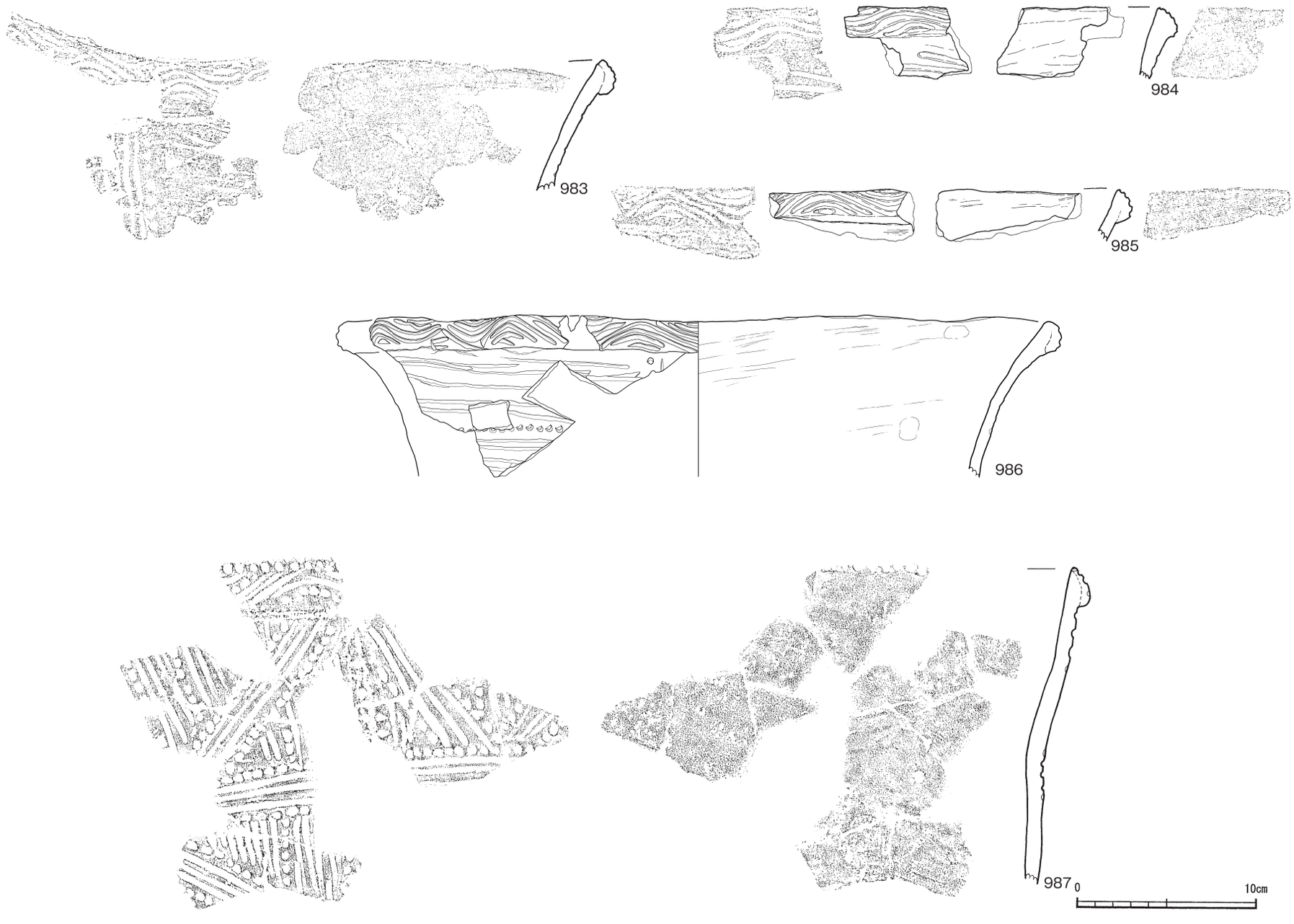
線が充填される。短めの刻目突帯の上位には，重弧文状のモチーフが描かれる。964～966 は波状口縁を呈すると考えられる。964 は波頂部に突起を作り出し，肥厚部と一体化した成形を行う。波頂部下の口縁部外面に縦位の微隆線状の突帯を施した後，口縁部外面には横位の沈線を施す。波頂部に斜位の沈線を施した後，肥厚部には刺突で羽状の文様を施す。965 は肥厚させた波頂部から縦位の突帯の貼り付けを行う。その際，波頂部付近の外面に径 1.3㎝程度の円形の浅い凹みを作る。波頂部を含む口唇部に扁平な突帯を貼り付け，口唇部と同様の羽状の刺突を施す。口縁部外面には横位の沈線が施される。966 は口唇部外端に突帯を貼り付けた後，口縁部外面に横位の微隆線状の突帯を貼り付ける。その後，波頂部付近の口縁部外面には複数の突帯を貼り付け，逆三角形状の突起を成形し，口唇部の刺突，横位の突帯の刻目，波頂部の突起上の刺突が同一の棒状工具で施されたと考えられる。

967～979 は口唇部外端の肥厚部に斜位の沈線を方向を違えて施す一群である。967 は肥厚部に右下がり斜位の沈線を数本施した後，右上がり斜位の沈線を施したと考えられる。胴部は縦位の浅い沈線を施し，沈線間に縦位の刺突を施す。968 は 967 と文様構成，胎土，調整等類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。969 は口唇部上端が欠損する。口唇部外面に粘土を貼り付け肥厚部を作り出した際の接合痕が確認できる。970 は肥厚部に右上がり斜位の沈線を数本施した後，右下がり斜位の沈線を施す。971 の胴部は縦位の沈線を密接に施す。972 は肥厚部に右上がり斜位の沈線を 1 本ずつ間隔をあけて施文することにより肥厚部を斜位に区画し，区画内を右下がり斜位の沈線を施し充填する。973～977 は肥厚部に沈線で施文し，肥厚部内端に刻目を入れる。973・974 は肥厚部に斜位の沈線を方向を違えて施した後，肥厚部内端に刻目を入れている。口縁部から頸部の施文は，肥厚部直下よりやや下がった位置より行っている。974 は肥厚部の外端側の斜位の沈線は，数本単位で同一方向を施文後に，方向を変えて左から右へ施文している。口縁部から頸部の縦位，斜位の刺突の一部は，刺突具を器面から離さずに施文するため押引き状となっている。977 は口縁部が外反し，胴部が球状を呈する小型の器形である。肥厚部中央部に横位の沈線を施し上下を区画し，それぞれに斜位の沈線により山形のモチーフを描く。その後口唇部内端に刻目を入れる。胴部は縦位の刻目突帯を施した後，刻目突帯両端に刺突を施す。その後，斜位の沈線と刺突を胴部全体に施す。沈線と刺突に区画された一部は，斜位，縦位の沈線や縦位の刺突を充填する。976 は 977 と文様，胎土，調整等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。978・979 は肥厚部に沈線で山形のモチーフを描く。また，肥厚部の内外端に刻目を入れる。978 は口縁部から頸部にかけて横位，弧状の沈線と刺突で文様を構成する。978 は 979 と文様，胎土，調整等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。

980～991 は口唇部外端の肥厚部に波状の沈線を横位に施し，重弧文状のモチーフを描く一群である。口縁部から頸部には横位，斜位の沈線と刺突を施す。980 は口縁部から頸部に縦位の沈線，刺突を施文後に肥厚部より下がった位置より横位の沈線，刺突を施す。胴部上半は楕円状の凹部のある瘤状突起と縦位の刻目突帯を施した後，その両端より斜位の沈線を施文する。斜位の沈線間には縦位の沈線や刺突を充填する。981・982 は 980 と文様，胎土，焼成，調整等が類似することから，同一個体の可能線が高いと考えられる。981 の観察により，欠損のために判然としなかった 980 の口縁部外面に，縦位の沈線や刺突が肥厚部直下から施文が始まっていることが確認できる。987・988 は肥厚部上端に刻目を入れ，口縁部から頸部にかけては縦位の刻目突帯で区画する。その区画内と胴部上半は沈線，刺突で文様を構成する。988 は口縁端部を折り返すようにして肥厚部を作り出し，波状，斜位の沈線を施文後，沈線間に刺突を施す。口縁部～頸部は縦位の扁平な突帯を貼り付け後，２本の沈線を縦位に深く施文し，一部微隆線を３本貼り付けたように成形する。その後，その微隆線上に刺突を施す。横位，斜位の沈線で区画後，区画内の沈線に沿って刺突を施し，縦位の沈線を充填する。胴部上半は横位の刺突を施した後，縦位の沈線を施文する。987 と 988 は文様，胎土，調整等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。989～991 は肥厚部上下の両端に刻目を入れる。なお，987～990 は口縁部から頸部にかけて横位の施文ではないが，口唇部外端の肥厚部や胴部の文様形態から，ここに含めた。

992・993 は口唇部外端の肥厚部に縦位の沈線，刺突を施文後に，横位の沈線を施す一群である。肥厚部の上下端に刻目，胴部に結節縄文を施す。992 は口唇部外端に肥厚部を成形し，口縁部～頸部に縦位の突帯を施し，縦位の沈線，刺突で器面を割付けた後，横位の沈線を充填する。横位の沈線を施した後，肥厚部の上下端，縦位の貼付突帯上，口縁部～頸部の沈線間に，同一の棒状工具で刻目，刺突を施すと考えられる。胴部は単節斜行縄文 RL と LR を結節して縦位に施す。993 も同様の文様構成であるが，結節する原体の方向が 992 と逆である。結節部には無節斜行縄文 L が確認できる。口縁部から頸部にかけて焼成後に外面より穿孔した補修孔が２か所確認できる。

994～997 は口唇部外端の肥厚部に縄文を施す一群である。994・995 は胴部に結節縄文を施す。994 は 995 と口唇部外端部の肥厚部や胴部文様等が類似するが，口縁




第 350 図　XV類土器（６）

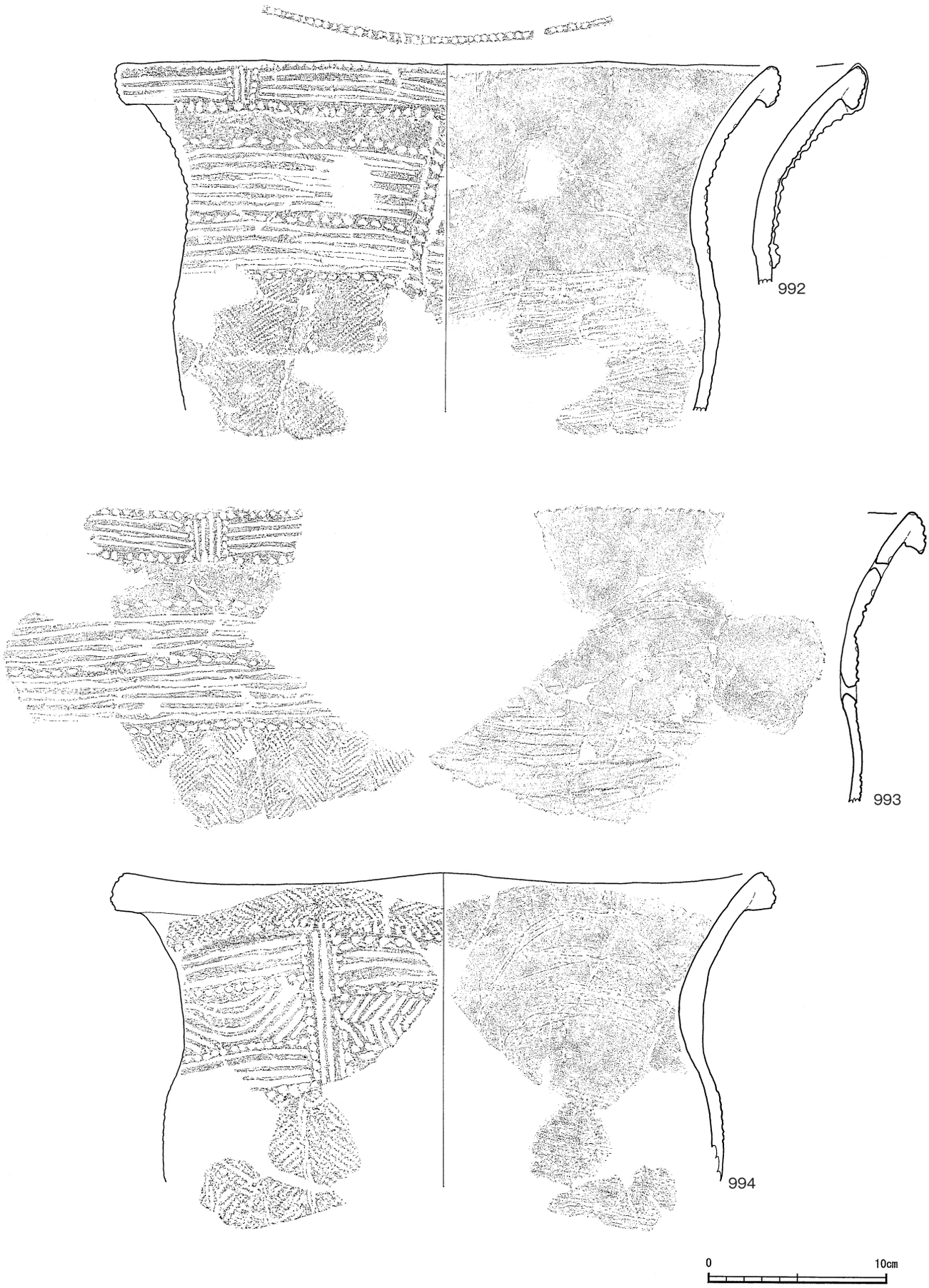



第 351 図　Ⅻ類土器（７）

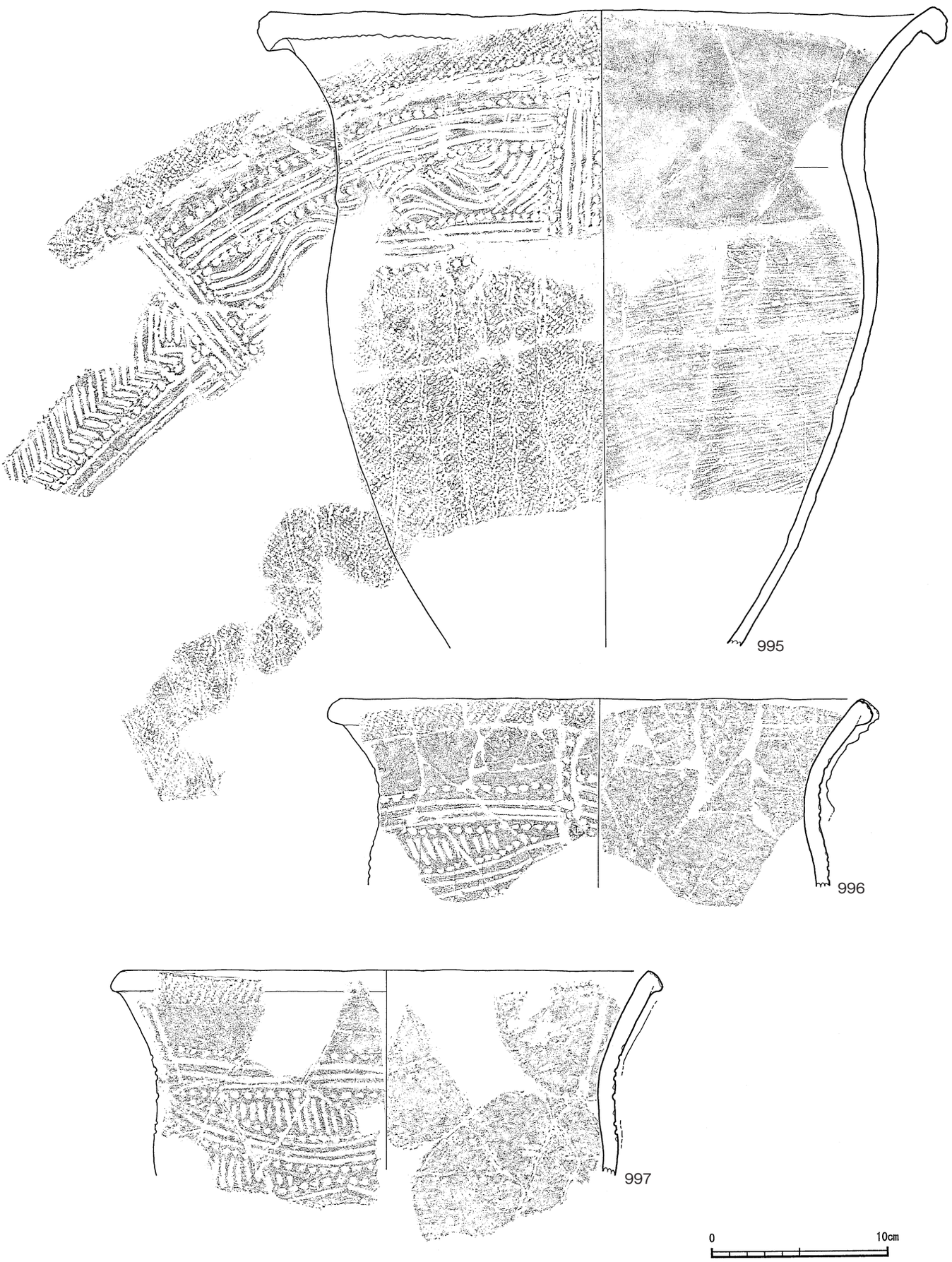
部から頸部の肥厚部下は横位の沈線のみで刺突を施さない箇所がある。995 は肥厚部の上位に単節斜行縄文 RL を，下位に単節斜行縄文 LR を横位に施し，肥厚部下端に刻目を入れる。口縁部から頸部は，縦位の沈線，刺突を施文後，横位の沈線，刺突を施す。頸部付近の横位の刺突間には，沈線による重弧文状，「く」の字状のモチーフを描く。胴部は単節斜行縄文 LR と単節斜行縄文 RL の原体を結節して縦位に施したと考えられる。結節部には，無節斜行縄文 R と無節斜行縄文 L の両者が確認できる。ただし，結節部が「S」字状，「Z」字状を呈さないため，原体押圧の可能性もある。996・997 は肥厚部下より口縁部から頸部に縦位の刻目突帯や瘤状突起を貼り付けた後，口縁部のやや下がった位置より横位の沈線，刺突を施す。文様，胎土，調整等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。996 は肥厚部に単節斜行縄文 LR を横位に施する。肥厚部下より縦位の刻目突帯とその下にやや小ぶりな瘤状突起を貼り付けた後，横位の沈線を３条施し，その上下端に横位の刺突を施文する。胴部は瘤状突起より連弧状に沈線を施す。997 の胴部文様より 996 の連弧状の沈線の両端にも刺突を施したと考えられる。その後，横位の刺突と連弧状の刺突との間に短沈線を施す。997 は胴部の連弧状の沈線，刺突より下に斜位の沈線，刺突や縦位の短沈線が確認できる。

998～1011 は口縁部から頸部に縦位もしくは斜位の沈線を施す一群である。

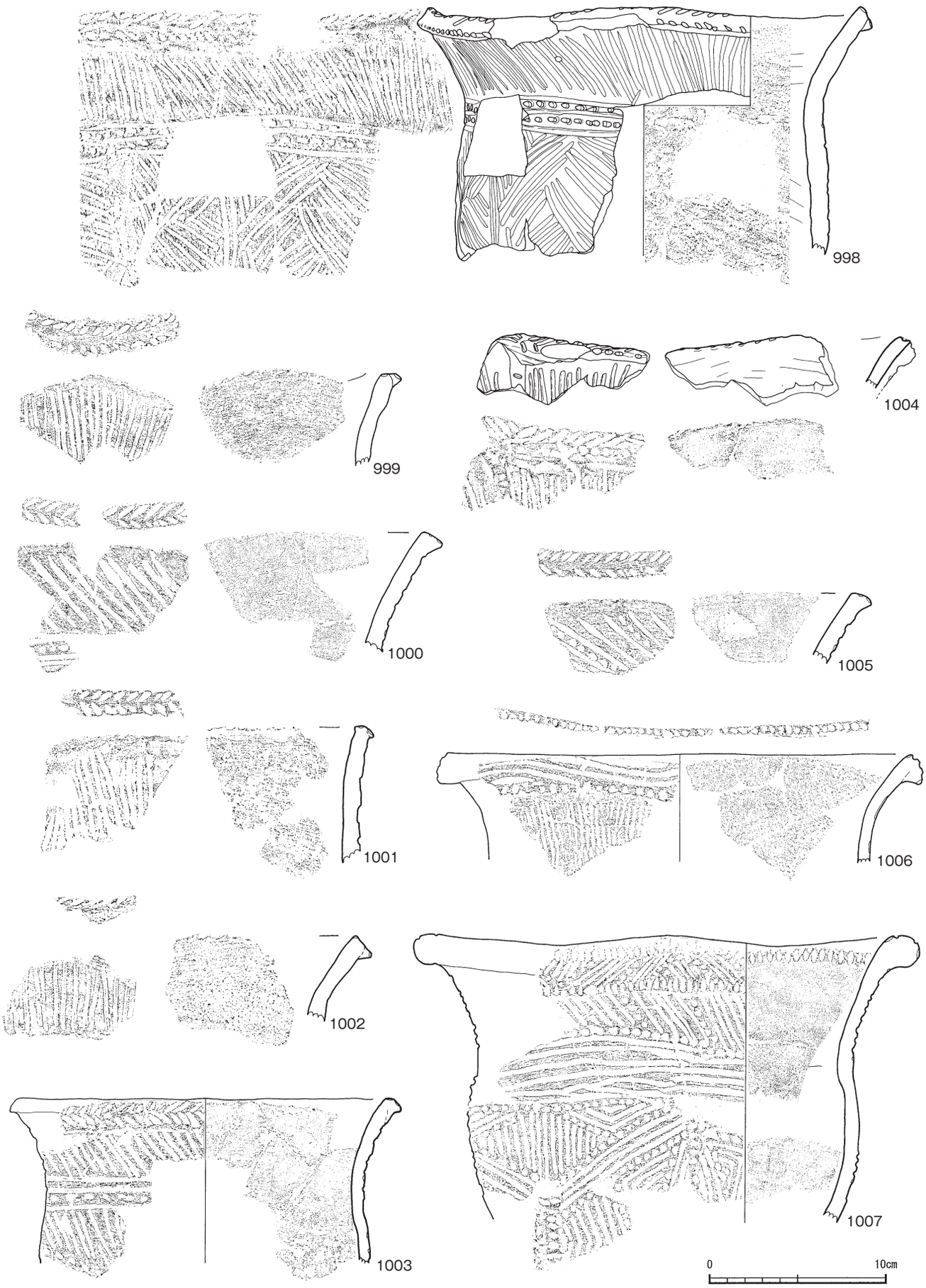
998～1005 は口唇部外端の肥厚部に羽状の刺突を施す一群である。998 は４単位の波状口縁を呈すると考えられる。頸部に横位の沈線を３条施文後，沈線間に刺突を施す。その後，肥厚部下より口縁部から頸部に斜位の沈線を施す。胴部は縦位の沈線で器面を割付けた後，斜位の沈線を施す。999～1002 も口縁部から頸部にかけて，998 と同様の施文を行っている。999 は波状口縁を呈すると考えられる。1003 は口縁部から頸部に縦位の沈線，刺突を施文した後，胴部との境付近に横位の沈線，刺突を施す。その後，口縁部から頸部に斜位の沈線を施文す



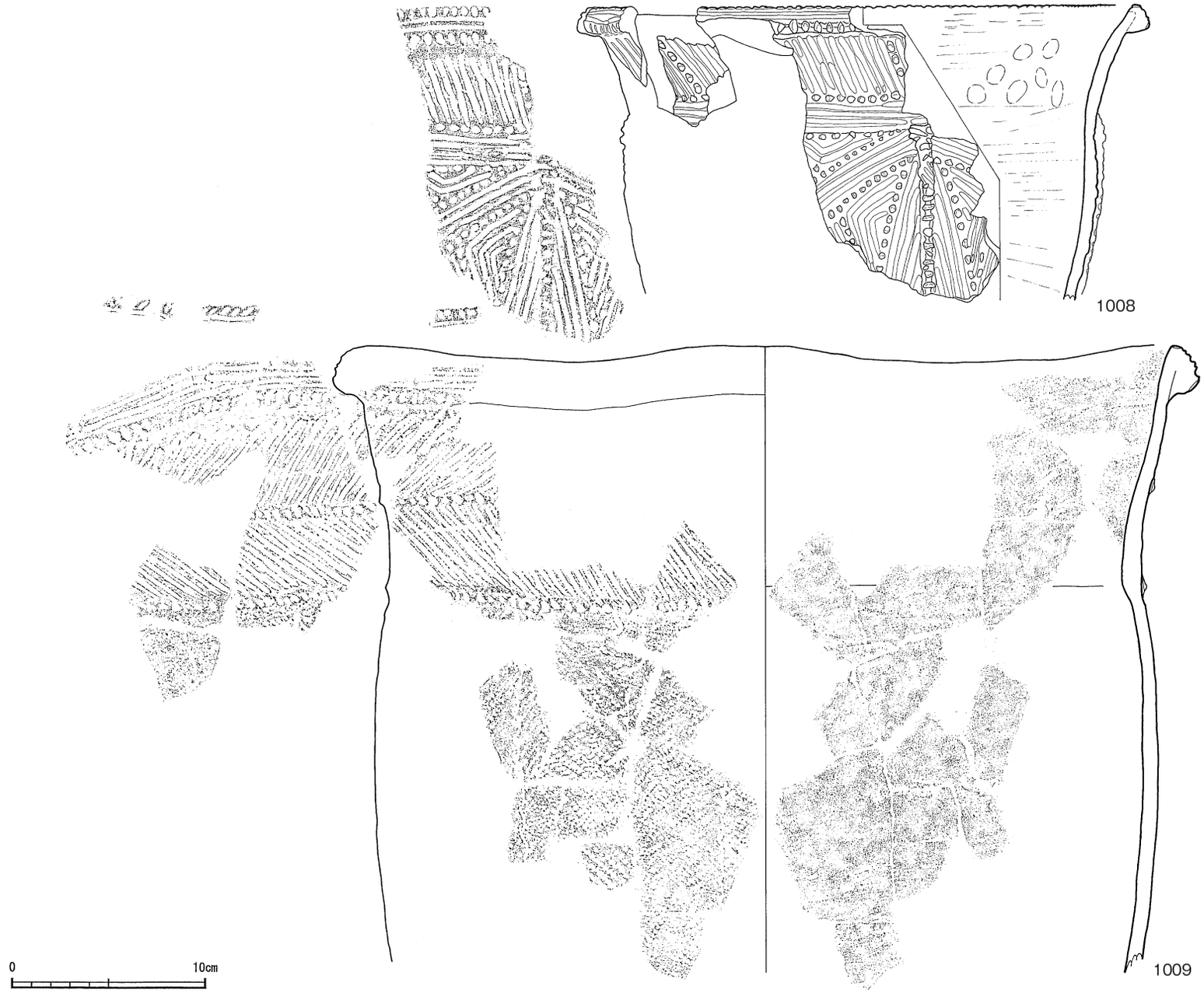

第352図　Ⅻ類土器（8）



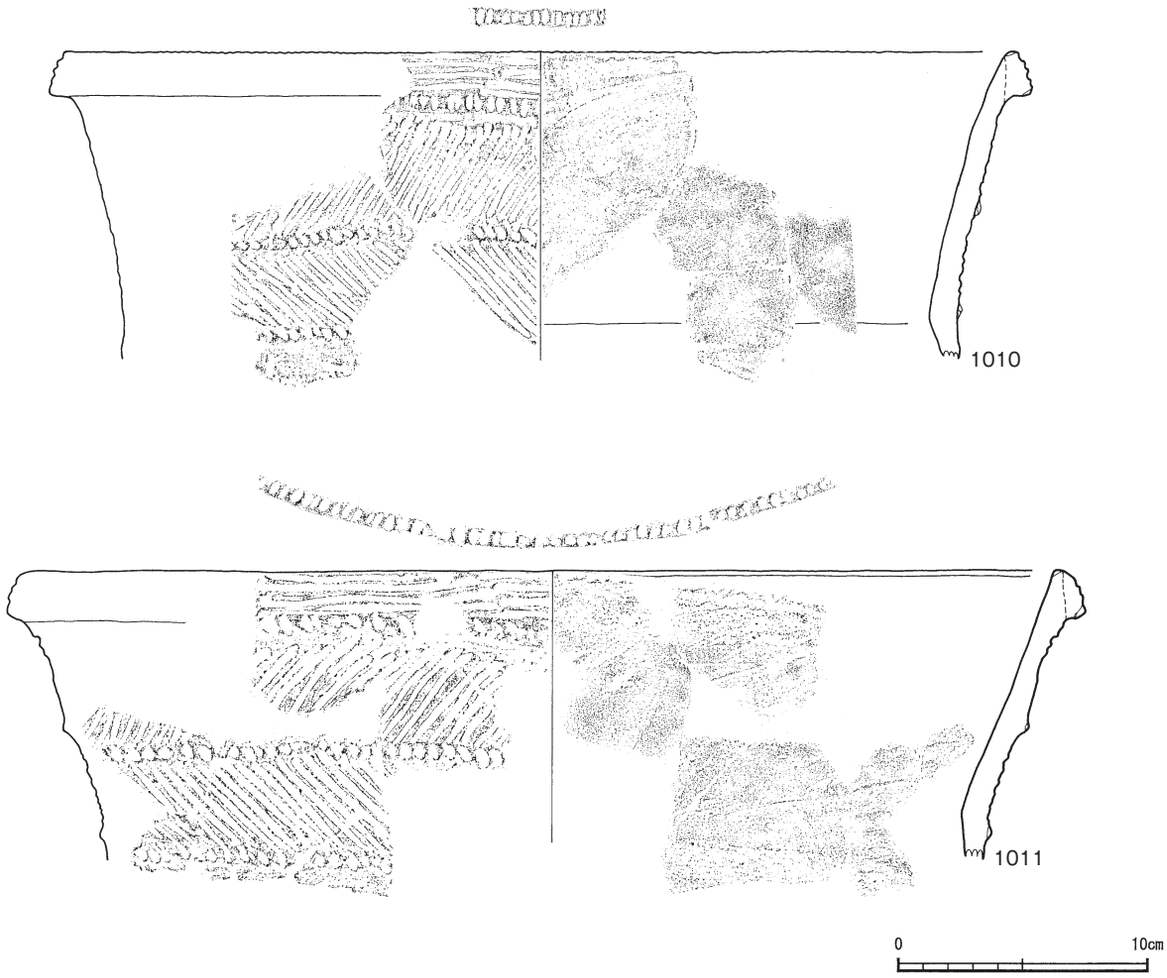

第353図　Ⅻ類土器（9）




第 354 図　Ⅻ類土器（10）




第 355 図　XⅣ類土器（11）



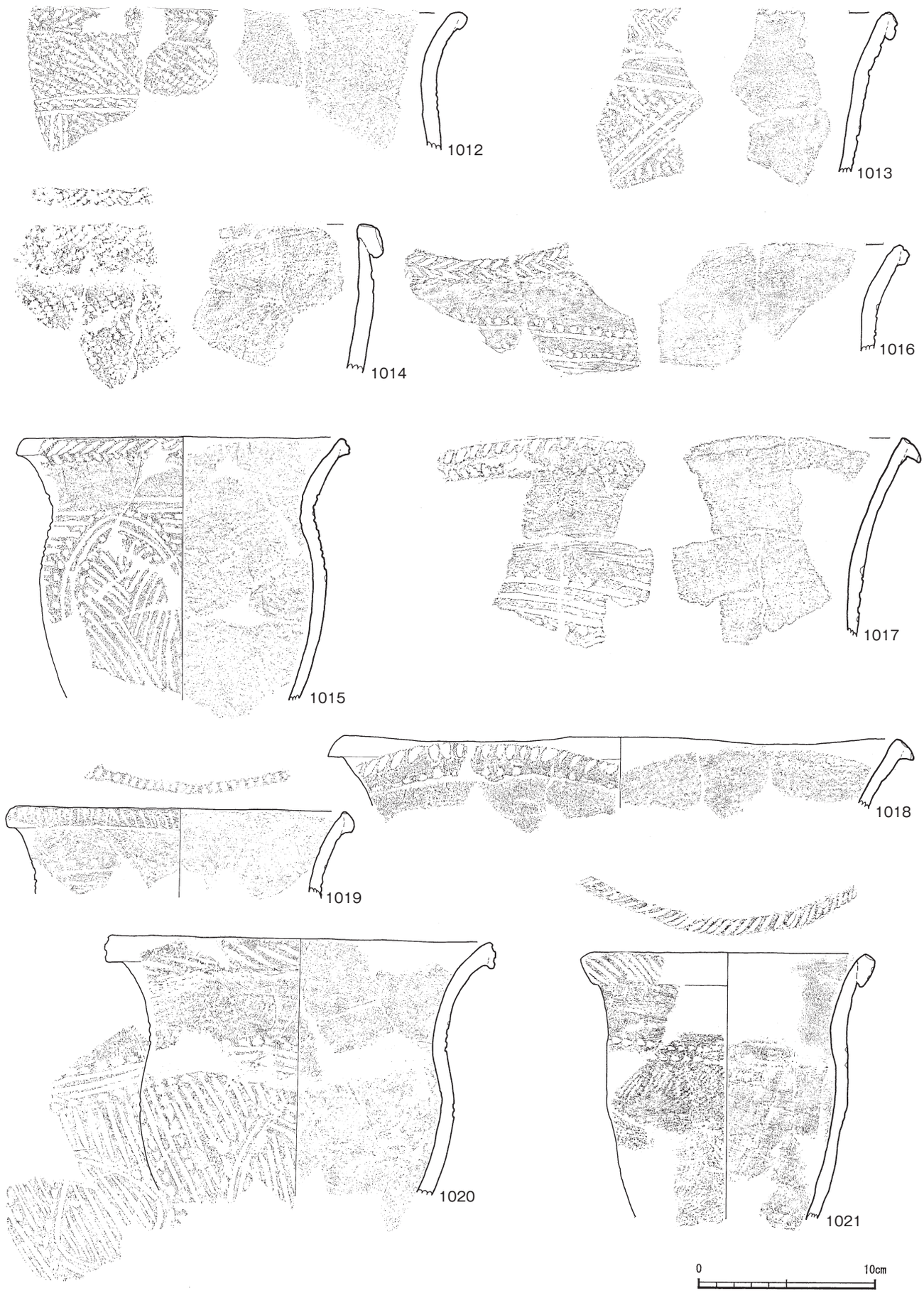

第 356 図　Ⅻ類土器（12）

る。胴部は斜位の刺突を施す。斜位の刺突と胴部境付近の横位の沈線と区画された中に斜位の沈線を充填する。1004 は波状口縁を呈すると考えられる。口縁部外面に縦位の突帯を貼り付けた後，口唇部外端の肥厚部を成形する。波頂部には斜位の沈線を，口縁部外面には縦位の沈線を施す。1005 は口縁部外面に斜位の沈線を施し，一部沈線間に刺突を施文する。

1006～1008 は口唇部外端の肥厚部に沈線を施し，上下端に刻目を入れる一群である。1006 は肥厚部に波状の沈線を施す。口縁部から頸部には浅い沈線を縦位に密に施す。1007 は丸みを帯びた口唇部外端の肥厚部に斜位の沈線，刺突を施す。肥厚部よりやや下がった位置に，横位の浅い沈線を数条施した後に，沈線の上下端に横位の刺突を１段ずつ施す。その後，肥厚部下の口縁部に斜位の沈線と刺突を施す。胴部は長さの異なる刻目突帯を縦位に交互に貼り付けた後，刻目突帯の上端部間に３本１単位の斜位の沈線を施す。その後，沈線の両端に刺突を施文し，胴部の割付けを行う。斜位の沈線と刺突で菱形状の区画を作り，「Ｖ」字状のモチーフを描いた後，菱形状の区画内に縦位の沈線を充填する。刻目突帯間を結ぶ斜位の沈線，刺突より下は，「く」の字状，逆「く」の字状のモチーフを沈線で描く。一部沈線間に刺突を施す箇所もある。1008 は肥厚部に横位の沈線を施す。口縁部以下の文様は，1007 に類似するが刻目突帯上位の頸部付近に粒状の突起を貼り付ける。

1009～1011 は口縁部から頸部に刻目突帯を施した後，斜位の沈線を上下方向を変えて施文する一群である。1010・1011 は文様，胎土，調整等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1009 は胴部に単節斜行縄文 LR と単節斜行縄文 RL の原体を結節して縦位に施す。結節部には無節斜行縄文 R が確認できる。

1012～1014 は口唇部外端部に折り返し口縁状の肥厚部をもち，口縁部から頸部に単節斜行縄文を施す一群である。1012 は肥厚部に斜位の沈線を施し，口縁部から頸部に単節斜行縄文 LR を縦位に施し，頸部付近に横位の沈線，刺突を施す。横位の沈線，刺突より下位に縦位の




第 357 図　Ⅻ類土器（13）

沈線を施文する。1013 は肥厚部に斜位の沈線を施し，口縁部から頸部にかけて単節斜行縄文 RL を横位に施し，肥厚部下に沈線を横位に施す。その後，斜位の沈線，刺突を施す。1014 は肥厚部に単節斜行縄文 LR を横位に施し，口縁部から頸部に単節斜行縄文 LR を結節したものを縦位に施す。結節部は０段ｒの撚りが確認できる。

1015～1035 は肥厚部直下に無文帯を有し，その下位に横位の沈線，刺突を施す一群である。

1015～1028 は口唇部外端の肥厚部に羽状の刺突，斜位，縦位の沈線を施す一群である。斜位の沈線間に刺突を施すものもや，口縁部から頸部が無文だけのものも含む。1015 は口縁部から胴部下半まで復元することができる。頸部から胴部に２本１単位の沈線で逆「U」字状のモチーフを描き，両端に刺突を施し，器面の割付けを行う。その後，頸部から胴部上半に横位の沈線，刺突を施す。逆「U」字状の区画内は斜位の沈線を数本施文後，方向を違えて施す。また，一部沈線間に刺突を施文する。1016・1017 は 992 などと文様が一部類似するため，口縁部から頸部に縦位の沈線，刺突を施文する一群の一部の可能性もある。1018 は肥厚部の上下端より刺突を施す。1019 は肥厚部に直線状の縦位，斜位の沈線を施した後，上端部にも刻目を施す。1020・1021 は口縁部から胴部下半まで復元することができる。1020 は肥厚部に右下がり斜位の沈線を施す。胴部に縦位の沈線と刺突を一定の間隔で施文した後，胴部下半に弧状のモチーフを沈線で描き，沈線に沿って刺突を施す。横位，縦位の沈線で割付けられた内部や弧状のモチーフの内部に縦位の沈線を施す。1021 は肥厚部に右下がり斜位の沈線を施した後，肥厚部上端に刻目を入れる。頸部に横位の刺突を２段施した後，無節斜縄文Ｌを胴部上半は横位に，胴部下半は横位，縦位に施す。1022 は口唇部外端に貼り付けた肥厚部との接合痕が明瞭に確認できる。肥厚部には右下がり斜位の沈線を施した後，右上がり斜位の沈線を施す。1023 は口唇部外端部が僅かに肥厚している。肥厚部上端に刻目を入れている。口縁部下位から頸部には，単節斜行縄文 RL を横位に施文後，横位の沈線，刺突を施す。1024 は肥厚部に斜位の沈線を明瞭に施し，肥厚部下端に刻目を入れる。1025 は波状口縁を呈すると考えられる。1025 は肥厚部に斜位の明瞭な沈線を数本施した後，方向を変えて施文している。肥厚部下端には，明瞭な刻目を施す。1026・1027 は肥厚部の上下端に刻目を入れる。1028 は肥厚部に斜位の沈線で山形のモチーフを描いた後，沈線間に列点状の刺突を施文する。肥厚部の上下端には，刻目を入れる。

1029～1032 は口唇部外端の肥厚部に横位の刺突を密接に施す。肥厚部直下を無文とし，肥厚部よりやや下がった位置より横位の沈線，刺突を施す一群である。1029 は肥厚部の上下端に刻目を入れる。胴部境との頸部に刻目突帯を施し，口縁部下位から頸部の横位の沈線，刺突と刻目突帯間には，波状の沈線を施す。1030 は肥厚部に縦位の刺突を６段施した後に，横位の刺突を４段施し，肥厚部上端に刻目を入れる。1031 は肥厚部上端に刻目を入れるが，下端はほとんどが欠損している。

1033 は口唇部外端が僅かに肥厚する。肥厚部には縦位の短沈線を施す。口縁部外面には刻目突帯を１段施す。さらに，それよりやや下がった位置に横位の刺突を施す。肥厚部と刻目突帯の間に，焼成後に内外面から穿孔した補修孔が１か所確認できる。

1034・1035 は口唇部外端の肥厚部の上下端に刻目を入れる一群である。1034 は肥厚部に横位の沈線を施す。口縁部から頸部に横位の刺突を２段施文した後に，縦位の沈線を施す。1035 は胴部に斜位の沈線，刺突を施す。

1036 は口唇部外端の肥厚部に縦位の刺突を施し，幅広の突帯を縦位に貼り付け，突帯上位に横位の沈線を施す。口唇部内面に棒状工具で円形の刺突を施し，その周囲に同心円状の沈線を施文する。同心円状の端部より，斜位や横位の沈線を施す。

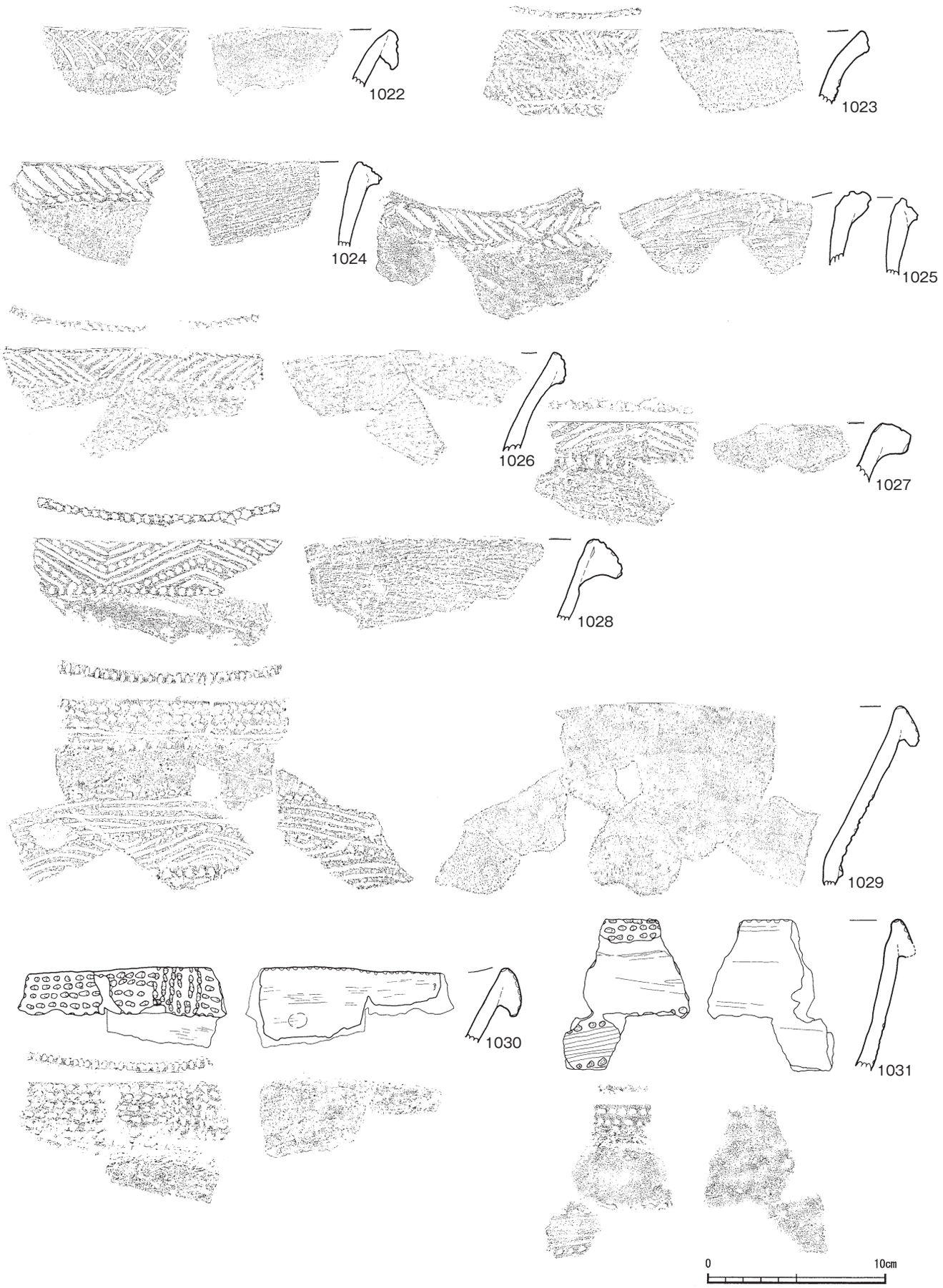
1037～1100 は口縁部上位がやや肥厚する一群である。口唇部外端に肥厚部をもつものに比べ，肥厚部はさほど厚くない。肥厚部には沈線文，刺突文，縄文等を施す。口縁部上位がやや肥厚する一群と同様の文様をもち，口縁部上位が肥厚しないものも含む。口縁部上位の肥厚部，肥厚部下から頸部にかけての文様構成や文様要素等により細分した。

1039～1047 は肥厚部に羽状の沈線を施す一群である。

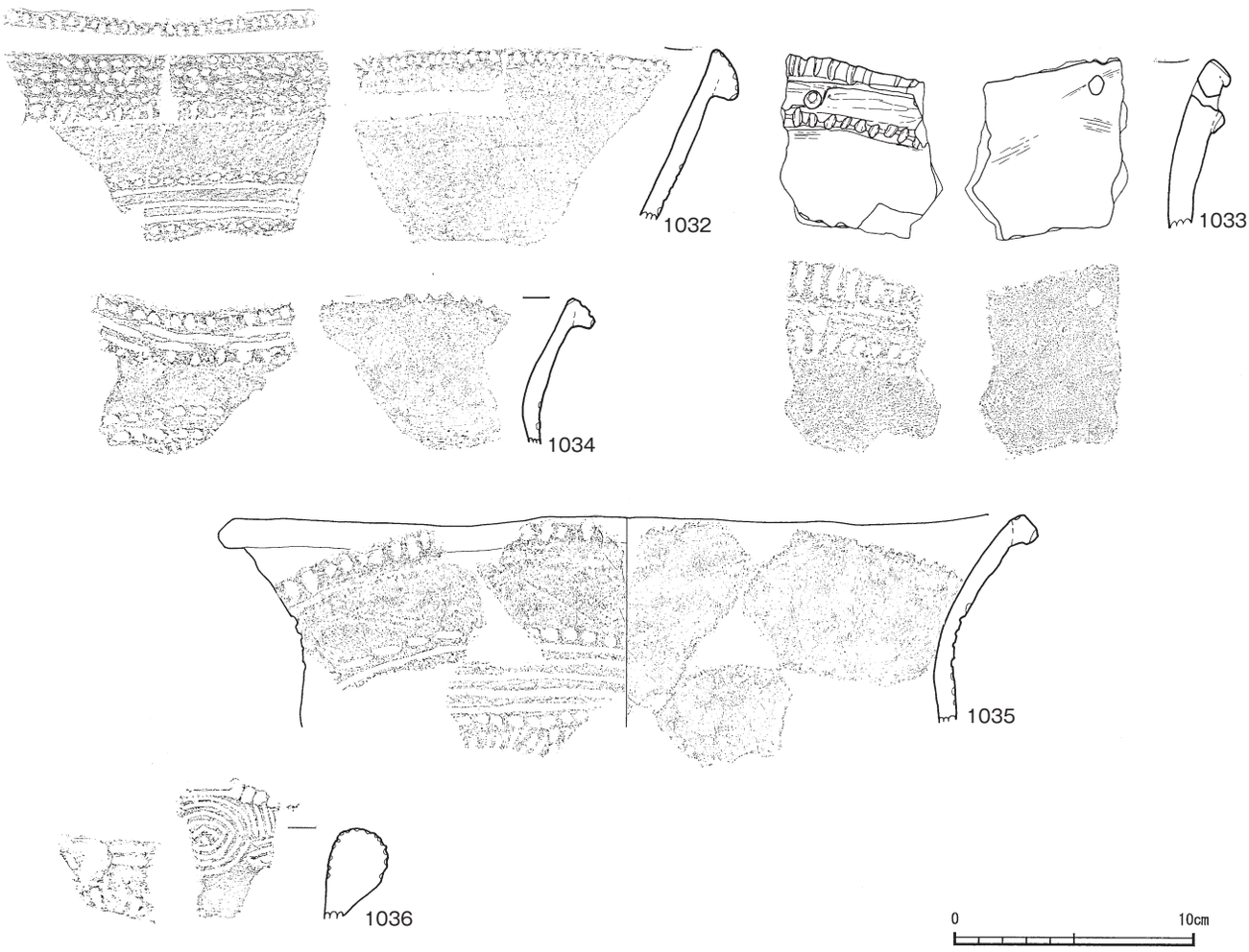
1037・1038 は肥厚部下から頸部に縦位の押引状の連続刺突を施した後に，横位の連続刺突を施文し，刺突間に波状の沈線を施す一群である。いずれも波状口縁を呈すると考えられる。1037 は頸部と胴部の境付近に横位の連続刺突が確認できる。

1037～1041 は肥厚部下から頸部に横位の沈線，刻目突帯を施した後に，沈線間，刻目突帯間に刺突を施文する一群である。胴部には単節斜行縄文 RL を横位に施文する。1039・1040 は波状口縁を呈すると考えられ，1039 は口縁部が３分の１程度残存しており，４単位の波状口縁となる可能性が高い。

1042～1047 は肥厚部の上端にあたる口唇部にのみ刻目を入れ，肥厚部下から頸部に横位の刻目突帯を施す一群である。1044 には刻目突帯がないが，文様，調整等が 1043 と類似することから，ここに含めた。いずれも波状口縁を呈すると考えられる。1042 は肥厚部に羽状の太めの沈線を施す。波頂部のみ肥厚部は羽状の沈線の下位の部分のみ施文し，上位は重弧文状の沈線を施す。その後，沈線間に刺突を２段施文する。肥厚部下から頸部にかけて刻目突帯を２段施し，間隔を空けて胴部との境付近に１段施す。刻目は肥厚部の沈線の施文に用いた棒状




第 358 図　Ⅻ類土器（14）



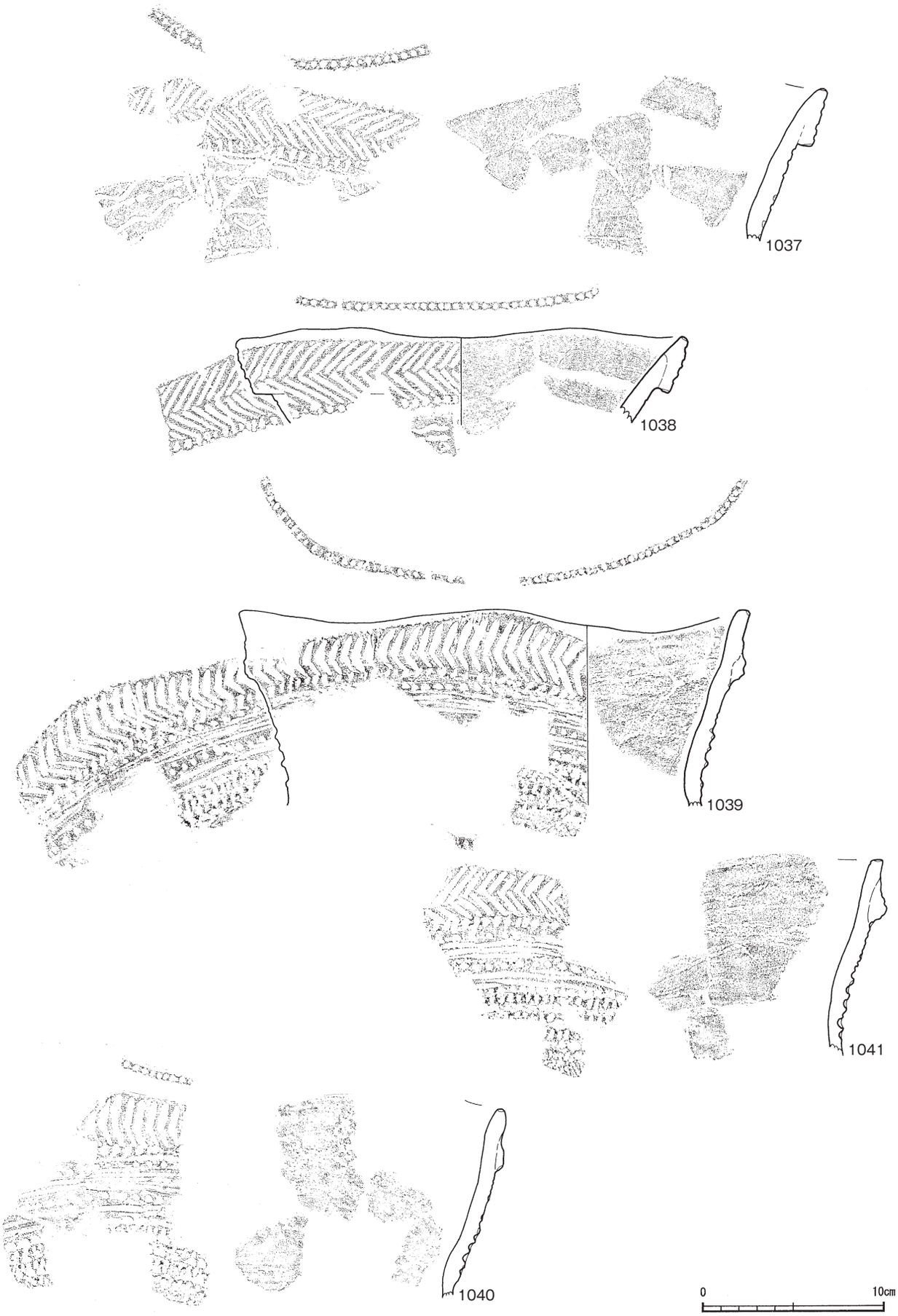

第 359 図　Ⅻ類土器（15）

工具で，突帯の下方より施している。胴部は単節斜行縄文 LR を横位に施文したと考えられるが，無節斜行縄文 R が確認できる結節部は縦位の施文であり，縄文と結節部を分けて施文したのか判然としない。1043・1044 は肥厚部の上方と下方からそれぞれ棒状工具を押し当てて施文を行っている。1045 は肥厚部と口縁部下位の刻目突帯の間に，1047 は肥厚部下の刻目突帯の下に沿うように波状の浅い沈線を施す。1046 は肥厚部のやや間延びした羽状の沈線間に，横位の波状の沈線を施す。また，肥厚部と肥厚部下の刻目突帯の間にも同様の波状の沈線を施す。

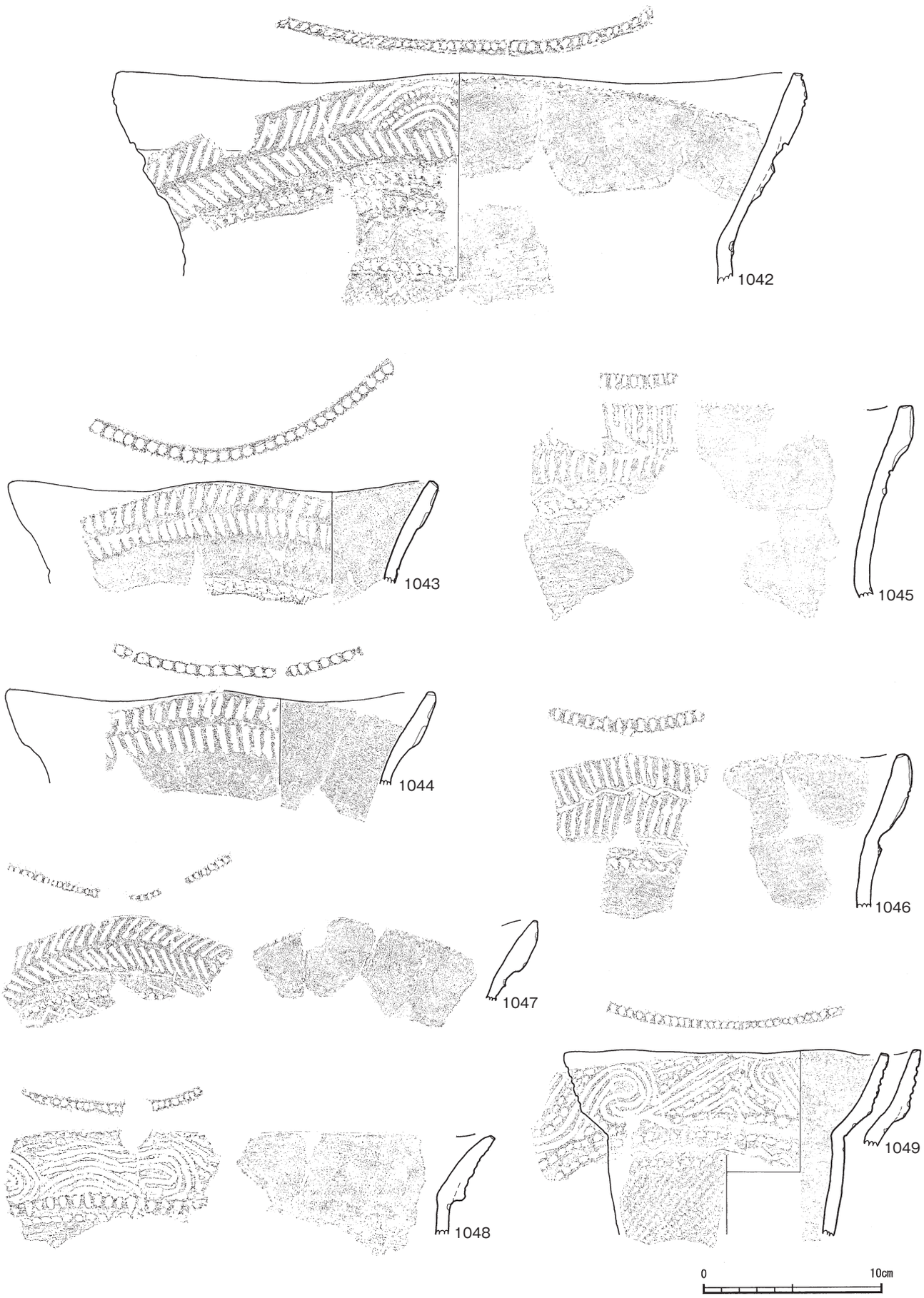
1048～1057 は口縁部上位の肥厚部に沈線や刺突，押引きで渦文状のモチーフを描く一群である。なお，口縁部上位は肥厚しないものの，同様の文様をもつものは本群とした。

1048～1052 は口縁部上位に沈線のみ，もしくは沈線と１段の刺突で施文を行う一群である。1048 は肥厚部に波状の沈線で渦文状のモチーフを描き，肥厚部の上端に刻目を，下端に刻目突帯を施す。肥厚部下の縁れ部に刺突を横位に１段施す。1049 は肥厚部の渦文状のモチーフ間に斜位の沈線を施文する。沈線間に１段の刺突を施すが，一部２段の刺突を施文する箇所がある。その後，肥厚部の上下端に刻目を入れる。頸部には刺突を２段施文し，刺突間に波状の沈線を施す。胴部は単節斜行縄文ＲＬを縦位に施す。1050 は口縁部は肥厚しないが，渦文状のモチーフを沈線と１段の刺突で描く。1049 同様に一部刺突が２段の箇所がある。口唇部外端と口縁部下位に横位の刺突を１段ずつ施す。口唇部に刻目を入れる。1051 は肥厚部に沈線と「Ｃ」字状の刺突を施し，肥厚部の上下端に刻目を入れる。1052 は渦文状のモチーフは確認できないが，口縁部外面に波状の沈線や１段の刺突を施すことから，その一部と考え，ここに含めた。口唇部に羽状の刺突を施す。

1053～1055 は口縁部上位に沈線と２段の刺突で施文を行う一群である。いずれも波状口縁を呈すると考えられる。1053 は口縁部～胴部上半を復元することができ




第 360 図　Ⅻ類土器（16）




第 361 図　Ⅻ類土器（17）

る。４単位の波状口縁を呈すると考えられる。肥厚部は沈線で渦文状のモチーフを描く。沈線間に２段の刺突を施す。肥厚部の上端にあたる口唇部に刻目を入れる。頸部は横位の刻目突帯や波状の沈線を施す。頸部と胴部の境付近に刻目突帯を１段施した後，胴部は単節斜行縄文LRの原体を結節したものを縦位に施す。結節部には無節斜行縄文Rが確認できる。1054は沈線や２段の刺突で渦文状のモチーフを描いたと考えられる。肥厚部の上端に刻目を，下端に刺突を施す。肥厚部下の口縁部下位に横位の鋸歯状の沈線を施す。1055は文様，胎土，調整等が1054と類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。

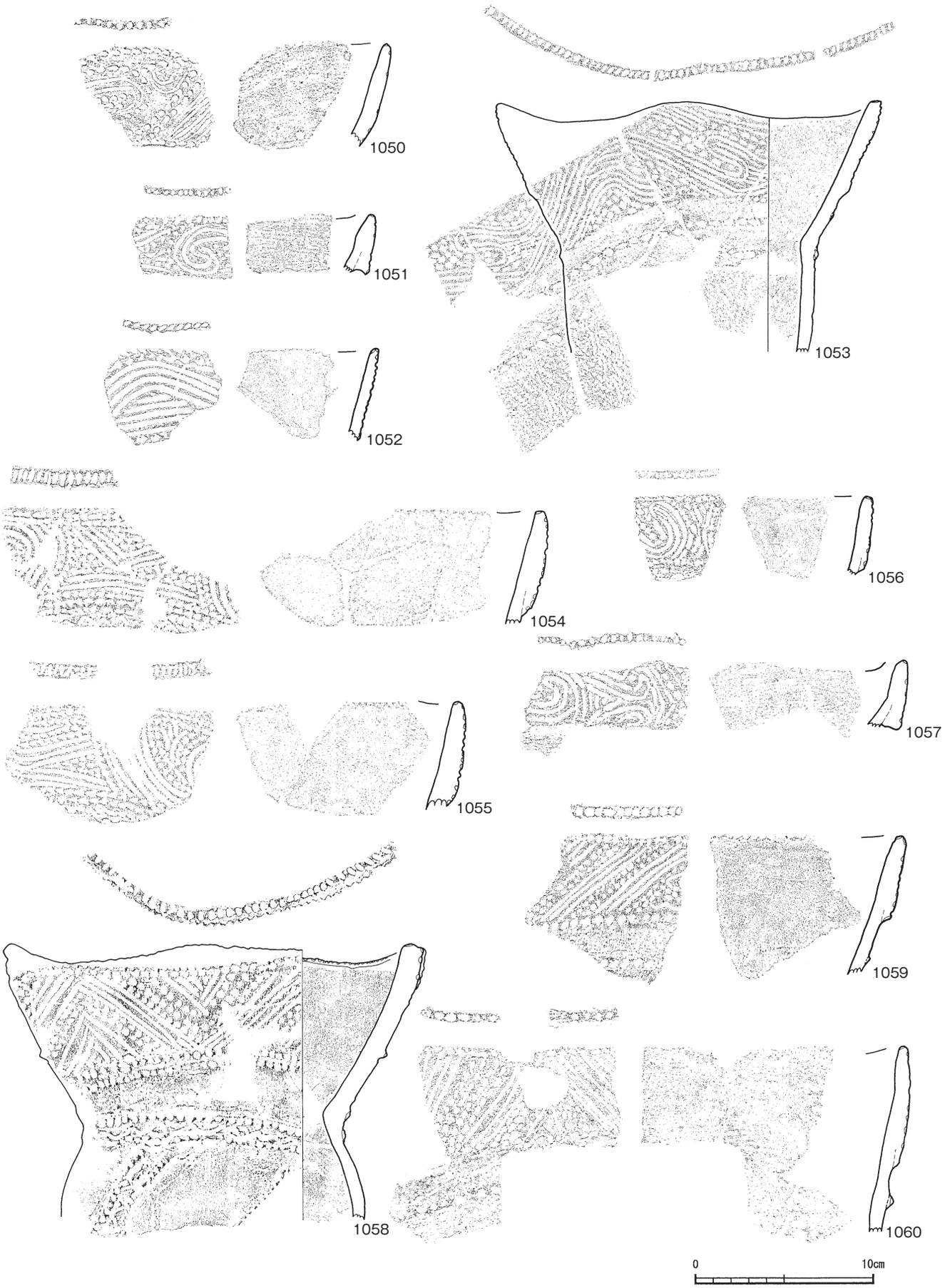
1056・1057は肥厚部に押引きで渦文状のモチーフを描く一群である。いずれも口唇部に刻目を入れる。1056は口唇部外端に横位の刺突を，口縁部下位に押引文状の横位の連続刺突を１段ずつ施す。1057は肥厚部を押引きで施文を行うが，施文具が器面から離れ，一部刺突状を呈する箇所がある。

1058～1069は口縁部上位に斜位の沈線と刺突で山形状のモチーフを描く一群である。山形のモチーフは確認できないもののその一部と考えられるものや山形のモチーフが崩れたものも含む。口唇部に刻目を入れ，肥厚部下端に横位の刺突や刻目を施す。1058～1065・1067～1069は，波状口縁を呈すると考えられる。1058～1064は肥厚部下から頸部に横位の刻目突帯を施す。

1058は４単位の波状口縁を呈すると考えられる。肥厚する口縁部外面に斜位の沈線と２～３段の刺突により山形のモチーフを描く。縦位の刻目突帯を施す部分が１か所確認できる。口縁部外面の上位に横位の刺突を施した後，さらに口唇部外内端部にそれぞれ刻目を入れる。口縁部外面の下位には横位の刻目突帯を施した後，その下に横位の刺突を施文する。口縁部外面の上下でそれぞれ２単位の刺突を施文したものと類似したような効果となっている。頸部と胴部との境付近に刻目突帯を２段施し，刻目突帯間に波状の沈線を１条施文する。胴部には２段の刻目突帯を斜位に間隔を空けて施文する。1059は肥厚部に３本の斜位の沈線，２段の斜位の刺突でモチーフを描き，一部波状の沈線も施す。肥厚部の上下端に刻目を入れた後，さらに口唇部にも刻目を入れる。頸部に刻目突帯を１段施す。1060は肥厚部に斜位の沈線，４段の刺突でモチーフを描く。頸部に刻目突帯を１段施し，その下に浅い波状の沈線を２条施文する。1061は1058・1059が口唇部の刻目と口縁部上位の横位の刺突や肥厚部の刻目が一部重なるように施文していたのに対して，肥厚部上端の横位の刺突がやや離れて施文されている。頸部には刻目突帯を３段施す。1062は1061と文様，調整，胎土等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1063は沈線と２段の刺突でやや丸みを帯びた山形のモチーフを描く。肥厚部の上端と下端と肥厚部直下に２段の刺突を施す。頸部付近には刻目突帯を２段施す。1064は文様，胎土，調整等が1063と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1065・1066は肥厚部下端に棒状工具を器面対して縦位に当て刺突を行うため，他と異なり短沈線状を呈している。肥厚部には斜位の沈線と刺突を施す。肥厚部下位には鋸歯状の沈線を施す。1067は肥厚部を斜位の沈線，１～２段の刺突で山形のモチーフを描き，山形の区画内に鋸歯状の沈線を施す。肥厚部下端に刻目を入れ，同様の施文具で肥厚部直下に米粒状の刺突を行う。いずれも施文具を器面に対して縦位に当てていると考えられる。1068は肥厚部を浅い沈線と押引き状の連続刺突でモチーフを描く。肥厚部下端に刻目を入れる。1069は肥厚部の上下端に横位の刺突を１段施した後，肥厚部に斜位の沈線，２段の刺突を施す。刺突と斜位の沈線間に鋸歯状，波状の沈線を施す箇所がある。肥厚部下端の刺突の下，頸部，頸部と胴部境付近に横位の刺突を１段ずつ施し，刺突間に斜位の沈線を上下方向を違えて施文する。胴部は単節斜行縄文LRを施しているが，条と節がほとんど残存していないため，施文の方向は判然としない。横位の刻目突帯を施し，その下位に鋸歯状の沈線を描く。

1070～1073は口縁部上位の肥厚部もしくは口縁部上位に斜位の沈線や刺突で「く」の字状，逆「く」の字状のモチーフを描く一群である。「く」の字状のモチーフがやや崩れている1073も含む。いずれも波状口縁を呈すると考えられる。1070～1072は口唇部に刻目を入れる。1070は肥厚部に斜位の明瞭な沈線で逆「く」の字状のモチーフを描き，沈線の屈折部に横位の刺突を施す。その後，肥厚部の上下端に刺突を施文する。頸部に横位の刻目突帯を施す。1071は口縁部上位に４段の刺突を施す。1072は肥厚部に斜位の沈線と３段の刺突で「く」の字状のモチーフを描き，肥厚部の上下端は，それぞれ２段の刺突を施す。1073は肥厚部に斜位の沈線と２段の刺突でモチーフを描き，肥厚部上下端にそれぞれ１段の刺突を施し，肥厚部直下にも横位の刺突を１段施文する。肥厚部下端から頸部にかけて斜位の刻目突帯を施した箇所が僅かに確認でき，「ハ」の字状に２段貼り付けたと考えられる。施文は横位の刺突より先である。

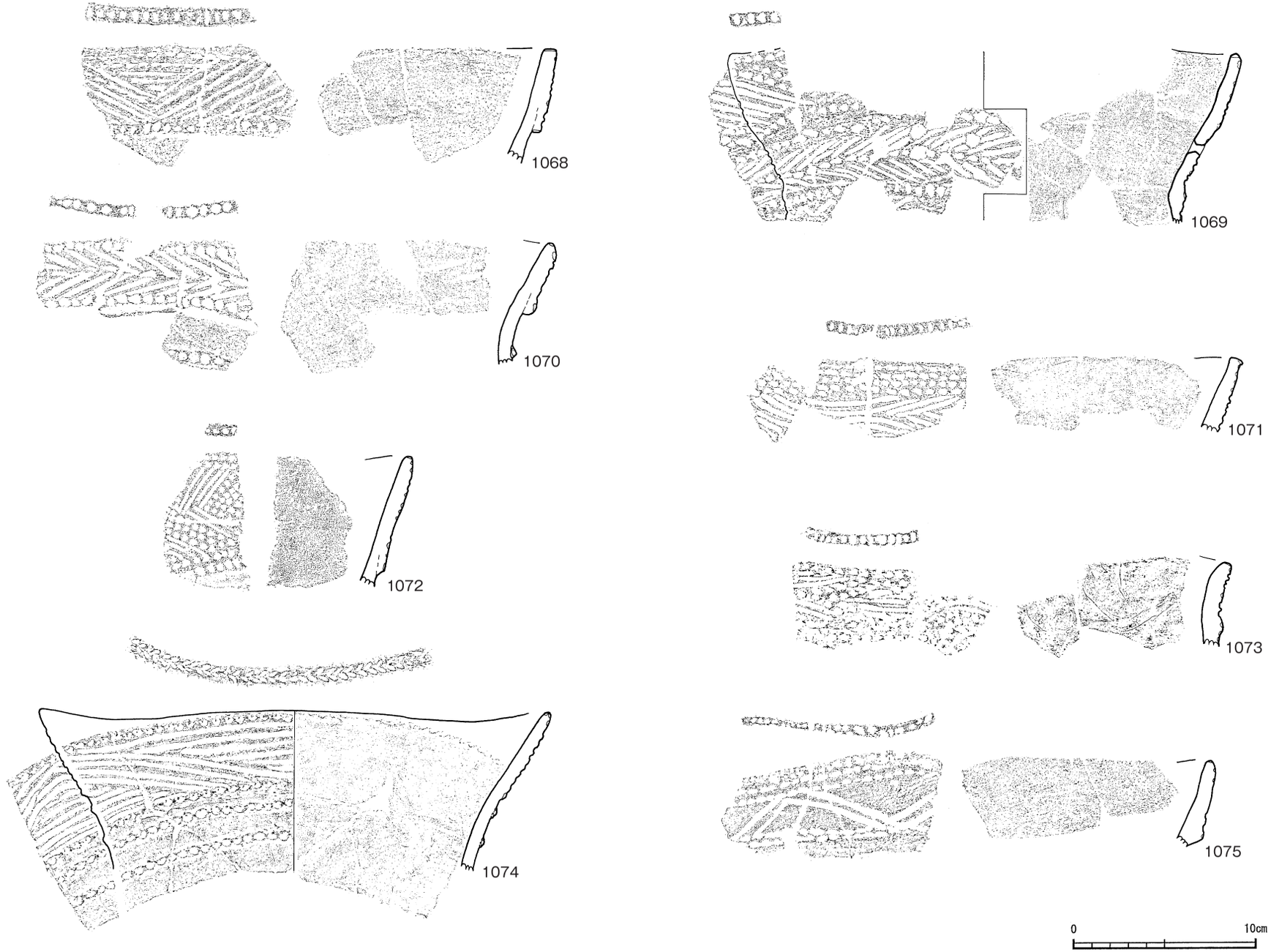
1074～1079は口縁部上位の肥厚部もしくは口縁部上位の上下端に横位の刺突，刻目突帯を施し，その内部に沈線のみでモチーフを描く一群である。1074・1075は山形，1077～1079は「く」の字状のモチーフを描くと考えられる。いずれも波状口縁を呈すると考えられる。1074は口唇部に羽状の刺突を，頸部に刻目突帯を２段施す。1075は肥厚部上下端に，それぞれ２段の押引き状の連続刺突を施す。1076は肥厚部上端に２段，下端に１段の押



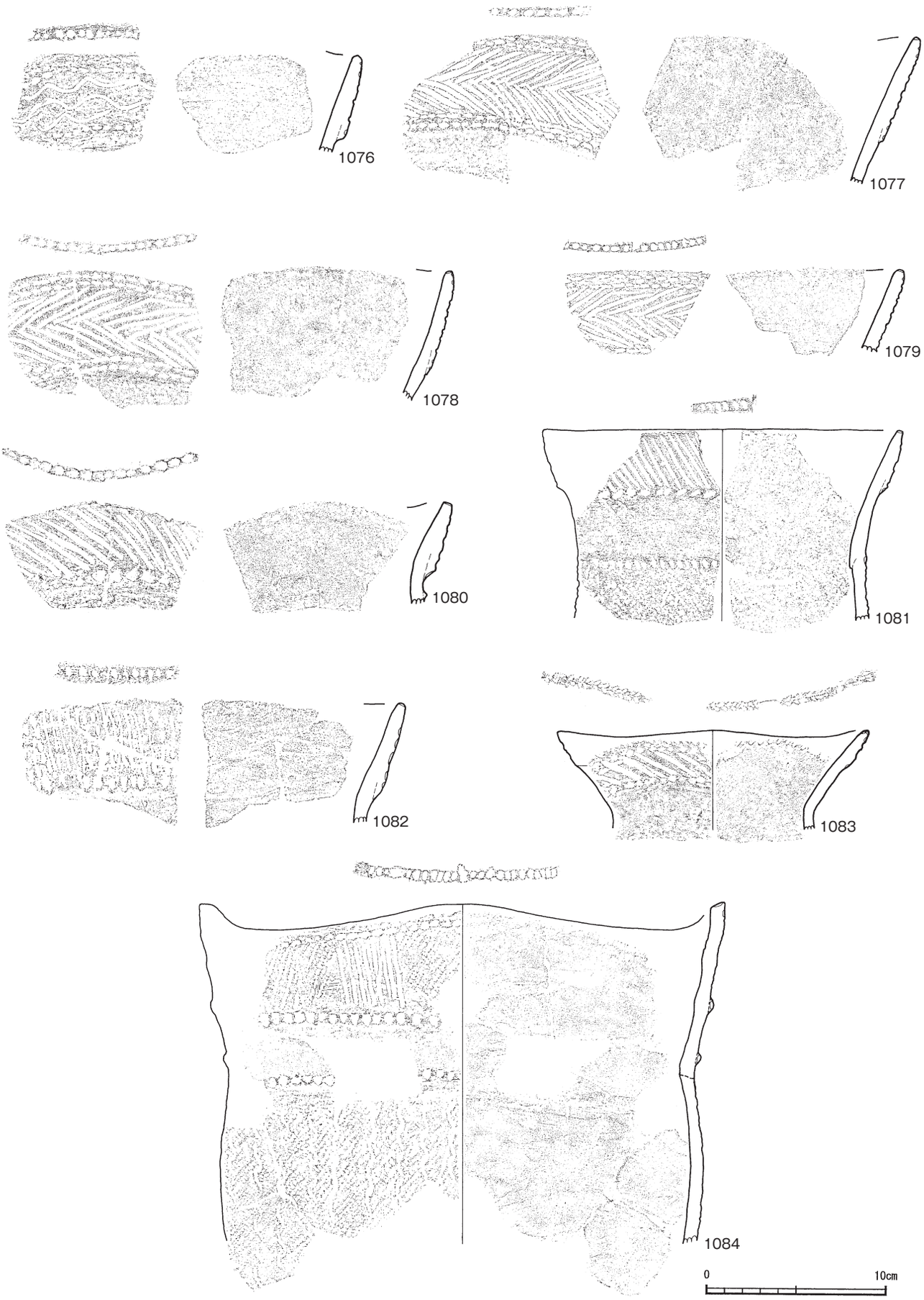

第 362 図　Ⅻ類土器（18）



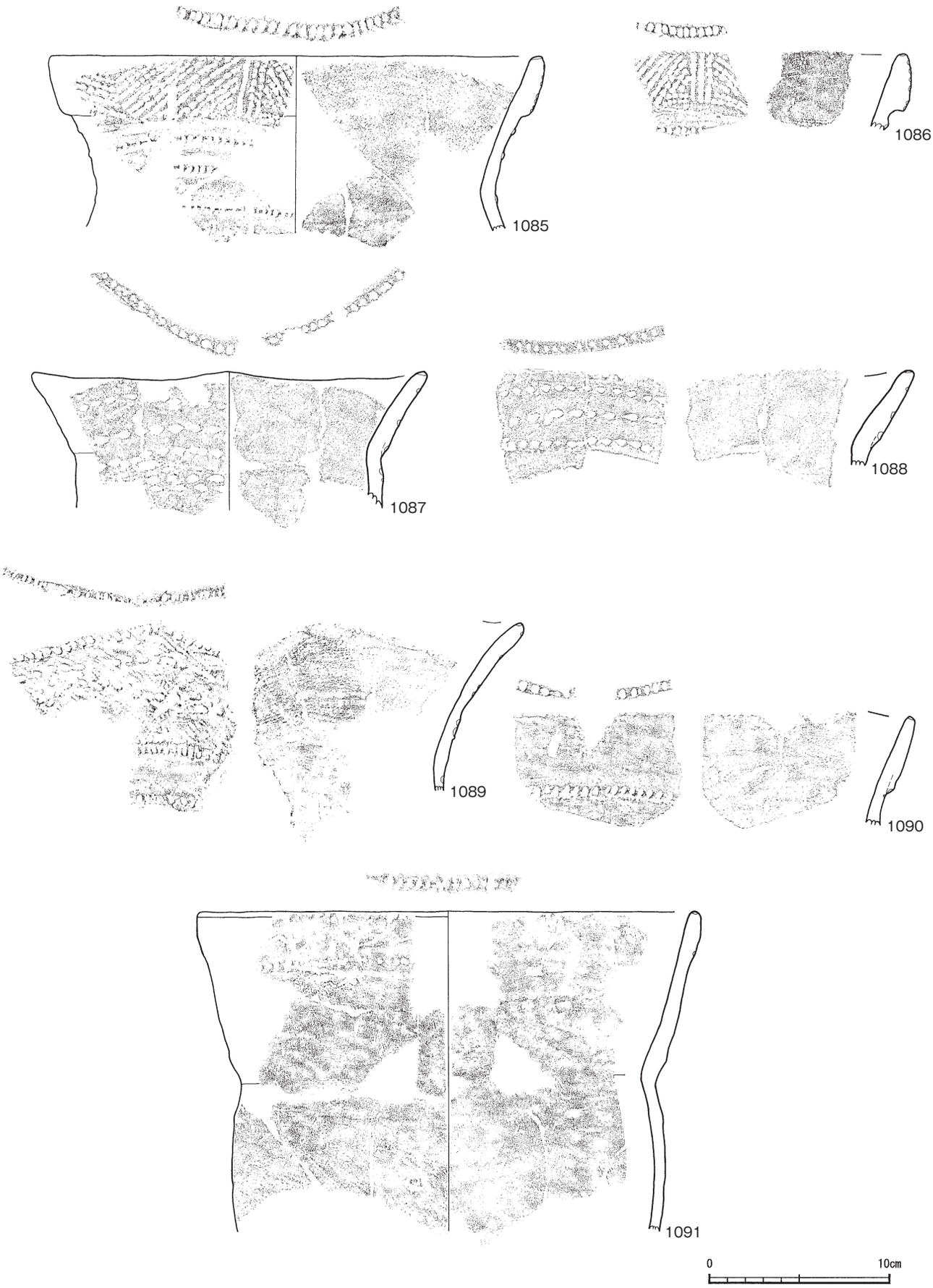

第 363 図　Ⅻ類土器（19）




第 364 図　XIV類土器（20）




第 365 図　Ⅻ類土器（21）




第 366 図　Ⅻ類土器（22）

引き状の連続刺突を施す。肥厚部に波状の浅い沈線を３条施す。

1080～1084 は口縁部上位の肥厚部もしくは口縁部上位に斜位の沈線を主体とした施文を行う一群である。いずれも口唇部に刻目を入れる。1080・1083・1084 は波状口縁を呈すると考えられる。1080～1082 は肥厚部の下端のみに横位の刺突を施す。1083 は肥厚部の上下端に横位の刺突を施す。1084 は肥厚しない口縁部上位の上端には横位の刺突，下端には刻目突帯を巡らす。1080 は頸部に刻目突帯を１段施す。1081 の頸部は無文で，胴部は単節斜行縄文 LR を結節したものを縦位に施す。1082 は肥厚部の沈線間に縦位の刺突を施す。1083 は口縁部が大きく外反する器形である。肥厚部に斜位の浅い沈線を施す。1084 は口縁部上位に単節斜行縄文 RL を間隔を空けて縦位に施した後，その間に斜位の沈線を密接して施文する。口縁部下位と頸部と胴部境付近に，刻目突帯を施す。胴部は単節斜行縄文 RL を結節したものを縦位に施す。結節部には無節斜行縄文Ｌが確認できる。

1085～1091 は口縁部上位の肥厚部もしくは口縁部上位に刺突を主体とした施文を行う一群である。口唇部には刻目を入れる。1085 は肥厚部に縦位の連続刺突を３段施した後，斜位の連続刺突で「Ｖ」字状のモチーフを描く。頸部に刻目突帯を３段施し，胴部に単節斜行縄文 RL を施す。条と節がわずかに確認できる程度で，施文の方向は不明である。1086 は文様，胎土，調整等が 1085 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。ただし，肥厚部の縦位の連続刺突の下位の両端部分に横位の連続刺突を部分的に施す。1087 は波状口縁を呈すると考えられる。肥厚部に刺突を横位に３段，頸部に２段施す。1088 は文様，胎土，調整等が 1087 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1089 は口縁部が大きく外反し，波状を呈すると考えられる。口縁部外面に無節斜行縄文Ｌを縦位に施した後，口唇部外端部に横位の刺突を１段，やや下がった位置に１段施文し，その下に波状の刺突を２段施す。頸部に縦長の刺突を横位に２段，頸部と胴部との境付近に刺突が一部確認できる。1090 は波状口縁を呈すると考えられる。肥厚部の下端に施文具の先端を右上がり斜位に傾けて，横位の刺突を行う。1091 は口縁部上位に横位の刺突を施し，口唇部に刻目を入れる。横位の刺突の上に，波状の短沈線が一部確認できる。頸部以下は無文である。胴部に煤状の付着物が確認できる。

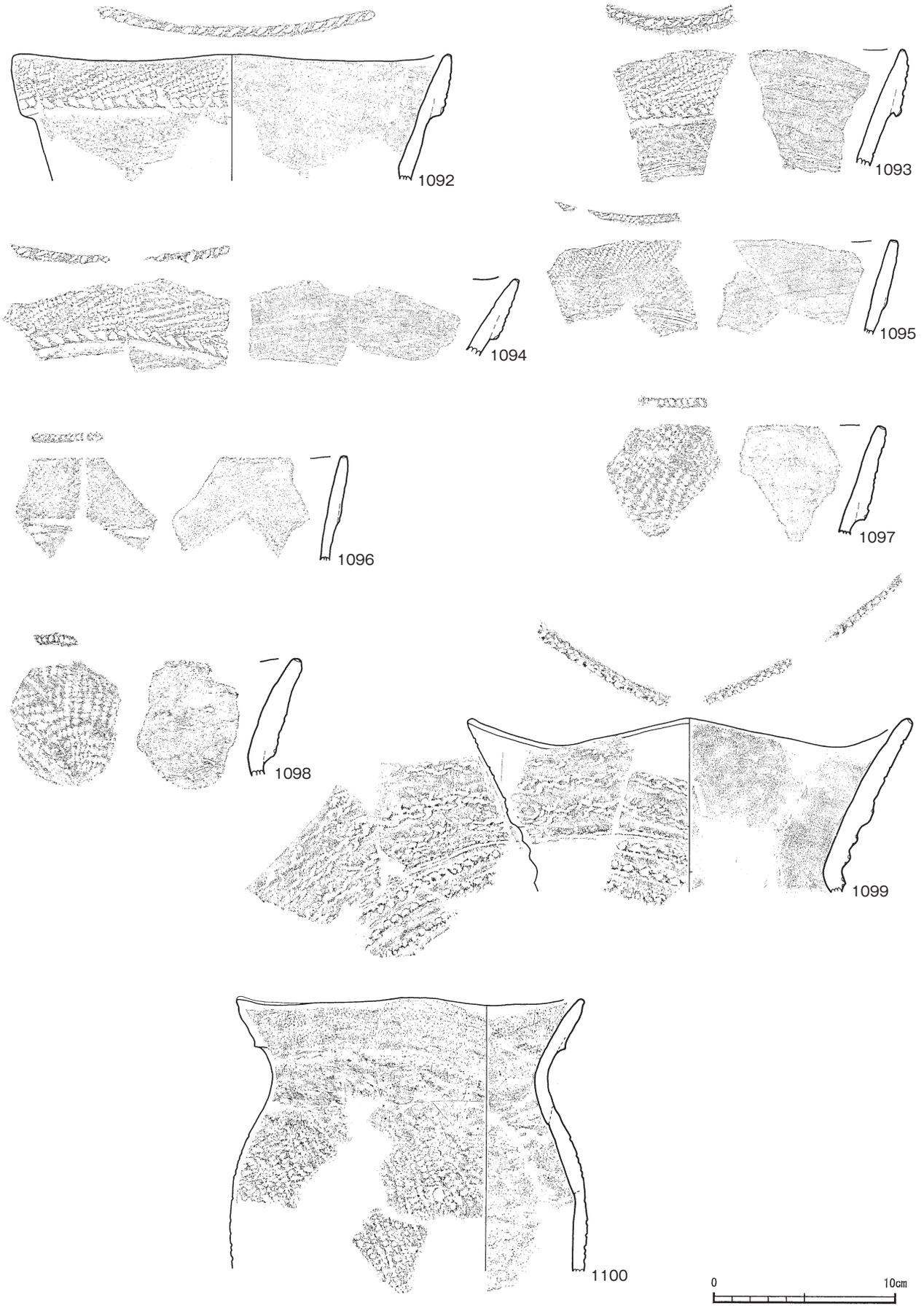
1092～1099 は口縁部上位の肥厚部に縄文もしくは結節縄文の結節部を施す一群である。口唇部に刻目を入れる。1092 は波状口縁を呈すると考えられる。断面より肥厚部を成形した際の接合痕が確認できる。肥厚部に単節斜行縄文 LR を横位に施す。肥厚部の下端の下方より刺突を施す。また，頸部に施文した刺突が一部確認できる。1093・1094 は文様，胎土，調整等が 1092 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1095 は緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。口縁部上位がわずかに肥厚し，肥厚部に単節斜行縄文 LR を横位に施す。1096 は文様，胎土，調整等が 1095 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1097・1098 は肥厚部上位に単節斜行縄文 RL を，下位に単節斜行縄文 LR を横位に施文する。肥厚部の下端に横位の刺突を１段施す。1098 は波状口縁を呈すると考えられる。1099 は口縁部が大きく外反し，４単位の波状を呈すると考えられる。肥厚部に結節縄文の結節部のみを横位に３段施す。結節部は無節斜行縄文 R が確認できる。頸部に刻目突帯を３段施文する。

1100 は口縁部から胴部上半まで復元することができる。４単位の波状口縁を呈すると考えられる。胴部上半がやや丸みを帯びる器形であるが，内面には成形時の内傾接合痕や指おさえ痕が確認できる。口縁部上位がわずかに肥厚する。肥厚部，頸部は無文である。胴部は単節斜行縄文 LR を縦位に施す。

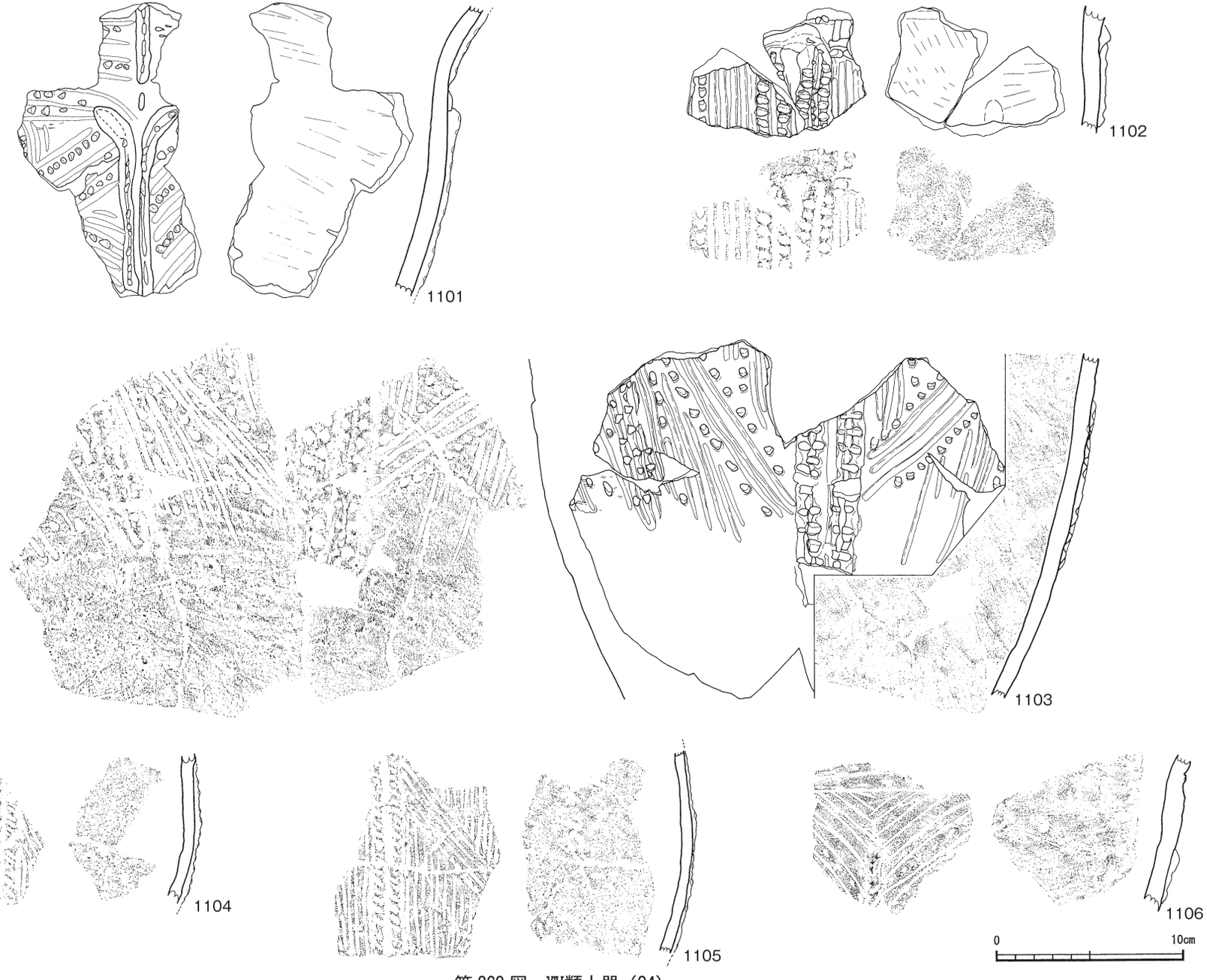
1101～1145 は胴部である。一部底部付近までのものも含む。

1101～1118 は縦位の刻目突帯，突帯を施す一群である。

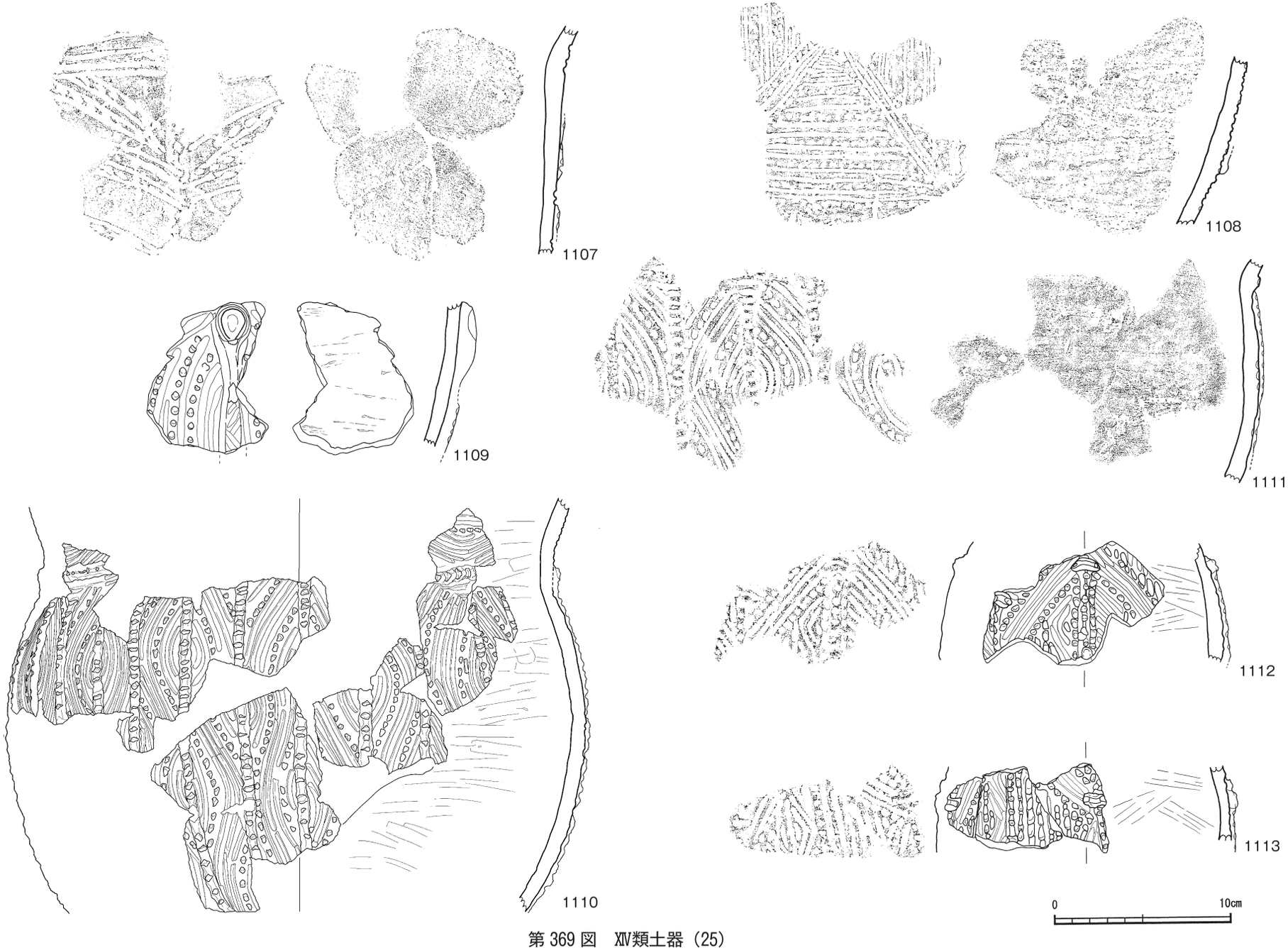
1101～1108 は縦位の刻目突帯を施文後に，横位，縦位，斜位の沈線，刺突を施す一群である。1101 は口縁部下位から胴部下半と考えられる。口縁部下位から頸部にかけて縦位の刻目突帯を施文後に，横位の沈線，刺突を施す。胴部は左右向きの異なる蕨手状の刻目突帯を縦位に施した後，斜位の沈線を施文する。沈線間には縦位の浅い沈線や刺突を施す。1102 は頸部から胴部上半付近であると考えられる。頸部には横位の沈線，刺突を施文後，縦位の沈線を施す。胴部は刻目突帯を逆「Ｕ」字状に貼り付け，さらにその内側に縦位の刻目突帯を２本施す。刻目突帯の両端に，縦位の浅い沈線，刺突を施す。1103 は胴部下半と考えられる。縦位の刻目突帯を４本もしくは３本施す。４本の刻目突帯を垂下させ施文した部分は，1102 より逆「Ｕ」状の刻目突帯とその内部に貼り付けた２本の刻目突帯の下部付近と考えられる。刻目突帯間は斜位の沈線，刺突を施す。1104 は縦位の刻目突帯を２本施文後，頸部付近に横位の沈線，刺突を施した後，刻目突帯の両端より斜位の沈線，刺突を施す。横位，斜位の沈線，刺突で区画された内部に，縦位の沈線を施す。1105 は縦位の刻目突帯を２本施した後，1104 と同様の割付けを行い施文しているが，1104 が２本の刻目突帯の刻目が羽状を呈するのに対して，1105 は２本とも右下がり斜位の刻目を施す。1106 は頸部と胴部境付近から胴部上半の一部と考えられる。頸部と胴部境付近は，横位の沈線，刺突を施す。胴部は頸部より下がった位置に縦




第 367 図　Ⅻ類土器（23）




第 368 図　XIV類土器（24）




第 369 図　XIV類土器（25）

位の刻目突帯を施文する。その後，斜位の沈線を交互に施文し「V」字状のモチーフを描いていく。一部沈線間に刺突を施す。1107・1108 は刻目突帯の下部のみが残存している。1107 は頸部から胴部との境付近まで横位の沈線を施した後，胴部は刻目突帯を起点に斜位の沈線を施す。沈線を深く施し，刻目突帯の一部が押し出され，刻目突帯が途切れたような箇所がある。また，斜位の沈線間に刺突を施している。1108 は沈線，刺突で「へ」の字状のモチーフで器面を割付けた後，「へ」の字状の上位を縦位の沈線，刺突で，下位を横位の沈線，刺突で施文する。

1109～1114 は縦位の刻目突帯を貼り付け後，弧状の沈線，刺突でモチーフを描く一群である。1109 は頸部から胴部上半付近と考えられる。楕円状の凹部を呈する瘤状突起を貼り付けた後，やや太めで高さのある刻目突帯を縦位に貼り付ける。刻目は瘤状突起付近の突帯上部に右上がり斜位の刻目を施し，下部に右下がり斜位の刻目を施したと考えられる。その後，瘤状突起付近より弧状の沈線を施し，器面の割付けを行った後，曲線状の沈線と刻目突帯間に，沈線，刺突を施す。1110 は口縁部下位から底部下半付近と考えられる。胴部中央で膨らみ球状の胴部を呈する。口縁部下位から頸部にかけて，横位，斜位の沈線を施した後，横位の刺突を施す。頸部と胴部境に横位の刻目突帯を１段施す。胴部は縦位の刻目突帯を3.0～3.6㎝の間隔で施文する。刻目突帯間は刻目突帯の左右で異なる方向の弧状の沈線，刺突を施し，弧状のモチーフを描く。1112 は縦位の刻目突帯の上端部や中間部分に横位の突帯を貼り付け，突帯状に横位の短沈線を施す。縦位の刻目突帯の両端は，縦位の押引き状の連続刺突をそれぞれ１段ずつ施す。刻目突帯間を斜位の沈線，刺突で割付けを行った後，刻目突帯の両端に沈線で弧状のモチーフを描いたと考えられる。1113 も 1112 と沈線，刺突による割付けの方法は類似しているが，刻目突帯の片方にのみ縦位の押引き状の刺突を行う点や木葉状のモチーフを刻目突帯間に描く点が異なる。1114 の刻目突帯間の施文は縦位，横位の沈線が主であるが，一部曲線状の沈線，刺突が確認できることからここに含めた。

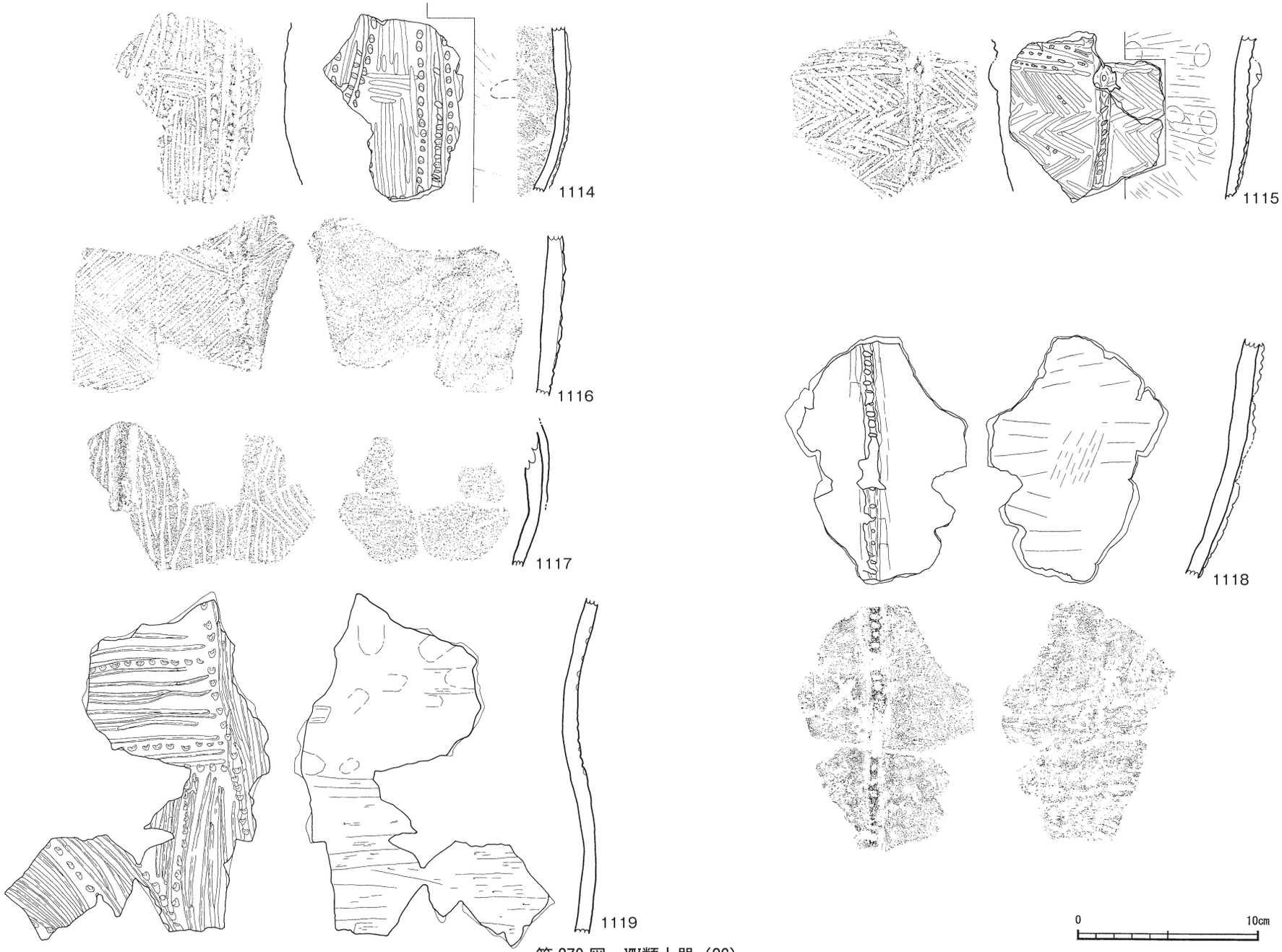
1115～1117 は縦位の刻目突帯もしくは突帯施文後に突帯間を沈線のみで施文する一群である。1115 は刻目突帯上部に小振りの瘤状突起を貼り付け，突起上に円形の刺突を１か所施す。瘤状突起より上の頸部から胴部との境付近までは，横位の沈線，刺突を施文し，刻目突帯間は，右下がり斜位の沈線を１段施した後，斜位の沈線で「く」の字状のモチーフを描く。1116 は縦位の刻目突帯と斜位の浅い沈線で胴部の割付けを行った後，右上がり斜位の浅い沈線で区画内を充填する。1117 は縦位の突帯を貼り付けた後，弧状，縦位の浅い沈線を施す。

1118 は胴部下半付近と考えられる。縦位の刻目突帯を貼り付けている。刻目突帯の両端は無文である。

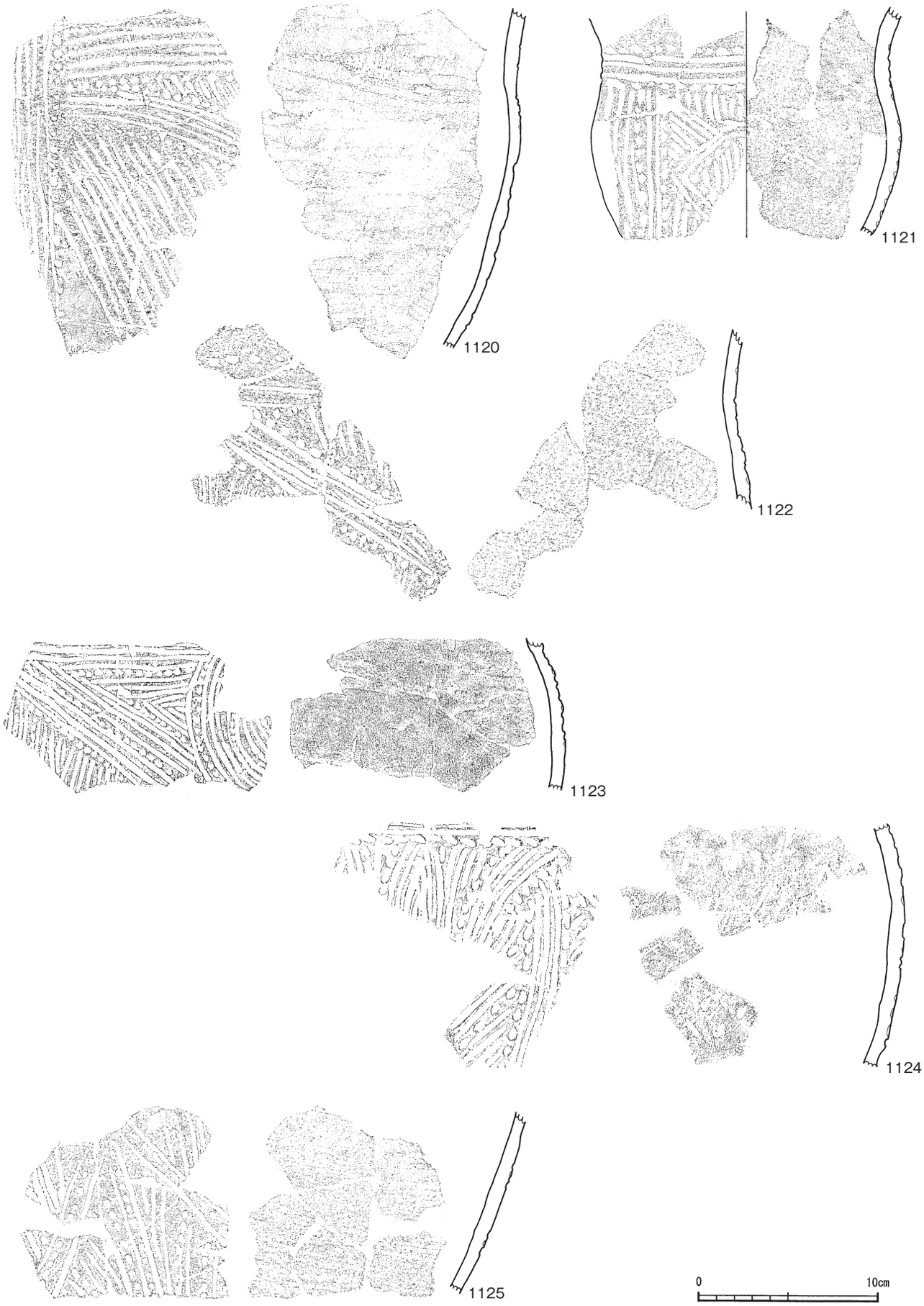
1119～1125 は沈線，刺突で施文する一群である。縦位の刻目突帯を施し，沈線，刺突を施文する一群の一部の可能性もある。1119・1120・1122 は口縁部下位から胴部上半付近と考えられる。1119 は口縁部下位から胴部上半に浅い縦位の沈線，刺突を施し，胴部まで器面の割付けを行った後，頸部と胴部境付近までは横位の沈線，刺突を施す。胴部は縦位，斜位の沈線，刺突を施す。1120 は縦位の沈線，刺突による割付けは 1119 と類似するが，頸部付近の沈線，刺突で区画された内部は斜位の明瞭な沈線を施す点が異なる。胴部中央から下半付近は斜位の浅い沈線を施す。1122 は口縁部下位から頸部にかけて横位の刺突，沈線を施す。胴部は斜位の沈線，刺突で器面の割付けを行った後，横位，斜位の沈線，刺突で区画された内部は縦位の沈線を，斜位の沈線，刺突より下位は，先端を細く加工した工具で，縦位の沈線を施す。1124 は胴部中央がやや膨らむ器形である。頸部と胴部境付近に，横位の沈線，刺突を施し，胴部は弧状の沈線，刺突を施文する。1123 は胴部が球状を呈する胴部上半付近である。頸部と胴部境付近に横位の沈線を施文後，弧状の沈線，刺突を施す。その後，斜位の沈線，刺突を施文し器面の割付けを行った後，区画内を横位，縦位，斜位の沈線，横位，斜位の刺突で施文する。1121 は口縁部下位から胴部下半を復元することができる。口縁部下位から頸部に横位の沈線，刺突を施文後，胴部に縦位の沈線，刺突を施し，胴部中央付近に，斜位の沈線，刺突で菱形状のモチーフを描く。その後，縦位の刺突間に縦位の沈線，菱形のモチーフの外側を縦位，斜位の沈線，内側を縦位の沈線で施文する。

1126～1128 は主に沈線で施文する一群である。1126 は頸部から胴部境付近に横位の刻目突帯を施した後，斜位の浅い沈線で横長の菱形状のモチーフを描き，菱形状の区画内に縦位の沈線を施す。1127 は横位の沈線，斜位の沈線を施した後，縦位の明瞭な沈線を施文する。1128 は文様，調整，胎土等が 1127 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。

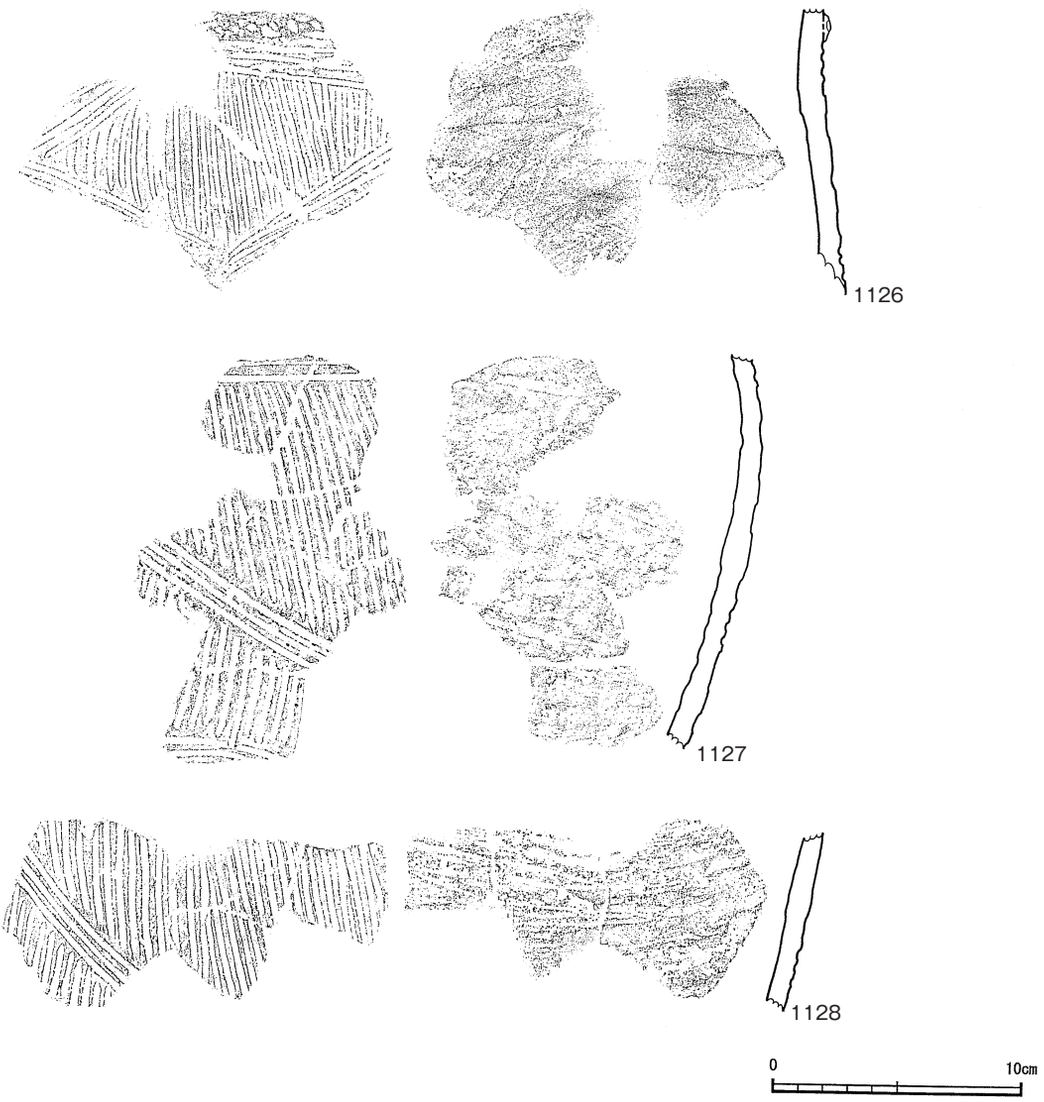
1129～1142 は縄文もしくは結節縄文を施文する一群である。結節部のみを施文するものも含む。1129 は口縁部下位から胴部上半付近であると考えられる。口縁部下位から頸部にかけて横位の刻目突帯を施し，胴部には単節斜行縄文 LR を結節したものを縦位に施す。結節部には無節斜行縄文 R が確認できる。1130 は文様，調整，胎土等が 1129 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1131 は頸部から胴部上半付近と考えられる。頸部から頸部と胴部との境付近に横位の刻目突帯を施し，刻目突帯間に波状の浅い横位の沈線を施す。胴部には単節斜行縄文 LR を結節したものを縦位に




第 370 図　XV類土器（26）

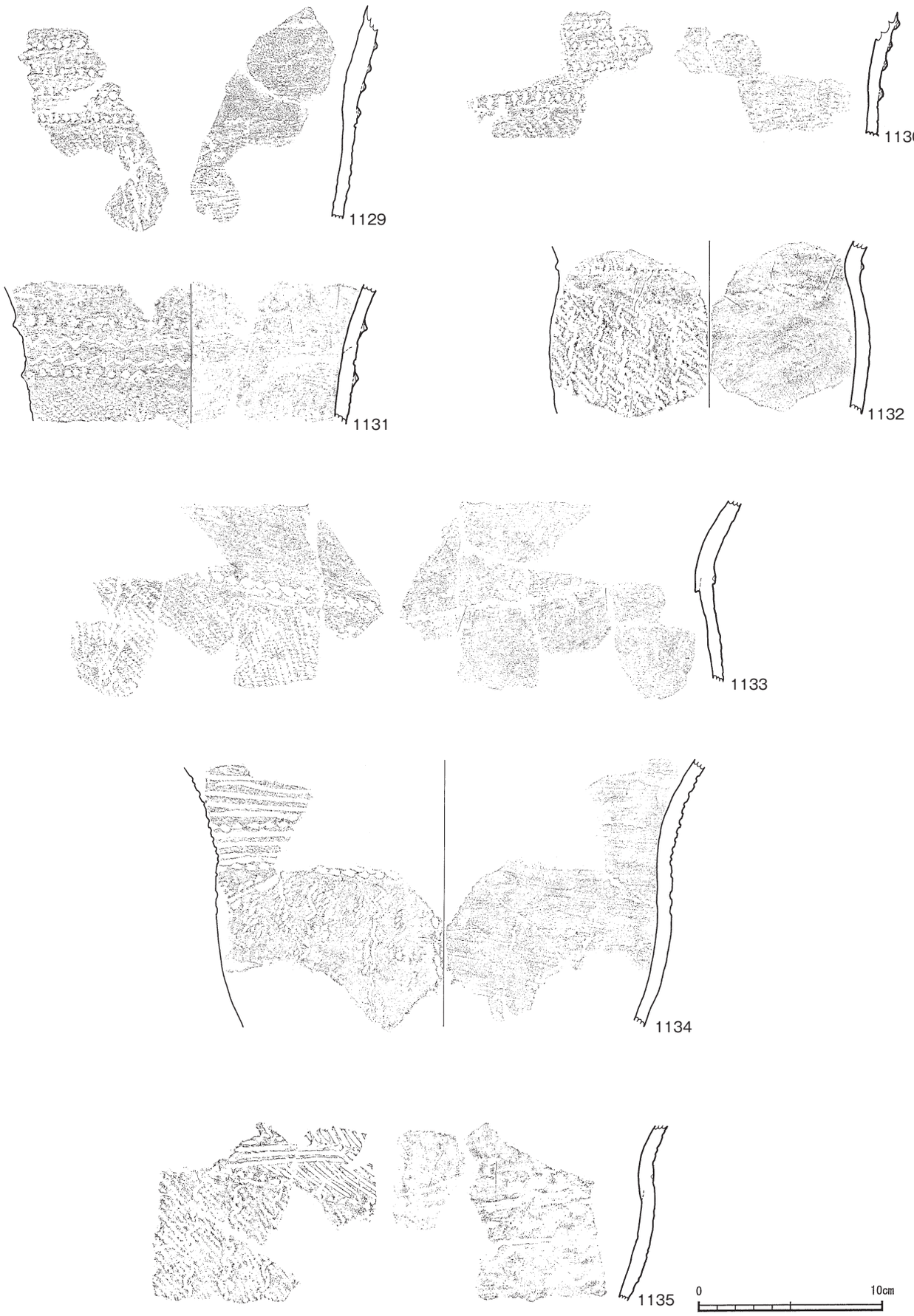



第 371 図　Ⅻ類土器（27）




第 372 図　XIV類土器（28）

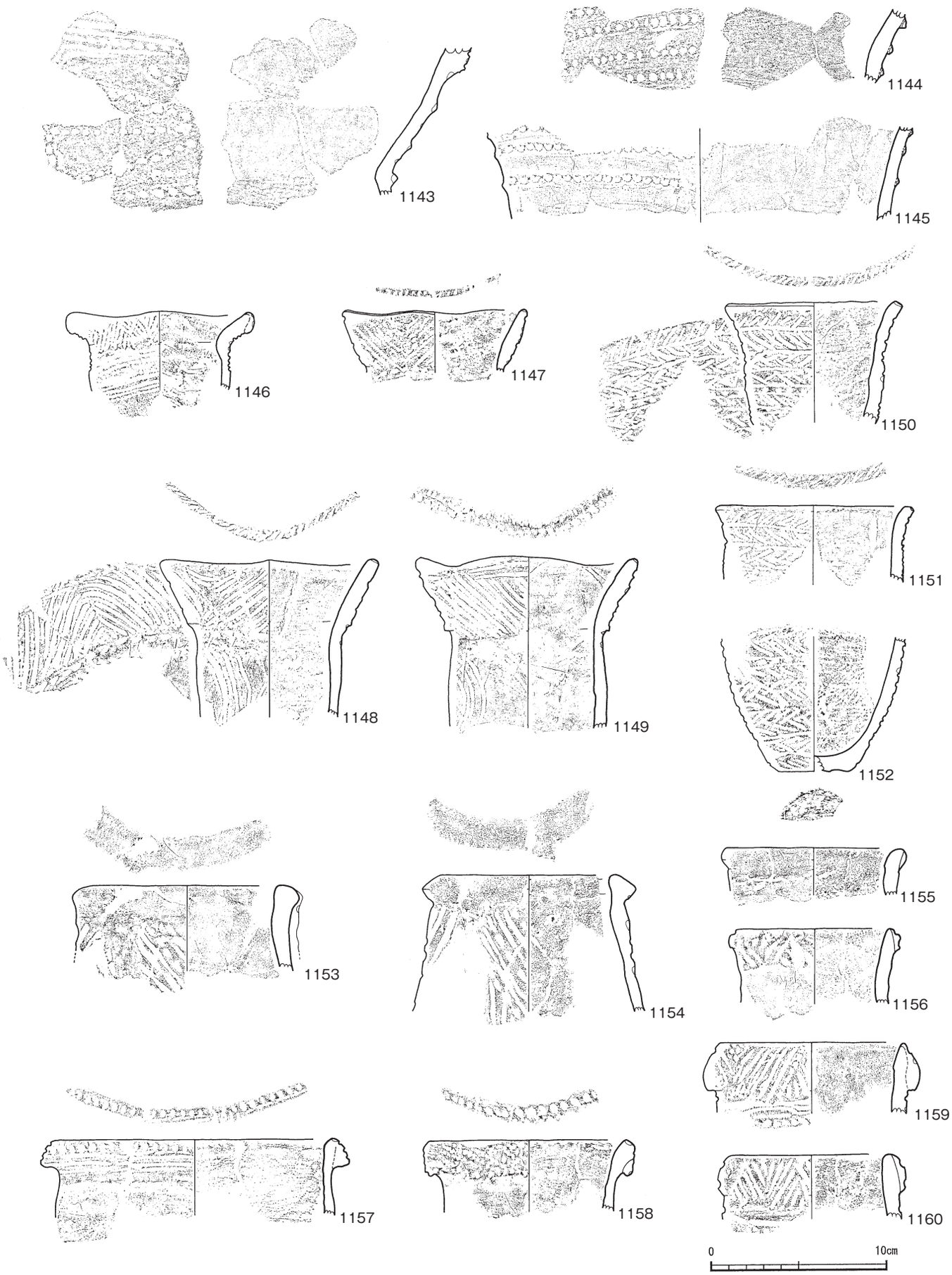
施す。結節部には，無節斜行縄文 R が確認できる。1132 は頸部から胴部上半付近であると考えられる。頸部に刻目突帯を 1 段施し，胴部には単節斜行縄文 LR を結節したものを縦位に施す。結節部の間隔は約 1.5㎝である。1133 は口縁部下位から胴部上半付近と考えられる。頸部付近は無文である。頸部と胴部境付近に刻目突帯を 1 段施した後，胴部には単節斜行縄文 LR を結節したものを縦位に施す。1134 は口縁部下位から胴部下半付近と考えられる。口縁部下位から頸部に横位の沈線と刺突を施し，胴部は単節斜行縄文 RL を縦位に部分的に施す。縄文をナデ消した箇所がある。縄文間には波状の垂下する沈線や縦位の刺突を施す。1135 は頸部から胴部下半付近と考えられる。頸部と胴部との境付近に横位の沈線，刺突を施した後，斜位の沈線を施す。胴部には単節斜行縄文 LR を結節したものを縦位に施す。1136 は単節斜行縄文 LR と単節斜行縄文 RL を結節して縦位に施したと考えられる。結節部には無節斜行縄文 R と無節斜行縄文 L の両者が確認できる。結節部が「S」字状，「Z」字状を呈さないことから結節縄文ではなく，原体押圧の可能性もある。文様，調整，胎土等が 995 と類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。1137 は単節斜行縄文 RL を結節したものを縦位に施す。1138 は頸部と胴部境付近に，横位の沈線，刺突を施す。胴部は単節斜行縄文 RL を縦位に部分に施す。縄文をナデ消す箇所もある。その後，縦位の浅い沈線と刺突を施文する。1139 と 1140 は文様，調整，胎土等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1139 は頸部から胴部上半，1140 が胴部下半から底部付近である。1139 は頸部と胴部境付近に横位の刻目突帯を施した後，頸部に斜位の沈線を施す。胴部は単節斜行縄文 RL を横



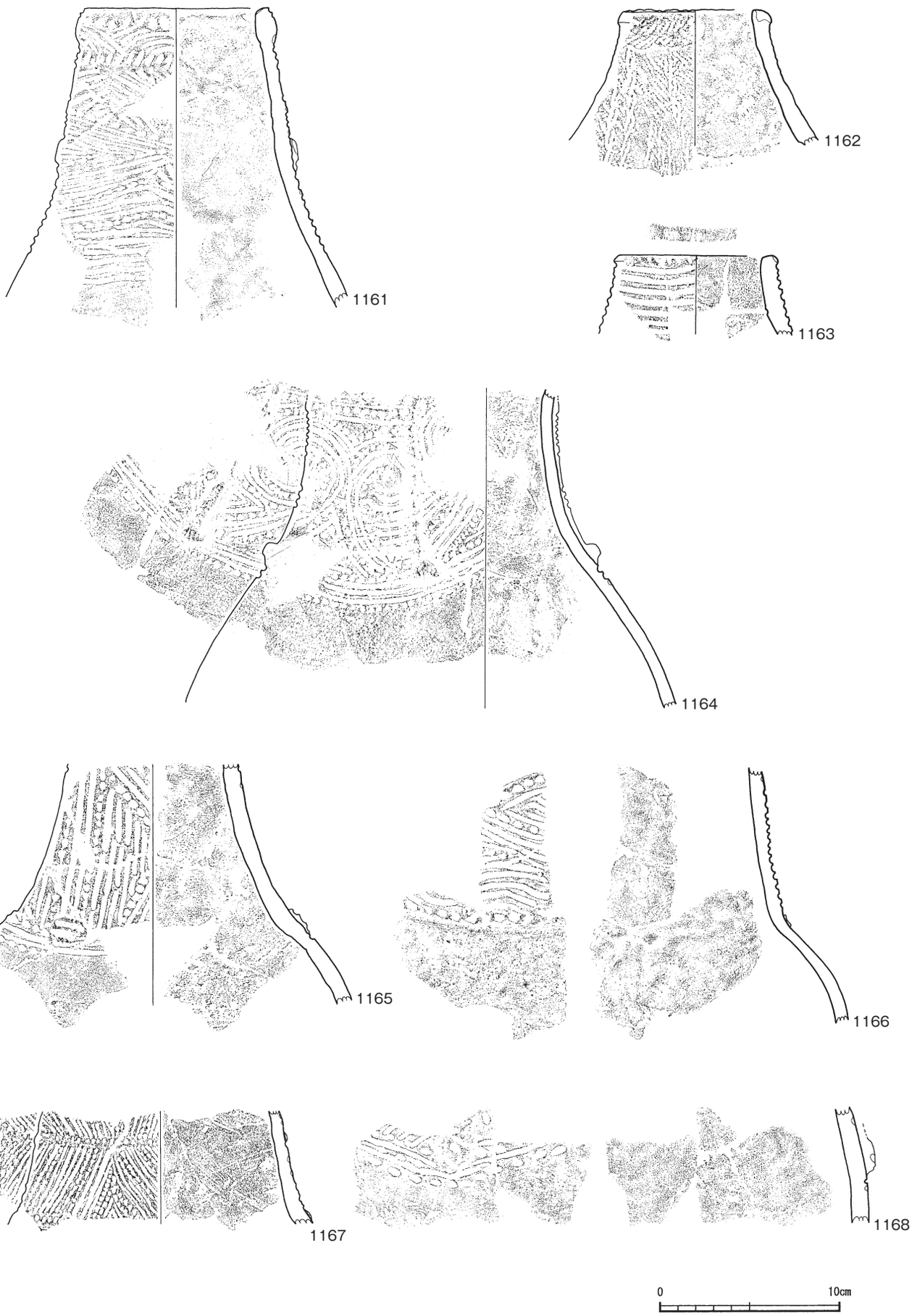

第 373 図　Ⅻ類土器（29）



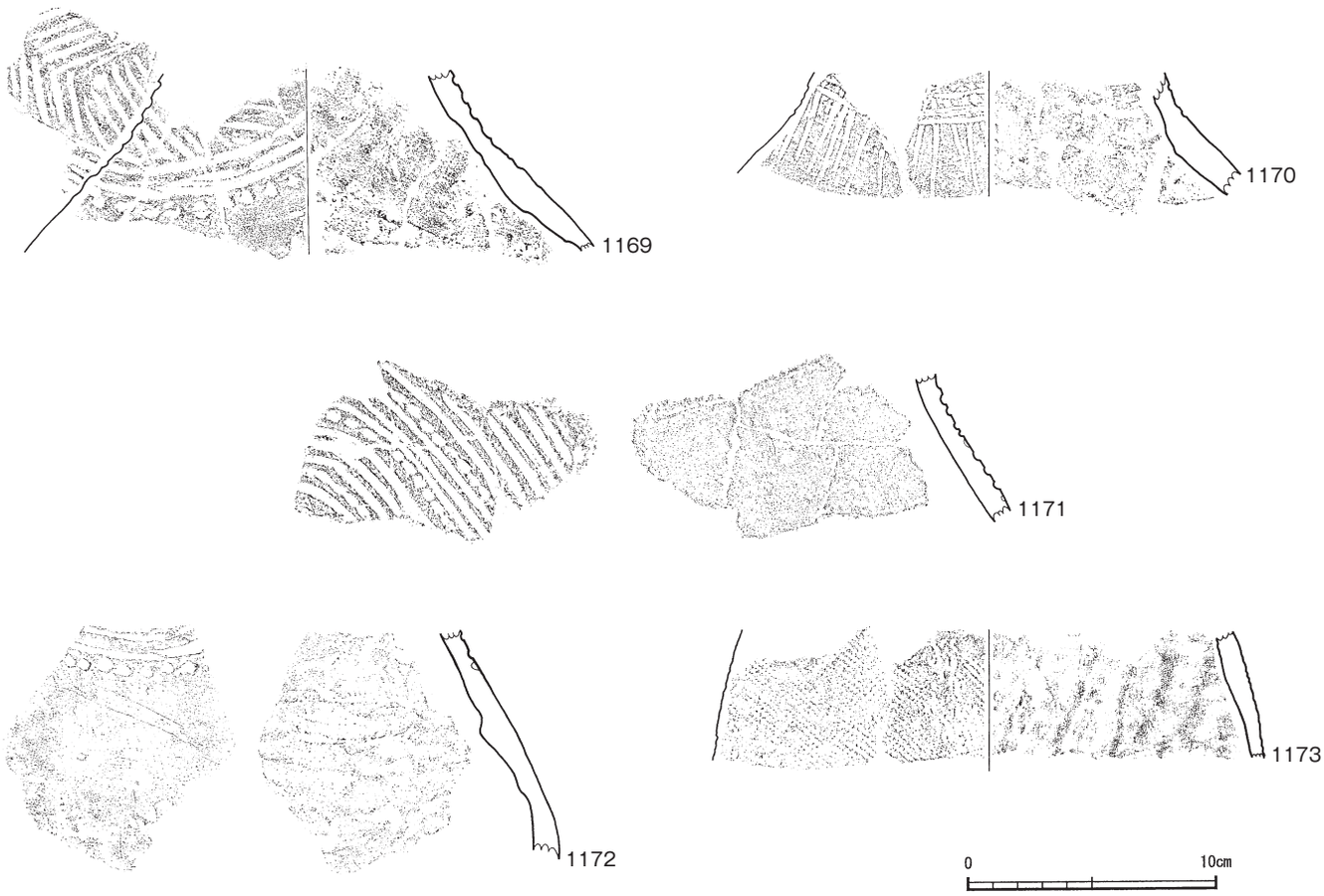

第 374 図　Ⅻ類土器（30）




第 375 図　Ⅻ類土器（31）




第376図　XV類土器（32）




第 377 図　Ⅻ類土器（33）

位に施す。1140 は胴部に単節斜行縄文 RL を縦位，斜位に施す。底面境付近には刻目を入れる。底部円盤の外周に粘土紐を巻き付けて胴部は輪積み成形したと考えられる。1141・1142 は胴部に結節縄文のみを施文する。文様，調整，胎土等が類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1141 は頸部から胴部下半付近，1142 は胴部下半から底部付近と考えられる。結節縄文の結節部のみを間隔を空けて縦位に施す。結節部には無節斜行縄文 R が確認できる。

1143～1145 は頸部付近に刻目突帯のみを施文する一群である。1143 は口縁部下位から頸部と胴部境付近と考えられる。口縁部外面の肥厚部の一部が確認できる。肥厚部下位に横位，斜位の沈線を施文後，沈線間に刺突を施す。口縁部下位から頸部に，横位の刺突を施文後，斜位の刻目突帯を施す。頸部と胴部境付近にも刻目突帯を 1 段施す。1145 は刻目突帯より上位に一部沈線が確認できる。

1146～1152 は口径が 12.0㎝以下の小型の深鉢形土器である。1146 は口唇部外端の肥厚部に斜位の沈線を方向を違えて施文する。肥厚部下から胴部上半かけて横位の沈線を密接に施し，沈線間に刺突を施す。1147 は口縁部外面の肥厚部に斜位の沈線，刺突で山形，弧状のモチーフを描く。一部押引き状の刺突を施す箇所もある。口唇部に刻目を入れ，肥厚部下端に横位の刺突を施す。1148・1149 は 4 単位の波状口縁を呈すると考えられる。いずれも口唇部に刻目を入れる。1148 は口縁部外面の肥厚部に，斜位，波状の沈線で山形，弧状のモチーフを描く。肥厚部下端と頸部に横位の刺突を施し，胴部に弧状の浅い沈線を施す。1149 は肥厚部に横位，斜位の沈線，刺突を施す。肥厚部下と頸部に横位の刺突を 2 段施す。胴部に浅い沈線で弧状のモチーフを描く。1150・1151 は口縁部から胴部下半にかけて横位の浅い沈線を施した後，斜位の沈線で羽状，「く」の字状のモチーフを描く。一部沈線間に刺突を施す箇所がある。いずれも口唇部に斜位の刻目を入れる。1152 は胴部中央から底部と考えられる。1151 と文様，調整，胎土等が類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。底部は上げ底状となっており，底部円盤の外周部に粘土紐を巻き付け高台状に成形している。

1153～1173 は壺形土器である。

1153～1163 は口縁部である。口唇部外端，口縁部上位の断面形態で細分した。

1153～1155 は口唇部外端の肥厚部が外傾する一群である。1153 は口唇部外端の肥厚部を成形後，縦位の刻目突帯を貼り付け，肥厚部下から頸部の器面の割付けを行い，斜位の沈線，刺突を施す。1154 は頸部が肩部に向けてやや広がる器形であるが，施文は 1153 と同様である。縦位の刻目突帯も一部確認できる。

1156～1158 は口縁部上位が折り返し口縁状の幅狭の肥厚部をもつ一群である。1156 は肥厚部に斜位の沈線を施文する。頸部は無文である。1157 は肥厚部に縦位の沈線を施した後，横位の沈線を施文する。その後，口唇部に刻目を入れる。1158 は肥厚部に単節斜行縄文 RL を横位に施文後，肥厚部の上下端に刻目を入れる。

1159・1160 は口縁部上位が折り返し口縁状の幅広の丸みを帯びた肥厚部をもつ一群である。頸部がやや直口すると考えられる。1159 は肥厚部に斜位の沈線，刺突を施し，頸部に横位の沈線，刺突を施文する。1160 は肥厚部を斜位の沈線で山形のモチーフを描く。

1161～1163 は口縁部上位がわずかに肥厚する一群である。肩部に向けて広がる器形である。1161 は肥厚部に右下がり斜位，弧状の沈線を施し，肥厚部下端に縦位，もしくは斜位の短沈線を施文する。口唇部には刻目を入れる。肩部に横位の沈線を施文後，頸部中央にある小粒の刻目のある突起を起点に，斜位の沈線と刺突で波状のモチーフを描き，頸部の割付けを行ったと考えられる。その後突起付近に横位の沈線，刺突を施し，波状，横位の沈線，刺突で区画された頸部上半に斜位の沈線，刺突を，頸部下半を横位の沈線，刺突を充填する。1162 は口唇部平坦面，口縁部上位の肥厚部に単節斜行縄文 LR を横位に施す。頸部は単節斜行縄文 LR を縦位に施文する。結節部と思われる箇所は，無節斜行縄文 R が確認できる。結節部が「S」字状，「Z」字状を呈さないことから原体圧痕の可能性もある。1163 は頸部に横位の沈線を施し，口唇部外端部に刻目を入れている。

1164～1173 は頸部から胴部上半付近であると考えられる。内面には指おさえ痕が確認できる。1164 は頸部から肩部にかけて，縦位の刻目突帯と下端に小粒状の突起を貼り付ける。頸部上位と肩部に横位の沈線，刺突を施す。刻目突帯間には沈線と刺突で「9」の字，逆「9」の字状のモチーフを描き，空白部に横位，斜位の沈線を施文したと考えられる。肩部以下は無文である。1165 は頸部が肩部に向けてやや広がる器形を呈すると考えられる。肩部に横長の突起を貼り付け，突起上に短沈線を２本施す。その後，肩部に横位の沈線，刺突を施文する。頸部は縦位，斜位の沈線，刺突を施す。1166 は頸部が直口する器形であると考えられる。頸部と肩部との境付近に横位の刻目突帯を貼り付ける。頸部は波状の沈線，刺突を施し，肩部以下は無文である。1167 は頸部に縦位の刻目突帯を２段施した後，頸部中央付近に横位の刻目突帯を施文する。縦位の刻目突帯間には，波状の垂下する沈線を施す。横位の刻目突帯の上下それぞれに先端を細く加工した棒状工具で斜位の沈線と押引き状の連続刺突を施文する。施文具の先端を細く加工して施文しているため，他に比べ文様が精緻である。肩部の一部にも横位の刻目突帯が確認できる。1168 は肩部付近である。円形の刺突のある突起を貼り付けた後，横位の沈線，刺突を施す。1169～1171 は頸部下位から肩部付近である。1169 は肩部に横位の沈線，刺突を施文し，頸部は沈線で「く」の字状のモチーフを描く。1171 は弧状の沈線，刺突を施文する。1170 は縦位の浅い沈線を施文後に，頸部と肩部の境付近に横位の沈線を施す。1172・1173 は肩部から胴部上半付近であると考えられる。1172 は頸部と肩部の境付近に横位の沈線と刺突を施す。内面には，内傾接合の痕跡，指おさえ痕が多数確認できる。1173 は節の小さい単節斜行縄文 LR を結節したものを縦位に施文する。結節部には無節斜行縄文 R が確認できる。内面には斜位の指おさえ痕が見られる。

**（15）XV類土器（第 378～403 図　1174～1296）**

XV類土器は胴部に地文として網目状撚糸文等を施し，口縁部がラッパ状に外反し，胴部中央でやや膨らみ，底部にむけてすぼまる器形を呈する一群である。口縁部が屈曲しわずかに外反するものや，網目状撚糸文を施文せずに器形や文様が類似したものも含む。

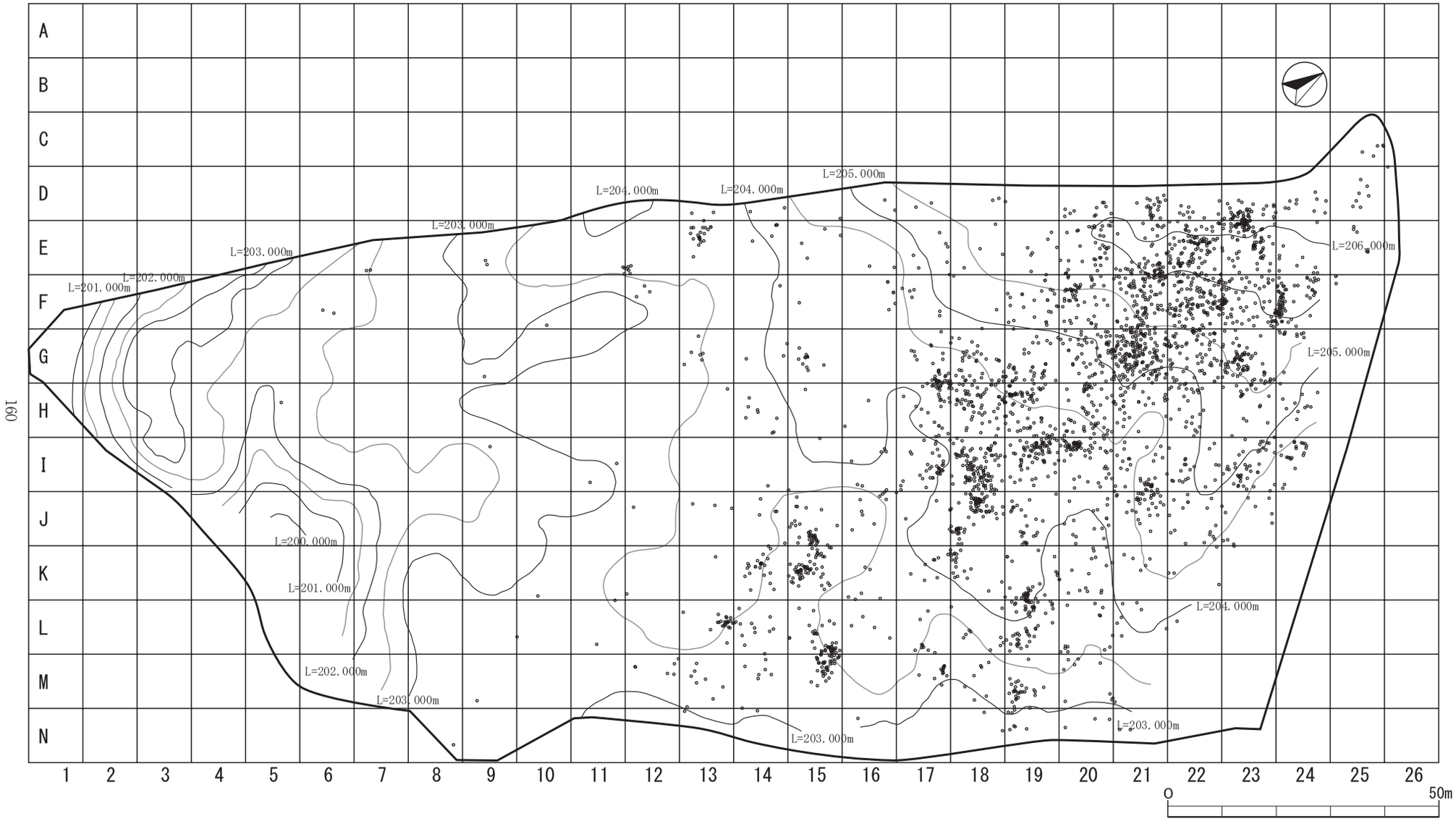
文様は多くが口縁部，胴部の２帯構成であるが，口縁部が屈曲する器形などで，口縁部，頸部，胴部の３帯構成のものもある。外面には網目状撚糸文，微隆線状の刻目突帯文，沈線文，刺突文等を施す。

本類土器は胴部に網目状撚糸文を縦位に施文する一群と，沈線で区画した内部に網目状撚糸文を施文する一群とに大別し，さらに口縁部の断面形態と口縁部文様で細別した。

1174～1241 は胴部に縦位の網目状撚糸文を施す一群である。

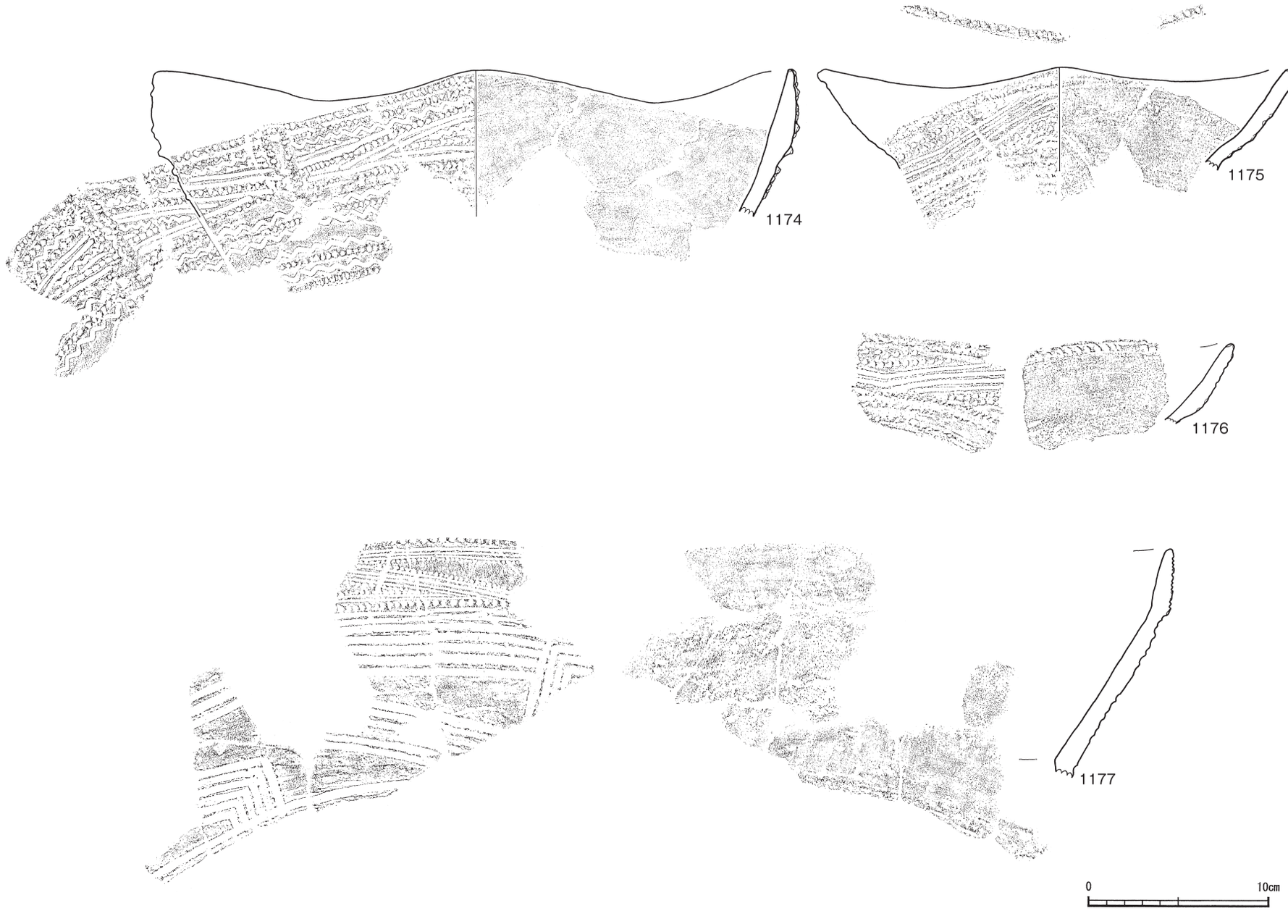
1174～1191 は口縁部が屈曲し，わずかに外反する一群である。

1174～1176 は口縁部に横位の微隆線状の刻目突帯を貼り付け，斜位の沈線と刺突で山形のモチーフを描く一群である。いずれも波状口縁を呈すると考えられ，口唇部には刻目を入れる。これらはXV類土器の口縁部文様や文様要素に類似する。1174 は４単位の波状口縁を呈すると考えられる。波頂部及び波頂部と波頂部の中間に口唇部から口縁部下位にかけて逆「U」字の微隆線状の刻目突帯を縦位に貼り付ける。波頂部付近の縦位の微隆線状の刻目突帯上に横位の短い微隆線状を貼り付けるものもある。口縁部に横位，斜位の微隆線状の刻目突帯で区




160

第 378 図　XV類土器出土分布図




第 379 図　XV類土器（1）

画を設け，その中に斜位，波状の沈線，押引き状の連続刺突を施す。頸部は波頂部の延長線上に縦位の微隆線状の刻目突帯を３段施した後，横位の微隆線状の刻目突帯を３段施文する。横位の微隆線状の刻目突帯間には，波状の沈線を施す。口唇部内端に刻目を入れる。胴部に網目状撚糸文を縦位に施すと考えられるが，わずかしか遺存していないため原体，巻き方は不明である。1175・1176 は口縁部上位，下位に微隆線状の突帯を１段ずつ貼り付けた後，その内部に斜位の沈線を施す。横位の突帯の刻目，斜位の２段の刺突は，沈線の施文後に行われる。頸部に微隆線状の刻目突帯を横位に２段施す。また，口唇部内外端にそれぞれ刻目を入れる。1176 は文様，調整，胎土等が 1175 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。

1177～1184 は屈曲した口縁部の上位，下位に横位の刺突を施し，横位の刺突間に斜位の刺突を施文する一群である。1182 のみ口縁部形態とモチーフが他のものとやや異なる。屈曲部より下から頸部までが幅広であり，施文が口縁部，頸部，胴部の３帯構成であると考えられる。1177～1180 は口縁部の上位，下位に沈線も施し，口唇部に刻目を入れる。口唇部の刻目と口縁部下位の刺突は同一の施文具で行われたと考えられる。1179～1182 は口唇部外端部に刻目を施す。頸部には横位，斜位の沈線を施す。1177 は屈曲より下の口縁部下位から頸部までが非常に幅広である。頸部と胴部との境付近に先端を 0.4㎝幅のヘラ状に加工した施文具で横位の明瞭な沈線を密接に施した後，横位の沈線間にクランク状のモチーフを沈線で描く。斜位の沈線を施す箇所もある。1178 は文様，調整，胎土等が 1177 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1179 は口唇部外端部と口縁部屈曲部にヘラ状工具を器面に対して縦位に当て，刻目と刺突を施している。口縁部は横位の沈線を上位に１条，下位に２条施した後，斜位の細い沈線と円形の刺突で山形のモチーフを描く。屈曲部より下は横位の沈線を密接に施す。1180 は文様，調整，胎土等が 1179 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1181 も 1179 と同様にヘラ状工具を器面に対して縦位に当て施文を行ったと考えられる。口縁部上位と下位に円形の刺突を１段ずつ施し，内部に斜位の沈線と刺突で山形のモチーフを描く。1182 は口縁部が大きく内傾するように屈曲している。口縁部の上位，下位に横位の刺突を施す。刺突間に円弧状のモチーフを沈線で描き，その後斜位の沈線，刺突を施文する。頸部と胴部境付近に横位の沈線を施文後，屈曲部の下から頸部にかけて横長の「Ｓ」字状のモチーフを２本沈線で描き，その両端に刺突を施す。胴部に０段の撚りを軸に右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を縦位に施す。撚りの方向は条が摩滅しており不明である。

1183～1187 は口唇部外端に刻目を入れ，屈曲部付近に横位の刺突を施す。口縁部は刻目と刺突間に沈線，刺突，もしくは沈線のみで施文する一群である。1183 は口縁部に斜位の沈線，刺突を施す。屈曲部直下・頸部と胴部の境付近に，横位の沈線をそれぞれ２条～３条施す。横位の沈線間には斜位の沈線で山形のモチーフを描く。胴部は０段ｒの撚りを左巻き後，右巻きした網目状撚糸文を縦位に施す。1184 は口縁部に斜位の沈線，刺突を施す。1185 は口唇部の刻目の下位と屈曲部の刺突の上位に沈線を施した後，その間に波状の沈線を斜位に施す。1186 は弧状のモチーフや横位，斜位の沈線を，1187 は円弧状のモチーフや横位の沈線を施す。

1188～1190 は口縁部を沈線のみで施文する一群である。いずれも口縁部の上下に横位の沈線を施し，横位の沈線間に斜位の沈線で山形のモチーフを描く。また，口唇部には刻目を入れる。1188 は口縁部から胴部下半付近まで復元することができる。頸部は無文で，胴部は無節斜行縄文Ｒを右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を縦位に間隔を空けて施文した後，横位の沈線を頸部と胴部の境付近に２条，胴部下半に３条施す。1189 は文様，調整，胎土が 1188 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1190 は波状口縁を呈すると考えられる。口唇部内外端に羽状の刻目を入れる。

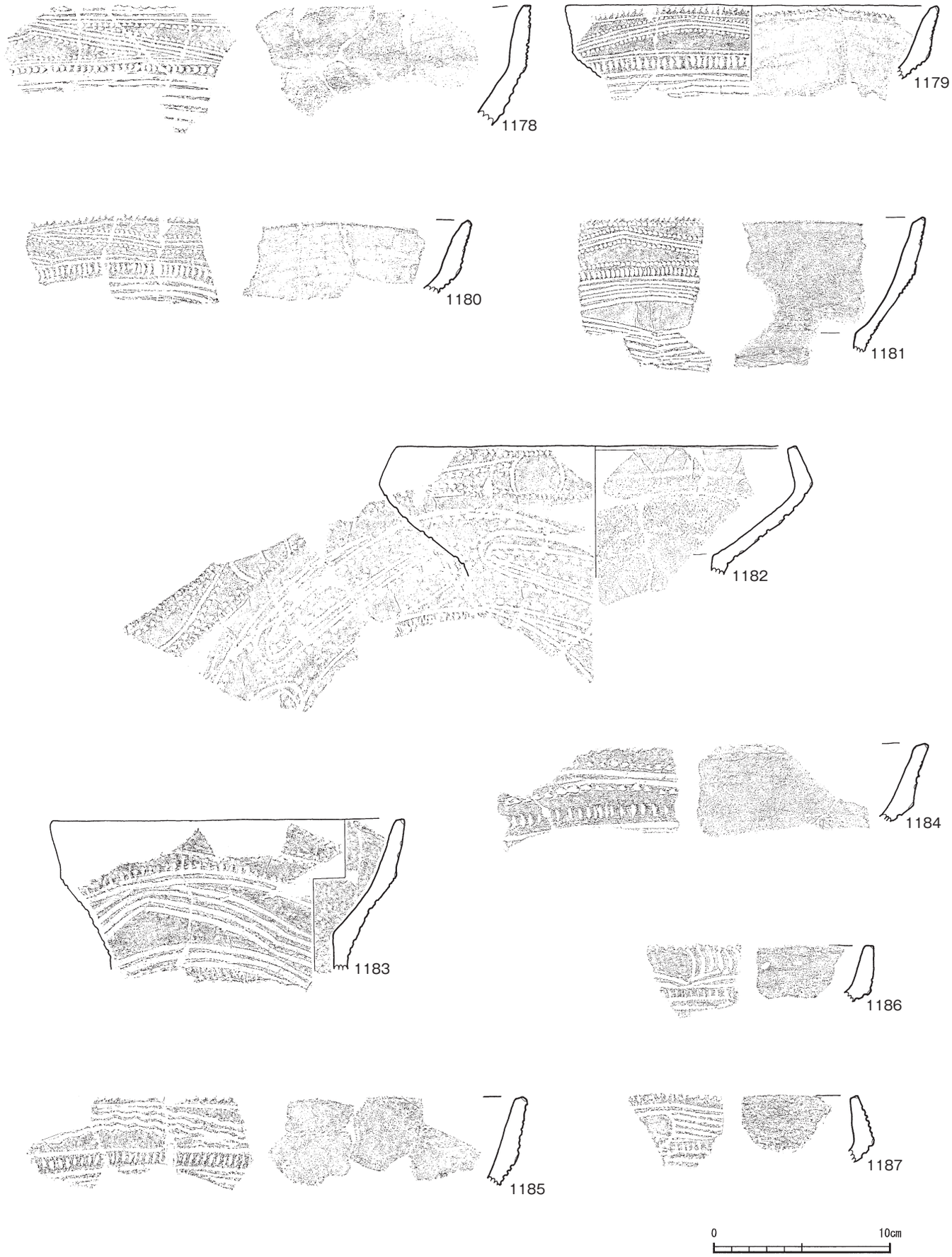
1191 は口縁部上位に無節斜行縄文Ｒを右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を横位に施した後，斜位の沈線を施文する。口唇部内外端に細かい刻目を入れる。外面は，口縁部下位より下が剥落しており文様等不明である。

1192～1220 は幅の広い口縁部がラッパ状に大きく外反する一群である。

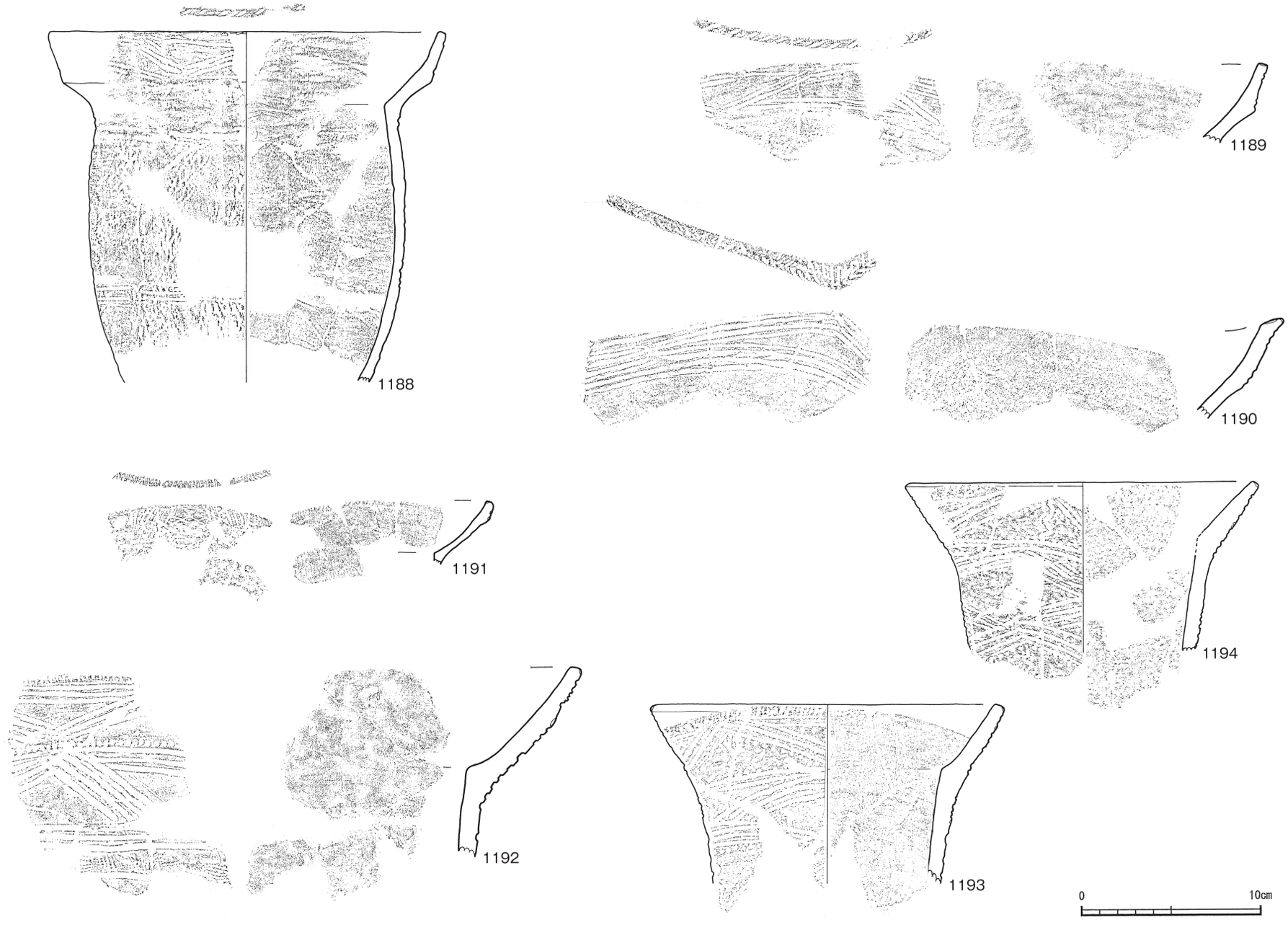
1192～1194 は口縁部に斜位の沈線，刺突で山形のモチーフを描く一群である。1192 は口唇部外端部に刻目を入れる。口縁部上位及び頸部付近に施した横位の沈線と口縁部中央付近に施した横位の沈線及び刺突で区画を設け，その中に斜位の沈線で山形のモチーフを描く。胴部には無節斜行縄文Ｌを軸に左巻きした撚糸を縦位，横位に施す。胴部上半に一部横位の沈線が確認できる。

1193・1194 は口唇部外端に刻目を入れる。口縁部下位から頸部付近に横位の沈線を２条施し，刻目と横位の沈線間に斜位の沈線，刺突で山形のモチーフを描く。山形のモチーフ内に波状の垂下沈線を施す。網目状撚糸文は施文しないものの，他のⅩⅤ類土器と文様，調整，胎土等が類似することから，ここにに含めた。1193 は頸部，胴部に斜位の沈線，刺突で，菱形状のモチーフを描き，モチーフの内部には，口縁部と同様の波状の垂下沈線を施す。1194 は器形，文様，調整，胎土が 1193 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。

1195～1205 は口縁部上位に横位の沈線を施した後，斜位の沈線で山形，菱形状のモチーフを描く一群である。



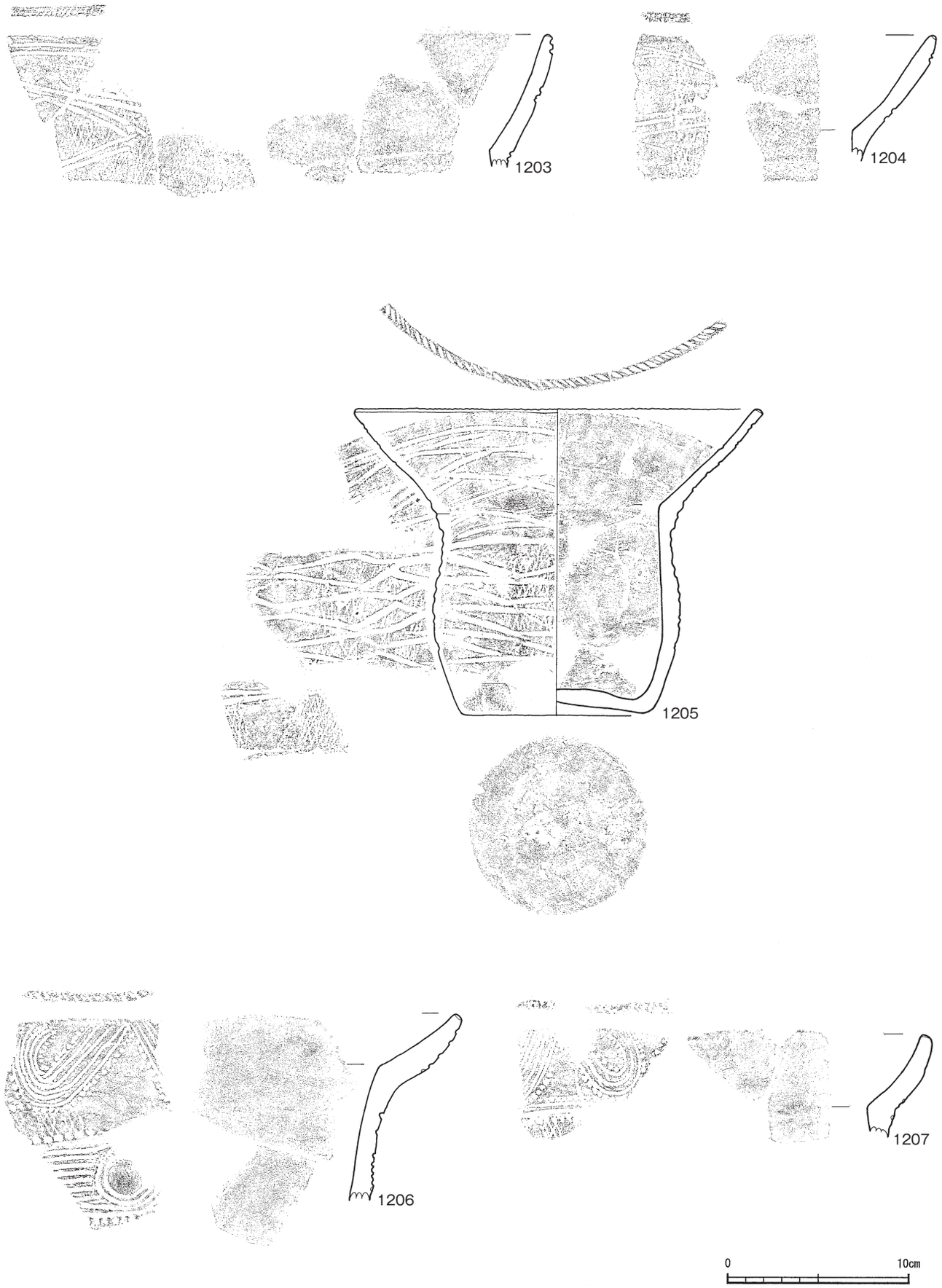

第 380 図　XV類土器（2）



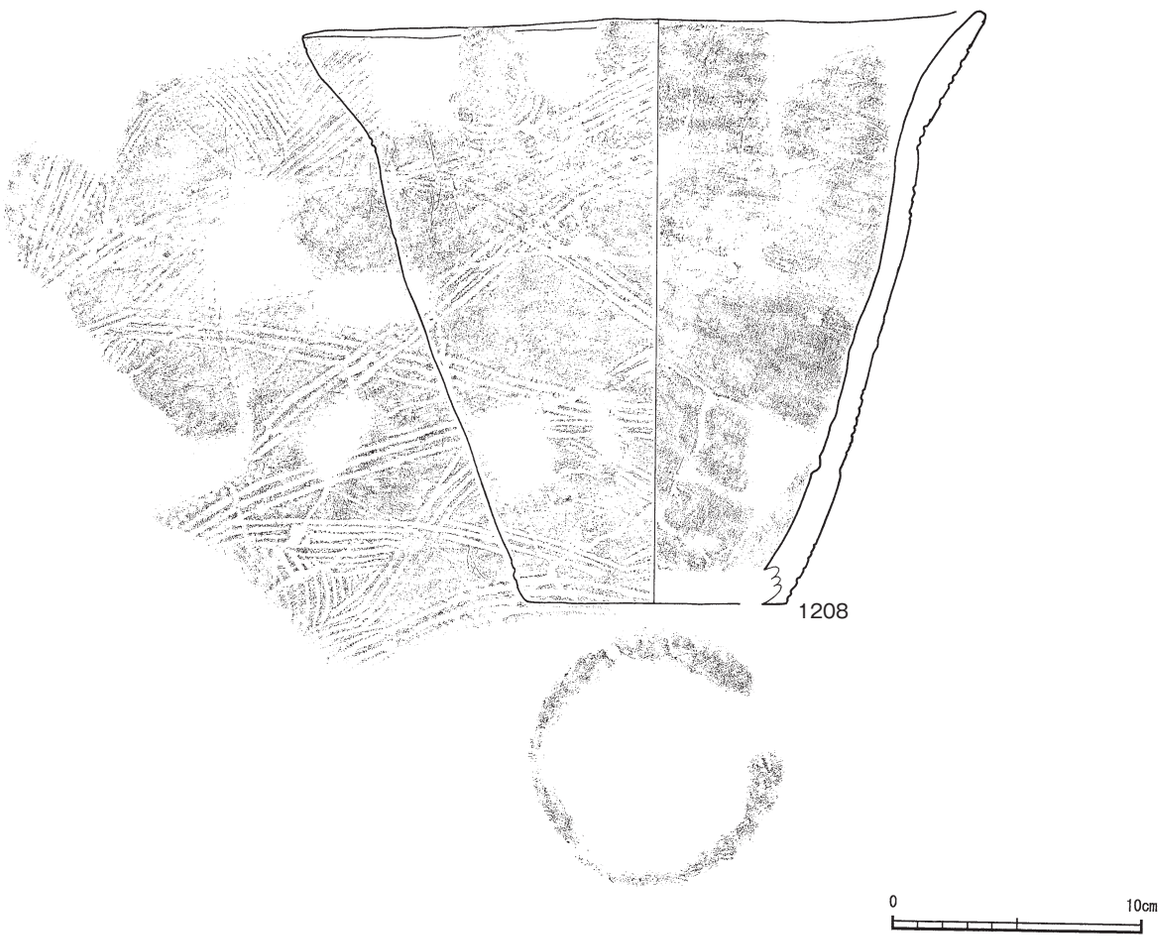

第 381 図　XV類土器（3）




第382図　XV類土器（4）




第 383 図　XV類土器（5）




第 384 図　XV類土器（６）

1204 は口縁部上位に横位の沈線を施文しないが，口縁部文様が 1203 と類似することから，ここに含めた。いずれも口唇部に刻目を入れる。頸部付近に横位の沈線を施す。一部横位の刺突を施すものもある。1198～1200 は緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。

1195～1200 は山形のモチーフを３本の斜位の沈線で描く一群である。1195 は口縁部上位と頸部に横位の沈線を２条施した後，横位の沈線間に山形のモチーフを２段描く。また，口唇部外端に刻目を入れる。胴部は巻きの方向は不明だが，無節斜行縄文Ｒの撚糸文を施したと考えられる。1196 は文様，調整，胎土が 1195 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1198 は口縁部上位に横位の沈線，口縁部下位に横位の沈線と刺突を施した後，山形のモチーフを描く。口唇部外端部に刻目を入れる。1199 は文様，調整，胎土が 1198 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1200 の口縁部の施文は口唇部の上方より刻目を入れている。

1201・1202 は口縁部の山形のモチーフを５本以上の多数の沈線で描く一群である。口唇部外端部に刻目を入れる。1201 は口縁部上位，頸部に横位の沈線を施した後，口縁部に６～７本の沈線でモチーフを描く。胴部は円弧状のモチーフを沈線で描いたと考えられる。1202 は５～６本の沈線でモチーフを描く。

1203・1204 は口縁部に網目状撚糸文を縦位に施した後，斜位の沈線で菱形状のモチーフを描く一群である。口唇部に刻目を入れる。網目状撚糸文は０段１の撚りを右巻き後，左巻きしたものである。1203 は口縁部上位に横位の沈線を施す。

1205 は完形に復元することができた。胴部に無節斜行縄文Ｒを軸に右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を縦位に間隔を空けて施した後，口縁部から胴部下半付近まで，横位，斜位の沈線で横に間延びした山形，菱形状のモチーフを描く。胴部は粘土紐を底部円盤外周の上に乗せ輪積み成形したと考えられる。底部外面より指頭で押し出すようにして底部を上げ底状に成形している。

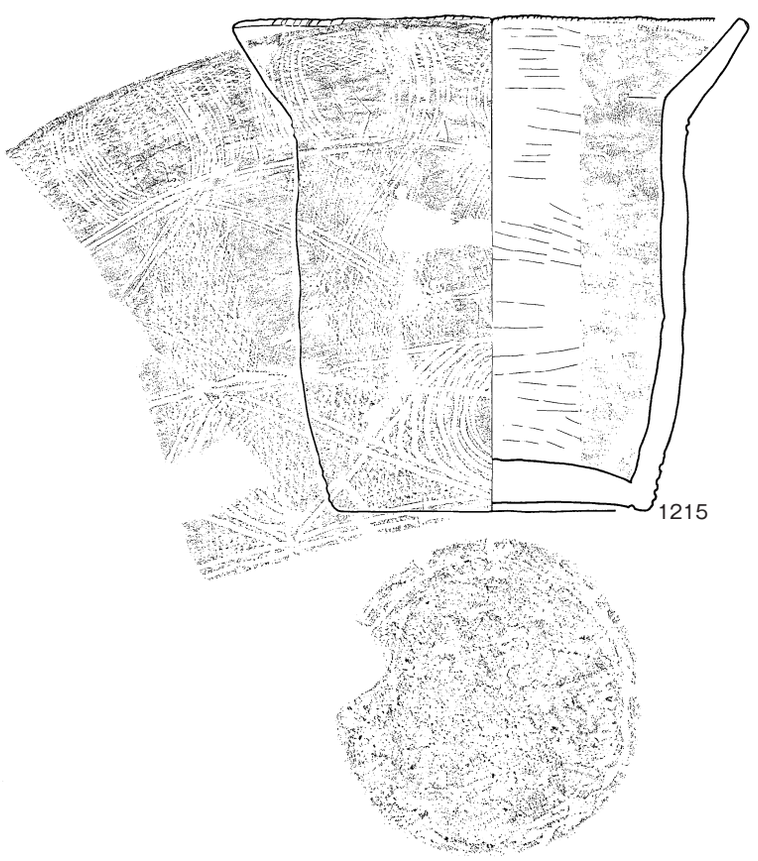



第385図　XV類土器（7）




第386図　XV類土器（8）







第 387 図　XV類土器（9）

1206～1220 は口縁部に沈線，刺突もしくしは沈線のみで曲線的なモチーフを描く一群である。

1206～1208 は口縁部に沈線と刺突で「Ｊ」字状，逆「Ｊ」字状のモチーフを描く一群である。1206・1207 は口唇部に斜位の刻目を入れる。1206 は口縁部に「Ｊ」字状のモチーフを描く。頸部以下に０段ｒの撚りを左巻き後，右巻きした網目状撚糸文を縦位に施す。その後，頸部，胴部上半に横位の刺突を施した後，胴部上半に円形のモチーフを沈線で描く。1207 は頸部に横位の沈線，刺突を施した後，口縁部に斜位の沈線，刺突を施した後，逆「Ｊ」字状のモチーフを描く。1208 は網目状撚糸文等の地文は施さないものの横長の「Ｊ」字状，蕨手状，円形のモチーフを口縁部に沈線と刺突で描く。1206・1207 と文様が一部類似することからここに含めた。完形に復元することができた。胴部中央，底面境付近に横位の沈線を施した後，横位の沈線間に斜位の沈線で菱形状のモチーフを描く。一部三角形に区画された部分は内部に円形の刺突を沈線に沿って施す。胴部下半の菱形状のモチーフの内部に弧状の沈線を施す箇所がある。

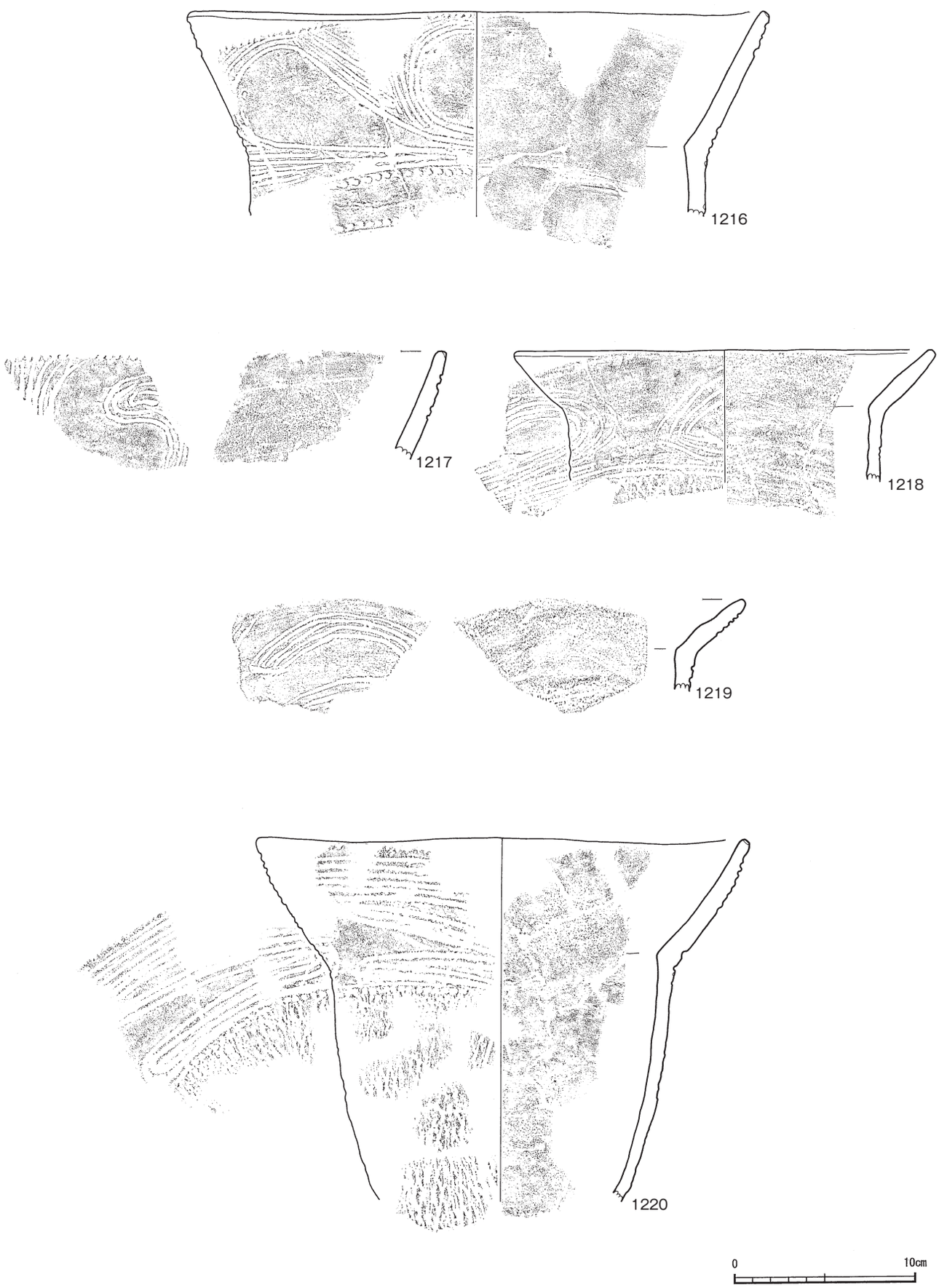
1209～1214 は口縁部上位，頸部付近に横位の沈線を施文し，その内部に渦文状，弧状，円形等の曲線状のモチーフを沈線で描く一群である。口唇部に刻目を入れる。1209 は口縁部から胴部下半まで復元することができる。口縁部上位，頸部付近にそれぞれ３条の横位の沈線を施す。口縁部上位の沈線は部分的にさらに１本加わる箇所がある。横位の沈線間には，斜位の沈線を施す。その後，沈線による渦文状のモチーフを描く。内側の円弧状のモチーフは外形部分を施文した後，内部の施文を行っている。無節斜行縄文Ｒを軸に右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を密接に施文する。その後，胴部中央に横位の沈線を施す。沈線で横長の間延びした「Ｓ」字状のモチーフを描く。1210 は口縁部から胴部下半まで復元することができる。口縁部は横位の沈線間に，斜位の沈線で山形のモチーフを描き，その後，縦長の弧状のモチーフを描く。胴部は無節斜行縄文Ｌを軸に密接に右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を縦位に施す。その後，頸部と胴部境付近，胴部中央付近にも横位の沈線，刺突を施文する。胴部下半は斜位の沈線で山形，もしくは菱形状のモチーフを描いたと考えられる。1211 は器形，文様，調整，胎土が 1210 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。口縁部に 1212 は渦文状のモチーフを描いた後に斜位の沈線を施しているが，1213 は斜位の沈線を施した後に，弧状のモチーフ描いている。1214 は口縁部から胴部下半まで復元することができる。口縁部に弧状，円形のモチーフを明瞭な沈線で描く。胴部は無節斜行縄文Ｌを軸に右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を縦位に幅広く施す。胴部下半に横位の沈線を施す。一部斜位の沈線が確認できる。

1215～1219 は口唇部外端部より頸部付近にかけて渦文状，弧状，楕円状，円形等のモチーフを沈線で描く一群である。頸部付近に横位の沈線，刺突を施すものもある。1215～1217 は口唇部に刻目を入れる。1215 は完形に復元することができた。口縁部上位に無節斜行縄文Ｒを軸に右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を横位に施した後，口唇部外端部と頸部付近の横位の沈線との間に弧状のモチーフを沈線で描く。胴部は口縁部と同じ網目状撚糸文を縦位に施した後，沈線で菱形状，円形のモチーフを描く。底面境付近にも横位の沈線を施す。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け，胴部を輪積み成形する。底部は上げ底状である。1216 は頸部付近に横位の沈線，刺突を施す。1217 は口唇部外端に刻目を入れる。口縁部に明瞭な沈線で円弧状のモチーフを描く。1218 は口縁部に楕円状のモチーフを沈線で描く。胴部は０段１の撚りを軸に右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を縦位に施した後，頸部付近に横位の沈線を施す。1219 は口縁部に横長の弧状のモチーフを沈線で描く。外面には煤状の付着物が確認できる。

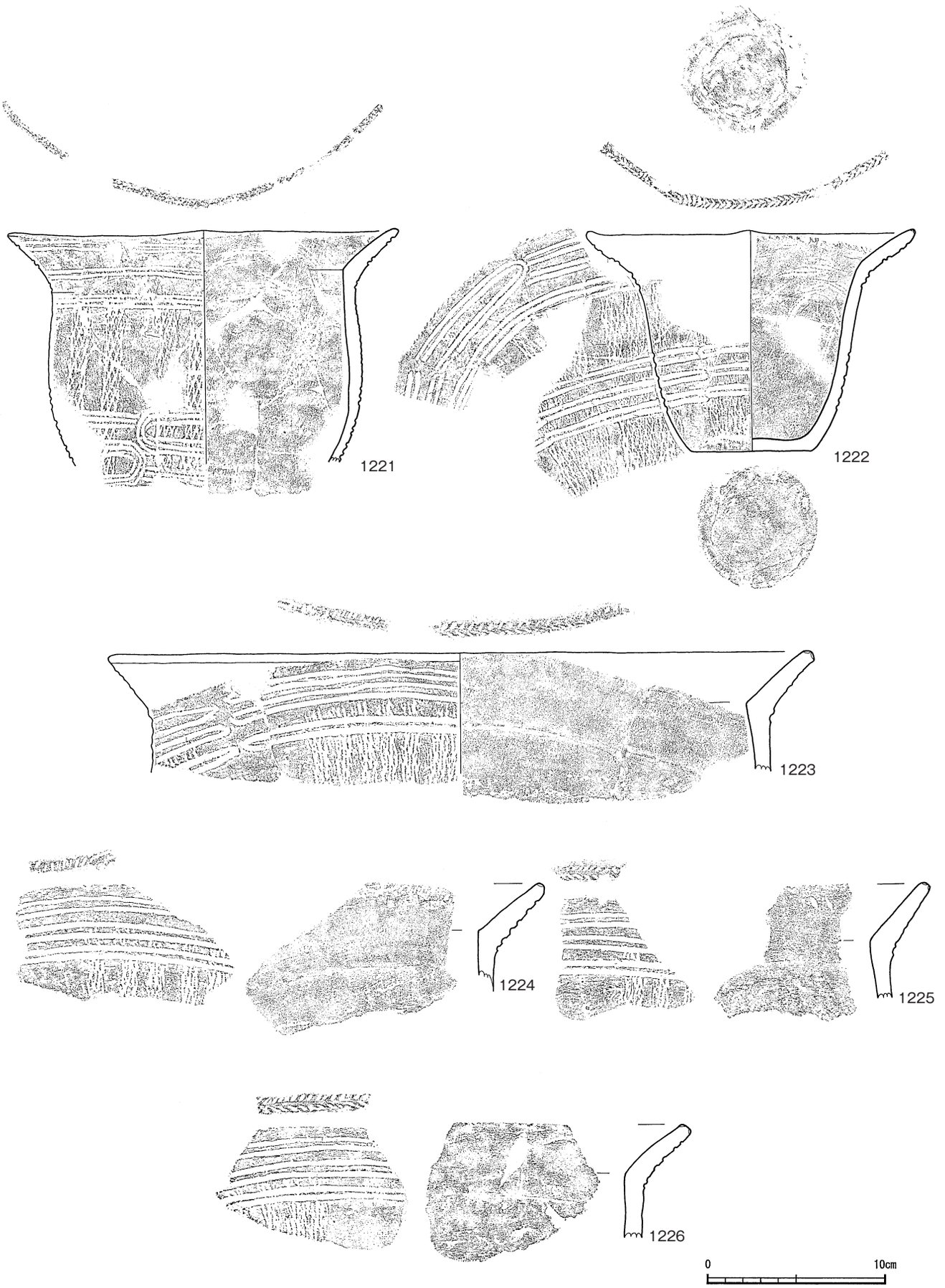
1220 は口縁部から胴部下半まで復元することができる。緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。口縁部上位に横位の沈線，頸部に横位の沈線，刺突を施す。口縁部中央から頸部にかけて，横長の「Ｓ」字状のモチーフを沈線で描く。胴部は無節斜行縄文Ｒを軸に右巻き後，左巻きしたものを密接に施文する。

1221～1241 は幅の狭い口縁部が外反する器形である。胴部に網目状撚糸文を間隔を空けて施文した後，頸部，胴部に横位の沈線を施す。底面境付近に横位の沈線を施すものもある。いずれも口縁部に刻目を入れる。網目状撚糸文は多くが無節斜行縄文Ｒを軸に右巻き後，左巻きしたものである。口縁部の施文の有無で細分した。

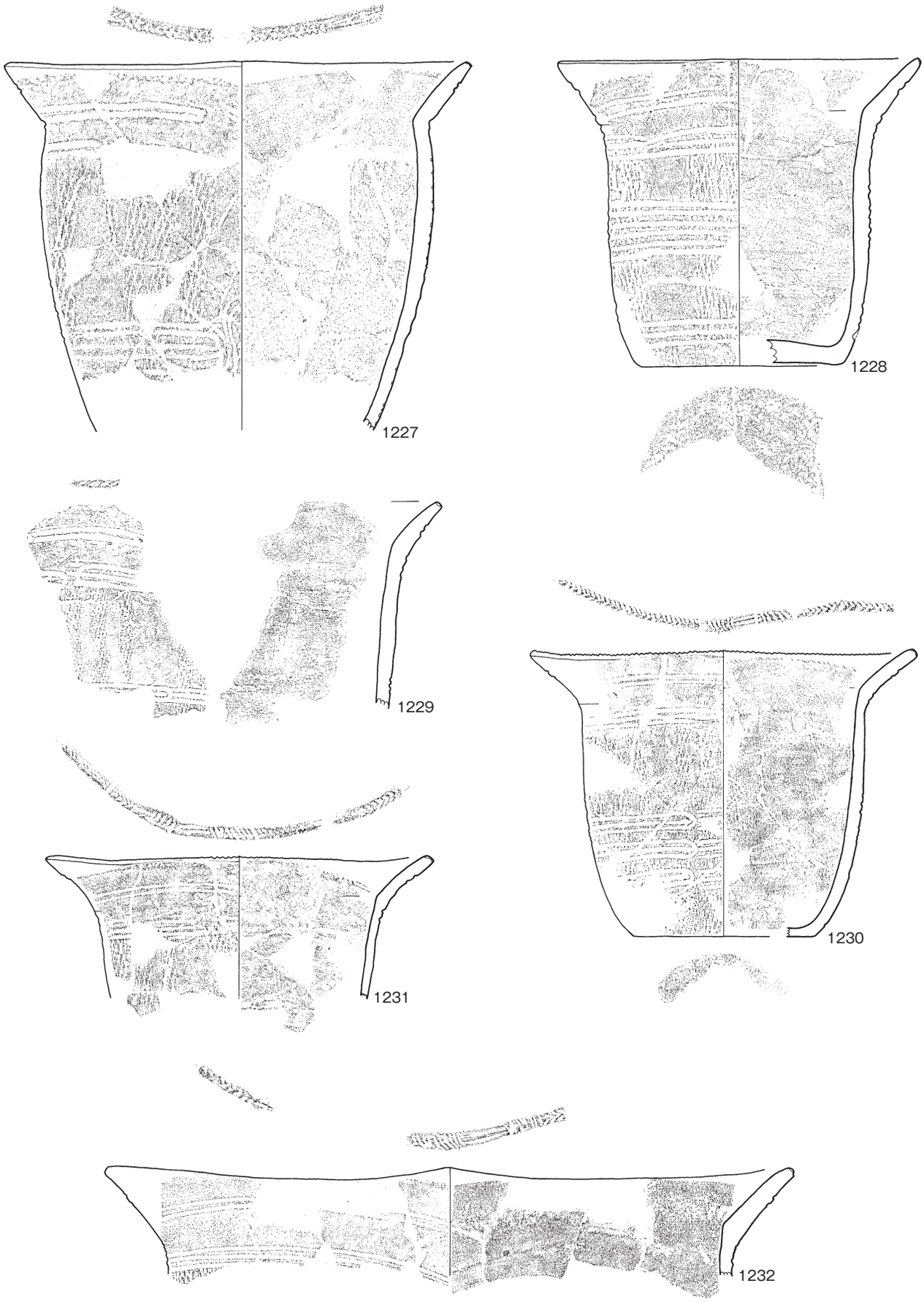
1221～1236 は口縁部中央付近に２本の横位の沈線を施す一群である。1221 は口縁部から胴部下半まで復元することができる。緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。胴部に網目状撚糸文を施した後，口縁部上位，口縁部中央付近，頸部，胴部下半に横位の沈線を施す。1222 は完形に復元することができた。４単位の波状口縁を呈すると考えられる。２本の横位の沈線を波頂部下より施文を開始し，波頂部と波頂部の中間付近で端部を曲線状に繋げ，口縁部中央付近に横位の沈線を施したと考えられる。頸部，胴部下半にも横位の沈線を施す。胴部下半は２本単位の横位の沈線を３段施す。それぞれの沈線の端部を丸く曲げている。1223～1226 は口縁部の幅が特に狭く，そのためそれぞれの沈線の間隔も狭くなっている。1223～1225 は口唇部に羽状の刻目を入れる。網目状撚糸文は０段１の撚りを軸に右巻き後，左巻きしたものを口縁部下位付近から縦位に施している。1223～1226 は器形，文様，調整，胎土が類似することか



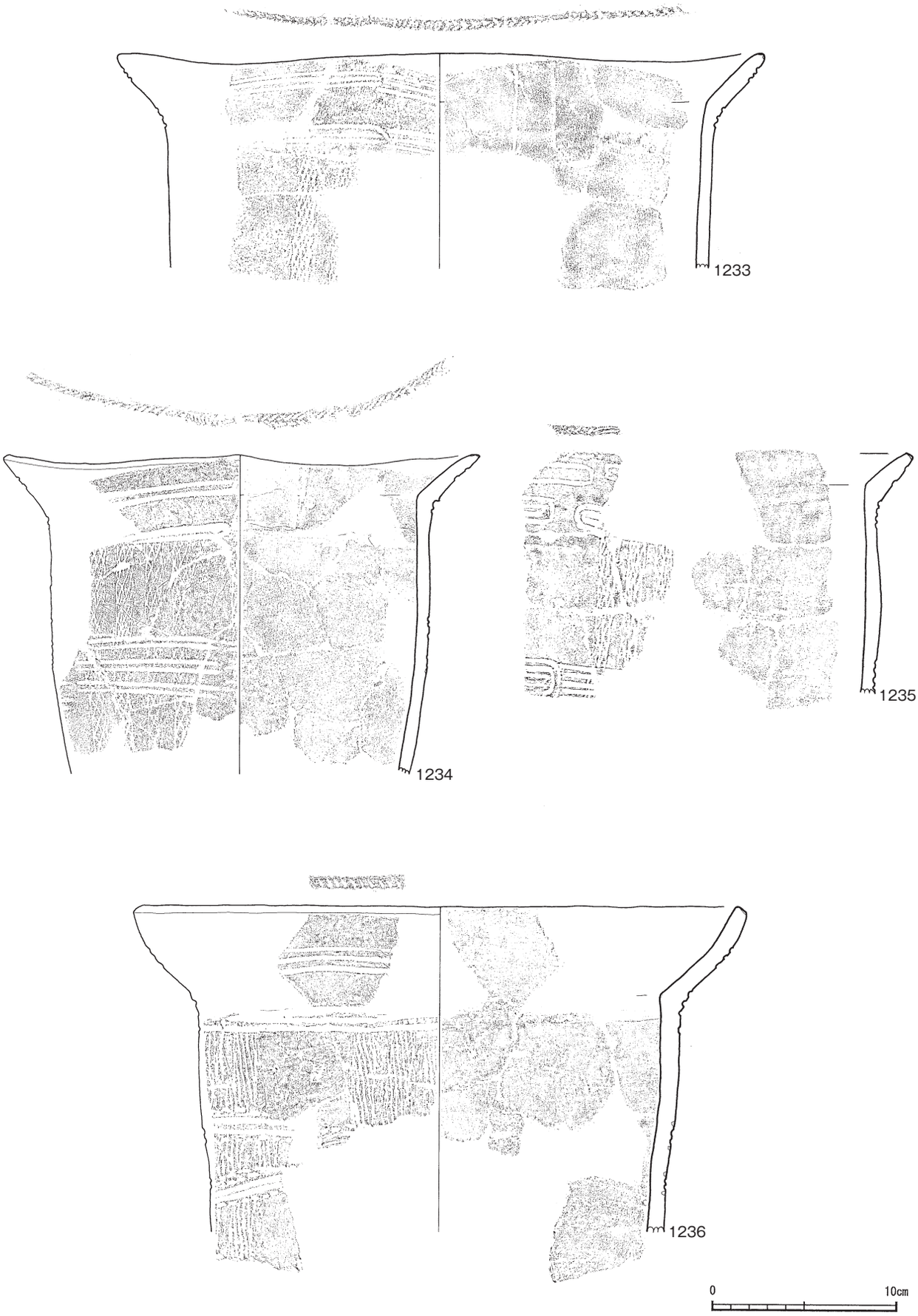

第 388 図　XV類土器（10）




第 389 図　XV類土器（11）




第 390 図　XV類土器（12）




第 391 図　XV類土器（13）

ら，同一個体の可能性が高いと考えられる。1227 は口縁部から胴部下半まで復元することができた。緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。口唇部に羽状の刻目を入れる。胴部下半に横位の沈線を施す。網目状撚糸文は非常に細い無節斜行縄文Ｌを軸に右巻き後，左巻きしたものを縦位に間隔を開けて施文している。1228 は完形に復元することができた。口唇部外端部に刻目を入れる。口縁部中央，頸部，胴部中央，胴部下半にやや浅い横位の沈線を施す。網目状撚糸文は０段１の撚りを左巻き後，右巻きしたものを縦位に施す。やや上げ底気味の底部である。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付け，胴部を輪積み成形したと考えられる。1229 は胴部中央付近に横位の沈線を施し，端部を曲線状に繋げた後，横位の沈線の施文を始めている。1227・1231～1234 は，緩やかな波状口縁を呈すると考えられる。1230～1232 の口唇部は波頂部付近に横位の沈線を施し，その両端には斜位，羽状の刻目を入れる。1230 は完形に復元することができた。非常に細い網目状撚糸文を縦位に施した後，口縁部中央，頸部，胴部中央から下半に沈線を施文したと考えられる。胴部の横位の沈線は２本１単位で３段施している。1231 は器形，文様，調整，胎土が 1230 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1232 は網目状撚糸文がわずかしか残存していないため，撚り，巻き方が不明である。1233・1234 の口唇部には羽状，斜位の刻目を入れる。1233 は刻目が外端部に及ぶ箇所もある。1234 は胴部中央に２本１単位の沈線が３段施される。網目状撚糸文の絡条体の幅は 1.0㎝程度で端部が明瞭である。1235 は口縁部，頸部の横位の沈線の上下の間隔がそれぞれ広い。胴部は０段１の撚りを左巻き後，右巻きしたものを縦位に施し，胴部下半に横位の沈線を施している。1236 は胴部に撚糸文が縦位に施されている。撚糸文は無節斜行縄文Ｒを軸に密接に左巻きしたものである。胴部中央付近に，斜位の沈線，刺突で菱形状のモチーフを描いていると考えられる。

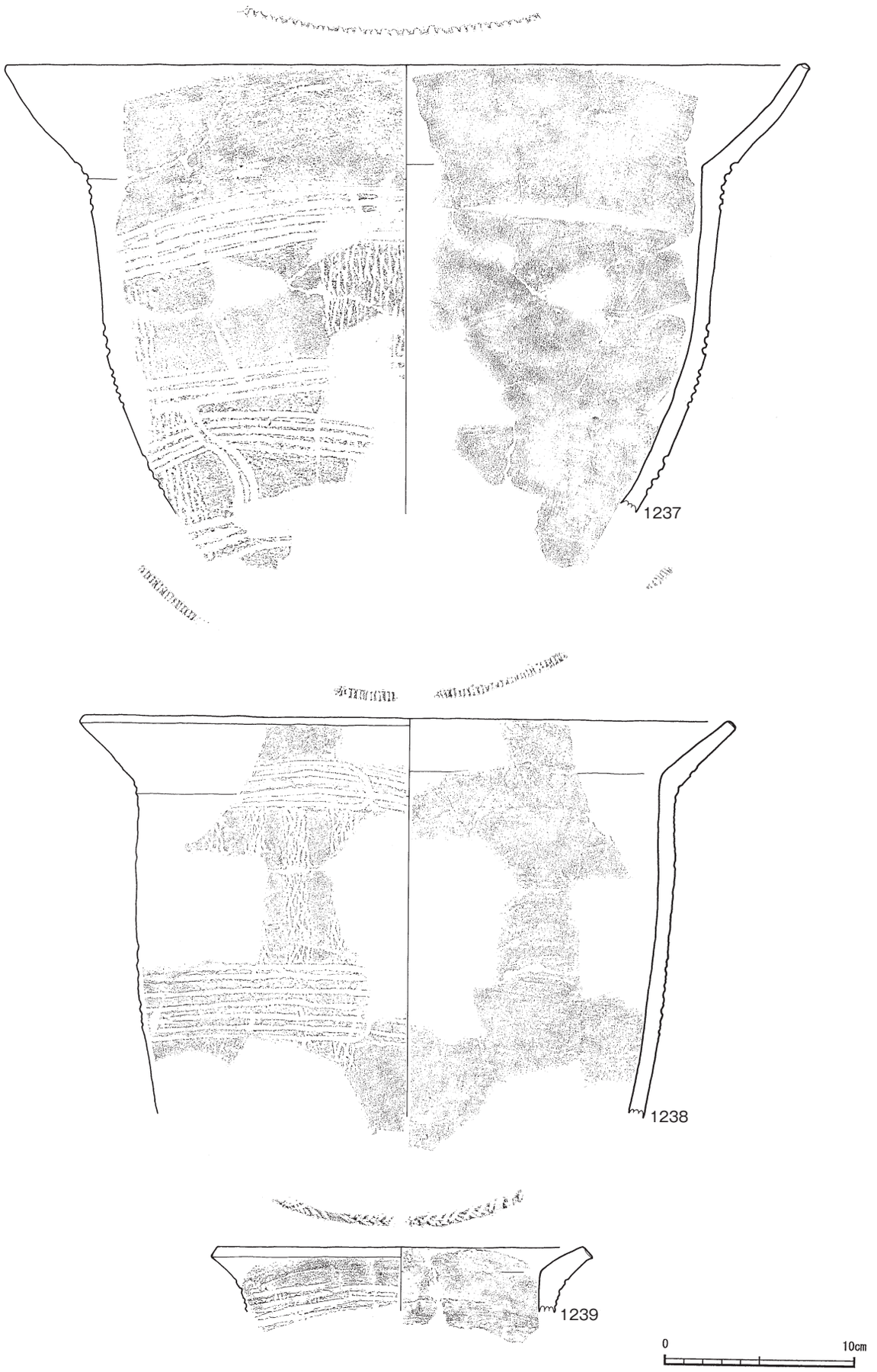
1237～1241 は口縁部が無文の一群である。1237 は口縁部から胴部下半まで復元することができる。口唇部に刻目を入れる。頸部から胴部に無節斜行縄文Ｌを軸に右巻き後，左巻きしたものを間隔を空けて縦位に施した後，頸部に横位の沈線を５条施す。一部斜位の短沈線を施文する箇所がある。胴部中央に横位の沈線を３条施し，胴部下半には斜位の沈線で山形もしくは菱形状のモチーフを描いたと考えられる。沈線間に縦位の波状の沈線を施す箇所がある。1238 は口縁部から胴部下半までを復元することができる。胴部に無節斜行縄文Ｌを軸に右巻き後，左巻きしたものを縦位に施した後，頸部，胴部中央から胴部下半に横位の沈線を施す。胴部下半の横位の沈線間に弧状の沈線を一部施している。1239・1240 はともに口唇部に羽状の刻目を施す。1240 は胴部に０段１の撚りを左巻き後，右巻きしたものを縦位に施す。頸部に横位の沈線を施す。1241 は４単位の波状口縁を呈すると考えられる。波頂部付近の口唇部に縦位，その両端に斜位の刻目を入れる。頸部付近に微隆線状の刻目突帯を３段施す。

1242～1250 は網目状撚糸文，縄文を施した後，両端に沈線を施し区画を行ういわゆる磨消縄文を施す一群である。沈線を施した後，沈線間からはみ出した網目状撚糸文，縄文はナデ消したと考えられる。地文と沈線の施文順序が判然としないものは，充填縄文の可能性もある。網目状撚糸文の多くは，無節斜行縄文Ｒを軸に右巻き後，左巻きしたものである。口縁部の断面形態と口縁部文様で細別した。

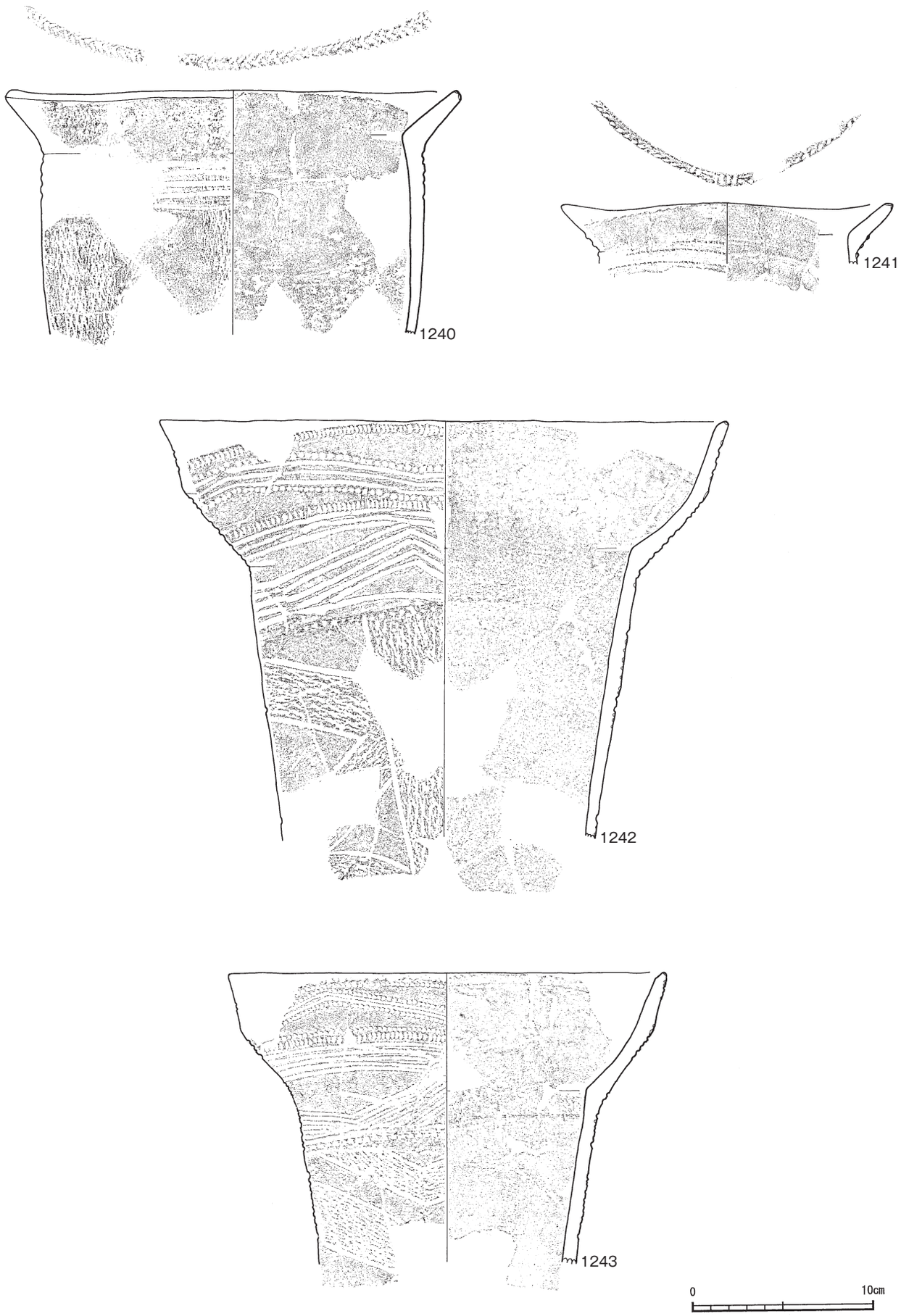
1242～1244 は口縁部が「く」の字状に屈曲しながら外側に開く一群である。1244 は口縁部の屈曲の程度が他に比べ弱いものの，口縁部文様が類似することからここに含めた。口唇部の刻目と屈曲部の横位の縦長の刺突は，同一のヘラ状工具を器面に対して縦位に当て施文していると考えられる。屈曲部の横位の縦長の刺突の上下に横位の沈線，刺突を施す。その内部に斜位の沈線，刺突で山形のモチーフを描く。1242 は口唇部の刻目と屈曲部に縦長の刺突を横位に施す。その後，浅い３条の斜位の沈線で山形のモチーフを描く。沈線の両端には円形の刺突を１段ずつ施す。屈曲部の横位に施された縦長の刺突より下と頸部にそれぞれ横位の浅い沈線を施した後，頸部に浅い斜位の沈線で山形のモチーフを描く。頸部の沈線の下には刺突を施す。胴部は網目状撚糸文を幾何学的に施文した後，沈線を施したと考えられる。口縁部外面に煤状の炭化物が大量に付着した箇所がある。1243 は口唇部の刻目と屈曲部付近の横位に施された縦長の刺突との内側に，それぞれ１段ずつ横位の刺突を施している。横位の刺突で区画された内部に，浅い斜位の沈線と刺突で山形のモチーフを描く。横位の沈線を屈曲部の縦長の刺突の下に５条，頸部に１条施す。頸部は横位の沈線の下に横位の逆「Ｃ」字状の刺突を１段施す。胴部は網目状撚糸文を山形に施文した後，両端に沈線を施文していると考えられる。1244 は口唇部の刻目の下，屈曲付近の横位の刺突の上にそれぞれ横位の沈線，刺突を施文し，口縁部の区画を行う。区画内に沈線と刺突で山形のモチーフを描く。口縁部下から頸部に網目状撚糸文でやや間延びした山形のモチーフを描き，その両端に沈線を施文する。その後，屈曲部下の横位の沈線は，頸部の網目状撚糸文と沈線の施文が終わった後に，山形のモチーフの頂点を結ぶように施文している。胴部も頸部と同様の網目状撚糸文を幾何学的に施し，両端に沈線を施していると考えられる。

1245～1250 は口縁部がラッパ状に開く一群である。

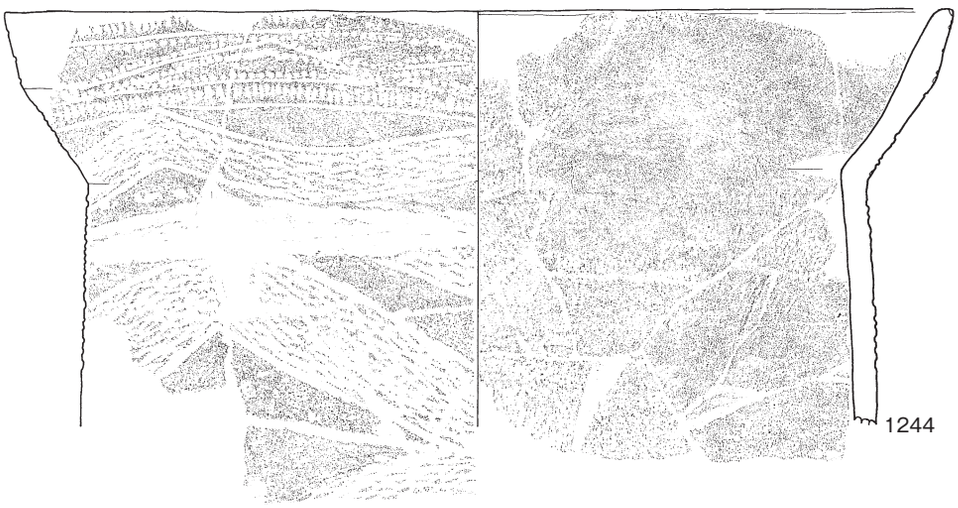
1245・1246 は口縁部から頸部に刺突を施し，胴部に網

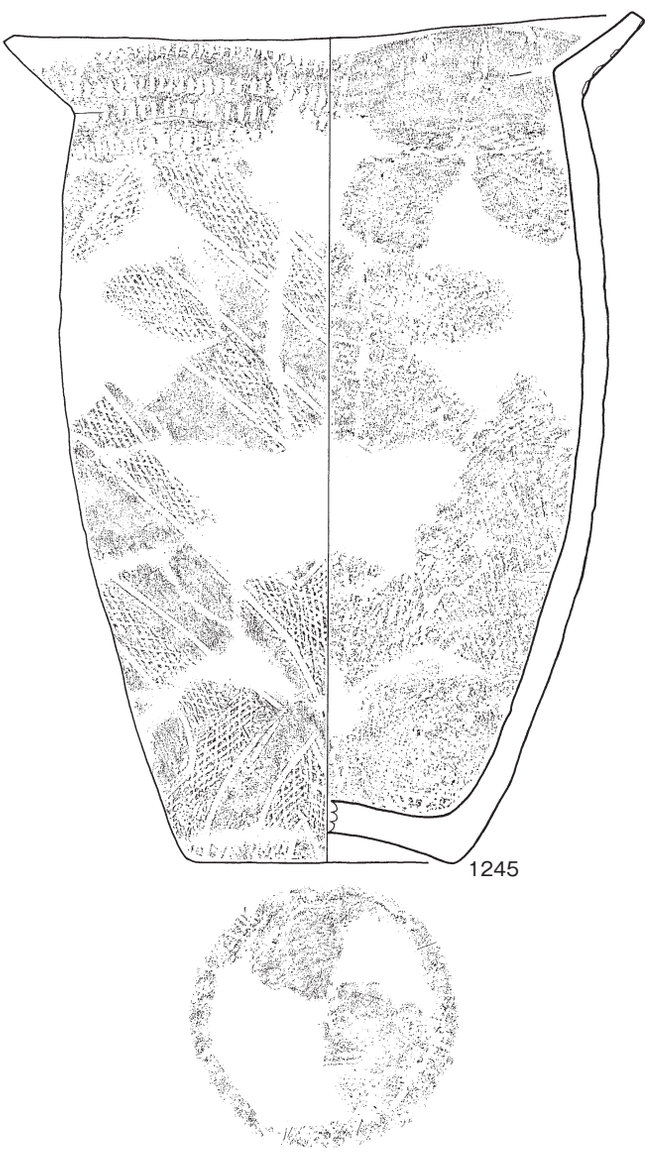



第 392 図　XV類土器（14）




第 393 図　XV類土器（15）

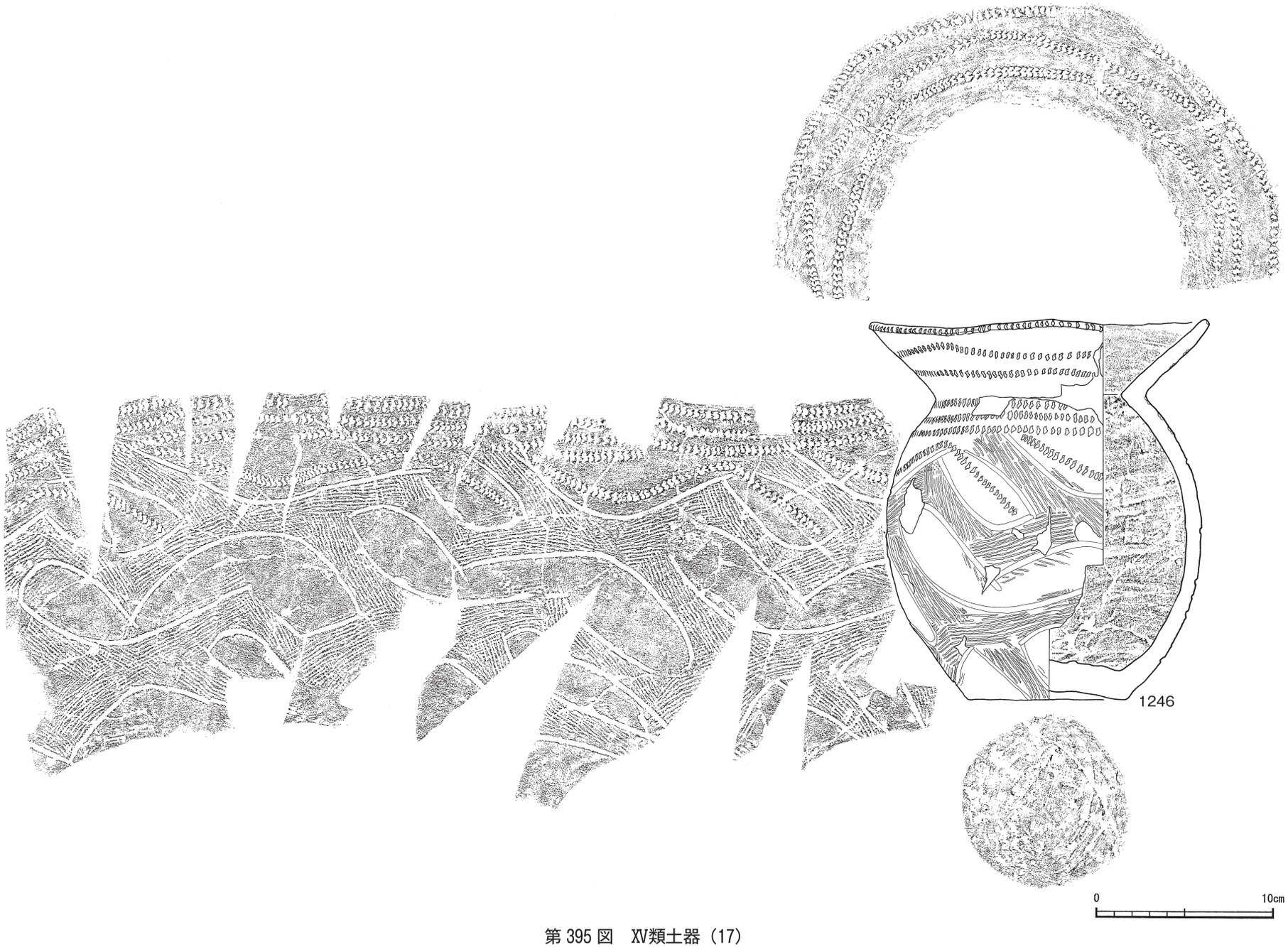






第 394 図　XV類土器（16）




第 395 図　XV類土器（17）

目状撚糸文，撚糸文を施し，両端に沈線を施文する一群である。いずれも完形に復元することができた。底部は上げ底状である。1245 は縦長の器形である。口唇部外端，口縁部中央，頸部付近にヘラ状工具による縦長の刺突を横位に施す。胴部に網目状撚糸文を幾何学的に施し，両端に沈線を施している。網目状撚糸文は０段１の撚りを軸に右巻き後，左巻きしたものである。1246 は口縁部が直線的に大きく開き，胴部は中央で膨らみ，底部に向けて曲線的にすぼまる球状の器形である。４単位の波状口縁を呈すると考えられる。口唇部に貝殻の腹縁部により刻目を入れている。同様の施文具で，口縁部，頸部から胴部上半に刺突を施している。口縁部では刺突で山形のモチーフを描いている。胴部上半は幾何学的に施文した撚糸文に沿うように連続刺突文が施文されている箇所もある。胴部は無節斜行縄文Ｒの撚糸を幾何学的に施文し，両端に沈線を施す。沈線間からはみ出した撚糸はナデ消したと考えられる。刺突を口縁部中央に横位，斜位に２段，頸部から胴部上半に３段施す。一部胴部の網目状撚糸文間にも斜位の刺突を施している。

1247～1249 は口縁部に網目状撚糸文を施し，その両端に沈線を施文する一群である。口唇部外端に刻目を入れる。1248・1249 は口縁部上位に横位の沈線を１条施す。1247 は頸部に横位の沈線，刺突を施す。口縁部には０段１を軸に左巻き後，右巻きした網目状撚糸文で波状のモチーフを描き，その両端に沈線を施す。胴部にも口縁部と同様の施文を行う。1248 も 1247 と同様の施文を行うが，網目状撚糸文は無節斜行縄文Ｒを右巻き後，左巻きしたものである。また，頸部に波状の沈線を横位に施した箇所がある。1249 は口縁部の施文，原体も 1248 と同様である。ただし，胴部の網目状撚糸文は一部沈線は確認できるものの，区画された沈線が確認できないことから，網目状撚糸文を縦位に施しただけの可能性もある。

1250 は区画された沈線内に刺突を施す。器形，口縁部文様等が他のⅩⅤ類土器と類似することから，ここに含めた。口縁部から胴部下半まで復元することができた。口唇部に羽状の刻目を入れる。やや縦長の器形である。口縁部上位，頸部に横位の沈線，刺突を施した後，胴部に斜位の沈線を間隔を空けて施文する。沈線間に刺突具を右下から器面に当て，斜位の沈線と平行するように左上から右下に向けて施文し，次の段に移行し施文したと考えられる。下に位置する斜位の沈線側の刺突がやや詰まった間隔となっている箇所がある。

1251～1277 は胴部である。

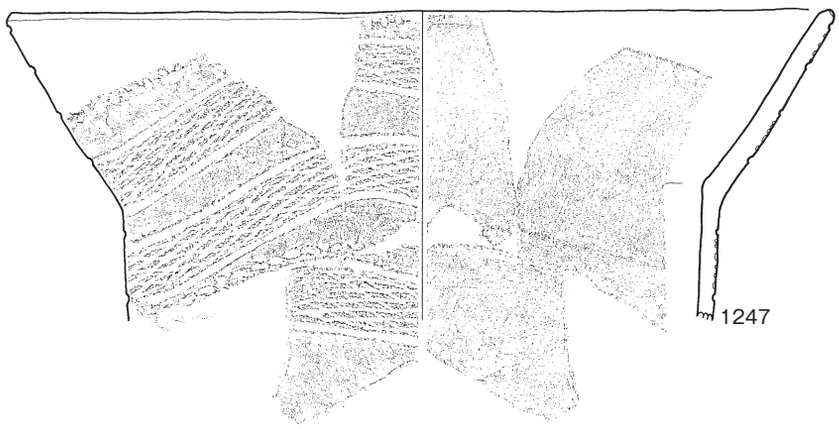
1251～1269 は網目状撚糸文もしくは撚糸文を縦位に施文する一群である。

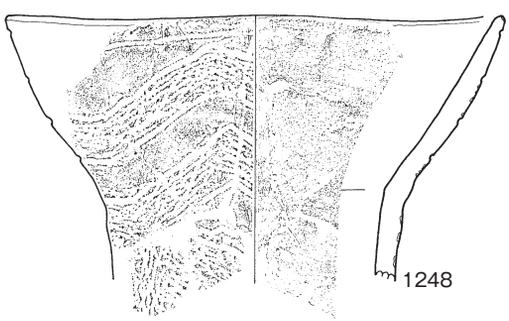
1251～1254 は口縁部付近から胴部上半付近であると考えられる。1251 は頸部に横位の沈線，刺突を施し，口縁部下位から頸部に斜位，縦位の弧状沈線を施す。胴部は無節斜行縄文Ｌを軸に右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を縦位に施し，胴部中央付近に横位の沈線を施した後，縦位の沈線を施す。横位の沈線の上に頸部と同様の横位の刺突を施す。1252 は口縁部上位，頸部に横位の沈線を施した後，口縁部下位に斜位，弧状の沈線を施す。胴部に網目状撚糸文を縦位に施文している。網目状撚糸文は０段１の撚りを軸に右巻き後，左巻きしたものである。1253 は頸部付近から胴部へ無節斜行縄文Ｒを軸に左巻きした網目状撚糸文を縦位に施した後，頸部に横位の沈線を施す。口縁部に斜位の沈線で山形，菱形状のモチーフを描いたと考えられる。胴部上半に横位の沈線を施す。頸部と胴部上半の沈線間に斜位の沈線で山形のモチーフを描く。1254 は口縁部下位から頸部付近と考えられる。口縁部下位に横位の明瞭な沈線を施した後，口縁部下位から頸部にクランク状のモチーフを明瞭な沈線で描く。屈曲部に施したと考えられる縦長の刺突も上位に一部確認できる。

1255 は口縁部下位から底部と考えられる。頸部から胴部中央にかけてやや膨らみ，底部にむけて曲線的にすぼまる器形である。頸部に縦位の沈線を施文後，横位の沈線を施す。一部縦位の沈線間に斜位の沈線で「×」状のモチーフを描く箇所がある。胴部は無節斜行縄文Ｒを軸に右巻きしたものを縦位に施文する。胴部中央，胴部下半，底面境付近に横位の沈線を施す。一部それぞれ沈線間に弧状の沈線を施文する箇所がある。

1256～1261 は口縁部下位，頸部付近から胴部上半付近と考えられる。頸部に横位の沈線を２～３本施す 1256 は，口縁部下位から頸部に横位の沈線を施文している。1256・1257 の網目状撚糸文は無節斜行縄文Ｒを軸に右巻き後，左巻きしたものである。1258～1260 の網目状撚糸文は，０段１を軸に右巻き後，左巻きしたものである。1261 の網目状撚糸文は無節斜行縄文Ｌを軸に右巻き後，左巻きしたものである。

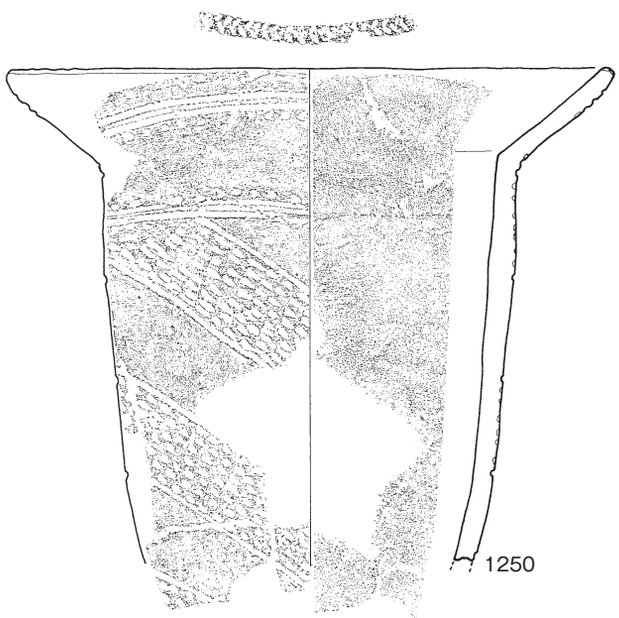
1262～1269 は胴部中央から胴部下半付近と考えられる。1262・1263 は胴部中央，胴部下半に横位の沈線を施す。1262 の網目状撚糸文は無節斜行縄文Ｒを軸に右巻き後，左巻きしたもので，1263 の網目状撚糸文は０段１の撚りを軸に左巻き後，右巻きしたものである。1264 は上位，下位に沈線を横位に施文した後に，両端に円形の刺突を施したと考えられる。外面に煤状の炭化物が付着した箇所が確認できる。網目状撚糸文は無節斜行縄文Ｒを軸に左巻き後，右巻きしたものである。1265 は底部に向けて直線的にすぼまる円筒形に近い胴部である。無節斜行縄文Ｌを軸に右巻き後，左巻きしたものを縦位に間隔を空けて施す。その後，横位の沈線，刺突を施し，沈線間に菱形状，弧状のモチーフを沈線で描く。1266 は文様，調整，胎土等が 1265 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。1267・1269 は底部にむけ

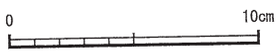






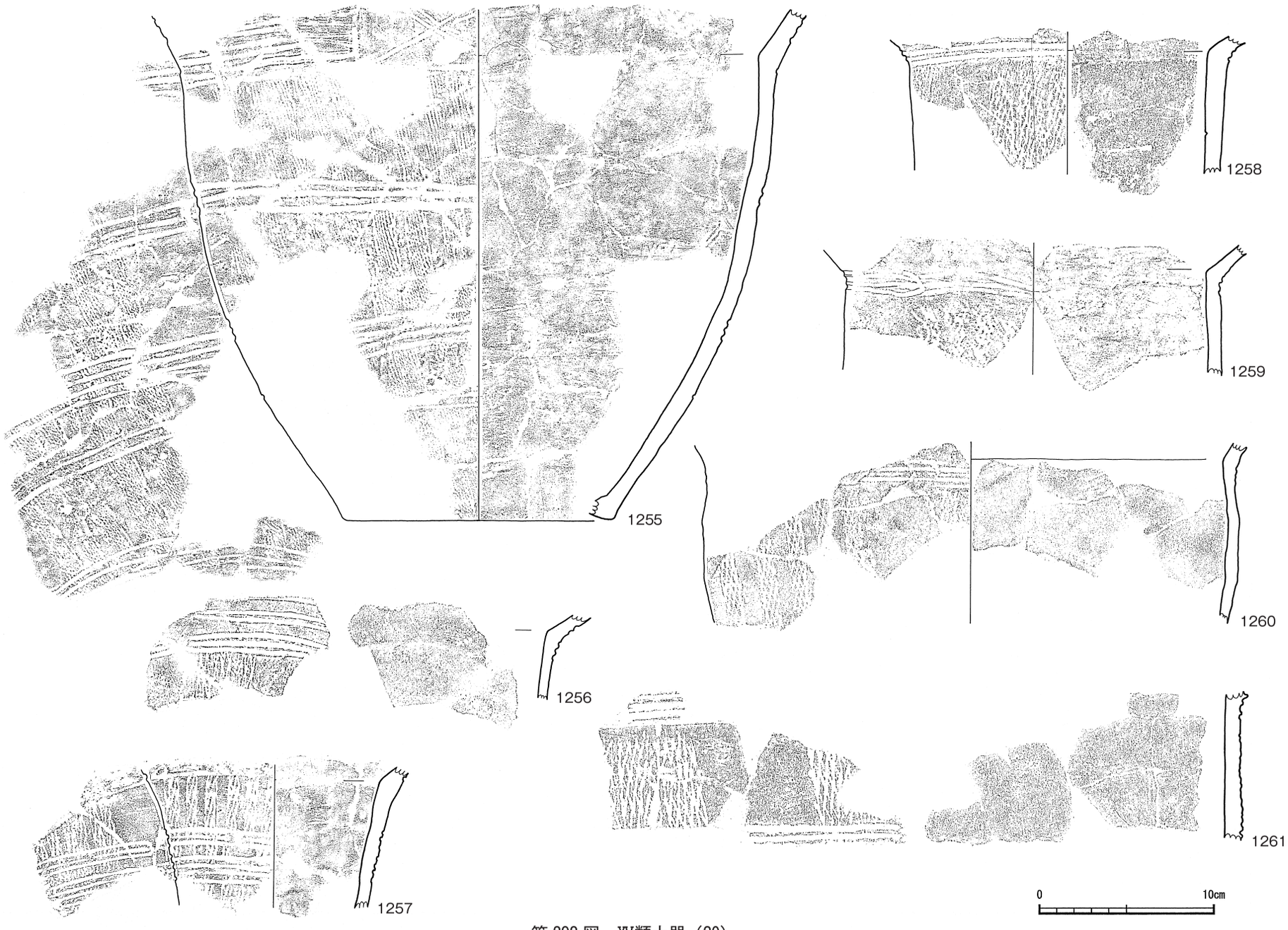


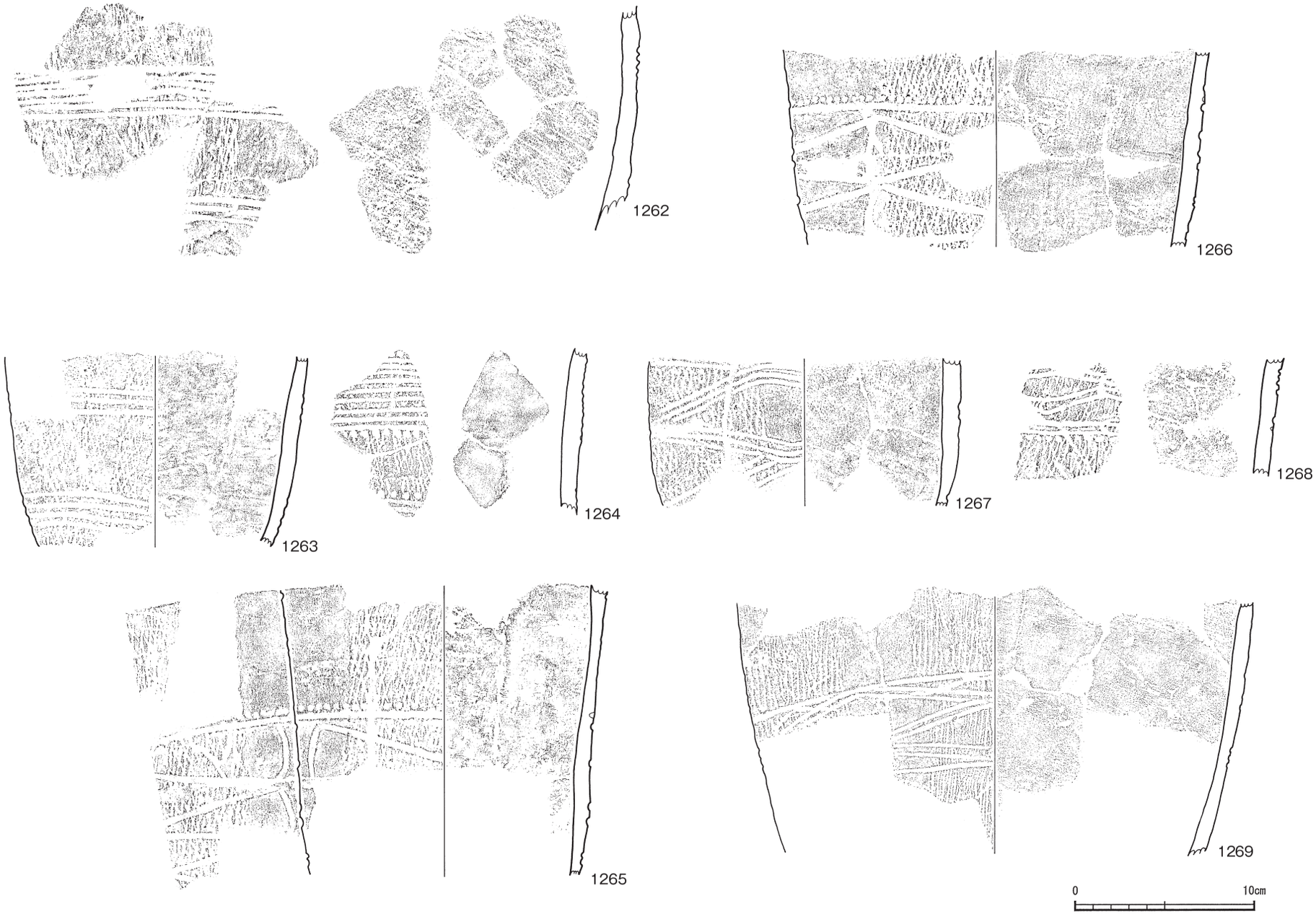

第 396 図　XV類土器（18）




第 397 図　XV類土器（19）




第 398 図　XV類土器（20）




第 399 図　XV類土器（21）

て曲線的にすぼまる器形であると考えられる。1267 は無節斜行縄文Ｌを軸に右巻き後，左巻きしたものを縦位に施した後，沈線で横位の沈線を施す。その後，曲線的な菱形状のモチーフを沈線で描く。1268 は横位の沈線，刺突を施文後，横長の菱形状のモチーフを描いたと考えられる。1269 は無節斜行縄文Ｒを軸に密接に左巻きした撚糸を縦位に施し，横位の沈線を胴部中央，胴部下半付近に１条ずつ施文したあと，沈線間に２本１単位の沈線で菱形状のモチーフを描く。

1270･1271 は網目状撚糸文，撚糸文は施さないものの，沈線と刺突で胴部に山形のモチーフを描く一群である。他のⅩⅤ類土器と文様，調整，胎土等が類似するのでここに含めた。1270 は口縁部下位から胴部中央付近であると考えられる。頸部に横位の沈線を４条施文した後に，上下端に円形の刺突を施す。口縁部下位から頸部にかけて斜位の沈線と逆三角形状の刺突が確認できる。山形のモチーフの一部と考えられる。胴部には斜位や横位の沈線，刺突が確認できる。同じく山形のモチーフの一部と考えられる。斜位の沈線と刺突で囲まれた内部に無節斜行縄文Ｌの原体押圧を模したような刺突が１段施されている。1271 は頸部から胴部下半付近と考えられる。横位の沈線を頸部，胴部中央付近に施文した後，横位の沈線間の上位に山形のモチーフを描き，山形のモチーフの端部を胴部中央付近の横位の沈線と弧状の沈線で繋いでいる。山形のモチーフの上に，弧状の短沈線が施されている。また，沈線の施文が完了した段階で，刺突の施文が行われたと考えられる。これは横位の沈線，刺突の施文の完了後に斜位の沈線，刺突を施す 1270 とは異っている。

1272・1273 は頸部に横位の刻目突帯を施す一群である。1272 は口縁部下位から胴部上半付近と考えられる。頸部に刻目突帯を２段施文する。胴部に無節斜行縄文Ｒの原体の一部が僅かに確認できるため，網目状撚糸文もしくは撚糸文の可能性もある。1273 は口縁部下位から胴部中央付近と考えられる。口縁部付近と頸部に微隆線状の刻目突帯を１段ずつ施す。口縁部外面付近に大量の煤状の炭化物が確認できる。

1274･1275 は撚糸文を施文後に両端に沈線を施文する一群である。1274 は無節斜行縄文Ｌを軸に左巻きしたものを斜位に施している。1275 は無節斜行縄文Ｒを軸に左巻きしたものを縦位，斜位に施している。

1276･1277 は斜位の沈線で区画した内部に斜位の刺突を施す一群である。器形，口縁部文様等が他のⅩⅤ類土器と類似することから，ここに含めた。1276 は頸部から胴部上半付近と考えられる。頸部と胴部上半に横位の刻目突帯を施文後に，刻目突帯の両端に横位の浅い沈線を施す。その後，斜位の沈線で「Ｖ」字状のモチーフを描き，内部に斜位の刺突を２段施す。1277 は斜位の沈線を間隔を開けて施文する。沈線間に刺突具を右下から器面に当て施文している。文様，調整，胎土等が 1250 と類似することから，同一個体の可能性が高いと考えられる。

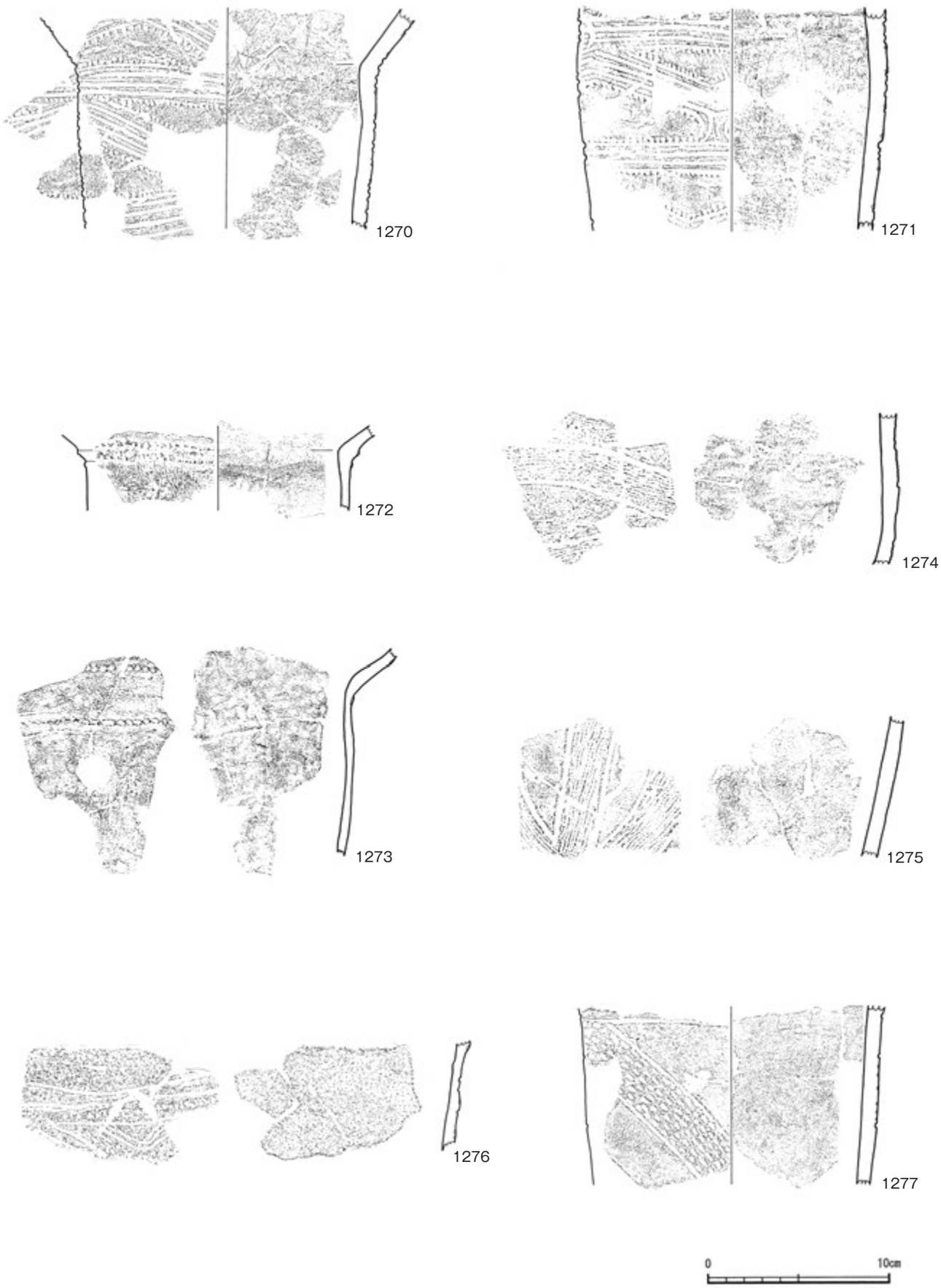
1278～1293 は底部で，上げ底状を呈するものが多い。

1278～1284 は胴部外面に網目状撚糸文，撚糸文を縦位に施し，胴部下半もしくは底面境付近に横位の沈線を施す一群である。網目状撚糸文は 1278・1279 が０段１の撚りを軸に右巻き後，左巻きしたもの，1280～1283 は無節斜行縄文Ｒを軸に左巻き後，右巻きしたものである。1278 は胴部下半付近から底部と考えられる。胴部下半に横位の沈線を５条施す。底部円盤の外周部分に粘土紐を巻き付けて，胴部を輪積み成形したと考えられる。1279～1281 は底面境よりやや高い位置に横位の沈線を施す。1282 は上げ底状の底部で，底部円盤の外周部分に粘土紐を巻きつけ，わずかに高台状に成形している。底面境付近に横位の沈線を施す。1283 は底面境付近に横位の沈線を施している。その後，縦位の短沈線を一部施文している。やや上げ底気味の底部である。1284 は底面境付近に横位の沈線と縦位の短沈線が確認できる。

1285～1287 は胴部下半から底面境付近に斜位の沈線を施す一群である。1285 は胴部下半から底部付近と考えられる。底部にむけて直線的にすぼまる円筒形の器形である。０段ｒの撚りを軸に右巻き後，左巻きした網目状撚糸文を縦位に施す。胴部下半，底面境付近に横位の沈線を施した後，斜位の沈線で菱形状のモチーフを描く。1286 は無節斜行縄文Ｌを軸に左巻き後，右巻きした網目状撚糸文を縦位に施した後，底面境付近に斜位の沈線を施す。一部弧状の沈線を施す箇所もある。1287 は無節斜行縄文Ｌを軸に左巻き後，右巻きしたものを底面境まで縦位に施した後，網目状撚糸文が施されない部分に斜位の沈線を施す。

1288～1290 は縦位の網目状撚糸文のみを施す一群である。ただし，沈線を施文する一群の一部の可能性がある。網目状撚糸文は 1288 は無節斜行縄文Ｒ，1289 は無節斜行縄文Ｌ，1290 は０段１の撚りを軸に右巻き後，左巻きしたものである。

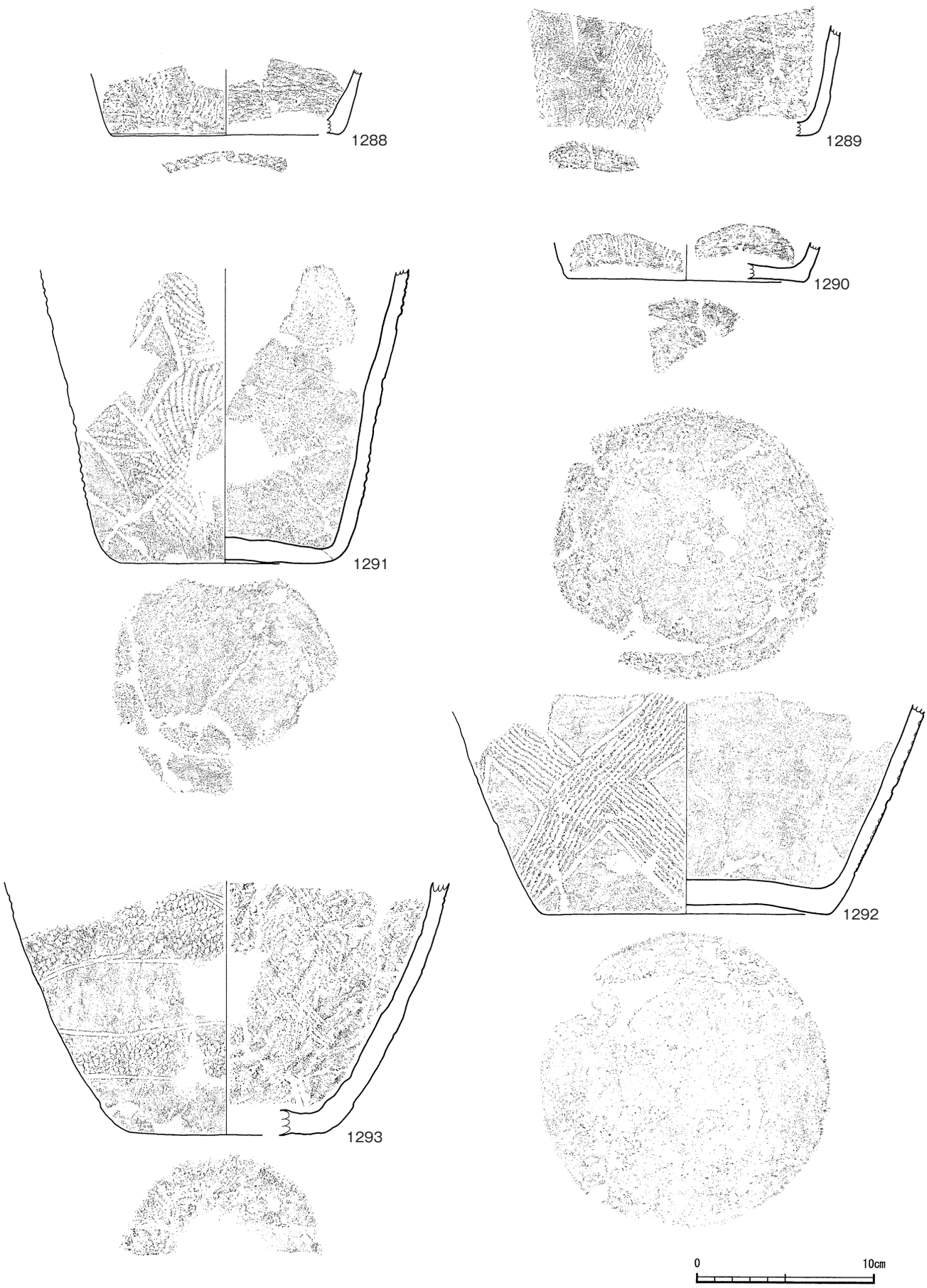
1291～1293 は撚糸文，縄文を施文した後に両端に沈線を施し区画を行う磨消縄文を施す一群である。1291・1293 が単節斜行縄文ＬＲ，1292 が無節斜行縄文Ｒを軸に密接に左巻きした撚糸文である。1291･1292 は上げ底状の底部を呈する。1291 は胴部が底部に向けて直線状にすぼまる縦長の器形と考えられる。縄文を幾何学状に施文後，沈線を施したと考えられる。1292 は胴部が底部に向けて直線状にすぼまる器形である。撚糸文を斜位に施した後，沈線を施文している。外面には煤状の炭化物が確認できる。1293 は縄文を横位の施文した後，先端を細く加工した棒状工具で沈線を施し，一部縄文をナデ消した箇所がある。



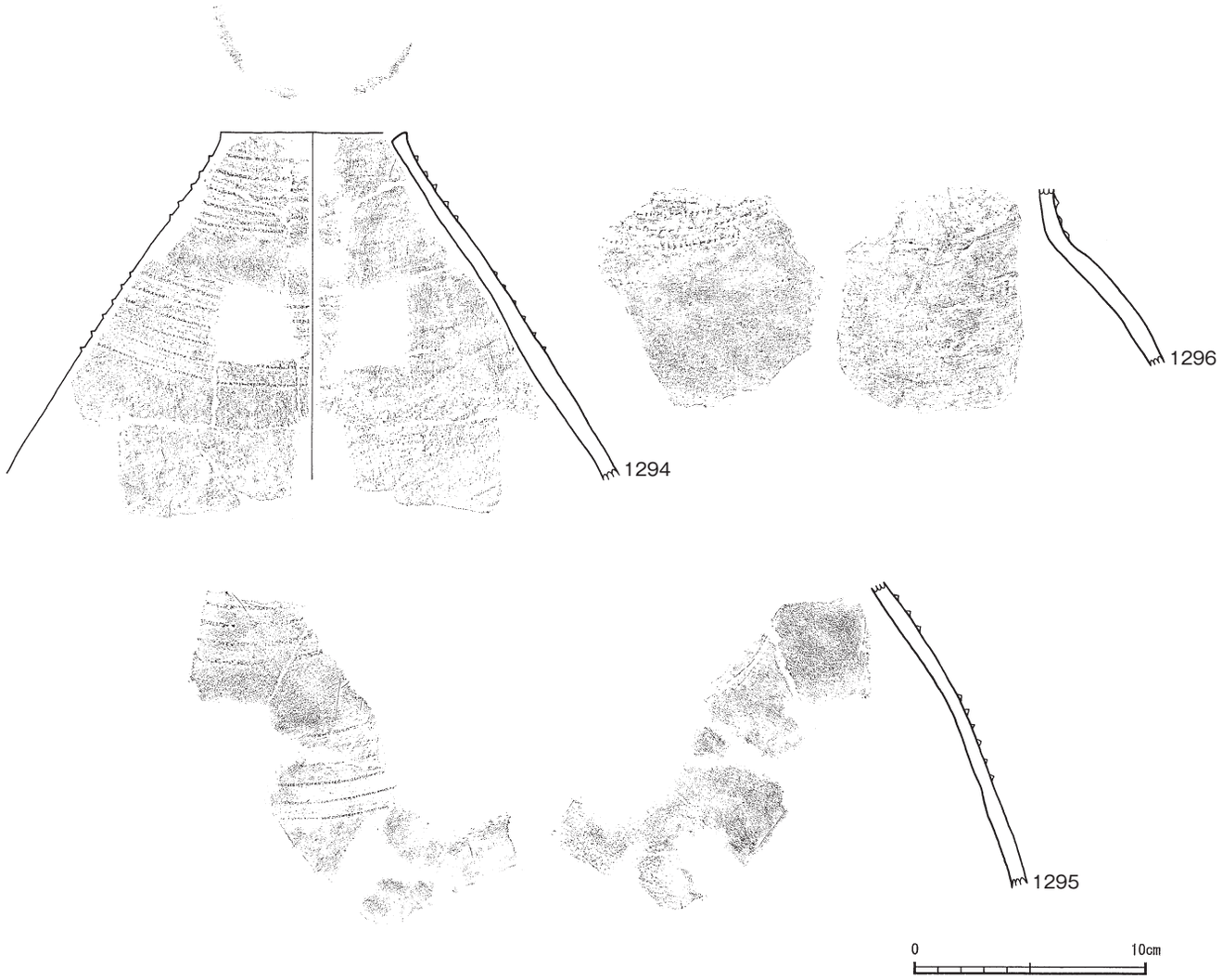

第 400 図　XV類土器（22）




第 401 図　XV類土器（23）




第 402 図　XV類土器（24）




第 403 図　XV類土器（25）

1294～1296 は壺形土器である。口縁部から胴部中央に向けて「ハ」の字状に広がる器形と考えられる。口縁部から肩部，胴部上半の２か所に横位の微隆線状の刻目突帯を数段ずつ貼り付けている。明確に胴部下半と考えられるものや胴部下半まで接合する個体はないが，胴部下半から底部は無文と考えられる。1294 は口縁部から胴部中央付近と考えられる。口縁部から胴部中央に向けて直線的に広がる器形である。口唇部は内傾するように成形している。口縁部に５段，肩部には６段の横位の微隆線状の刻目突帯を貼り付けている。1295 は口唇部は残存していないものの，口縁部付近から胴部中央付近の破片と考えられる。文様，調整，胎土等が 1294 と類似することから同一個体の可能性が高いと考えられる。1296 は頸部から，肩部付近と考えられる。頸部付近に微隆線状の刻目突帯を３段施す。３段目の刻目突帯は，施文が途切れる箇所がある。頸部から胴部に向けて，やや曲線的に広がる器形と考えられる。

## 第 21 表　Ⅰ類土器観察表

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 247 | 236 | Ⅰ | 深鉢 | Ⅰ | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.1) | 貝殻刺突文・ナデ | ナデ | | ○ | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 237 | Ⅰ | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.0) | 貝殻刺突文・ナデ | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 褐灰 | にぶい黄褐 | |
| | 238 | Ⅰ | 深鉢 | Ⅰ | 23 | Ⅴa | 口縁部 | | | (3.9) | 貝殻刺突文・ナデ | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 橙 | 暗灰黄 | |
| | 239 | Ⅰ | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.7) | 貝殻刺突文・ナデ | ナデ | ○ | | | ○ | | | 橙 | 灰黄褐 | |
| | 240 | Ⅰ | 深鉢 | L | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.8) | 貝殻刺突文・ナデ | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい褐 | |
| | 241 | Ⅰ | 深鉢 | − | − | − | 口縁部 | | | (3.8) | 貝殻刺突文・ナデ | ナデ | | | ○ | | | ○ | 灰黄褐 | 暗灰黄 | |
| | 242 | Ⅰ | 深鉢 | F | 17 | Ⅶ | 口縁部 | | | (2.9) | 貝殻刺突文・ナデ | ナデ | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 灰黄褐 | |
| | 243 | Ⅰ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁~胴部 | | | (10.5) | 貝殻刺突文・ナデ | ナデ | | ○ | | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 赤褐 | |
| | 244 | Ⅰ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.0) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 245 | Ⅰ | 深鉢 | F | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.4) | 貝殻刺突文・ナデ | ナデ | | | | ○ | | | 黒 | 黒褐 | |
| | 246 | Ⅰ | 深鉢 | D | 23 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.1) | 貝殻刺突文・ナデ | 剥落 | | | ○ | ○ | | | 灰褐 | にぶい褐 | |
| | 247 | Ⅰ | 深鉢 | F | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.0) | 貝殻刺突文・ナデ | ナデ | ○ | ○ | ○ | | | | にぶい褐 | にぶい橙 | |
| | 248 | Ⅰ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.2) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | ○ | ○ | | | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 249 | Ⅰ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.3) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 250 | Ⅰ | 深鉢 | J | 21 | Ⅴ | 口縁部 | | | (3.9) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | | 橙 | にぶい黄褐 | |
| | 251 | Ⅰ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.6) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | ○ | | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 252 | Ⅰ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 21.6 | | (14.0) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | ○ | | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |

## 第 22 表　Ⅱ類土器観察表（1）

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 249 | 253 | Ⅱ | 深鉢 | F | 22 | Ⅶ | 口縁~胴部 | | | (9.3) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | 補修孔有り |
| | 254 | Ⅱ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁~胴部 | | | (11.2) | 刺突文・貝殻条痕文 | ケズリ | | | | ○ | | | にぶい黄褐 | 橙 | |
| | 255 | Ⅱ | 深鉢 | J | 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.3) | 貝殻刺突文・貝殻条痕 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 256 | Ⅱ | 深鉢 | I | 19 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 16.2 | | (22.0) | 刺突文・貝殻条痕文 | ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | 補修孔有り |
| | 257 | Ⅱ | 深鉢 | G | 19 | Ⅶ | 口縁~底部 | 14.2 | 12.0 | 25.0 | 刺突文・貝殻条痕文 | ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | 橙 | |
| | 258 | Ⅱ | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 9.8 | | (12.7) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | にぶい赤褐 | |
| | 259 | Ⅱ | 深鉢 | H | 20 | Ⅵ | 胴部~底部 | 11.4 | 8.9 | 21.0 | 刺突文・貝殻条痕文 | ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| 250 | 260 | Ⅱ | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁部 | 10.1 | | (4.9) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | 補修孔有り |
| | 261 | Ⅱ | 深鉢 | F | 20 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 10.8 | | (3.9) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 262 | Ⅱ | 深鉢 | H | 17 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 11.4 | | (5.1) | 刺突文・貝殻条痕文 | ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 263 | Ⅱ | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 9.0 | | (7.1) | 刺突文・貝殻条痕文 | ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 264 | Ⅱ | 深鉢 | G | 23 | Ⅶ | 口縁部 | 10.5 | | (8.1) | 刺突文・貝殻条痕文 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | 灰黄褐 | 補修孔有り |
| | 265 | Ⅱ | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 8.5 | | (7.3) | 刺突文・貝殻条痕文 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | 補修孔有り |
| | 266 | Ⅱ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 8.7 | | (11.1) | 刺突文・貝殻条痕文 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい褐 | |
| | 267 | Ⅱ | 深鉢 | J | 18 | Ⅶ | 口縁~胴部 | | | (14.3) | 刺突文・押引文・貝殻条痕文 | ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 明赤褐 | |
| | 268 | Ⅱ | 深鉢 | K | 21 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 14.2 | | (8.8) | 刺突文・貝殻条痕文 | ケズリ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 269 | Ⅱ | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 口縁~底部 | 12.3 | 11.8 | 23.0 | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | 補修孔有り |
| 251 | 270 | Ⅱ | 深鉢 | J | 19 | Ⅶ | 口縁部 | 25.2 | | (11.4) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 271 | Ⅱ | 深鉢 | F | 21 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 16.0 | | (13.4) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 272 | Ⅱ | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 16.0 | | (19.6) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 273 | Ⅱ | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁~胴部 | | | (7.5) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 暗灰黄 | スス付着 |
| | 274 | Ⅱ | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 口縁部 | 13.2 | | (4.4) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | |
| | 275 | Ⅱ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.9) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 灰褐 | 灰褐 | |
| | 276 | Ⅱ | 深鉢 | F | 21 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 12.0 | | (8.5) | 刺突文・沈線文・貝殻条痕文 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 灰黄褐 | |
| | 277 | Ⅱ | 深鉢 | G | 20 | Ⅶ | 口縁部 | 10.0 | | (4.8) | 刺突文・沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 278 | Ⅱ | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 9.6 | | (6.4) | 刺突文・沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 黒褐 | スス付着 |
| | 279 | Ⅱ | 深鉢 | F | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.2) | 刺突文・沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰褐 | 灰黄褐 | |
| | 280 | Ⅱ | 深鉢 | G | 21 | Ⅴa | 口縁部 | 10.0 | | (3.6) | 刺突文・沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 281 | Ⅱ | 深鉢 | G | 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.3) | 刺突文・沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 282 | Ⅱ | 深鉢 | H | 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (8.4) | 貝殻刺突文・沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 283 | Ⅱ | 深鉢 | G | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.3) | 貝殻刺突文・沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| 252 | 284 | Ⅱ | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 底部 | | 22.4 | (21.1) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 285 | Ⅱ | 深鉢 | G | 23 | Ⅶ | 胴部~底部 | | 12.0 | (17.3) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 286 | Ⅱ | 深鉢 | D | 21 | Ⅶ | 胴部~底部 | | | (16.2) | 貝殻条痕文 | ケズリ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 287 | Ⅱ | 深鉢 | G | 16 | Ⅵ | 胴部 | | | (15.3) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 灰黄褐 | |
| | 288 | Ⅱ | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 胴部~底部 | | 8.3 | (12.6) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | ○ | ○ | | | | にぶい橙 | にぶい橙 | |
| 253 | 289 | Ⅱ | 深鉢 | E | 23 | Ⅵ | 胴部~底部 | | 9.8 | (12.5) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 290 | Ⅱ | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 底部 | | 10.8 | (9.8) | 貝殻条痕文・ナデ | ケズリ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 橙 | |
| | 291 | Ⅱ | 深鉢 | E | 23 | Ⅵ | 底部 | | 12.8 | (6.0) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 292 | Ⅱ | 深鉢 | J | 22 | Ⅶ | 底部 | | 13.0 | (2.4) | 貝殻条痕文・ナデ | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい褐 | |
| | 293 | Ⅱ | 深鉢 | K | 21 | Ⅶ | 底部 | | 16.8 | (6.3) | 貝殻条痕文・ナデ | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |

## 第 23 表　Ⅱ類土器観察表（2）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 253 | 294 | Ⅱ | 深鉢 | K | 21 | Ⅶ | 底部 | | 13.3 | (2.0) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 295 | Ⅱ | 深鉢 | E | 24 | Ⅶ | 底部 | | 13.4 | (2.9) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 296 | Ⅱ | 深鉢 | F | 19 | Ⅶ | 底部 | | 12.8 | (3.1) | 貝殻条痕文・ナデ | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| 254 | 297 | Ⅱ | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 底部 | | 9.6 | (4.3) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 298 | Ⅱ | 深鉢 | G | 21 | Ⅶ | 底部 | | 11.0 | (5.8) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 299 | Ⅱ | 深鉢 | D | 20 | － | 底部 | | 8.0 | (5.1) | 貝殻条痕文・ナデ | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | にぶい褐 | |
| | 300 | Ⅱ | 深鉢 | H | 9 | Ⅶ | 底部 | | 7.0 | (4.2) | 貝殻条痕文・ナデ | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 301 | Ⅱ | 深鉢 | G | 19 | Ⅶ | 底部 | | 15.4 | (2.6) | 貝殻条痕文・ナデ・キザミ | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 灰黄褐 | |
| | 302 | Ⅱ | 深鉢 | F | 21 | Ⅶ | 底部 | | 16.6 | (2.0) | 貝殻条痕文・ナデ・キザミ | ナデ・ケズリ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 橙 | 灰黄褐 | |
| | 303 | Ⅱ | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 底部 | | 12.0 | (1.9) | 貝殻条痕文・ナデ・キザミ | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 304 | Ⅱ | 深鉢 | E | 21 | Ⅵ | 底部 | | 9.2 | (3.5) | 貝殻条痕文・ナデ・キザミ | ナデ・ケズリ | | ○ | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 305 | Ⅱ | 深鉢 | E | 19 | Ⅶ | 底部 | | 8.0 | (2.2) | 貝殻条痕文・ナデ・キザミ | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい褐 | |

## 第 24 表　Ⅲ類土器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 256 | 306 | Ⅲ | 深鉢 | G | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 15.0 | | (11.2) | 貝殻刺突文・刺突線文・貝殻条痕 | ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい赤褐 | 橙 | |
| | 307 | Ⅲ | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 15.0 | | (7.8) | 貝殻刺突文・刺突線文・貝殻条痕 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰褐 | 明赤褐 | |
| | 308 | Ⅲ | 深鉢 | C | 25 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.0) | 刺突文・貝殻刺突線文・沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | | 褐 | 灰黄褐 | |
| | 309 | Ⅲ | 深鉢 | G | 16 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (10.7) | 貝殻刺突文・刺突線文・沈線文・貝殻条痕 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 310 | Ⅲ | 深鉢 | G | 16 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.8) | 貝殻刺突文・刺突線文・沈線文・貝殻条痕 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 311 | Ⅲ | 深鉢 | E | 23 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (20.8) | 貝殻刺突文・刺突線文・沈線文・貝殻条痕 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 黒褐 | |
| 257 | 312 | Ⅲ | 深鉢 | F | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (17.8) | 貝殻刺突文・刺突線文・沈線文・貝殻条痕 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄 | 黒褐 | |
| | 313 | Ⅲ | 深鉢 | H | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (12.9) | 貝殻刺突文・刺突線文・沈線文・貝殻条痕 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | | 黒褐 | 黒褐 | 補修孔有り |
| | 314 | Ⅲ | 深鉢 | F | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (13.4) | 貝殻刺突文・刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | ○ | | ○ | | | にぶい褐 | にぶい褐 | 補修孔有り |
| 258 | 315 | Ⅲ | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.0) | 貝殻刺突文・沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰褐 | 明褐 | |
| | 316 | Ⅲ | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.9) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | ○ | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| | 317 | Ⅲ | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.8) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | 灰黄褐 | |
| | 318 | Ⅲ | 深鉢 | E | 17 | Ⅶ | 胴部 | | | (18.3) | 刺突文・沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | ○ | ○ | | | | 橙 | 橙 | |
| 259 | 319 | Ⅲ | 深鉢 | E | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 11.8 | | (15.5) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | にぶい赤褐 | |
| | 320 | Ⅲ | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 9.6 | | (16.7) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | 補修孔有り |
| | 321 | Ⅲ | 深鉢 | G | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.1) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | 灰褐 | にぶい褐 | |
| | 322 | Ⅲ | 深鉢 | G | 18 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 18.8 | | (12.8) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 明褐 | 明赤褐 | |
| | 323 | Ⅲ | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (9.0) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文・楔形突起 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | 灰褐 | にぶい褐 | |
| | 324 | Ⅲ | 深鉢 | E | 24 | Ⅶ | 胴部 | | | (7.2) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 325 | Ⅲ | 深鉢 | F | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (15.9) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | 褐 | 褐 | |
| | 326 | Ⅲ | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (14.6) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文 | ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | 灰褐 | にぶい褐 | |
| 260 | 327 | Ⅲ | 深鉢 | F | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.4) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | ○ | ○ | ○ | | | 黒褐 | 明赤褐 | |
| | 328 | Ⅲ | 深鉢 | I | 17 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.2) | 貝殻刺突文・条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | にぶい褐 | |
| | 329 | Ⅲ | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (15.2) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 330 | Ⅲ | 深鉢 | G | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (13.0) | 貝殻刺突線文・貝殻条痕文 | ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 331 | Ⅲ | 深鉢 | F | 20 | Ⅴb | 口縁～胴部 | 15.1 | | (6.3) | 貝殻刺突文線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄褐 | |
| | 332 | Ⅲ | 深鉢 | H | 3 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.1) | 貝殻刺突文線文・楔形突起 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 333 | Ⅲ | 深鉢 | M | 19 | Ⅶb | 胴部 | | | (9.6) | 貝殻刺突文線文・楔形突起 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 334 | Ⅲ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (6.7) | 貝殻刺突文線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | にぶい黄橙 | |
| 261 | 335 | Ⅲ | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (9.9) | 貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 336 | Ⅲ | 深鉢 | F | 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (6.9) | 貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 黒褐 | 補修孔有り |
| | 337 | Ⅲ | 深鉢 | J | 23 | Ⅵ上 | 胴部～底部 | | | (5.5) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 灰褐 | |
| | 338 | Ⅲ | 深鉢 | F | 20 | Ⅶ | 底部 | | | (4.4) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | | | | にぶい黄橙 | 淡黄 | |
| | 339 | Ⅲ | 深鉢 | E | 17 | Ⅶ | 底部 | | 10.8 | (2.2) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | にぶい赤褐 | |
| | 340 | Ⅲ | 深鉢 | F | 22 | Ⅶ | 底部 | | 8.9 | (1.9) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 褐 | 明赤褐 | |
| | 341 | Ⅲ | 深鉢 | H | 5 | Ⅶ | 胴部～底部 | | 9.9 | (7.5) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | 明赤褐 | |
| | 342 | Ⅲ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 胴部～底部 | | 12.9 | (7.7) | 貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 343 | Ⅲ | 深鉢 | I | 19 | Ⅶ | 底部 | | 9.3 | (1.6) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい赤橙 | 明赤褐 | |
| | 344 | Ⅲ | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 底部 | | 8.9 | (2.6) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | 橙 | |
| | 345 | Ⅲ | 深鉢 | G | 21 | Ⅶ | 胴部～底部 | | | (4.3) | 貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | にぶい橙 | |
| | 346 | Ⅲ | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 底部 | | | (2.3) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 347 | Ⅲ | 深鉢 | D | 21 | Ⅵ | 胴部～底部 | | | (2.1) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | ○ | ○ | ○ | ○ | | | にぶい褐 | にぶい褐 | |

## 第 25 表　Ⅳ類土器観察表

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 263 | 348 | Ⅳ | 深鉢 | H 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (8.0) | 貝殻刺突文・押引文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 349 | Ⅳ | 深鉢 | G 21 | Ⅶ | 口縁部 | 14.4 | | (3.4) | 貝殻刺突文・貝殻刺突線文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 褐 | 黒 | |
| | 350 | Ⅳ | 深鉢 | H 9 | Ⅶ | 口縁部 | 10.2 | | (4.9) | 貝殻刺突文・貝殻刺突線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 351 | Ⅳ | 深鉢 | G 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (5.0) | 押引文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 352 | Ⅳ | 深鉢 | G 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (3.7) | 押引文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 灰黄 | |
| | 353 | Ⅳ | 深鉢 | H 17 | Ⅶ | 胴部 | | | (10.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 赤褐 | 褐 | |
| | 354 | Ⅳ | 深鉢 | H 17 | Ⅵ | 胴部 | | | (8.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 褐 | |
| | 355 | Ⅳ | 深鉢 | H 17 | Ⅵ | 胴部 | | | (6.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 356 | Ⅳ | 深鉢 | H 17 | Ⅵ | 胴部 | | | (6.7) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |

## 第 26 表　Ⅴ類土器観察表（1）

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 265 | 357 | Ⅴ | 深鉢 | E 15 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 26.2 | | (10.8) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | スス付着 |
| | 358 | Ⅴ | 深鉢 | E 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.8) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい褐 | 明赤褐 | |
| | 359 | Ⅴ | 深鉢 | D 16 | Ⅵ | 口縁部 | 20.4 | | (4.4) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 灰褐 | 明褐 | |
| | 360 | Ⅴ | 深鉢 | F 12 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 21.8 | | (11.5) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | | ○ | ○ | | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 361 | Ⅴ | 深鉢 | H 17 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 26.2 | | (15.8) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | ○ | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 362 | Ⅴ | 深鉢 | F 19 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 20.8 | | (17.3) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 橙 | |
| | 363 | Ⅴ | 深鉢 | E 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 21.6 | | (13.4) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| 266 | 364 | Ⅴ | 深鉢 | G 16 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 17.5 | | (6.1) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 365 | Ⅴ | 深鉢 | F 12 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.2) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | にぶい褐 | |
| | 366 | Ⅴ | 深鉢 | G 18 | Ⅵ | 口縁部 | 18.2 | | (4.6) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい赤褐 | |
| | 367 | Ⅴ | 深鉢 | E 15 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 14.8 | | (15.0) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | にぶい褐 | |
| | 368 | Ⅴ | 深鉢 | E 15 | Ⅶ下 | 口縁～胴部 | 21.3 | | (13.1) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | 橙 | |
| | 369 | Ⅴ | 深鉢 | L 14 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 30.0 | | (22.1) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 浅黄橙 | |
| | 370 | Ⅴ | 深鉢 | G 17 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 14.6 | | (8.2) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 371 | Ⅴ | 深鉢 | D 17 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (5.4) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい黄 | 黄灰 | |
| | 372 | Ⅴ | 深鉢 | E 17 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 12.2 | | (8.0) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい黄 | 黄灰 | |
| 267 | 373 | Ⅴ | 深鉢 | F 15 | Ⅶ | 口縁～底部 | 11.4 | 8.2 | (17.0) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄 | 黒褐 | |
| | 374 | Ⅴ | 深鉢 | D 16 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.4) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 暗灰黄 | |
| | 375 | Ⅴ | 深鉢 | E 14 | Ⅶ | 口縁部 | 31.0 | | (6.7) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | 橙 | |
| | 376 | Ⅴ | 深鉢 | F 13 | Ⅶ | 口縁部 | 22.8 | | (4.8) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 377 | Ⅴ | 深鉢 | E 16 | Ⅶ | 口縁～底部 | 24.6 | 13.8 | 29.1 | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 378 | Ⅴ | 深鉢 | M 17 | Ⅶ | 口縁部 | 19.2 | | (11.2) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 379 | Ⅴ | 深鉢 | G 17 | Ⅵ | 口縁部 | | | (8.8) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | ○ | | ○ | | | にぶい橙 | 明赤褐 | |
| 268 | 380 | Ⅴ | 深鉢 | G 17 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 36.0 | | (25.1) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 明褐 | |
| | 381 | Ⅴ | 深鉢 | E 17 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 33.0 | | (23.2) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい橙 | にぶい黄橙 | |
| | 382 | Ⅴ | 深鉢 | H 17 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (12.8) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 橙 | |
| 269 | 383 | Ⅴ | 深鉢 | G 9 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (12.4) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | にぶい褐 | |
| | 384 | Ⅴ | 深鉢 | F 24 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (9.2) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 385 | Ⅴ | 深鉢 | K 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.2) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 386 | Ⅴ | 深鉢 | H 21 | Ⅳb | 口縁～胴部 | 17.2 | | (6.0) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 387 | Ⅴ | 深鉢 | F 11 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 23.0 | | (10.4) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | 明赤褐 | |
| | 388 | Ⅴ | 深鉢 | I 18 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 19.6 | | (5.2) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 389 | Ⅴ | 深鉢 | F 22 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 13.2 | | (10.9) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 390 | Ⅴ | 深鉢 | E 13 | Ⅶ上 | 口縁～胴部 | 17.0 | | (14.8) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| 270 | 391 | Ⅴ | 深鉢 | F 24 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 13.6 | | (5.7) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | にぶい黄橙 | |
| | 392 | Ⅴ | 深鉢 | G 18 | Ⅶ | 口縁部 | 15.4 | | (5.0) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 393 | Ⅴ | 深鉢 | F 23 | Ⅶ | 口縁部 | 18.6 | | (5.3) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい橙 | にぶい黄褐 | |
| | 394 | Ⅴ | 深鉢 | L 13 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.4) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 395 | Ⅴ | 深鉢 | E 17 | Ⅶ | 口縁～底部 | 16.0 | 8.6 | 19.2 | 貝殻条痕文・貝殻刺突文・沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 黄灰 | にぶい黄橙 | |
| | 396 | Ⅴ | 深鉢 | E 15 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 12.4 | | (9.4) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄 | |
| | 397 | Ⅴ | 深鉢 | E 15 | Ⅶ | 口縁部 | 14.3 | | (5.8) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 398 | Ⅴ | 深鉢 | D 23 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 13.6 | | (7.2) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 399 | Ⅴ | 深鉢 | E 15 | Ⅶ | 口縁部 | 15.0 | | (4.8) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 暗灰黄 | にぶい黄橙 | |
| | 400 | Ⅴ | 深鉢 | E 15 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.2) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | 灰黄褐 | 黒褐 | |
| | 401 | Ⅴ | 深鉢 | E 24 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 17.8 | | (13.5) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 灰褐 | |
| 271 | 402 | Ⅴ | 深鉢 | J 12 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 21.0 | | (10.4) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 403 | Ⅴ | 深鉢 | F 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 22.0 | | (22.5) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | にぶい黄橙 | |
| | 404 | Ⅴ | 深鉢 | F 16 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (9.2) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 405 | Ⅴ | 深鉢 | F 17 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 19.8 | | (17.4) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | にぶい橙 | |

## 第 27 表　V類土器観察表（2）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 272 | 406 | V | 深鉢 | E | 15 | Ⅶ | 口縁~底部 | 15.0 | 10.0 | 17.2 | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 灰褐 | |
| | 407 | V | 深鉢 | E | 16 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.7) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 灰褐 | |
| | 408 | V | 深鉢 | F | 16 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 18.0 | | (10.0) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | スス付着 |
| | 409 | V | 深鉢 | J | 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.5) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 410 | V | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.4) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | 明赤褐 | |
| | 411 | V | 深鉢 | F | 24 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 23.4 | | (10.6) | 刺突文・沈線文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 412 | V | 深鉢 | M | 17 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.4) | 刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | |
| 273 | 413 | V | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 頸部~胴部 | | | (15.7) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄褐 | |
| | 414 | V | 深鉢 | F | 19 | Ⅶ | 胴部 | | | (17.8) | 貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 灰黄褐 | |
| | 415 | V | 深鉢 | L | 18 | Ⅶ | 頸部~胴部 | | | (13.9) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | スス付着 |
| | 416 | V | 深鉢 | E | 14 | Ⅶ | 胴部 | | | (15.9) | 貝殻刺突文・貝殻条痕文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい褐 | |
| 274 | 417 | V | 深鉢 | E | 15 | Ⅴ | 胴部 | | | (15.4) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 明赤褐 | |
| | 418 | V | 深鉢 | I | 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (11.7) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | 黒褐 | |
| | 419 | V | 深鉢 | E | 19 | Ⅶ | 胴部 | | | (11.1) | 貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 420 | V | 深鉢 | F | 18 | Ⅵ | 胴部 | | | (15.0) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 褐灰 | |
| | 421 | V | 深鉢 | E | 22 | Ⅵ | 胴部 | | | (8.7) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| 275 | 422 | V | 深鉢 | E | 17 | Ⅵ | 胴部~底部 | | 14.2 | (10.9) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 灰褐 | |
| | 423 | V | 深鉢 | E | 14 | Ⅶ上 | 胴部~底部 | | 17.2 | (8.3) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄 | |
| | 424 | V | 深鉢 | E | 16 | Ⅶ | 底部 | | 14.0 | (7.0) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 425 | V | 深鉢 | E | 10 | Ⅶ上 | 胴部~底部 | | 11.6 | (12.9) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | にぶい黄褐 | |
| | 426 | V | 深鉢 | F | 19 | Ⅶ | 底部 | | 10.0 | (4.5) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 427 | V | 深鉢 | D | 18 | Ⅶ | 底部 | | | (5.8) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 暗灰黄 | |
| | 428 | V | 深鉢 | D | 19 | Ⅵ | 底部 | | 12.6 | (5.5) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄 | |
| | 429 | V | 深鉢 | D | 15 | Ⅵ | 底部 | | 8.2 | (3.8) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 430 | V | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 底部 | | | (2.2) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 431 | V | 深鉢 | E | 14 | Ⅶ | 底部 | | 8.0 | (3.0) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 暗灰黄 | 黄灰 | |
| | 432 | V | 深鉢 | E | 16 | Ⅶ | 底部 | | 12.0 | (2.0) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 明赤褐 | |
| | 433 | V | 深鉢 | E | 14 | Ⅶ | 底部 | | | (3.5) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| | 434 | V | 深鉢 | E | 13 | Ⅶ上 | 底部 | | | (5.0) | 沈線文・貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | にぶい褐 | |
| 276 | 435 | V | 深鉢 | F | 16 | Ⅶ | 胴部~底部 | | | (7.2) | 貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄褐 | |
| | 436 | V | 深鉢 | L | 19 | Ⅶ | 底部 | | 10.8 | (6.6) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 437 | V | 深鉢 | L | 18 | Ⅶ | 胴部~底部 | | 9.2 | (5.3) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | にぶい赤褐 | |
| | 438 | V | 深鉢 | D | 17 | Ⅶ | 底部 | | | (5.6) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | 黒褐 | |
| | 439 | V | 深鉢 | F | 24 | Ⅶ | 胴部~底部 | | 12.2 | (19.2) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |

## 第 28 表　Ⅵ類土器観察表（1）

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 278 | 440 | Ⅵ | 深鉢 | E | 16 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 441 | Ⅵ | 深鉢 | L | 17 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.7) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | | 黒褐 | 灰黄褐 | |
| | 442 | Ⅵ | 深鉢 | F | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.3) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 443 | Ⅵ | 深鉢 | I | 13 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 12.7 | | (9.6) | 貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | ○ | | 橙 | 橙 | |
| | 444 | Ⅵ | 深鉢 | G | 4 | Ⅶ | 口縁~胴部 | | | (12.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | 灰褐 | |
| | 445 | Ⅵ | 深鉢 | G | 15 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 23.0 | | (8.7) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 446 | Ⅵ | 深鉢 | G | 20 | Ⅶ | 口縁~胴部 | | | (11.9) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい赤褐 | 黒褐 | |
| | 447 | Ⅵ | 深鉢 | H | 16 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 13.5 | | (11.3) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 黒褐 | 補修孔有り |
| | 448 | Ⅵ | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.6) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | にぶい黄橙 | にぶい黄 | |
| | 449 | Ⅵ | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.7) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| 279 | 450 | Ⅵ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁~胴部 | | | (8.7) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 暗灰黄 | 黒褐 | |
| | 451 | Ⅵ | 深鉢 | K | 16 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 12.0 | | (9.6) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | 黄褐 | にぶい黄 | |
| | 452 | Ⅵ | 深鉢 | G | 13 | Ⅶ | 口縁~胴部 | | | (13.3) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | | | ○ | にぶい赤褐 | にぶい黄褐 | |
| | 453 | Ⅵ | 深鉢 | G | 13 | Ⅵ | 口縁部 | 26.0 | | (8.7) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | 補修孔有り |
| | 454 | Ⅵ | 深鉢 | M | 16 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.5) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | 暗オリーブ褐 | |
| | 455 | Ⅵ | 深鉢 | G | 17 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 21.0 | | (12.3) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 456 | Ⅵ | 深鉢 | D | 23 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.2) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 457 | Ⅵ | 深鉢 | M | 12 | Ⅶ上 | 口縁~胴部 | | | (8.4) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 黒褐 | にぶい褐 | |
| | 458 | Ⅵ | 深鉢 | H | 15 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.9) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄 | 暗灰黄 | |
| 280 | 459 | Ⅵ | 深鉢 | H | 23 | Ⅵ | 口縁~胴部 | | | (11.3) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 明赤褐 | 補修孔有り |
| | 460 | Ⅵ | 深鉢 | L | 16 | Ⅵ | 口縁部 | 18.3 | | (11.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 461 | Ⅵ | 深鉢 | L | 16 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 19.8 | | (14.0) | 刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい黄橙 | にぶい褐 | |
| | 462 | Ⅵ | 深鉢 | L | 15 | Ⅳb | 口縁~胴部 | 19.4 | | (7.4) | 刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい黄橙 | にぶい褐 | 補修孔有り |
| | 463 | Ⅵ | 深鉢 | K | 16 | Ⅶ | 口縁部 | 16.0 | | (5.6) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 褐 | |

## 第 29 表　Ⅵ類土器観察表（2）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 280 | 464 | Ⅵ | 深鉢 | L | 13 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 465 | Ⅵ | 深鉢 | M | 19 | Ⅶa | 口縁~胴部 | 16.0 | | (11.5) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | 黒褐 | |
| | 466 | Ⅵ | 深鉢 | E | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.9) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 橙 | |
| | 467 | Ⅵ | 深鉢 | G | 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 黒褐 | にぶい黄褐 | |
| | 468 | Ⅵ | 深鉢 | G | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.9) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | | | | にぶい黄 | 黒褐 | |
| | 469 | Ⅵ | 深鉢 | J | 16 | Ⅶ | 口縁部 | 18.5 | | (4.9) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 褐 | 黒褐 | スス付着 |
| 281 | 470 | Ⅵ | 深鉢 | G | 18 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 23.0 | | (17.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 明黄褐 | 補修孔有り |
| | 471 | Ⅵ | 深鉢 | D | 17 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.1) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 灰黄 | 灰黄 | |
| | 472 | Ⅵ | 深鉢 | H | 16 | Ⅶ | 口縁部 | 15.8 | | (8.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 黒褐 | |
| | 473 | Ⅵ | 深鉢 | H | 16 | Ⅶ | 口縁部 | | | (9.1) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 474 | Ⅵ | 深鉢 | F | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.3) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 褐 | 褐 | |
| | 475 | Ⅵ | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (9.2) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 476 | Ⅵ | 深鉢 | G | 22 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 21.5 | | (9.5) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | | 橙 | 褐 | |
| | 477 | Ⅵ | 深鉢 | N | 9 | Ⅳa | 口縁~胴部 | 25.8 | | (11.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | にぶい黄褐 | |
| | 478 | Ⅵ | 深鉢 | H | 19 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 23.5 | | (14.3) | 貝殻刺突文 | ナデ | | ○ | | | ○ | ○ | 黒褐 | 褐 | |
| 282 | 479 | Ⅵ | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁部 | 15.5 | | (6.6) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 暗灰 | 黒褐 | 補修孔有り |
| | 480 | Ⅵ | 深鉢 | G | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 481 | Ⅵ | 深鉢 | H | 14 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 11.6 | | (7.1) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 明赤褐 | 褐 | |
| | 482 | Ⅵ | 深鉢 | G | 23 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.7) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 暗灰黄 | 暗灰黄 | |
| | 483 | Ⅵ | 深鉢 | N | 15 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.4) | 貝殻刺突文・指おさえ痕 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 484 | Ⅵ | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 15.0 | | (11.3) | 貝殻刺突文 | ケズリ | | ○ | | ○ | | | 赤褐 | 暗赤褐 | |
| | 485 | Ⅵ | 深鉢 | M | 10 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.4) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | 補修孔有り |
| | 486 | Ⅵ | 深鉢 | F | 21 | Ⅶ | 口縁部 | 20.0 | | (5.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 暗赤褐 | 黒褐 | |
| | 487 | Ⅵ | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.9) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 488 | Ⅵ | 深鉢 | E | 20 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 14.4 | | (7.5) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 橙 | にぶい赤褐 | |
| | 489 | Ⅵ | 深鉢 | I | 13 | Ⅵ | 口縁部 | 13.4 | | (3.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | | ○ | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 490 | Ⅵ | 深鉢 | J | 18 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい赤褐 | 明赤褐 | 補修孔有り |
| | 491 | Ⅵ | 深鉢 | F | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 灰褐 | 灰褐 | |
| 283 | 492 | Ⅵ | 深鉢 | H | 19 | Ⅵ | 口縁~胴部 | | | (10.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | |
| | 493 | Ⅵ | 深鉢 | G | 16 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 494 | Ⅵ | 深鉢 | J | 19 | − | 口縁部 | | | (4.4) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 495 | Ⅵ | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.4) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 496 | Ⅵ | 深鉢 | H | 15 | Ⅵ | 胴部 | | | (14.4) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 橙 | 黒褐 | |
| | 497 | Ⅵ | 深鉢 | H | 15 | Ⅵ | 胴部 | | | (17.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 橙 | 黒 | |
| 284 | 498 | Ⅵ | 深鉢 | H | 16 | Ⅶ | 胴部 | | | (12.8) | 貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | | ○ | にぶい黄 | 黒褐 | |
| | 499 | Ⅵ | 深鉢 | G | 4 | Ⅶ | 胴部 | | | (23.8) | 貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | 明黄褐 | |
| | 500 | Ⅵ | 深鉢 | H | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (10.1) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 黄褐 | |
| | 501 | Ⅵ | 深鉢 | G | 23 | Ⅵ | 胴部 | | | (10.3) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 502 | Ⅵ | 深鉢 | G | 13 | Ⅶ | 胴部 | | | (12.1) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | | | ○ | 橙 | 暗灰黄 | |
| | 503 | Ⅵ | 深鉢 | H | 13 | Ⅵ | 胴部 | | | (5.5) | 貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | | ○ | 明赤褐 | 黒褐 | |
| | 504 | Ⅵ | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (15.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | | | 明褐 | にぶい褐 | |
| | 505 | Ⅵ | 深鉢 | J | 22 | Ⅶb | 胴部 | | | (5.6) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | | 黄褐 | 黒褐 | |
| 285 | 506 | Ⅵ | 深鉢 | I | 23 | Ⅶb | 底部 | | 20.0 | (7.5) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄 | |
| | 507 | Ⅵ | 深鉢 | D | 20 | Ⅶ | 底部 | | 15.9 | (7.2) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 黒褐 | |
| | 508 | Ⅵ | 深鉢 | I | 17 | Ⅶ | 底部 | | 13.7 | (4.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄褐 | |
| | 509 | Ⅵ | 深鉢 | G | 21 | Ⅶ | 底部 | | 14.9 | (3.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 褐 | 褐 | |
| | 510 | Ⅵ | 深鉢 | H | 14 | Ⅶ | 底部 | | 14.6 | (3.2) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | | 明赤褐 | 明褐 | |
| | 511 | Ⅵ | 深鉢 | K | 17 | Ⅵ | 底部 | | 21.9 | (11.6) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | | | ○ | にぶい赤褐 | 黒 | |
| | 512 | Ⅵ | 深鉢 | F | 17 | Ⅶ | 底部 | | 19.5 | (5.2) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | | ○ | 橙 | にぶい黄 | |
| | 513 | Ⅵ | 深鉢 | K | 15 | Ⅵ | 底部 | | 12.6 | (7.1) | 貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | 橙 | 黒褐 | |
| | 514 | Ⅵ | 深鉢 | K | 12 | Ⅵ | 底部 | | 13.5 | (6.1) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | 黒褐 | |
| 286 | 515 | Ⅵ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 底部 | | 14.0 | (5.3) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 橙 | 黄灰 | |
| | 516 | Ⅵ | 深鉢 | H | 16 | Ⅶ | 底部 | | 13.0 | (6.8) | 貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄 | 黄褐 | |
| | 517 | Ⅵ | 深鉢 | L | 15 | Ⅵ | 底部 | | 9.6 | (6.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | | | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 518 | Ⅵ | 深鉢 | J | 18 | Ⅵ | 底部 | | 14.0 | (3.8) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 519 | Ⅵ | 深鉢 | L | 15 | Ⅶ | 底部 | | 9.8 | (4.4) | 貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 黄褐 | 底部木葉痕 |
| | 520 | Ⅵ | 深鉢 | G | 23 | Ⅶ | 底部 | | | (2.0) | 貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | 暗灰黄 | 底部木葉痕 |
| | 521 | Ⅵ | 深鉢 | K | 19 | Ⅶ | 底部 | | | (1.7) | 貝殻刺突文 | ケズリ | | ○ | | | | ○ | 橙 | 橙 | 底部網代痕 |

## 第 30 表　Ⅶ類土器観察表

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 288 | 522 | Ⅶ | 深鉢 | E | 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.3) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 523 | Ⅶ | 深鉢 | L | 14 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (17.0) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 524 | Ⅶ | 深鉢 | G | 17 | Ⅶ | 口縁～底部 | 23.4 | 16.2 | 30.7 | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | | ○ | 橙 | 暗褐 | |
| | 525 | Ⅶ | 深鉢 | K | 15 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 20.4 | | (9.5) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | ○ | | | ○ | ○ | 黒褐 | 暗褐 | スス付着 |
| | 526 | Ⅶ | 深鉢 | D | 17 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (9.6) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 褐 | にぶい黄褐 | |
| 289 | 527 | Ⅶ | 深鉢 | I | 19 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 18.3 | | (8.9) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい橙 | 褐 | |
| | 528 | Ⅶ | 深鉢 | G | 16 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 21.7 | | (8.1) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 529 | Ⅶ | 深鉢 | G | 17 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.3) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 530 | Ⅶ | 深鉢 | L | 14 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 23.5 | | (18.2) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 黒褐 | 褐 | |
| | 531 | Ⅶ | 深鉢 | L | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 28.8 | | (11.0) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | | ○ | にぶい黄 | にぶい黄褐 | |
| | 532 | Ⅶ | 深鉢 | M | 21 | Ⅶ上 | 口縁部 | | | (6.5) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 黒 | 黒 | |
| | 533 | Ⅶ | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (15.3) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| 290 | 534 | Ⅶ | 深鉢 | G | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 23.4 | | (14.6) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 黄褐 | 黒褐 | |
| | 535 | Ⅶ | 深鉢 | M | 21 | Ⅶ上 | 口縁～胴部 | | | (10.7) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 536 | Ⅶ | 深鉢 | G | 15 | Ⅴ | 口縁～胴部 | | | (10.7) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 537 | Ⅶ | 深鉢 | F | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.0) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 黒褐 | 暗赤褐 | |
| | 538 | Ⅶ | 深鉢 | I | 15 | Ⅵ | 口縁部 | 18.8 | | (6.4) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | 暗褐 | |
| | 539 | Ⅶ | 深鉢 | H | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (9.0) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 褐灰 | 黒褐 | |
| | 540 | Ⅶ | 深鉢 | K | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.5) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | | 暗灰黄 | にぶい黄 | 補修孔有り |
| | 541 | Ⅶ | 深鉢 | I | 19 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (8.9) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 542 | Ⅶ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.1) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 暗褐 | にぶい赤褐 | |
| 291 | 543 | Ⅶ | 深鉢 | F | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 34.6 | | (9.7) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 黒褐 | 褐 | 補修孔有り |
| | 544 | Ⅶ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 14.6 | | (8.9) | 短沈線文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 橙 | 黒褐 | |
| | 545 | Ⅶ | 深鉢 | H | 23 | Ⅵ | 口縁部 | 17.6 | | (6.7) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 546 | Ⅶ | 深鉢 | I | 14 | Ⅴ | 口縁～胴部 | 25.8 | | (20.0) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 褐灰 | |
| | 547 | Ⅶ | 深鉢 | I | 22 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.9) | 短沈線文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 548 | Ⅶ | 深鉢 | D | 23 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 23.8 | | (18.4) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| | 549 | Ⅶ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 21.7 | | (17.5) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明黄褐 | オリーブ黒 | |
| 292 | 550 | Ⅶ | 深鉢 | D | 17 | Ⅶ | 胴部 | | | (12.8) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄褐 | |
| | 551 | Ⅶ | 深鉢 | F | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (8.0) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | 黒褐 | にぶい黄褐 | |
| | 552 | Ⅶ | 深鉢 | F | 23 | Ⅵ | 胴部～底部 | | | (7.0) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい黄 | |
| | 553 | Ⅶ | 深鉢 | F | 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (10.5) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | ○ | | ○ | | | 明赤褐 | にぶい赤褐 | |
| | 554 | Ⅶ | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 胴部 | | | (10.1) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 黒褐 | にぶい赤褐 | 補修孔有り |
| | 555 | Ⅶ | 深鉢 | F | 19 | Ⅶ | 胴部 | | | (26.2) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄 | 暗オリーブ褐 | |
| | 556 | Ⅶ | 深鉢 | F | 4 | Ⅶ | 胴部～底部 | | | (7.5) | 短沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 明黄褐 | 黒褐 | |
| | 557 | Ⅶ | 深鉢 | G | 24 | Ⅶ横転 | 底部 | | 13.1 | (4.7) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 黒褐 | |
| | 558 | Ⅶ | 深鉢 | G | 13 | Ⅶ | 底部 | | 7.5 | (9.4) | 短沈線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 橙 | 黒褐 | |

## 第 31 表　Ⅷ類土器観察表（1）

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 294 | 559 | Ⅷ | 深鉢 | G | 24 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 25.2 | | (23.1) | 条線文・貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | 明黄褐 | |
| | 560 | Ⅷ | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 26.6 | | (11.1) | 条線文・貝殻刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | | | 明黄褐 | 橙 | |
| | 561 | Ⅷ | 深鉢 | N | 21 | Ⅶ上 | 口縁部 | | | (9.3) | 沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい褐 | |
| | 562 | Ⅷ | 深鉢 | L | 13 | Ⅴ | 口縁部 | | | (8.1) | 条線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 褐 | |
| | 563 | Ⅷ | 深鉢 | K | 10 | Ⅴa | 口縁～胴部 | 26.6 | | (11.6) | 条線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい赤褐 | |
| | 564 | Ⅷ | 深鉢 | L | 14 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (19.6) | 条線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 明褐 | 黒褐 | |
| 295 | 565 | Ⅷ | 深鉢 | K | 12 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 28.3 | | (12.8) | 条線文・貝殻刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 明褐 | |
| | 566 | Ⅷ | 深鉢 | I | 4 | Ⅶ上 | 口縁～胴部 | 19.0 | | (17.9) | 短沈線文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 567 | Ⅷ | 深鉢 | D | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.1) | 条線文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 橙 | にぶい橙 | |
| | 568 | Ⅷ | 深鉢 | F | 10 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 20.0 | | (10.5) | 条線文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 569 | Ⅷ | 深鉢 | E | 10 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 18.0 | | (13.8) | 条線文 | ナデ | | ○ | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 暗オリーブ褐 | |
| | 570 | Ⅷ | 深鉢 | E | 10 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 18.0 | | (13.0) | 条線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 黒褐 | |
| 296 | 571 | Ⅷ | 深鉢 | J | 13 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.6) | 刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 明黄褐 | |
| | 572 | Ⅷ | 深鉢 | H | 19 | Ⅳ | 口縁部 | | | (2.8) | 短沈線文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 黒褐 | 褐 | |
| | 573 | Ⅷ | 深鉢 | I | 16 | Ⅶ | 口縁部 | | | (8.2) | 沈線文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 明赤褐 | 黒褐 | |
| | 574 | Ⅷ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.4) | 短沈線文 | ナデ | ○ | | ○ | | | ○ | 明赤褐 | 明黄褐 | |
| | 575 | Ⅷ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.2) | 沈線文・短沈線文 | ナデ | | | | ○ | | | 明赤褐 | 黒褐 | |
| | 576 | Ⅷ | 深鉢 | D | 22 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.9) | 沈線文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 577 | Ⅷ | 深鉢 | J | 15 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.0) | 沈線文・短沈線文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | 黄褐 | 黒褐 | スス付着 |
| | 578 | Ⅷ | 深鉢 | K | 13 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.3) | 沈線文・短沈線文 | ナデ | ○ | | | | | ○ | にぶい黄 | 黒 | |
| | 579 | Ⅷ | 深鉢 | F | 10 | Ⅵ | 胴部 | | | (9.9) | 条線文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 褐灰 | |

## 第 32 表　Ⅷ類土器観察表（２）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 296 | 580 | Ⅷ | 深鉢 | D | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (7.3) | 条線文 | ナデ・ケズリ | | ○ | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 褐灰 | |
| | 581 | Ⅷ | 深鉢 | M | 15 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.5) | 条線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 582 | Ⅷ | 深鉢 | G | 23 | Ⅶ | 胴部 | | | (8.4) | 短沈線文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 黒褐 | 黒褐 | スス付着 |
| | 583 | Ⅷ | 深鉢 | G | 19 | Ⅳ | 胴部 | | | (6.4) | 沈線文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | 明褐 | にぶい黄褐 | |
| | 584 | Ⅷ | 深鉢 | H | 19 | Ⅶ | 胴部 | | | (11.3) | 沈線文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 明褐 | にぶい黄褐 | |
| | 585 | Ⅷ | 深鉢 | I | 17 | Ⅵ | 胴部 | | | (17.3) | 沈線文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 明褐 | 暗褐 | |
| 297 | 586 | Ⅷ | 深鉢 | E | 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.8) | 沈線文・短沈線文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 587 | Ⅷ | 深鉢 | L | 16 | Ⅵ | 胴部 | | | (6.4) | 沈線文・短沈線文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 暗オリーブ褐 | |
| | 588 | Ⅷ | 深鉢 | I | 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.8) | 短沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 589 | Ⅷ | 深鉢 | K | 13 | Ⅵ | 胴部 | | | (13.9) | 刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 黒 | |
| | 590 | Ⅷ | 深鉢 | M | 11 | Ⅵ | 胴部 | | | (8.7) | 刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 591 | Ⅷ | 深鉢 | K | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (4.2) | 刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 592 | Ⅷ | 深鉢 | F | 9 | Ⅵ | 底部 | | 13.8 | (8.8) | 条線文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 黒褐 | |
| | 593 | Ⅷ | 深鉢 | G | 21 | 横転 | 底部 | | 10.8 | (5.1) | 沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | ○ | | にぶい黄褐 | 暗灰黄 | |
| | 594 | Ⅷ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 底部 | | 10.4 | (3.9) | 沈線文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい褐 | |
| | 595 | Ⅷ | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 底部 | | 10.5 | (4.1) | 短沈線文 | ナデ | ○ | | | | | ○ | 橙 | 黒褐 | |
| | 596 | Ⅷ | 深鉢 | D | 18 | Ⅶ | 胴部～底部 | | | (9.8) | 沈線文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄 | |
| | 597 | Ⅷ | 深鉢 | J | 19 | Ⅶ | 底部 | | 12.5 | (2.9) | ナデ | ナデ | ○ | | | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 598 | Ⅷ | 深鉢 | E | 22 | Ⅵ | 底部 | | 8.8 | (2.0) | ナデ | ナデ | ○ | | | | | ○ | 黄褐 | 黒褐 | 底部木葉痕 |
| | 599 | Ⅷ | 深鉢 | H | 20 | Ⅶ | 底部 | | | (1.6) | ナデ | ナデ | ○ | | | | | ○ | 明褐 | にぶい黄橙 | 底部木葉痕 |

## 第 33 表　Ⅸ類土器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 299 | 600 | Ⅸ | 深鉢 | G | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (25.8) | 貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 明赤褐 | 橙 | |
| | 601 | Ⅸ | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.5) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 602 | Ⅸ | 深鉢 | I | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.9) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | 補修孔有り |
| | 603 | Ⅸ | 深鉢 | D | 17 | Ⅶ | 口縁部 | 16.2 | | (6.7) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい橙 | |
| | 604 | Ⅸ | 深鉢 | D | 17 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.3) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | ○ | | ○ | | | 暗褐 | 黒褐 | |
| | 605 | Ⅸ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁部 | 21.3 | | (7.2) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 606 | Ⅸ | 深鉢 | H | 15 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.5) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | 補修孔有り |
| | 607 | Ⅸ | 深鉢 | G | 20 | Ⅵ | 口縁部 | 22.4 | | (15.1) | 貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 黒褐 | スス付着 |
| | 608 | Ⅸ | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁部 | 23.4 | | (12.5) | 貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| 300 | 609 | Ⅸ | 深鉢 | G | 16 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.5) | 貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 赤褐 | 黒褐 | |
| | 610 | Ⅸ | 深鉢 | M | 13 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.2) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 黒 | 暗褐 | |
| | 611 | Ⅸ | 深鉢 | J | 19 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 13.6 | | (10.1) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 612 | Ⅸ | 深鉢 | J | 14 | Ⅵ | 口縁部 | | | (9.4) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 褐 | |
| | 613 | Ⅸ | 深鉢 | E | 17 | Ⅶ | 口縁部 | 18.0 | | (6.1) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | | ○ | | | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | 内側にスス付着 |
| | 614 | Ⅸ | 深鉢 | G | 16 | Ⅵ | 口縁部 | 17.6 | | (5.6) | 貝殻条痕文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 615 | Ⅸ | 深鉢 | F | 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.8) | 貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 黄褐 | 黄褐 | |
| | 616 | Ⅸ | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (13.0) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 617 | Ⅸ | 深鉢 | H | 15 | Ⅵ | 胴部 | | | (30.0) | 貝殻条痕文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 618 | Ⅸ | 深鉢 | G | 22 | Ⅵ | 胴部 | | | (10.0) | 貝殻条痕文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | スス付着 |

## 第 34 表　Ｘ類土器観察表（１）

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 302 | 619 | X | 深鉢 | D | 16 | Ⅶ上 | 口縁部 | 35.6 | | (14.4) | 貝殻条痕文 | 貝殻条痕文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | | | ○ | 明赤褐 | 橙 | 穿孔有り |
| | 620 | X | 深鉢 | L | 13 | Ⅶ | 口縁部 | 34.9 | | (8.7) | 貝殻条痕文 | 貝殻条痕文・ナデ・指おさえ痕 | | | | | | ○ | 明赤褐 | にぶい褐 | |
| | 621 | X | 深鉢 | D | 16 | Ⅶ | 口縁部 | | | (14.9) | 貝殻条痕文 | 貝殻条痕文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | | | ○ | 明赤褐 | 橙 | スス付着 |
| 303 | 622 | X | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁部 | 37.8 | | (9.9) | ナデ | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 穿孔有り |
| | 623 | X | 深鉢 | M | 18 | Ⅶ | 口縁部 | | | (10.9) | ナデ | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 624 | X | 深鉢 | I | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.7) | ナデ | ナデ | | ○ | | ○ | | | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 625 | X | 深鉢 | J | 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (9.5) | ナデ | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 626 | X | 深鉢 | G | 23 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (15.7) | ナデ | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | | ○ | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| 304 | 627 | X | 深鉢 | M | 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (11.1) | ナデ | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい褐 | |
| | 628 | X | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 口縁部 | 44.4 | | (14.1) | ナデ | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 穿孔有り |
| | 629 | X | 深鉢 | H | 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.7) | ナデ | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 630 | X | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.0) | ナデ | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 631 | X | 深鉢 | F | 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.5) | ナデ | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | 明黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 632 | X | 深鉢 | E | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.9) | ナデ | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |

## 第 35 表　X類土器観察表（2）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 304 | 633 | X | 深鉢 | J | 15 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.9) | ナデ | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | | ○ | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | 穿孔有り |
| 305 | 634 | X | 深鉢 | E | 16 | Ⅶ | 胴部 | | | (13.2) | 貝殻条痕文・ナデ | 貝殻条痕文・ナデ | ○ | | ○ | | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | スス付着 |
| | 635 | X | 深鉢 | G | 17 | Ⅵ | 胴部 | | | (18.0) | ナデ | 貝殻条痕文・ナデ | ○ | | ○ | | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 636 | X | 深鉢 | D | 16 | Ⅶ | 胴部 | | | (24.9) | ナデ | 貝殻条痕文・ナデ | ○ | | ○ | | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| 306 | 637 | X | 深鉢 | D | 16 | Ⅶ上 | 胴部 | | | (15.1) | ナデ | 貝殻条痕文・ナデ | ○ | | ○ | | | ○ | にぶい赤褐 | 橙 | |
| | 638 | X | 深鉢 | D | 16 | Ⅶ | 胴部 | | | (18.4) | ナデ | 貝殻条痕文・ナデ | ○ | | ○ | | | ○ | 明赤褐 | にぶい黄橙 | |
| | 639 | X | 深鉢 | L | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (8.8) | ナデ・指おさえ痕 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | 黒褐 | |
| | 640 | X | 深鉢 | F | 23 | Ⅵ | 胴部 | | | (9.3) | ナデ・指おさえ痕 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 暗灰黄 | |
| | 641 | X | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 胴部 | | | (14.7) | ナデ・指おさえ痕 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| 307 | 642 | X | 深鉢 | E | 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (11.7) | ナデ・指おさえ痕 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 643 | X | 深鉢 | L | 12 | Ⅵ | 胴部 | | | (19.7) | ナデ・指おさえ痕 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい赤褐 | |
| | 644 | X | 深鉢 | H | 17 | Ⅶ | 胴部 | | | (11.7) | ナデ・指おさえ痕 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 褐灰 | にぶい黄橙 | |
| | 645 | X | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (7.9) | ナデ・指おさえ痕 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 646 | X | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 底部 | | 2.6 | (4.2) | ナデ | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 灰褐 | にぶい黄橙 | スス付着 |

## 第 36 表　XI類土器観察表（1）

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 309 | 647 | XI | 深鉢 | L | 16 | Ⅵ | 口縁部 | | | (9.1) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | | | | 褐 | にぶい黄橙 | スス付着 |
| | 648 | XI | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.2) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | | | 褐 | 橙 | |
| | 649 | XI | 深鉢 | K | 15 | Ⅵ | 口縁部 | | | (10.9) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | | ○ | 褐 | にぶい黄褐 | スス付着 |
| | 650 | XI | 深鉢 | L | 17 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.1) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | | | 褐 | 黒褐 | スス付着 |
| | 651 | XI | 深鉢 | G | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (11.4) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 褐 | 灰褐 | |
| | 652 | XI | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (13.4) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 褐 | 褐 | |
| | 653 | XI | 深鉢 | F | 17 | Ⅵ | 口縁部 | 21.8 | | (5.6) | 押型文 | 沈線文・ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | 褐 | 黒褐 | |
| | 654 | XI | 深鉢 | I | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.4) | 押型文 | 押型文・櫛状文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| 310 | 655 | XI | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 胴部～底部 | | | (8.0) | 押型文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | にぶい橙 | |
| | 656 | XI | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.4) | 押型文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 657 | XI | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 胴部～底部 | | | (13.8) | 押型文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 黒褐 | |
| | 658 | XI | 深鉢 | E | 16 | Ⅶ | 胴部 | | | (7.8) | 押型文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい黄褐 | にぶい黄 | |
| | 659 | XI | 深鉢 | M | 17 | Ⅵ | 胴部 | | | (5.8) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 660 | XI | 深鉢 | L | 16 | Ⅶ | 胴部 | | | (4.9) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | |
| 311 | 661 | XI | 深鉢 | F | 17 | Ⅶ | 口縁部 | 21.2 | | (8.6) | 押型文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 662 | XI | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (7.5) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 暗灰黄 | |
| | 663 | XI | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 37.4 | | (17.1) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | | ○ | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 664 | XI | 深鉢 | E | 22 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (19.0) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | | ○ | ○ | 灰褐 | 橙 | |
| | 665 | XI | 深鉢 | F | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.6) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 666 | XI | 深鉢 | E | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.2) | 押型文 | 押型文・ナデ | ○ | | | | | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 667 | XI | 深鉢 | E | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.7) | 押型文 | 押型文・ナデ | | ○ | | ○ | | | 黒褐 | 黒褐 | 補修孔有り |
| | 668 | XI | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.6) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 669 | XI | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.0) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 黒褐 | |
| | 670 | XI | 深鉢 | E | 19 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.5) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| 312 | 671 | XI | 深鉢 | E | 25 | Ⅶa | 口縁～胴部 | | | (12.4) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 672 | XI | 深鉢 | C | 25 | Ⅶa | 口縁部 | | | (5.6) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 673 | XI | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.6) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| | 674 | XI | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (2.9) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| | 675 | XI | 深鉢 | C | 25 | Ⅴa | 口縁部 | | | (6.8) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | | | にぶい黄橙 | 黄褐 | |
| | 676 | XI | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁部 | 17.3 | | (9.1) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | 黒褐 | スス付着 |
| | 677 | XI | 深鉢 | F | 24 | Ⅶa | 口縁部 | 28.5 | | (8.7) | 押型文 | 刺突文・ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | |
| | 678 | XI | 深鉢 | D | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.3) | 押型文 | 刺突文・ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 679 | XI | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.0) | 押型文 | 刺突文・ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| 313 | 680 | XI | 深鉢 | H | 20 | Ⅶ | 口縁部 | 33.6 | | (6.0) | 押型文 | 押型文・ナデ・ケズリ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 681 | XI | 深鉢 | E | 24 | Ⅶ | 口縁部 | | | (10.7) | 押型文 | 押型文・ナデ・ケズリ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | 橙 | |
| | 682 | XI | 深鉢 | G | 21 | Ⅴa | 口縁部 | | | (5.0) | 押型文 | 押型文・ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい橙 | |
| | 683 | XI | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.5) | 押型文 | 押型文・ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | | 灰褐 | 黒褐 | スス付着 |
| | 684 | XI | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁部 | 29.2 | | (6.7) | 押型文 | 押型文・ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | 明赤褐 | |
| | 685 | XI | 深鉢 | D | 25 | Ⅵ | 口縁部 | 24.3 | | (6.8) | 押型文 | 押型文・ケズリ | ○ | ○ | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| | 686 | XI | 深鉢 | D | 25 | Ⅵ | 口縁部 | | | (2.9) | 押型文 | 押型文・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 687 | XI | 深鉢 | C | 25 | Ⅴc | 口縁部 | | | (4.9) | 押型文 | 押型文・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 688 | XI | 深鉢 | G | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.8) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい橙 | |
| | 689 | XI | 深鉢 | F | 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.2) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | ○ | | にぶい橙 | 橙 | |
| | 690 | XI | 深鉢 | G | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.4) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | |

## 第 37 表　XI類土器観察表（2）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 313 | 691 | XI | 深鉢 | E | 19 | VI | 口縁部 | | | (6.6) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | ○ | | にぶい黄橙 | 橙 | |
| 314 | 692 | XI | 深鉢 | G | 21 | VII | 胴部 | | | (7.0) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 693 | XI | 深鉢 | E | 23 | VI | 胴部 | | | (4.0) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | | | にぶい褐 | オリーブ黒 | |
| | 694 | XI | 深鉢 | F | 19 | VII | 口縁～胴部 | | | (10.2) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | ○ | | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 695 | XI | 深鉢 | E | 21 | VI | 口縁～胴部 | | | (16.6) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | | ○ | ○ | 橙 | にぶい黄褐 | |
| | 696 | XI | 深鉢 | G | 21 | VI | 口縁～胴部 | | | (17.4) | 押型文・沈線文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 697 | XI | 深鉢 | E | 24 | VII | 口縁～胴部 | | | (10.0) | 押型文・沈線文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 698 | XI | 深鉢 | F | 24 | VI | 胴部 | | | (8.5) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 699 | XI | 深鉢 | H | 21 | VII | 胴部 | | | (6.3) | 押型文 | ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 黒褐 | |
| | 700 | XI | 深鉢 | F | 24 | VI | 胴部 | | | (3.7) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | | 橙 | 黒褐 | |
| 315 | 701 | XI | 深鉢 | G | 24 | VII a | 胴部 | | | (13.3) | 押型文 | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 702 | XI | 深鉢 | G | 22 | VII | 胴部 | | | (18.8) | 押型文 | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 黄褐 | |
| | 703 | XI | 深鉢 | G | 20 | VII | 胴部 | | | (8.5) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい褐 | |
| | 704 | XI | 深鉢 | G | 20 | VII | 胴部 | | | (5.1) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | | ○ | 黒褐 | にぶい黄褐 | |
| | 705 | XI | 深鉢 | H | 21 | VI | 胴部～底部 | | | (4.0) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | | にぶい黄褐 | オリーブ黒 | |
| | 706 | XI | 深鉢 | G | 24 | VII b | 胴部 | | | (5.0) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 灰褐 | |
| | 707 | XI | 深鉢 | F | 24 | VII a | 胴部 | | | (5.8) | 押型文 | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい赤褐 | 黄灰 | |
| | 708 | XI | 深鉢 | G | 22 | VII | 底部 | | 9.1 | (11.6) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 709 | XI | 深鉢 | F | 24 | VII | 底部 | | 11.6 | (4.1) | 押型文・ナデ | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 710 | XI | 深鉢 | F | 20 | VII | 胴部～底部 | | | (7.5) | 押型文・ナデ | ケズリ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | にぶい褐 | 黒褐 | スス付着 |
| | 711 | XI | 深鉢 | F | 22 | VI | 底部 | | 12.8 | (4.3) | 押型文・ナデ | ケズリ | | | | ○ | | ○ | 暗灰黄 | 黒褐 | スス付着 |
| | 712 | XI | 深鉢 | C | 25 | VI | 底部 | | 13.0 | (7.8) | 押型文・ナデ | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄 | 暗灰黄 | |
| 316 | 713 | XI | 深鉢 | G | 22 | VII | 底部 | | 14.0 | (3.5) | 押型文・ナデ | ケズリ | | | | ○ | ○ | | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| | 714 | XI | 深鉢 | M | 17 | VII | 底部 | | 15.0 | (3.6) | 押型文・ナデ | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 暗灰黄 | 灰黄褐 | |
| | 715 | XI | 深鉢 | D | 21 | VI | 底部 | | 11.0 | (1.7) | 押型文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 明赤褐 | |
| | 716 | XI | 深鉢 | G | 22 | VII | 底部 | | 10.0 | (2.2) | 押型文・ナデ | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 黒褐 | |
| | 717 | XI | 深鉢 | D | 22 | VI | 底部 | | | (2.0) | 押型文 | ケズリ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| 317 | 718 | XI | 深鉢 | L | 15 | VI | 口縁部 | | | (6.0) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | | ○ | 褐 | 褐 | |
| | 719 | XI | 深鉢 | M | 14 | V | 口縁部 | | | (3.4) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | | | 褐 | 褐 | |
| | 720 | XI | 深鉢 | L | 16 | VI | 口縁部 | | | (9.7) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | | | 褐 | 褐 | 補修孔有り　スス付着 |
| | 721 | XI | 深鉢 | L | 11 | VI | 口縁部 | | | (10.0) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | ○ | | | | 褐 | 褐 | |
| | 722 | XI | 深鉢 | J | 17 | VI | 口縁部 | | | (6.5) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | | | 褐 | 褐 | |
| | 723 | XI | 深鉢 | K | 17 | VI | 口縁部 | | | (3.6) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | ○ | ○ | | | 褐 | 褐 | |
| | 724 | XI | 深鉢 | G | 21 | VII | 口縁部 | | | (4.0) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | | | 褐 | 黒褐 | スス付着 |
| | 725 | XI | 深鉢 | H | 22 | VII | 口縁部 | | | (4.8) | 押型文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | 暗オリーブ褐 | |
| | 726 | XI | 深鉢 | F | 23 | VII | 口縁部 | | | (7.0) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | にぶい黄褐 | |
| | 727 | XI | 深鉢 | K | 20 | VI | 口縁部 | | | (5.4) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 728 | XI | 深鉢 | M | 19 | － | 口縁部 | | | (5.7) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 灰褐 | |
| | 729 | XI | 深鉢 | N | 16 | VII | 口縁部 | | | (4.8) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | ○ | ○ | | | 褐 | 褐 | |
| | 730 | XI | 深鉢 | M | 21 | VII b | 口縁部 | | | (4.7) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | 灰褐 | 灰黄褐 | |
| | 731 | XI | 深鉢 | M | 13 | VI | 口縁～胴部 | | | (7.4) | 押型文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | 補修孔有り |
| | 732 | XI | 深鉢 | M | 19 | VI | 胴部 | | | (5.5) | 押型文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | 暗褐 | |
| | 733 | XI | 深鉢 | G | 21 | V b | 胴部～底部 | | | (4.8) | 押型文・ナデ | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 734 | XI | 深鉢 | F | 18 | VI | 底部 | | | (3.7) | ナデ・指おさえ痕 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 735 | XI | 深鉢 | G | 19 | VI | 底部 | | | (5.6) | ナデ・指おさえ痕 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| 318 | 736 | XI | 深鉢 | F | 22 | VI | 底部 | | | (2.1) | ナデ・指おさえ痕 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | オリーブ黒 | にぶい黄褐 | |
| | 737 | XI | 深鉢 | F | 12 | VI | 口縁～胴部 | | | (10.0) | 押型文 | 押型文・ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | 灰黄褐 | |
| | 738 | XI | 深鉢 | G | 22 | VII | 胴部 | | | (14.3) | 押型文 | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 暗灰黄 | |
| | 739 | XI | 深鉢 | H | 22 | VI | 胴部 | | | (10.2) | 押型文 | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 740 | XI | 深鉢 | H | 20 | VII | 胴部 | | | (5.0) | 押型文 | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 暗灰黄 | |
| | 741 | XI | 深鉢 | H | 22 | VII | 底部 | | | (2.9) | 押型文・指おさえ痕 | ケズリ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | オリーブ黒 | |
| 319 | 742 | XI | 深鉢 | LM | 10-11 | VI～VII | 口縁部 | 30.4 | | (7.5) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 743 | XI | 深鉢 | F | 22 | VI | 口縁部 | | | (3.5) | 押型文 | 押型文・ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 744 | XI | 深鉢 | I | 17 | IV a | 口縁～胴部 | 27.0 | | (15.1) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | | ○ | 橙 | 暗褐 | |
| | 745 | XI | 深鉢 | E | 24 | VI | 口縁部 | | | (5.0) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | 暗褐 | |
| | 746 | XI | 深鉢 | F | 24 | VII | 口縁部 | | | (4.9) | 押型文 | 押型文・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 暗赤褐 | 明褐 | |
| | 747 | XI | 深鉢 | F | 24 | VII a | 口縁部 | | | (5.1) | 押型文 | 押型文・ケズリ | | ○ | | | ○ | ○ | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | |
| | 748 | XI | 深鉢 | F | 20 | VII | 口縁部 | | | (3.8) | 押型文 | 押型文・ケズリ | | | | ○ | ○ | | 灰褐 | にぶい褐 | |
| | 749 | XI | 深鉢 | L | 22 | VI | 口縁部 | | | (3.6) | 押型文 | 押型文・ケズリ | | | | ○ | ○ | | にぶい黄褐 | 灰褐 | |
| | 750 | XI | 深鉢 | E | 19 | VI | 口縁～胴部 | | | (11.4) | 押型文 | 押型文・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 751 | XI | 深鉢 | E | 24 | VII | 口縁部 | | | (6.2) | 押型文 | 押型文・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | 灰黄褐 | |
| | 752 | XI | 深鉢 | C | 25 | VI | 口縁部 | | | (3.9) | 押型文 | 押型文・ケズリ | | | | ○ | | | 黒褐 | にぶい褐 | |
| 320 | 753 | XI | 深鉢 | E | 24 | VII | 胴部 | | | (4.3) | 押型文・ナデ | 押型文・ナデ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |

## 第 38 表　XI類土器観察表（3）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 320 | 754 | XI | 深鉢 | D | 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (6.0) | 押型文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 明灰黄 | |
| | 755 | XI | 深鉢 | L | 10 | Ⅵ | 胴部 | | | (12.8) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | 明黄褐 | 橙 | |
| | 756 | XI | 深鉢 | C | 25 | Ⅵ | 胴部 | | | (4.4) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | にぶい黄褐 | |
| | 757 | XI | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (6.4) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | オリーブ黒 | |
| | 758 | XI | 深鉢 | G | 14 | Ⅵ上 | 胴部 | | | (10.3) | 押型文・指おさえ痕 | ケズリ | ○ | | ○ | ○ | ○ | | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 759 | XI | 深鉢 | E | 19 | Ⅵ | 胴部 | | | (9.4) | 押型文・ナデ | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 褐 | |
| | 760 | XI | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (5.6) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい橙 | 黒褐 | |
| | 761 | XI | 深鉢 | F | 18 | 横転 | 胴部 | | | (5.1) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 762 | XI | 深鉢 | G | 24 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.0) | 押型文 | ケズリ | | ○ | ○ | | ○ | | にぶい褐 | オリーブ黒 | |
| | 763 | XI | 深鉢 | E | 24 | Ⅵ | 胴部 | | | (4.2) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | | | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 764 | XI | 深鉢 | F | 18 | Ⅵ | 胴部 | | | (3.3) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 765 | XI | 深鉢 | E | 9 | Ⅶ上 | 胴部 | | | (12.4) | 押型文 | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 黒褐 | にぶい褐 | |
| 321 | 766 | XI | 深鉢 | D | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (8.1) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 暗灰黄 | |
| | 767 | XI | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 胴部 | | | (6.1) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | 暗褐 | |
| | 768 | XI | 深鉢 | C | 26 | Ⅵ | 胴部～底部 | | | (5.6) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄 | 暗灰黄 | |
| | 769 | XI | 深鉢 | D | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.6) | 押型文 | ケズリ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 770 | XI | 深鉢 | G | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (8.0) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 灰赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 771 | XI | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 胴部～底部 | | | (6.4) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | 黒褐 | |
| | 772 | XI | 深鉢 | F | 12 | Ⅶ | 底部 | | | (6.6) | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄 | オリーブ黒 | |
| | 773 | XI | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 胴部～底部 | | 16.2 | (12.2) | 押型文・指おさえ痕 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 赤褐 | |
| | 774 | XI | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 底部 | | | (3.5) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 褐 | |
| | 775 | XI | 深鉢 | I | 17 | Ⅶ | 胴部～底部 | | 13.0 | (10.8) | 押型文・ナデ | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 776 | XI | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 底部 | | | (3.3) | 押型文・ナデ | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 褐 | |
| | 777 | XI | 深鉢 | F | 24 | Ⅶ | 底部 | | 9.6 | (3.6) | 押型文・ナデ | ケズリ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | 明赤褐 | 黒褐 | |
| | 778 | XI | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 底部 | | 10.0 | (4.5) | 押型文・ナデ | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 褐 | |
| 322 | 779 | XI | 深鉢 | C | 25 | Ⅵ | 底部 | | 17.8 | (3.9) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい橙 | 暗灰黄 | |
| | 780 | XI | 深鉢 | E | 24 | Ⅵ | 底部 | | | (3.1) | 押型文 | ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 781 | XI | 深鉢 | E | 21 | Ⅵ | 底部 | | 8.0 | (1.9) | 押型文・ナデ | ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 暗褐 | |
| | 782 | XI | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 底部 | | 11.8 | (2.1) | 押型文 | ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | にぶい褐 | |
| 323 | 783 | XI | 深鉢 | E | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.2) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | 褐 | |
| | 784 | XI | 深鉢 | G | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.4) | ナデ | 押型文・ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 黄褐 | |
| | 785 | XI | 深鉢 | F | 20 | Ⅵ | 口縁部 | 16.2 | | (4.8) | 押型文・ナデ | 押型文・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 786 | XI | 深鉢 | K | 7 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.2) | 押型文 | 押型文・ナデ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | にぶい黄褐 | にぶい褐 | |
| | 787 | XI | 深鉢 | F | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.5) | 押型文・ナデ | 押型文・ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄 | 黄褐 | 補修孔有り |
| | 788 | XI | 深鉢 | G | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.4) | 押型文・ナデ | 押型文・刺突文・ナデ | | | | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 暗灰黄 | |
| | 789 | XI | 深鉢 | E | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.7) | 押型文 | 押型文・ナデ | | ○ | | ○ | ○ | | 灰褐 | 黒褐 | |
| | 790 | XI | 深鉢 | E | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.3) | 押型文 | ケズリ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 橙 | |
| | 791 | XI | 深鉢 | E | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.3) | 押型文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい褐 | |
| | 792 | XI | 深鉢 | D | 25 | Ⅶ | 口縁部 | 38.2 | | (7.4) | 押型文・ナデ | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 793 | XI | 深鉢 | D | 24 | Ⅶ | 胴部 | | | (8.7) | 押型文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 暗灰黄 | |
| | 794 | XI | 深鉢 | E | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.4) | 押型文・ナデ | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい黄褐 | 橙 | |
| 324 | 795 | XI | 深鉢 | F | 20 | Ⅶ | 底部 | | 6.0 | (3.4) | 押型文・ケズリ | ケズリ | | | | ○ | ○ | | 灰褐 | にぶい褐 | 底部木葉痕 |
| | 796 | XI | 深鉢 | G | 24 | Ⅶa下 | 底部 | | 10.0 | (3.4) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 797 | XI | 深鉢 | E | 25 | Ⅶb | 胴部～底部 | | 12.0 | (16.8) | 押型文・ナデ | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい褐 | |
| | 798 | XI | 深鉢 | D | 20 | Ⅶ | 胴部～底部 | | 15.4 | (28.3) | 押型文 | ナデ | ○ | ○ | | ○ | ○ | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| 325 | 799 | XI | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 22.8 | | (18.6) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | | ○ | | ○ | 橙 | 黒褐 | |
| | 800 | XI | 深鉢 | E | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.2) | 押型文・ナデ | 押型文・ナデ | | | | ○ | | | 黒褐 | 黒褐 | スス付着 |
| | 801 | XI | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 胴部 | | | (13.7) | 押型文 | ナデ | | ○ | | ○ | | ○ | 褐灰 | 黒褐 | |
| | 802 | XI | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 胴部 | | | (8.9) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 橙 | 黒褐 | |
| | 803 | XI | 深鉢 | F | 9 | Ⅵ | 胴部 | | | (5.9) | 押型文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 804 | XI | 深鉢 | D | 25 | Ⅵ | 胴部 | | | (5.8) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい橙 | 灰黄褐 | |
| | 805 | XI | 深鉢 | G | 25 | Ⅶ横転 | 底部 | | 4.0 | (4.3) | 押型文・ナデ | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | にぶい黄褐 | |
| | 806 | XI | 深鉢 | E | 9 | Ⅵ | 底部 | | 13.6 | (3.1) | 押型文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい赤褐 | |
| | 807 | XI | 深鉢 | E | 24 | Ⅵ | 底部 | | 23.0 | (15.0) | 押型文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 808 | XI | 深鉢 | E | 25 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.0) | 押型文 | 櫛状文・押型文・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 809 | XI | 深鉢 | G | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.0) | 押型文 | 櫛状文・押型文・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 暗赤褐 | 暗赤褐 | |
| | 810 | XI | 深鉢 | G | 23 | Ⅶ | 胴部 | | | (6.3) | 押型文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 黒褐 | |
| | 811 | XI | 深鉢 | G | 23 | Ⅵ | 胴部 | | | (6.8) | 押型文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 812 | XI | 深鉢 | F | 24 | Ⅶ | 胴部 | | | (6.3) | 押型文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 813 | XI | 深鉢 | H | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (11.2) | 押型文・ナデ | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい橙 | 灰黄褐 | |
| 326 | 814 | XI | 深鉢 | F | 13 | Ⅶ | 胴部 | | | (21.0) | 押型文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい橙 | 黒褐 | |
| | 815 | XI | 深鉢 | F | 13 | Ⅶ | 胴部 | | | (7.7) | 押型文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 816 | XI | 深鉢 | F | 12 | Ⅶ | 胴部 | | | (9.2) | 押型文・ナデ | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |

## 第 39 表　XI類土器観察表（4）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 326 | 817 | XI | 深鉢 | E 24 | Ⅶ | 胴部 | | | (4.8) | 押型文 | ナデ・ケズリ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 暗赤褐 | |
| | 818 | XI | 深鉢 | G 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.0) | 縄文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 819 | XI | 深鉢 | F 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.3) | 縄文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 820 | XI | 深鉢 | L 19 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.3) | 縄文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 821 | XI | 深鉢 | G 17 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.5) | 縄文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 灰褐 | |
| | 822 | XI | 深鉢 | E 17 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.0) | 縄文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 浅黄 | |
| | 823 | XI | 深鉢 | F 15 | Ⅶ | 口縁部 | 12.2 | | (8.5) | 縄文 | ナデ | ○ | ○ | | ○ | ○ | ○ | にぶい赤褐 | にぶい褐 | |
| | 824 | XI | 深鉢 | I 17 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.6) | 縄文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい橙 | |
| | 825 | XI | 深鉢 | K 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.1) | 縄文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 826 | XI | 深鉢 | G 19 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.2) | 縄文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 暗灰黄 | |
| 327 | 827 | XI | 深鉢 | E 21 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 38.0 | | (14.7) | 撚糸文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 828 | XI | 深鉢 | F 20 | Ⅵ | 口縁~胴部 | | | (10.5) | 撚糸文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 829 | XI | 深鉢 | E 22 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.4) | 撚糸文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 830 | XI | 深鉢 | E 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (7.7) | 撚糸文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 831 | XI | 深鉢 | E 22 | Ⅵ | 胴部 | | | (9.6) | 撚糸文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 832 | XI | 深鉢 | E 24 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 27.0 | | (13.2) | 変形撚糸文・ナデ | ナデ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 833 | XI | 深鉢 | E 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.5) | 変形撚糸文・ナデ | ナデ | | ○ | | | | ○ | にぶい褐 | 暗灰黄 | |
| | 834 | XI | 深鉢 | D 18 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.2) | 変形撚糸文・ナデ | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| | 835 | XI | 深鉢 | C 25 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.1) | 変形撚糸文・ナデ | ナデ | | | ○ | ○ | | | 浅黄 | にぶい黄橙 | |
| | 836 | XI | 深鉢 | C 25 | Ⅳa | 胴部 | | | (6.6) | 変形撚糸文・ナデ | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 黒褐 | 灰黄褐 | |
| 328 | 837 | XI | 深鉢 | J 7 | Ⅵ | 胴部 | | | (11.9) | 変形撚糸文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | | ○ | 浅黄 | 浅黄 | |
| | 838 | XI | 深鉢 | I 11 | Ⅵ | 胴部 | | | (14.0) | 変形撚糸文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | 浅黄 | |
| | 839 | XI | 深鉢 | F 23 | Ⅶ | 胴部 | | | (10.5) | 変形撚糸文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰オリーブ | 褐灰 | |
| | 840 | XI | 深鉢 | G 4 | Ⅶ上 | 胴部~底部 | | 6.0 | (8.9) | 変形撚糸文・ナデ | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 841 | XI | 深鉢 | D 25 | Ⅵ | 底部 | | | (5.9) | 変形撚糸文・ナデ | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄橙 | |
| 329 | 842 | XI | 深鉢 | D 23 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.0) | 変形撚糸文・ナデ | ナデ・ケズリ | | ○ | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 843 | XI | 深鉢 | E 22 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.2) | 短枝回転文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 844 | XI | 深鉢 | H 23 | Ⅵ | 口縁部 | 16.6 | | (7.1) | 短枝回転文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | にぶい赤褐 | |
| | 845 | XI | 深鉢 | E 24 | Ⅵ | 口縁~胴部 | | | (11.0) | 短枝回転文 | ケズリ | | | | ○ | | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 846 | XI | 深鉢 | H 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.7) | 短枝回転文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 847 | XI | 深鉢 | M 7 | Ⅵ | 胴部 | | | (10.8) | 短枝回転文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | 黒褐 | にぶい褐 | |
| | 848 | XI | 深鉢 | I 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (7.5) | 短枝回転文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 849 | XI | 深鉢 | F 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (8.8) | 短枝回転文・ナデ | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 明赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 850 | XI | 深鉢 | F 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (9.4) | 短枝回転文・ナデ | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 明赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 851 | XI | 深鉢 | J 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (4.4) | 短枝回転文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄褐 | |
| 330 | 852 | XI | 深鉢 | G 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (4.1) | 短枝回転文 | ケズリ | | | | | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 黒褐 | |
| | 853 | XI | 深鉢 | G 22 | Ⅵ | 胴部 | | | (10.5) | 短枝回転文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 854 | XI | 深鉢 | E 24 | Ⅶ | 胴部 | | | (3.8) | 短枝回転文 | ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 黒褐 | |
| | 855 | XI | 深鉢 | I 18 | Ⅶ | 胴部 | | | (8.3) | 短枝回転文 | ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄褐 | |
| | 856 | XI | 深鉢 | G 23 | Ⅵ | 底部 | | | (2.8) | 短枝回転文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 明赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 857 | XI | 深鉢 | F 19 | Ⅵ | 底部 | | | (2.0) | 短枝回転文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 灰褐 | |
| | 858 | XI | 深鉢 | G 20 | Ⅵ | 底部 | | 12.2 | (1.4) | 短枝回転文 | ナデ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 859 | XI | 深鉢 | M 7 | Ⅵ | 底部 | | | (1.4) | 短枝回転文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 860 | XI | 壺 | F 6 | Ⅶ | 口縁~胴部 | 6.4 | | (8.1) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 861 | XI | 壺 | E 7 | Ⅴb | 頸部 | | | (5.2) | 押型文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 862 | XI | 壺 | E 18 | Ⅵ | 頸部 | | | (4.6) | 短枝回転文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |

## 第 40 表　XII類土器観察表（1）

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 332 | 863 | XII | 深鉢 | D 20 | Ⅵ | 口縁部 | 22.5 | | (7.5) | 押型文 | 押型文・ナデ | | | ○ | ○ | ○ | | 褐灰 | 暗灰黄 | |
| | 864 | XII | 深鉢 | K 9 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.3) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 黒褐 | |
| | 865 | XII | 深鉢 | F 16 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.5) | 押型文 | 押型文・ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 866 | XII | 深鉢 | L 6 | Ⅲb | 口縁~胴部 | 33.3 | | (13.2) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 867 | XII | 深鉢 | E 8 | Ⅵb | 口縁~胴部 | 31.4 | | (12.2) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 868 | XII | 深鉢 | F 23 | Ⅴb | 口縁~胴部 | 17.0 | | (10.1) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | 黄灰 | 暗灰黄 | |
| | 869 | XII | 深鉢 | K 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.4) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 870 | XII | 深鉢 | D 24 | － | 口縁部 | | | (4.9) | 押型文 | ナデ | | | ○ | | ○ | ○ | にぶい橙 | にぶい橙 | |
| 333 | 871 | XII | 深鉢 | G 22 | Ⅶ | 口縁~胴部 | | | (9.1) | 押型文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | 明赤褐 | |
| | 872 | XII | 深鉢 | E 16 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 25.1 | | (11.3) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 褐 | |
| | 873 | XII | 深鉢 | E 15 | Ⅵ | 口縁~胴部 | 25.0 | | (12.9) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 褐 | |
| | 874 | XII | 深鉢 | E 15 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.0) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |

## 第 41 表　Ⅻ類土器観察表（2）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 333 | 875 | Ⅻ | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.0) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 黒褐 | 明赤褐 | |
| | 876 | Ⅻ | 深鉢 | F | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (8.5) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 877 | Ⅻ | 深鉢 | E | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (20.9) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 878 | Ⅻ | 深鉢 | K | 10 | Ⅵ | 胴部 | | | (7.1) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | | ○ | | 暗灰黄 | 暗灰黄 | |
| | 879 | Ⅻ | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.1) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄 | |
| 334 | 880 | Ⅻ | 深鉢 | E | 24 | Ⅵ | 胴部 | | | (9.2) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 881 | Ⅻ | 深鉢 | E | 8 | Ⅵ上 | 胴部 | | | (8.3) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 明褐 | 褐 | |
| | 882 | Ⅻ | 深鉢 | K | 18 | Ⅵ | 胴部 | | | (8.3) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 883 | Ⅻ | 深鉢 | F | 19 | Ⅵ | 胴部 | | | (7.4) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 884 | Ⅻ | 深鉢 | M | 13 | Ⅶ | 胴部 | | | (12.3) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | ○ | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 885 | Ⅻ | 深鉢 | H | 12 | Ⅴa | 胴部 | | | (8.2) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 灰黄褐 | |
| | 886 | Ⅻ | 深鉢 | L | 8 | Ⅵ | 胴部 | | | (4.0) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | 褐 | 褐 | |
| | 887 | Ⅻ | 小型深鉢 | M | 9 | Ⅵ上 | 胴部～底部 | | 5.6 | (11.3) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | 明赤褐 | |
| 335 | 888 | Ⅻ | 深鉢 | M | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (11.7) | 押型文・沈線文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 灰黄褐 | |
| | 889 | Ⅻ | 深鉢 | M | 19 | Ⅶ上 | 胴部 | | | (8.3) | 押型文・沈線文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | 暗灰黄 | スス付着 |
| | 890 | Ⅻ | 深鉢 | D | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.5) | 押型文・沈線文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | | | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 891 | Ⅻ | 深鉢 | G | 19 | Ⅶ | 口縁部 | 21.1 | | (5.1) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 褐 | |
| | 892 | Ⅻ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.7) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | ○ | ○ | ○ | ○ | | 黒褐 | 褐 | |
| | 893 | Ⅻ | 深鉢 | M | 8 | Ⅵ下 | 口縁部 | | | (6.0) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 暗灰黄 | |
| | 894 | Ⅻ | 深鉢 | G | 22 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 21.8 | | (10.0) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 暗灰黄 | 黒褐 | |
| | 895 | Ⅻ | 深鉢 | H | 19 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (7.7) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい褐 | |
| | 896 | Ⅻ | 深鉢 | H | 19 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.0) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 897 | Ⅻ | 深鉢 | M | 9 | Ⅶ上 | 口縁部 | | | (6.9) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | にぶい褐 | |
| | 898 | Ⅻ | 深鉢 | G | 19 | Ⅵ | 胴部 | | | (11.9) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい褐 | |
| | 899 | Ⅻ | 深鉢 | K | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (5.3) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | |
| | 900 | Ⅻ | 深鉢 | I | 24 | Ⅶ | 胴部 | | | (4.7) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| 336 | 901 | Ⅻ | 深鉢 | G | 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.0) | 押型文 | 押型文 | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | にぶい黄 | スス付着 |
| | 902 | Ⅻ | 深鉢 | G | 18 | Ⅵ | 胴部 | | | (12.0) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 浅黄 | |
| | 903 | Ⅻ | 深鉢 | D | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (9.9) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | | ○ | 黒褐 | 灰黄褐 | スス付着 |
| | 904 | Ⅻ | 深鉢 | D | 20 | Ⅵ | 口縁部 | 25.4 | | (7.0) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | 黒褐 | スス付着 |
| | 905 | Ⅻ | 深鉢 | D | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.0) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 黄灰 | スス付着 |
| | 906 | Ⅻ | 深鉢 | D | 20 | Ⅵ | 口縁部 | 26.0 | | (5.9) | 押型文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 907 | Ⅻ | 深鉢 | G | 15 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.8) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | | | | 灰黄褐 | 浅黄 | |
| | 908 | Ⅻ | 深鉢 | E | 18 | Ⅵ | 胴部 | | | (4.2) | 押型文・沈線文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 褐 | 灰褐 | |
| | 909 | Ⅻ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.5) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 橙 | |
| | 910 | Ⅻ | 深鉢 | J | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (11.8) | 網目状撚糸文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 911 | Ⅻ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 27.8 | | (10.6) | 網目状撚糸文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 褐灰 | 暗灰黄 | |
| | 912 | Ⅻ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (7.9) | 網目状撚糸文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | 暗灰黄 | |
| | 913 | Ⅻ | 深鉢 | I | 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (7.5) | 網目状撚糸文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | スス付着 |
| 337 | 914 | Ⅻ | 深鉢 | M | 9 | Ⅵ上 | 口縁～胴部 | 34.5 | | (19.9) | 撚糸文・網目状撚糸文 | 撚糸文・押型文・ナデ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | にぶい黄 | |
| | 915 | Ⅻ | 深鉢 | M | 9 | Ⅴc | 胴部 | | | (8.4) | 撚糸文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | 浅黄 | 浅黄 | |
| | 916 | Ⅻ | 深鉢 | J | 9 | Ⅶ | 底部 | | 7.0 | (1.5) | ナデ | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 暗灰黄 | |
| | 917 | Ⅻ | 深鉢 | F | 19 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.4) | 細条線文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | | | ○ | にぶい黄褐 | 黄灰 | |
| | 918 | Ⅻ | 深鉢 | L | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.3) | 細条線文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 橙 | |
| | 919 | Ⅻ | 深鉢 | D | 25 | Ⅶa | 胴部 | | | (14.3) | 細条線文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | | ○ | ○ | 褐 | 明赤褐 | |
| | 920 | Ⅻ | 深鉢 | G | 19 | Ⅵ | 胴部 | | | (11.0) | 細条線文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい黄橙 | 黄灰 | |
| | 921 | Ⅻ | 深鉢 | F | 19 | Ⅵ | 胴部 | | | (7.3) | 細条線文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい黄褐 | 黒褐 | |
| | 922 | Ⅻ | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (7.5) | 細条線文・縄文 | ナデ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| 338 | 923 | Ⅻ | 深鉢 | H | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (10.1) | ミミズばれ文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 明赤褐 | |
| | 924 | Ⅻ | 深鉢 | E | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.5) | ミミズばれ文 | 押型文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 黄灰 | |
| | 925 | Ⅻ | 深鉢 | H | 18 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 19.4 | | (8.3) | ミミズばれ文 | ミミズばれ文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい褐 | |
| | 926 | Ⅻ | 深鉢 | H | 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.7) | ミミズばれ文 | ミミズばれ文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 927 | Ⅻ | 深鉢 | E | 17 | Ⅴa | 口縁部 | | | (3.1) | ミミズばれ文 | ミミズばれ文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | 黒褐 | にぶい黄橙 | |
| | 928 | Ⅻ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (12.2) | ミミズばれ文 | ミミズばれ文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | にぶい褐 | |
| | 929 | Ⅻ | 深鉢 | E | 23 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 26.2 | | (12.9) | ミミズばれ文 | ミミズばれ文・ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | にぶい黄褐 | |
| | 930 | Ⅻ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (6.5) | ミミズばれ文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 931 | Ⅻ | 深鉢 | D | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.9) | ミミズばれ文・押型文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | にぶい黄橙 | |
| | 932 | Ⅻ | 深鉢 | G | 22 | Ⅵ | 胴部 | | | (6.1) | ミミズばれ文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| 339 | 933 | Ⅻ | 深鉢 | D | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 38.0 | | (13.0) | 突帯・沈線文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 934 | Ⅻ | 深鉢 | D | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.8) | 突帯・沈線文 | 突帯・ナデ | | | ○ | ○ | | | 灰黄 | 黄灰 | |
| | 935 | Ⅻ | 深鉢 | D | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.4) | 沈線文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 936 | Ⅻ | 深鉢 | F | 18 | 横転 | 口縁部 | | | (4.4) | 沈線文 | 突帯・ナデ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 937 | Ⅻ | 深鉢 | F | 17 | Ⅵ | 胴部 | | | (7.8) | 刻目突帯・沈線文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |

## 第 42 表　Ⅻ類土器観察表（３）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 339 | 938 | Ⅻ | 深鉢 | D | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (10.8) | 刻目突帯・沈線文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | | | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 939 | Ⅻ | 深鉢 | F | 18 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.4) | 刻目突帯・沈線文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 940 | Ⅻ | 壺 | N | 9 | Ⅵ | 胴部 | | | (5.3) | 押型文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 941 | Ⅻ | 壺 | J | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (4.8) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 942 | Ⅻ | 壺 | I | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (5.2) | 押型文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 943 | Ⅻ | 壺 | M | 10 | Ⅶ | 胴部 | | | (9.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |

## 第 43 表　ⅩⅢ類土器観察表

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 341 | 944 | ⅩⅢ | 深鉢 | J | 24 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 34.8 | | (25.0) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ･指おさえ痕 | | | ○ | | | ○ | にぶい橙 | 橙 | |
| | 945 | ⅩⅢ | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (12.4) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ･指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 946 | ⅩⅢ | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁部 | 33.8 | | (6.5) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ･指おさえ痕 | | | ○ | | | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 947 | ⅩⅢ | 深鉢 | K | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.0) | 刻目突帯･沈線文 | ナデ･ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| 342 | 948 | ⅩⅢ | 深鉢 | M | 16 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.0) | 刻目突帯 | ナデ | | | ○ | ○ | ○ | | 黒褐 | 橙 | |
| | 949 | ⅩⅢ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 24.5 | | (19.4) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 950 | ⅩⅢ | 深鉢 | I | 21 | Ⅴa | 口縁部 | | | (7.0) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 951 | ⅩⅢ | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.7) | 刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | にぶい黄褐 | |
| | 952 | ⅩⅢ | 深鉢 | K | 22 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.8) | 沈線文･刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 953 | ⅩⅢ | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (5.4) | 刻目突帯･縄文 | ナデ | ○ | ○ | | ○ | | | 黒褐 | 灰黄褐 | |
| | 954 | ⅩⅢ | 深鉢 | K | 22 | Ⅴ横転 | 胴部 | | | (11.1) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| 343 | 955 | ⅩⅢ | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (13.3) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 956 | ⅩⅢ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (11.1) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |

## 第 44 表　ⅩⅣ類土器観察表（１）

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 345 | 957 | ⅩⅣ | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 口縁部 | 25.8 | | (11.8) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 958 | ⅩⅣ | 深鉢 | K | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.6) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ･指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 959 | ⅩⅣ | 深鉢 | F | 23 | Ⅵ | 口縁部 | 36.8 | | (17.5) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄 | にぶい黄橙 | |
| | 960 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.6) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 961 | ⅩⅣ | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 口縁部 | 21.0 | | (4.7) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 褐灰 | |
| 346 | 962 | ⅩⅣ | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 38.5 | | (21.7) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい褐 | スス付着 |
| | 963 | ⅩⅣ | 深鉢 | H | 19 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 18.0 | | (20.0) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 964 | ⅩⅣ | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.4) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 灰黄褐 | |
| | 965 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.1) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 明赤褐 | |
| | 966 | ⅩⅣ | 深鉢 | D | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.4) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい橙 | にぶい橙 | |
| 347 | 967 | ⅩⅣ | 深鉢 | K | 14 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 42.5 | | (15.3) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 968 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 43.0 | | (22.2) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 969 | ⅩⅣ | 深鉢 | K | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | (41.1) | | (20.0) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| 348 | 970 | ⅩⅣ | 深鉢 | K | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.8) | 沈線文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 褐 | |
| | 971 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (10.9) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 972 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 22 | Ⅵ下 | 口縁部 | | | (6.2) | 沈線文･刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | 黒褐 | |
| | 973 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 20 | Ⅴa | 口縁部 | | | (5.8) | 沈線文･刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 974 | ⅩⅣ | 深鉢 | L | 22 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.7) | 沈線文･刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 975 | ⅩⅣ | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.7) | 沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 976 | ⅩⅣ | 深鉢 | F | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.5) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ･指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 977 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 21.0 | | (13.3) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | | | ○ | | ○ | ○ | 褐 | 灰褐 | |
| 349 | 978 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 41.0 | | (9.8) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい褐 | |
| | 979 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (8.7) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ･指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい褐 | |
| | 980 | ⅩⅣ | 深鉢 | H | 21 | Ⅳa | 口縁～胴部 | | | (19.1) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | |
| | 981 | ⅩⅣ | 深鉢 | F | 24 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.7) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | ○ | | | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 982 | ⅩⅣ | 深鉢 | G | 20 | 横転 | 口縁部 | | | (7.8) | 沈線文･刺突文 | ナデ･ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| 350 | 983 | ⅩⅣ | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.2) | 沈線文･刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | ○ | | 褐灰 | 灰黄褐 | |
| | 984 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 23 | Ⅵ下 | 口縁部 | | | (4.0) | 沈線文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 暗灰黄 | 黒褐 | |
| | 985 | ⅩⅣ | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (2.9) | 沈線文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 986 | ⅩⅣ | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁部 | 38.6 | | (8.6) | 沈線文･刺突文 | ナデ･指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 褐灰 | 灰黄褐 | |
| | 987 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (17.3) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ･指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| 351 | 988 | ⅩⅣ | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (13.5) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 989 | ⅩⅣ | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 口縁部 | 23.8 | | (4.7) | 沈線文･刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい褐 | |
| | 990 | ⅩⅣ | 深鉢 | G | 24 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.1) | 沈線文･刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | 灰褐 | にぶい褐 | |

## 第 45 表　XIV類土器観察表（2）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 351 | 991 | XIV | 深鉢 | G | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (9.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 褐 | |
| 352 | 992 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 36.2 | | (19.5) | 結節縄文・刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 灰褐 | にぶい橙 | |
| | 993 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (16.2) | 結節縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 褐灰 | にぶい褐 | 補修孔有り |
| | 994 | XIV | 深鉢 | D | 24 | Ⅴa | 口縁～胴部 | 35.4 | | (17.3) | 結節縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| 353 | 995 | XIV | 深鉢 | E | 23 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 37.5 | | (36.0) | 結節縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | ○ | | にぶい橙 | にぶい黄橙 | |
| | 996 | XIV | 深鉢 | E | 22 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 29.5 | | (10.6) | 縄文・沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 997 | XIV | 深鉢 | K | 21 | Ⅶa上 | 口縁～胴部 | 29.5 | | (11.5) | 縄文・沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| 354 | 998 | XIV | 深鉢 | I | 19 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 24.1 | | (13.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | 褐 | |
| | 999 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | 灰黄褐 | |
| | 1000 | XIV | 深鉢 | I | 19 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1001 | XIV | 深鉢 | E | 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | 黒褐 | 明赤褐 | |
| | 1002 | XIV | 深鉢 | H | 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 明赤褐 | |
| | 1003 | XIV | 深鉢 | K | 20 | Ⅳb | 口縁～胴部 | 21.0 | | (9.3) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 橙 | |
| | 1004 | XIV | 深鉢 | L | 21 | Ⅵ上 | 口縁部 | | | (2.9) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1005 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 1006 | XIV | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁部 | 26.0 | | (6.1) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 1007 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 27.0 | | (16.1) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| 355 | 1008 | XIV | 深鉢 | H | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 28.4 | | (15.1) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1009 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 41.9 | | (32.1) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| 356 | 1010 | XIV | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁部 | 38.0 | | (12.2) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | | ○ | ○ | 灰黄褐 | 褐 | |
| | 1011 | XIV | 深鉢 | H | 21 | Ⅵ | 口縁部 | 40.4 | | (11.5) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| 357 | 1012 | XIV | 深鉢 | M | 19 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.7) | 縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 1013 | XIV | 深鉢 | E | 24 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (8.9) | 縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 1014 | XIV | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (8.3) | 縄文・結節縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 1015 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 17.9 | | (14.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 橙 | |
| | 1016 | XIV | 深鉢 | F | 24 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1017 | XIV | 深鉢 | H | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (11.1) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 橙 | |
| | 1018 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁部 | 31.0 | | (4.0) | 刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 1019 | XIV | 深鉢 | G | 22 | Ⅵ | 口縁部 | 18.6 | | (4.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 1020 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 21.2 | | (14.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰褐 | 黒褐 | |
| | 1021 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 15.4 | | (14.9) | 縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | | | ○ | 橙 | にぶい黄褐 | |
| 358 | 1022 | XIV | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.2) | 沈線文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 1023 | XIV | 深鉢 | E | 25 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.1) | 縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 1024 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1025 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.8) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1026 | XIV | 深鉢 | G | 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.5) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | | ○ | にぶい黄褐 | 褐灰 | |
| | 1027 | XIV | 深鉢 | J | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.3) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 明赤褐 | |
| | 1028 | XIV | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.5) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい褐 | |
| | 1029 | XIV | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (10.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 1030 | XIV | 深鉢 | L | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.2) | 刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 1031 | XIV | 深鉢 | K | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (8.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| 359 | 1032 | XIV | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | 褐灰 | |
| | 1033 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅶ | 口縁部 | | | (7.0) | 刻目突帯・沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 暗灰黄 | にぶい黄褐 | 補修孔有り |
| | 1034 | XIV | 深鉢 | J | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 1035 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 32.7 | | (8.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | スス付着 |
| | 1036 | XIV | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 橙 | |
| 360 | 1037 | XIV | 深鉢 | F | 23 | Ⅶ | 口縁部 | | | (8.3) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1038 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁部 | 24.0 | | (4.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1039 | XIV | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 28.0 | | (10.7) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 1040 | XIV | 深鉢 | H | 19 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (10.3) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | | ○ | | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 1041 | XIV | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | | | (10.7) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | にぶい橙 | 灰黄褐 | |
| 361 | 1042 | XIV | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 38.2 | | (11.8) | 結節縄文・刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | 橙 | |
| | 1043 | XIV | 深鉢 | I | 22 | Ⅵ | 口縁部 | 23.4 | | (5.7) | 沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 1044 | XIV | 深鉢 | G | 20 | Ⅶ | 口縁部 | 23.8 | | (5.2) | 沈線文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | 暗灰黄 | 黄灰 | |
| | 1045 | XIV | 深鉢 | J | 23 | Ⅳ | 口縁～胴部 | | | (10.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 1046 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (8.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 明赤褐 | |
| | 1047 | XIV | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.5) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | | | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 1048 | XIV | 深鉢 | F | 10 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.6) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1049 | XIV | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 17.8 | | (10.4) | 縄文・刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| 362 | 1050 | XIV | 深鉢 | H | 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい褐 | スス付着 |
| | 1051 | XIV | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.3) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1052 | XIV | 深鉢 | G | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1053 | XIV | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 21.4 | | (14.0) | 結節縄文・刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 褐灰 | |

## 第46表　XIV類土器観察表（3）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 362 | 1054 | XIV | 深鉢 | G | 24 | Ⅶa下 | 口縁部 | | | (6.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | |
| | 1055 | XIV | 深鉢 | G | 24 | Ⅶa | 口縁部 | | | (6.1) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 1056 | XIV | 深鉢 | H | 20 | 横転 | 口縁部 | | | (4.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | | | ○ | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 1057 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1058 | XIV | 深鉢 | H | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 23.6 | | (15.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐 | にぶい褐 | |
| | 1059 | XIV | 深鉢 | I | 24 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 褐 | |
| | 1060 | XIV | 深鉢 | G | 24 | Ⅵ横転 | 口縁～胴部 | | | (10.4) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい橙 | 橙 | |
| 363 | 1061 | XIV | 深鉢 | K | 13 | Ⅵ | 口縁部 | 34.0 | | (10.5) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1062 | XIV | 深鉢 | J | 13 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.9) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | | ○ | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1063 | XIV | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (15.8) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1064 | XIV | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (10.4) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | | ○ | ○ | 黄褐 | 黄褐 | |
| | 1065 | XIV | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | | ○ | にぶい橙 | 橙 | |
| | 1066 | XIV | 深鉢 | J | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 1067 | XIV | 深鉢 | D | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.5) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| 364 | 1068 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.3) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | にぶい褐 | |
| | 1069 | XIV | 深鉢 | H | 20 | Ⅶ | 口縁部 | 27.6 | | (9.2) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 褐 | 補修孔有り |
| | 1070 | XIV | 深鉢 | H | 24 | Ⅶa | 口縁部 | | | (6.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 1071 | XIV | 深鉢 | G | 24 | Ⅵ横転 | 口縁部 | | | (4.1) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | | ○ | ○ | 赤褐 | 明赤褐 | |
| | 1072 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1073 | XIV | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | 明褐 | |
| | 1074 | XIV | 深鉢 | G | 22 | Ⅵ | 口縁部 | 27.8 | | (8.7) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | | | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 1075 | XIV | 深鉢 | J | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 橙 | |
| 365 | 1076 | XIV | 深鉢 | H | 24 | Ⅶa | 口縁部 | | | (5.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | | | | 橙 | 橙 | |
| | 1077 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (8.1) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1078 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1079 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 1080 | XIV | 深鉢 | G | 23 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | ○ | | にぶい褐 | 橙 | |
| | 1081 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 20.0 | | (10.6) | 結節縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | |
| | 1082 | XIV | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | ○ | | | にぶい橙 | 橙 | |
| | 1083 | XIV | 深鉢 | F | 22 | Ⅶ | 口縁部 | 17.2 | | (5.5) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | | | | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 1084 | XIV | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 29.2 | | (19.0) | 結節縄文・刻目突帯・沈線文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | にぶい黄褐 | |
| 366 | 1085 | XIV | 深鉢 | C | 25 | Ⅶ | 口縁部 | 27.0 | | (9.7) | 刻目突帯・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 1086 | XIV | 深鉢 | H | 24 | Ⅶ | 口縁部 | | | (4.2) | 刻目突帯・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 1087 | XIV | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁部 | 21.6 | | (7.5) | 刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1088 | XIV | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.2) | 刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | | ○ | | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 1089 | XIV | 深鉢 | M | 19 | Ⅶa | 口縁部 | | | (9.2) | 縄文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | ○ | ○ | ○ | | | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | |
| | 1090 | XIV | 深鉢 | H | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.0) | 刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | | | | にぶい橙 | 橙 | スス付着 |
| | 1091 | XIV | 深鉢 | G | 24 | Ⅵ | 口縁部 | 27.4 | | (17.6) | 縄文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄 | にぶい黄橙 | スス付着 |
| 367 | 1092 | XIV | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 口縁部 | 24.0 | | (6.9) | 縄文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 1093 | XIV | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (6.4) | 縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | ○ | | ○ | 黒褐 | にぶい褐 | |
| | 1094 | XIV | 深鉢 | H | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.2) | 縄文・刺突文 | ナデ | | | ○ | | | | 黒褐 | 明赤褐 | |
| | 1095 | XIV | 深鉢 | G | 23 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.2) | 縄文 | ナデ | | | ○ | | | | にぶい黄橙 | 浅黄 | |
| | 1096 | XIV | 深鉢 | I | 22 | Ⅶ | 口縁部 | | | (5.7) | 縄文 | ナデ | | | ○ | | | | 浅黄橙 | 浅黄橙 | |
| | 1097 | XIV | 深鉢 | G | 24 | Ⅶa | 口縁部 | | | (6.0) | 縄文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 灰黄褐 | |
| | 1098 | XIV | 深鉢 | H | 24 | Ⅶa | 口縁部 | | | (6.4) | 縄文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい褐 | |
| | 1099 | XIV | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 口縁部 | 24.0 | | (9.4) | 結節縄文・刻目突帯・刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1100 | XIV | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 18.8 | | (14.9) | 縄文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| 368 | 1101 | XIV | 深鉢 | J | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (15.4) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | | ○ | ○ | 灰褐 | にぶい褐 | |
| | 1102 | XIV | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (6.8) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | 橙 | |
| | 1103 | XIV | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 胴部 | | | (18.3) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 1104 | XIV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (7.9) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 褐灰 | 灰黄褐 | |
| | 1105 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (10.7) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 1106 | XIV | 深鉢 | L | 22 | Ⅶ | 胴部 | | | (8.4) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | | | ○ | にぶい褐 | にぶい橙 | |
| 369 | 1107 | XIV | 深鉢 | J | 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (12.8) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | ○ | | ○ | | ○ | 黒褐 | 明赤褐 | |
| | 1108 | XIV | 深鉢 | K | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (9.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 1109 | XIV | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 胴部 | | | (8.5) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい赤褐 | 灰褐 | |
| | 1110 | XIV | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (23.3) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1111 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (12.6) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1112 | XIV | 深鉢 | J | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (6.7) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 1113 | XIV | 深鉢 | L | 21 | Ⅶ上 | 胴部 | | | (5.0) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | 黄灰 | |
| 370 | 1114 | XIV | 深鉢 | K | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (9.3) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | | | ○ | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 1115 | XIV | 深鉢 | I | 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (9.2) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい橙 | 黒褐 | |
| | 1116 | XIV | 深鉢 | K | 21 | Ⅶb | 胴部 | | | (8.8) | 刻目突帯・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄橙 | |

## 第47表　XIV類土器観察表（4）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 370 | 1117 | XIV | 深鉢 | I 21 | VII | 胴部 | | | (7.8) | 刻目突帯・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | | ○ | ○ | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 1118 | XIV | 深鉢 | K 21 | VI | 胴部 | | | (13.3) | 刻目突帯・沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1119 | XIV | 深鉢 | H 21 | VII | 胴部 | | | (18.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | ○ | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| 371 | 1120 | XIV | 深鉢 | G 21 | VI | 胴部 | | | (18.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 褐灰 | 灰黄褐 | |
| | 1121 | XIV | 深鉢 | L 21 | VI | 胴部 | | | (12.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | 黒褐 | |
| | 1122 | XIV | 深鉢 | I 21 | VI | 胴部 | | | (10.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1123 | XIV | 深鉢 | K 22 | VI下 | 胴部 | | | (8.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | にぶい赤褐 | |
| | 1124 | XIV | 深鉢 | H 21 | VI | 胴部 | | | (12.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | 灰黄褐 | にぶい褐 | |
| | 1125 | XIV | 深鉢 | G 21 | VII | 胴部 | | | (10.1) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | にぶい黄褐 | |
| 372 | 1126 | XIV | 深鉢 | H 21 | VII | 胴部 | | | (11.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1127 | XIV | 深鉢 | K 21 | VI | 胴部 | | | (15.7) | 沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい赤褐 | にぶい赤褐 | |
| | 1128 | XIV | 深鉢 | J 21 | VIII | 胴部 | | | (7.0) | 沈線文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | ○ | | | | ○ | ○ | 明赤褐 | にぶい褐 | |
| 373 | 1129 | XIV | 深鉢 | G 24 | VII a | 胴部 | | | (11.4) | 結節縄文・刻目突帯 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | | 明赤褐 | 赤褐 | |
| | 1130 | XIV | 深鉢 | G 24 | VII a | 胴部 | | | (6.7) | 縄文・刻目突帯 | ナデ・ケズリ | | | | | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 赤褐 | |
| | 1131 | XIV | 深鉢 | H 24 | VII a下 | 胴部 | | | (7.5) | 結節縄文・刻目突帯・沈線文 | ナデ・ケズリ・指おさえ痕 | | | | | ○ | ○ | 黒褐 | にぶい褐 | |
| | 1132 | XIV | 深鉢 | J 21 | VI | 胴部 | | | (9.3) | 結節縄文・刻目突帯 | ナデ | | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 1133 | XIV | 深鉢 | J 22 | VII a | 頸部 | | | (9.8) | 結節縄文・刻目突帯 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 1134 | XIV | 深鉢 | F 23 | VI | 胴部 | | | (14.4) | 結節縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1135 | XIV | 深鉢 | F 23 | VI | 頸部 | | | (9.5) | 結節縄文・沈線文・刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | 黒褐 | |
| 374 | 1136 | XIV | 深鉢 | F 21 | VI | 胴部 | | | (14.2) | 結節縄文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1137 | XIV | 深鉢 | G 23 | VII | 胴部 | | | (9.5) | 結節縄文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1138 | XIV | 深鉢 | F 23 | VI | 胴部 | | | (12.9) | 縄文・沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 1139 | XIV | 深鉢 | G 21 | VI | 頸部～胴部 | | | (8.4) | 縄文・刻目突帯・沈線 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | 褐灰 | |
| | 1140 | XIV | 深鉢 | I 21 | VI | 胴部～底部 | | 11.0 | (9.1) | 縄文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 褐灰 | |
| | 1141 | XIV | 深鉢 | H 22 | VII | 頸部～胴部 | | | (14.1) | 結節縄文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | 灰褐 | |
| | 1142 | XIV | 深鉢 | G 23 | VI | 胴部～底部 | | | (11.5) | 結節縄文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | 灰褐 | |
| 375 | 1143 | XIV | 深鉢 | G 21 | VI | 頸部 | | | (8.3) | 結節縄文・沈線文・刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1144 | XIV | 深鉢 | J 23 | VI | 胴部 | | | (4.2) | 刻目突帯 | ナデ | ○ | | | | ○ | ○ | にぶい赤褐 | 赤褐 | |
| | 1145 | XIV | 深鉢 | G 21 | VI | 胴部 | | | (5.3) | 刻目突帯 | ナデ | | | ○ | | | | にぶい橙 | 橙 | |
| | 1146 | XIV | 小型深鉢 | L 20 | VI | 口縁部 | 10.0 | | (4.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | にぶい橙 | |
| | 1147 | XIV | 小型深鉢 | G 21 | VI | 口縁部 | 10.0 | | (3.5) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | ○ | ○ | | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1148 | XIV | 小型深鉢 | I 21 | VI | 口縁～胴部 | 12.0 | | (18.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | 明赤褐 | |
| | 1149 | XIV | 小型深鉢 | I 21 | VI | 口縁～胴部 | 12.2 | | (9.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1150 | XIV | 小型深鉢 | K 21 | VI | 口縁～胴部 | 9.2 | | (6.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | | 灰黄褐 | にぶい褐 | |
| | 1151 | XIV | 小型深鉢 | K 21 | V a | 口縁部 | 10.8 | | (4.3) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1152 | XIV | 小型深鉢 | J 23 | VI | 胴部～底部 | | 4.0 | (7.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 灰黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1153 | XIV | 壺 | J 21 | VII | 口縁部 | 12.4 | | (4.8) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1154 | XIV | 壺 | K 21 | VI | 口縁部 | 10.1 | | (7.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1155 | XIV | 壺 | E 24 | VI | 口縁部 | 9.9 | | (2.7) | ナデ | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1156 | XIV | 壺 | K 22 | VII上 | 口縁部 | 9.0 | | (4.2) | 沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1157 | XIV | 壺 | I 21 | VI | 口縁部 | 15.6 | | (4.3) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい黄褐 | にぶい黄橙 | |
| | 1158 | XIV | 壺 | H 21 | VI | 口縁部 | 10.9 | | (4.0) | 縄文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1159 | XIV | 壺 | K 21 | VII | 口縁部 | 10.4 | | (4.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 1160 | XIV | 壺 | E 22 | IV b | 口縁部 | 9.2 | | (3.6) | 沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| 376 | 1161 | XIV | 壺 | G 22 | VI | 口縁～胴部 | 10.2 | | (16.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1162 | XIV | 壺 | G 21 | VI | 口縁～胴部 | 7.7 | | (7.5) | 縄文・結節縄文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | ○ | | ○ | | | 明褐 | にぶい赤褐 | |
| | 1163 | XIV | 壺 | G 21 | VI | 口縁部 | 8.4 | | (4.3) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1164 | XIV | 壺 | I 21 | VI | 頸部～胴部 | | | (17.5) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい褐 | 明赤褐 | |
| | 1165 | XIV | 壺 | G 21 | VI | 頸部 | | | (13.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1166 | XIV | 壺 | K 22 | VI上 | 頸部～胴部 | | | (14.7) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | ○ | | | ○ | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 1167 | XIV | 壺 | I 24 | VI | 頸部 | | | (6.3) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 1168 | XIV | 壺 | F 23 | VI | 胴部 | | | (6.4) | 刻目突帯・沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | 褐 | |
| 377 | 1169 | XIV | 壺 | H 21 | VI | 頸部～胴部 | | | (7.3) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 灰黄褐 | |
| | 1170 | XIV | 壺 | K 21 | VI下 | 胴部 | | | (5.0) | 沈線文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 1171 | XIV | 壺 | K 21 | VI | 胴部 | | | (5.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 1172 | XIV | 壺 | K 21 | VI | 胴部 | | | (9.1) | 沈線文・刺突文 | ナデ・指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | 明赤褐 | にぶい褐 | |
| | 1173 | XIV | 壺 | G 23 | VI | 胴部 | | | (5.2) | 結節縄文 | ナデ | | | ○ | | ○ | ○ | 明赤褐 | にぶい褐 | |

## 第 48 表　XV類土器観察表（1）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 379 | 1174 | XV | 深鉢 | G | 23 | Ⅶ | 口縁部 | 34.8 | | (8.0) | 刻目突帯･沈線・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 橙 | |
| | 1175 | XV | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 口縁部 | 25.7 | | (5.5) | 刻目突帯･沈線・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | にぶい橙 | |
| | 1176 | XV | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.4) | 刻目突帯･沈線・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 灰褐 | |
| | 1177 | XV | 深鉢 | F | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (12.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| 380 | 1178 | XV | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄 | |
| | 1179 | XV | 深鉢 | E | 24 | Ⅵ | 口縁部 | 20.8 | | (4.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 橙 | にぶい褐 | |
| | 1180 | XV | 深鉢 | G | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 明褐 | 明褐 | |
| | 1181 | XV | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.6) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1182 | XV | 深鉢 | E | 22 | Ⅶ | 口縁部 | 22.5 | | (7.2) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | にぶい褐 | |
| | 1183 | XV | 深鉢 | K | 14 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 19.8 | | (8.6) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | 褐 | 明赤褐 | |
| | 1184 | XV | 深鉢 | H | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 黒褐 | |
| | 1185 | XV | 深鉢 | E | 20 | Ⅴb | 口縁部 | | | (5.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい褐 | 明褐 | |
| | 1186 | XV | 深鉢 | F | 19 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 褐灰 | にぶい黄橙 | |
| | 1187 | XV | 深鉢 | E | 19 | Ⅶ | 口縁部 | | | (3.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 黒褐 | |
| 381 | 1188 | XV | 深鉢 | I | 18 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 21.8 | | (19.4) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| | 1189 | XV | 深鉢 | J | 18 | Ⅵ | 口縁部 | | | (4.8) | 沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1190 | XV | 深鉢 | L | 17 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.5) | 沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1191 | XV | 深鉢 | E | 23 | Ⅺ | 口縁部 | | | (3.5) | 網目状撚糸文 | ナデ | | ○ | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 橙 | |
| | 1192 | XV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (10.4) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | | | | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 1193 | XV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 18.7 | | (9.9) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | 褐 | にぶい褐 | |
| | 1194 | XV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 19.0 | | (9.3) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 褐 | 褐 | |
| 382 | 1195 | XV | 深鉢 | E | 22 | Ⅵ | 口縁部 | 42.6 | | (8.1) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 褐灰 | |
| | 1196 | XV | 深鉢 | E | 22 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.4) | 沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 橙 | |
| | 1197 | XV | 深鉢 | F | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (3.8) | 沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | |
| | 1198 | XV | 深鉢 | I | 18 | Ⅵ | 口縁部 | 21.0 | | (5.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | | 灰黄褐 | 灰黄褐 | |
| | 1199 | XV | 深鉢 | I | 18 | Ⅵ | 口縁部 | 20.2 | | (6.4) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | | ○ | | ○ | 褐灰 | 褐灰 | |
| | 1200 | XV | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.5) | 沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 橙 | |
| | 1201 | XV | 深鉢 | J | 18 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 15.8 | | (8.8) | 沈線文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 1202 | XV | 深鉢 | G | 23 | Ⅵ | 口縁部 | 16.9 | | (6.1) | 沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| 383 | 1203 | XV | 深鉢 | E | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (7.2) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1204 | XV | 深鉢 | D | 25 | Ⅳb | 口縁部 | | | (7.0) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい褐 | 明赤褐 | |
| | 1205 | XV | 深鉢 | L | 13 | Ⅶ | 口縁～底部 | 21.5 | 9.8 | 16.7 | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1206 | XV | 深鉢 | G | 21 | Ⅶ | 口縁～頸部 | | | (10.2) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 橙 | スス付着 |
| | 1207 | XV | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.5) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 橙 | スス付着 |
| 384 | 1208 | XV | 深鉢 | J | 18 | Ⅵ | 口縁～底部 | 26.8 | 10.2 | 23.6 | 沈線文・刺突文 | ナデ･ケズリ･指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | にぶい橙 | |
| 385 | 1209 | XV | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 42.0 | | (25.0) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 褐 | にぶい黄褐 | |
| 386 | 1210 | XV | 深鉢 | H | 17 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 33.8 | | (22.3) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 黒褐 | |
| | 1211 | XV | 深鉢 | G | 17 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 33.6 | | (14.0) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | にぶい褐 | |
| | 1212 | XV | 深鉢 | F | 24 | Ⅶ | 口縁部 | 42.0 | | (9.8) | 沈線文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1213 | XV | 深鉢 | M | 12 | Ⅵ | 口縁部 | 26.1 | | (7.8) | 沈線文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| 387 | 1214 | XV | 深鉢 | K | 19 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 27.1 | | (18.4) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | ○ | ○ | ○ | | | 橙 | 灰褐 | |
| | 1215 | XV | 深鉢 | G | 22 | Ⅶ | 口縁～底部 | 19.7 | 12.2 | 19.5 | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 橙 | 橙 | |
| 388 | 1216 | XV | 深鉢 | E | 20 | Ⅵ | 口縁部 | 31.1 | | (11.2) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1217 | XV | 深鉢 | E | 20 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.9) | 沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1218 | XV | 深鉢 | E | 22 | Ⅵ | 口縁～頸部 | 22.3 | | (7.2) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ･ケズリ･指おさえ痕 | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | スス付着 |
| | 1219 | XV | 深鉢 | E | 21 | Ⅵ | 口縁部 | | | (5.0) | 沈線文 | ナデ・指頭圧痕 | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | スス付着 |
| | 1220 | XV | 深鉢 | I | 19 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 26.6 | | (19.9) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | 橙 | |
| 389 | 1221 | XV | 深鉢 | E | 13 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 22.0 | | (12.8) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1222 | XV | 深鉢 | F | 12 | Ⅵ | 口縁～底部 | 18.2 | 6.6 | 12.3 | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄褐 | にぶい橙 | |
| | 1223 | XV | 深鉢 | J | 23 | Ⅵ | 口縁部 | 38.6 | | (6.7) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1224 | XV | 深鉢 | J | 22 | Ⅵ下 | 口縁部 | | | (5.9) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1225 | XV | 深鉢 | J | 23 | Ⅵ | 口縁部 | | | (6.3) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | 灰褐黄 | にぶい褐 | |
| | 1226 | XV | 深鉢 | J | 23 | Ⅶa | 口縁～胴部 | | | (6.3) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | にぶい褐 | |
| 390 | 1227 | XV | 深鉢 | M | 15 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 24.9 | | (22.5) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | | | ○ | | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 1228 | XV | 深鉢 | G | 21 | 横転 | 口縁～底部 | 19.4 | 10.5 | 16.7 | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 浅黄 | にぶい黄橙 | |
| | 1229 | XV | 深鉢 | E | 15 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (11.2) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 灰褐 | |
| | 1230 | XV | 深鉢 | H | 19 | Ⅵ | 口縁～底部 | 20.4 | 9.8 | 15.7 | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | | ○ | 橙 | 灰黄褐 | |
| | 1231 | XV | 深鉢 | H | 19 | Ⅴa | 口縁～胴部 | 20.6 | | (7.7) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄褐 | |
| | 1232 | XV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 口縁部 | 37.0 | | (5.9) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| 391 | 1233 | XV | 深鉢 | K | 15 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 34.2 | | (11.6) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい橙 | にぶい橙 | スス付着 |
| | 1234 | XV | 深鉢 | K | 15 | Ⅶ | 口縁～胴部 | 25.2 | | (17.2) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい褐 | |
| | 1235 | XV | 深鉢 | G | 22 | Ⅵ | 口縁～胴部 | | | (13.1) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | ○ | ○ | 暗灰黄 | にぶい黄褐 | |
| | 1236 | XV | 深鉢 | M | 19 | Ⅶa | 口縁～胴部 | 32.0 | | (17.6) | 撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |

## 第 49 表　XV類土器観察表（2）

※（　　）は推定

| 挿図番号 | 掲載番号 | 分類 | 器種 | 出土区 | 層位 | 部位 | 法量（cm） | | | 主文様・調整 | | 胎土 | | | | | 色調 | | 備考 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|---|
| | | | | | | | 口径 | 底径 | 器高 | 外面 | 内面 | 白色粒子 | 褐色粒子 | 角閃石 | 石英 | 雲母 | 長石 | 外面 | 内面 | |
| 392 | 1237 | XV | 深鉢 | F | 23 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 41.7 | | (23.5) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1238 | XV | 深鉢 | G | 22 | Ⅴa | 口縁～胴部 | 33.4 | | (20.8) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 灰褐 | にぶい赤褐 | |
| | 1239 | XV | 深鉢 | E | 22 | Ⅵ | 口縁部 | 19.1 | | (3.4) | 沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 灰褐黄 | にぶい褐 | |
| 393 | 1240 | XV | 深鉢 | E | 22 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 24.4 | | (13.4) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | | ○ | ○ | 暗灰黄 | にぶい黄褐 | |
| | 1241 | XV | 深鉢 | D | 21 | Ⅶ | 口縁部 | 18.2 | | (3.2) | 刻目突帯 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい赤褐 | にぶい褐 | |
| | 1242 | XV | 深鉢 | E | 23 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 31.2 | | (22.9) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | ○ | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | スス付着 |
| | 1243 | XV | 深鉢 | H | 23 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 24.0 | | (16.1) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい橙 | にぶい橙 | |
| 394 | 1244 | XV | 深鉢 | G | 19 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 37.6 | | (16.6) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 1245 | XV | 深鉢 | L | 15 | Ⅵ | 口縁～底部 | 24.7 | 10.5 | 33.9 | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 明赤褐 | |
| 395 | 1246 | XV | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 口縁～底部 | 19.0 | 9.0 | 21.4 | 撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 浅黄 | |
| 396 | 1247 | XV | 深鉢 | I | 17 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 32.6 | | (12.3) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 褐 | 黒褐 | |
| | 1248 | XV | 深鉢 | J | 19 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 19.8 | | (10.6) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 1249 | XV | 深鉢 | K | 19 | Ⅵ | 口縁部 | | | (9.6) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 灰黄褐 | |
| | 1250 | XV | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 23.8 | | (19.7) | 沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄 | |
| 397 | 1251 | XV | 深鉢 | H | 17 | Ⅶ | 頸部～胴部 | | | (14.0) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 明赤褐 | 黒褐 | |
| | 1252 | XV | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 頸部 | | | (6.5) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 灰褐 | 灰褐 | |
| | 1253 | XV | 深鉢 | I | 23 | Ⅵ | 頸部 | | | (8.3) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい褐 | にぶい黄橙 | |
| | 1254 | XV | 深鉢 | F | 23 | Ⅵ | 頸部 | | | (9.6) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | ○ | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| 398 | 1255 | XV | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 頸部 | | | (28.9) | 撚糸文・沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 1256 | XV | 深鉢 | E | 20 | Ⅵ | 頸部～底部 | | | (5.8) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい褐 | 褐 | |
| | 1257 | XV | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 頸部 | | | (8.0) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ･ケズリ･指おさえ痕 | ○ | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 1258 | XV | 深鉢 | F | 24 | Ⅵ | 頸部 | | | (5.8) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい橙 | にぶい褐 | |
| | 1259 | XV | 深鉢 | H | 23 | Ⅶ | 頸部 | | | (7.3) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 灰褐 | 褐 | |
| | 1260 | XV | 深鉢 | K | 15 | Ⅶ | 頸部～胴部 | | | (10.3) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | スス付着 |
| | 1261 | XV | 深鉢 | F | 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (8.5) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 灰黄褐 | |
| 399 | 1262 | XV | 深鉢 | I | 23 | Ⅳ | 胴部 | | | (12.4) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 浅黄 | 浅黄 | |
| | 1263 | XV | 深鉢 | G | 23 | Ⅶ | 胴部 | | | (10.5) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1264 | XV | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (9.2) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 橙 | スス付着 |
| | 1265 | XV | 深鉢 | H | 18 | Ⅵ | 胴部 | | | (16.0) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰褐 | |
| | 1266 | XV | 深鉢 | H | 18 | Ⅵ | 胴部 | | | (10.8) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 1267 | XV | 深鉢 | E | 22 | Ⅵ | 胴部 | | | (8.2) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 黒褐 | |
| | 1268 | XV | 深鉢 | E | 23 | Ⅵ | 胴部 | | | (6.5) | 網目状撚糸文･沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1269 | XV | 深鉢 | I | 24 | Ⅵ | 胴部 | | | (14.0) | 撚糸文・沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい褐 | 明褐 | |
| 400 | 1270 | XV | 深鉢 | F | 17 | Ⅵ | 頸部～胴部 | | | (12.0) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | |
| | 1271 | XV | 深鉢 | I | 18 | Ⅵ | 胴部 | | | (12.1) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい黄 | |
| | 1272 | XV | 深鉢 | I | 23 | Ⅶ | 頸部 | | | (4.6) | 網目状撚糸文･刻目突帯 | ナデ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1273 | XV | 深鉢 | G | 21 | Ⅶ | 頸部～胴部 | | | (11.3) | 刻目突帯 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 黒褐 | にぶい褐 | スス付着 |
| | 1274 | XV | 深鉢 | I | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (8.3) | 撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | にぶい黄褐 | |
| | 1275 | XV | 深鉢 | H | 20 | Ⅵ | 胴部 | | | (7.7) | 撚糸文･沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 1276 | XV | 深鉢 | I | 21 | Ⅵ | 胴部 | | | (5.8) | 刻目突帯･沈線文･刺突文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1277 | XV | 深鉢 | D | 21 | Ⅶ | 胴部 | | | (9.8) | 沈線文・刺突文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | ○ | にぶい黄橙 | 暗灰黄 | |
| 401 | 1278 | XV | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 底部 | | 12.0 | (9.1) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい赤褐 | スス付着 |
| | 1279 | XV | 深鉢 | H | 21 | Ⅶ | 底部 | | 9.8 | (7.4) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | にぶい黄橙 | 灰黄褐 | |
| | 1280 | XV | 深鉢 | K | 15･16 | Ⅵ | 底部 | | 7.8 | (3.5) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1281 | XV | 深鉢 | J | 21 | Ⅵ | 底部 | | 12.4 | (3.7) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | にぶい褐 | |
| | 1282 | XV | 深鉢 | E | 23 | Ⅵ | 底部 | | 15.0 | (3.4) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | にぶい黄褐 | にぶい黄褐 | |
| | 1283 | XV | 深鉢 | F | 22 | Ⅵ | 底部 | | 10.0 | (1.6) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | | | ○ | ○ | にぶい黄橙 | 明赤褐 | |
| | 1284 | XV | 深鉢 | G | 21 | Ⅵ | 底部 | | 11.0 | (1.9) | 沈線文 | ナデ | | | ○ | ○ | | ○ | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1285 | XV | 深鉢 | L | 18 | Ⅵ上 | 胴部～底部 | | 12.2 | (13.5) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄橙 | にぶい褐 | |
| | 1286 | XV | 深鉢 | H | 18 | Ⅵ | 底部 | | 11.6 | (2.9) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい褐 | 灰黄褐 | |
| | 1287 | XV | 深鉢 | K | 23 | Ⅵ | 底部 | | 13.4 | (3.0) | 網目状撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | | | ○ | 橙 | 明褐 | スス付着 |
| 402 | 1288 | XV | 深鉢 | I | 18 | Ⅵ | 底部 | | 12.8 | (3.6) | 網目状撚糸文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 明赤褐 | 褐 | |
| | 1289 | XV | 深鉢 | E | 20 | Ⅵ | 底部 | | | (6.1) | 網目状撚糸文 | ナデ・ケズリ | | | ○ | ○ | | | 橙 | 黒褐 | |
| | 1290 | XV | 深鉢 | H | 22 | Ⅶ | 底部 | | 13.2 | (2.2) | 網目状撚糸文 | ナデ | | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい黄橙 | |
| | 1291 | XV | 深鉢 | H | 14 | Ⅶ | 胴部～底部 | | 12.0 | (16.6) | 縄文・沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | | ○ | 赤褐 | にぶい黄橙 | |
| | 1292 | XV | 深鉢 | E | 14 | Ⅵ下 | 胴部～底部 | | 16.2 | (11.8) | 撚糸文･沈線文 | ナデ・ケズリ | ○ | | | ○ | ○ | ○ | にぶい黄褐 | 褐 | スス付着 |
| | 1293 | XV | 深鉢 | E | 23 | Ⅵ | 胴部～底部 | | 11.0 | (14.1) | 縄文・沈線文 | ナデ･ケズリ･指おさえ痕 | ○ | | | ○ | ○ | | にぶい黄橙 | にぶい黄橙 | |
| 403 | 1294 | XV | 壺 | F | 19 | Ⅵ | 口縁～胴部 | 8.0 | | (14.9) | 刻目突帯 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | にぶい褐 | |
| | 1295 | XV | 壺 | F | 20 | Ⅶ | 胴部 | | | (13.0) | 刻目突帯 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 橙 | 橙 | |
| | 1296 | XV | 壺 | I | 24 | Ⅵ | 頸部～肩部 | | | (7.6) | 刻目突帯 | ナデ・ケズリ | ○ | | ○ | ○ | | | 明黄褐 | にぶい黄橙 | |

公益財団法人 鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター発掘調査報告書（18）
東九州自動車道建設（鹿屋串良ＪＣＴ～曽於弥五郎ＩＣ間）に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書

# 天神段遺跡 3

（縄文時代早期編　第２分冊）

発　行　年　　２０１８年３月
編集・発行　　鹿児島県教育委員会
公益財団法人 鹿児島県文化振興財団 埋蔵文化財調査センター
〒899-4318　鹿児島県霧島市国分上野原縄文の森２番１号
TEL　0995-70-0574　　FAX　0995-70-0576
印　刷　所　　株式会社　トライ社
〒892-0834　鹿児島県鹿児島市南林寺町 12-6
TEL　099-226-0815　　FAX　099-225-7933



鹿児島県